

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

FIRST LESSON

Analysis of Life - Awareness of Cause

001 This course on the science of life will get deeper as we proceed with the study.

生命の科学－学習コース

第1課

生命の分析－因への気付き

001この生命の科学コースは学習を進めるにつれて次第に深遠なものになるでしょう。

【逐次解説に当たって】

今回から、第3周目に入りました。「生命の科学」を代表とする一連のテキストは私達地球人が覚醒しなければならない分野について記されたものですが、これらは単に「知識」として読むことよりも、自分の認識力がその線に沿ってどこまで進化し拡張したかが問われるものとなっています。各自の実践経験を養う中で、進化の道を歩むことが求められます。本シリーズは日常の合間、朝のひと時、1段落を読む中で得た印象を書き留める形でこれまで続けて来ました。決して読者の皆様にこの通り感ぜよという趣旨ではありません。ある者はこう思ったという視点で、ご覧いただければ幸いです。

【解説】

まずは「生命」についてです。とかく私達は動植物を「生きているもの」、生命があるものとして見做してきました。一方、鉱物その他の物質は「無生物」として区別しています。通常、その取り扱い方も、無生物には容赦なく取り扱い、壊れても代替品を手に入れるための費用損額を計上するのみで、失ったものに対する愛着はありません。

しかし、これまでの学習から、分子・原子レベルでは、生物・無生物の差は無く、また英知はいずれもこの極小は存在の中にあることが分かっています。即ち、本質的に生物・無生物の差異はないということでしょう。

もう一つの言葉が「科学」です。何故、アダムスキー氏が宗教的あるいは哲学的な名称をタイトルに用いなかったかについても分かるような気がします。それらはとかく、悟った者、賢者は良く理解し応用できるのですが、一方で一般人は容易にその心境に到達できず、結果的にそれらの教師達に頼りがちです。

しかし、物事には原理、法則があり、その内容を理解し、解明して行くことによって、誰でもその理解に到達できる点が、本書が目指したところかと思えます。それ故、基礎を学びその上で実践応用に進むという意味で本書は「科学的手法」であると著者は宣言しているように思うのです。

生命を科学的に観ること、自らを教材として日々探求し、改良することが本書の目的です。

002 When we speak of life, we mean in every phase of life's expression. In plain -we are going to explore life.

002 私達が生命について語る時、私達は生命が表現するあらゆる側面を意味しています。簡潔に言えば、私達は生命を探究しようとしているのです。

【解説】

"Life"という概念は幅広いものです。文字通りの"生命"という意味から、"人生"更には"生活"等にまで及びます。それら全てはこの「生命(Life)」という言葉が意味しています。また、その対象も自分自身のみならず人間や動植物その他あらゆる生きとし生けるものに及びます。

今朝方も気が付くと私の足元の近く、見えない場所で地虫（コオロギ）が盛んに鳴いていました。彼らにとって今は最も良い季節なのでしょう。人目に付かず静かな場所で自身の生命（いのち）を享受し、謳歌しています。その声を聞き入っている私とその虫達との間に互いの理解、親近感が生まれているように感じました。

万物はこのように互いに認め合うことから関係の第一歩が始まる訳ですが、こうした他の種の生きものとの交流も本教科に当然含まれて来るものです。

生命の探求は私達に広い視野と深い洞察力を与えることになります。

003 And in dealing with the religious or spiritual side, one should not be disturbed regardless of his faith. For the Creator whom we call God, created everything that is known and yet to be known. And to know the Father of all creation, one must study His creation and its purpose.

003 また、宗教や精神的な側面を取扱う際には、人は自身の信条がどのようなものであっても妨害を受けべきではありません。何故なら、私達が神と呼ぶ創造主は、知られている、そして今後知られることとなるあらゆる物を創造したということ。そして、全ての創造物の父を知るために、人は父の創造物とその目的を研究しなければならないからです。

【解説】

私達は各々一人で”生命”について探究して行く必要があります。またその手法は各自に委ねられているということも出来ます。”生命”の源である創造主はやがて来る私達を見守って呉れているように思います。

最初の内は、自分の歩む道こそが正しく、他の道は誤りに見えるかも知れませんが、実際、山登りのようにある程度の高みまで上るとそれぞれがいずれも頂上を目指していたことが分かります。

古今東西の哲人や宗教指導者の教えも同様に、究極の目指す所、教えの真髄はどれも共通しているように思うのは私だけではないような気がします。

従って”生命”を探究しようと思う者は、その初心を大切に自ら探究の道を進むべきであり、決して邪魔されたり、横やりを受けるべきではないのです。よくこのアダムスキー哲学の分野でも知識のレベルでの議論から、互いに意見が異なり論争となるケースもありましたが、それら論争は無用のことであり、各自の進みたいような道を探究して良いということを本項は説いています。

004 We, as his highest creation are intrusted with that responsibility. The study should be no different than a careful observation of a famous painting would be when the artist is not known in person. For the more that it is studied, the better one understands the mind responsible for the painting.

004 最高位の創造物である私達は、その責任を任されています。その研究は画家を個人的に知らない場合に著名な絵画を注意深く観察するのと違いはありません。研究が進むにつれて、人はその絵画を描いた本人の心をより深く理解することになるのです。

【解説】

私達人間は最高位の創造物として、あらゆるレベルの創造物を探究し学ぶべき責任があると本項は説いています。またその探究の仕方として、絵画作品を見て画家の心情、心境を理解するように行えと具体的な方法も示しています。

つまりは私達を含め創造物を良く観察して、その作品がどのような意図で創られたのかまで遡って探究せよと説いています。

私達自身が何故、一つの細胞からこれまで生長し、この世に存在するのも含め、人の一生を振り返ることも重要です。また多岐にわたる体内の諸器官がそれぞれ有機的に繋がって私達の日常生活が成り立っていることも確かです。また一方でこの目まぐるしい活動は他の生きものや環境とも密接に繋がっている等、学べば学ぶほど地球という惑星が生きもののようにこれら膨大な諸活動と連動していることも理解できるものと思われます。

その最高位の地位に相応しい概念や心境こそ、私達が求めているものだと考えます。

005 As we cannot see the Creator the God of the Cosmos in person, we then must study Him through His creation. And this manifests in what we refer to as nature, for it is the embodiment of His Supreme Intelligence.

005 私達は創造主、宇宙の神を個人的人物として見ることはできない以上、私達は創造物を通じて創造主を研究する必要があります。そしてこの創造物は私達が自然と呼ぶものの中に現れているのです。何故なら自然こそが創造主の最高英知の体現であるからです。

【解説】

先ずは私達自身が被創造物であること、即ち私達が自力で存在するようなものでなく、無から造り出されたような作品であることを自覚する必要があります。

これまでは最高位に位置するものとして、他の万物を支配しどのようにも振る舞える支配者とばかり思って来た私達ですが、ここではそのような概念は微塵もありません。ただひたすら自然界に現出される宇宙創造主の息吹を感じ取ることを説いています。

全てのものの中に創造主の意図を見出すことについては、前項（004）の絵画鑑賞のように注意深い観察が必要で、作品の中に作家の思いは凝縮されていると言ってもよいでしょう。その意図にこそ各自の探究心を向けて、本来の私達人間に託された使命を各自が知ろうとすることが出発点だと著者は説いているように思います。

006 As stated, we cannot see Him as a person for he embraces all, and manifested creation is the Effect from His Cause Intelligence.

006 先に述べたように、私達は創造主を個人的人物のように見ることは出来ません。何故なら、創造主が全てを包み込んでおり、創出された創造物は創造主の因なる知性から出た結果物である為です。

【解説】

一口に"生命の探究"と言っても、そこには当然ながら執るべき基本的な姿勢というものがああります。本項で説かれている"創造主が（私達自身を含めて）全てを包み込んでいる"という概念です。

即ち、あらゆるものが同じ立場、同じ創造主から生まれ、現在も生かされているということです。これにより全ては同胞（はらから）であり、兄弟姉妹という認識が生まれるものと思われまます。

また、私達が知ろうとしている創造主は、実際膨大な拡がりを持った宇宙をくまなく調和させるという人知を超えた存在であり、真面目に考えれば畏れ多い気持ちが湧いてしまいます。私達一人一人はその創造の世界の一つの結果物でしかありませんが、その内訳（細胞や構成する原子分子）を考えれば、私達自身の中にも膨大な世界が拡がって来ます。しかし、これら物質はそれ自体創造された結果物であり、より大切なのは、それらを生み出し支援するもの、創造主（因）と繋がる印象や意識だと言うことになりまます。

私達は自分の生命をどのように活用し、志向してこれらの理解を進めるかが問われています。

007 When one studies to become a doctor he does not study just a man's eyes or nose, but he studies every intricate part of the body. This includes every nerve, muscle, etc., and their purpose or function.

007 人が医者になるために学習している時、人の目や鼻のみを研究することはせず、肉体のあらゆる入り組んだ部分をも学びます。これにはあらゆる神経、筋肉等、及びそれらの目的や機能についても含まれます。

【解説】

目の前の患者である人体に対峙して、その中に抱える問題の所在を洞察し、処方するのが医者となれば、医者は私達一般人とは異なる人体の見方をしている筈です。当然ながら、その能力を持つ為には各医学校では人体に関する骨格から内分泌まで様々な事柄を学んでいます。また時には実際に解剖等を通じて、教えられている内容を確認する教科もあることでしょう。

実はこの「生命の科学」の学習において、著者は私達に医者になる際に学習する時と同じように自然界のあらゆる事柄を学び、理解した上で、更に医者が各専門分野に進むようにせよと説いているのです。

大事なことは人体の各部は密接に繋がっていることを十分理解することであり、「生命の科学」の学習においても単に概念の思考ではなく、宇宙・自然を造り上げる各要素や構成員にはどのようなものがあり、それらがどのように繋がっているか具体的な学習を行うことを勧めているのです。

008 Some doctors go deeper when studying the manifested form of man and observe him with his consciousness. Thus he perceives the invisible or cause back of the effect. In this way he learns the purpose of every artery, muscle and organ and how each is related to the whole form. Thus when one part is out of order he knows what to do.

008 医者によっては人体の具現化された姿を研究する際、深部まで探究し、自らの意識でその人体を観察します。そうすることで、彼はその結果をもたらす目に見えない、或いは背後にある原因を知覚するのです。このようにして、彼はあらゆる動脈、筋肉そして組織、また各々が如何に全体と関連しているかを学ぶのです。このことにより、身体の一部が乱れた時に何をすべきかが分かるのです。

【解説】

「意識で見る」とはどういう状態を指すのかが重要です。私達はこれまで目で見て耳で聞いて来ましたし、目や耳を閉じれば見聞きすることは出来ないものと思っていました。

しかし、本項では医者は目や耳から得られる情報以上に、自身の意識という何か精神的な自身の拡がりのような存在を用いて相手を観察していると説いています。視覚や聴覚という表層的な要素でなく、私達自身を含むもっと立体的で拡がりを持った精神体を相手に通わせて状態を探るというようなイメージかと思えます。

このように意識レベルで相手を観察することで相手の身体内部の状況が自ずと分かって来るということでしょう。相手に同調することで瞬時に理解出来る場合も多いのではと思われれます。

そのいずれにしても、医者が人体の表面に表われていない身体内部の問題点については積極的に自らの意識を用いて相手の状況を理解しようとしているところが重要なポイントでしょう。

009 We must follow this same procedure of study in order to know nature and thus be able to free ourselves from the mysteries that have surrounded us and made us an entity separated from our creator. Then we shall come into an understanding of Cause and Effect. And our mental senses will perceive all forms and their purpose. And consciously we will understand the cause back of the manifestation.

009 私達が自然を知るためにはこれと同じ手順に従う必要がありますし、そうすることによって私達を取り囲み、私達を創造主から分離した存在にしていた諸神秘から私達自身を解放することが出来るようになるのです。そうなれば私達は原因と結果の理解に到達することでしょう。私達の心の感覚は全ての形有るものとそれらの目的について気付くようになるでしょう。そして意識的に私達は出現の背後にある原因を理解することになるのです。

【解説】

私達が抱える問題は、自らの存在の目的や周囲（環境、自然）との関係について実感できていないことにあるのです。本来の姿に戻る為に私達は前項（008）の医者のように、自分自身や他の存在、自然の営み、そして宇宙について探究する必要があります。

孤独感はこの関連性を理解していないことから生まれますし、独善的な生き方の末路かも知れません。しかし、自らが生命を与え支えて呉れる”因”の恩恵を常に受けていることを悟れば、以降その者はどのような状況にあっても日常生活を享受する心境になれるものと思います。

また、一つ一つの因からの助言（印象）を知覚することで豊かな生活が始まるでしょうし、身近な自然から多くの発見もあることでしょう。自然の中で因の作用に気付くことはその人にとって宝物とも言える体験を手に入れることでもあります。「同行二人」の表現のように、何処に行くにも”神様と一緒に”という心境かと思われます。

010 So we not only are going to develop our minds with the help of consciousness, but also expand our conscious perception at the same time. And in this way we shall see the Creator face to face through the mind and the consciousness as they become one.

010 それゆえ、私達は意識の助けを受けて自らの心を発展させようとしているばかりでなく、同時に私達の意識的な知覚力を広げようとしているのです。そしてこのようにして、私達は一体となった心と意識を通して創造主を面と向って間近に見ることとなるのです。

【解説】

私達は自らの心が発達し、自らの意識が広がって、両者が融合した状態になれば実際、創造主が見えるようになると著者は説いています。この原文の"shall"はある意味、"必ずそうなる"というような意味を持っている表現です。

もちろんその為には、心を落ち着かせ、結果に囚われている状態から解放して、もう一方の存在である自らの意識による助言を信頼することで問題解決を目指さなければなりません。また、それに基づき具体的に行動することで現実世界に働きかけることも有用なのではないかと思われま

いずれにせよ、私達の心は自らの日常生活の中で様々な問題を抱えている訳で、その一つ一つの解決の経験こそ、貴重な体験になりますし、私達自身の成長の為の糧でもあるのです。おそらくはこれまでの自らの心の持ち方、取組の仕方が現状に至った遠因と見るべきで、そこから新しい視点、心境を開拓して本来の成長に向けて再出発することが求められていることでしょう。その前途には創造主が待っておられるという訳です。

011 This is the method that the planetarions or space people use in their development.

011 これこそが、惑星人達、スペースピープルが彼らの発達に用いている方法です。

【解説】

本項の短い記述から、実はこの「生命の科学」は進化した他惑星の人達が開発して来た「進化」の手法であることが分かります。彼らもこれと同様な道程を経て今日の姿に到達したという訳です。

従って私達も少しずつではあっても、この導きに沿って日々探究し精進すれば、未来は明るいことになります。また重要なのは既存の宗教とのかかわりです。個人的には仏教もキリスト教もその源は他惑星からの支援によって生まれたものと思っておりますし、未だその価値は薄れるものではありません。

しかし、年月が経過するにつれて様々な解釈が付け加わり、発足当時の内容を確認することも難しくなっています。その点、本シリーズは著者の記した内容は明確に残っており、後世にも様々な形で伝えて行くことが出来る環境にあります。

私達は本シリーズに取り組むに当たり、本書が宇宙兄弟達から授けられた教科書と思って学んで行く必要があります。

012 We must always remember through the entire course that the human mind or the senses have been depending upon effects, while the consciousness does not -- it produces the effects.

012 私達はこの全コースを通じて人間の心、諸感覚は結果に依存していること、一方、意識はそうではなく結果を作り出しているということを常に心に留めておく必要があります。

【解説】

実際これまで私達が頼りにして来たのは、自らの心、即ち自らの感覚器官であり、それらは目の前に現れている「結果」、「現象」を拠り所としています。もとはと言えば、それらは様々な要因から引き起こされた結果物であり、その結果物を追いかけていたのでは、結局右往左往することで終わってしまいます。

一方、それらに代わる唯一の救いは実は私達の中には、意識というもう一つの要素が存在するという私達が長年気付いて来なかった点があります。この各自の意識は音声による言葉を発することはなく、目に見える訳ではありませんが、本項で説かれているように物事を生み出す根本的な力を有しています。

本学習コースはこのように各自が如何にしてこの意識なる存在を知覚し、自らの心のこれまでの結果に頼る姿勢を取り去り、因に目を向け意識による導き、即ち静かではあるが活発な印象の世界を知覚出来ることを目指しているのです。

013 Consciousness speaks in silence, or impressions, which is the language of The Supreme Being know as God, while the mind speaks the language of effects, which is sound.

013 意識は沈黙のまま、即ち印象によって話し掛けます、それは神として知られる最高位の存在の言葉でもあります、一方で心は結果の言葉、音声によって話し掛けます。

【解説】

心自体については、ある程度各自、自らの日常生活の中でその実像というものを理解出来ると思われま
す。喜怒哀楽や私達の悩み事その他、様々な問題を抱えているのが私達の心の状況です。

一方で私達は意識については長年、考えも及ばなかったのではないのでしょうか。一部の神道その他宗教
関係者や芸術家を除き、印象を生き方の中心に据えた者は少なかったように思われます。

しかし、本項で明かされているように印象こそは創造主から授かる貴重な知識であり、諸問題の解決策
です。これらを如何に取り入れるかが重要なのですが、残念なことに日常私達は結果の世界に振り回さ
れて、この因の配慮に気付くことはほとんど無かったのです。大変もったいないと言えるでしょう。

これからはご自身に惜しみなく与えられているこの印象の言葉に自らの意識を通じて同期し感受するこ
とで、ご自身の生活をより安寧なもの、活発で発展的なものに一大転換されるよう、著者は説いている
のです。

014 So this first lesson is the most important lesson of them all. One should learn through all of the lessons to follow that he is not studying effects alone but also causes, both at the same time. As you read and study the lessons from here on, make sure that you are using your mind and consciousness in full awareness of your study that you may see the effect and the cause behind the effect as a unit. Both are necessary to give us the things that we enjoy.

014 それゆえ、この最初の教科は全ての教科の中でも最も重要です。学習する者は以後に続く全ての教科を通じて自らが結果のみではなく、原因についても同時に研究しているということを学ぶべきです。あなたがこの教科を読み、研究する時は、あなたは御自身の心と意識をあなたの研究に全力で傾注して用いていることを確実にして下さい。そうすればあなたは結果と結果の背後の原因を一体として見る事ができるようになるでしょう。原因と結果の両者ともが私達が享受する物事を私達に授ける為に必要なのです。

【解説】

心と意識の両方を活用して毎日を生きること、物事に対処すること、そして自然を学ぶことを本項は求めています。とかく従来は「結果」だけを追求して来た訳ですが、これからは「結果」と「因」とを同時に観るようと、説かれています。

ともすれば、この分野の研究は「因」にのみ重きを置き、結果はどうでも良いと説かれがちですが、実はそれも誤りだと示唆しているのです。「因」のみを追求し、自身が拠って立つ現実に目を背けることも、もう一方の誤りだということでしょう。

しかし、難しいのは「意識」の活用という分野です。今までは自分自身の心が自分の全てを取り仕切っていた訳で、実はその心を鎮め、更にその奥にある深遠なる存在を認識し、そこからの指導の声（印象）を受け入れる姿勢に転換する必要があるのです。

これらの事柄は、いくら紙面で述べても理解は難しく、少しでも具体的な生活の場、問題に直面する場面で、自らの心の動向を把握し、その心を鎮め、因からの解決策を授ける意識と融合出来るよう、努めることが肝要です。

015 This will not be easy at first since we have been taught to study with our mind and seldom recognize the consciousness or cosmic impulse behind the thought.

015 これは最初は容易ではないでしょう。私達はこれまで心で研究するように教えられて来た一方、めったに意識すなわち、想念の背後にある宇宙的な衝動については認識して来なかったからです。

【解説】

これまで私達は何一つ本講座で言う「意識」の存在について教えられては来ませんでした。ごく一部の宗教指導者や哲学者がその存在について感づいていただけでした。現代の私達は物質主義を基調として自分達、心による科学分野を発展させた結果、あたかも心で全てを理解しコントロールできると誤解しています。その点、科学が未発達であった古代の人々の方が目に見えない意識の存在をより身近に知覚出来ていたかも知れません。神道や世界各地の土着信仰もそれら因なる存在を志向しているからです。そういう点では現代の私達の方がこの意識なるものを知覚しようとするのは容易ではないのです。これまで増長してしまった自らの心を謙虚にさせ、印象にこそ重きを置くように改める必要があるからです。

この「生命の科学」シリーズがこの惑星に提供されたのは、決して偶然や思いつきではなかったと私は考えています。科学が一定レベルに達し、人々の科学知識が増す中で、次なる文明の飛躍にとって必要な分野として授けられたテキストと見るべきですし、その成果は各自にとって大きいものとなる筈です。決して容易な道程ではありませんが、各自の成長にとって自分と意識との関わりについての理解がどうしても必要だと本項は説いています。

016 This awareness will enable a faster growth of understanding when used in everything that is done. And when the full awareness comes it will seem at first that there are two of you. The mental acting and the consciousness directing.

016 この気付きこそが為される全てに用いられるならば、理解力においてこれまで以上の急速な成長をもたらすでしょう。そして完全な気付きに到達した時には、最初の内はあなたが二人いるように思えるでしょう。活動しようとする心と指示する意識の二つです。

【解説】

私はまだその域には達していませんが、よく”二人の自分が居るよう”と表現される話を聞くことが多いように思います。多くは頂点を極めた舞台芸術家やスポーツ選手であったり、時々のインタビューでそのようなお話をされていたように記憶しています。

それぞれが一瞬の間に見事な表現行動を行っているのですが、一方でそれを見守るもう一人の自分が居ると感じて居られるようです。

果たしてこれらの状況が本項で言う「二人の自分」に該当するのかは確信が持てませんが、私達としては、進歩の一つの究極のステージにおける状態として覚えておく必要があるということでしょう。

いずれにせよ、前項（015）に記されている想念の奥にある宇宙的なひらめき（衝動）である意識について、努めて私達が日々の生活の場で自らの拠り所として探究、信頼し、時々授かる「印象」に従う行動様式を進めることで、周囲の環境もご自身の能力も高まって行くことは確かですし、ひとたびその成果を認識すればあとは各自で工夫しながら、その方向に進んで行けば良いということになります。

017 Do not be afraid of making a mistake. But when you are aware of making a mistake, correct it as soon as possible, for if you do not, it could be a block in your progress. But do not feel badly, for that could cause you to be too cautious. Remember at all times that mistakes are the result of wrong application through which we learn the right procedure. And experience is necessary for the expansion of knowledge.

017 過ちを為すことを恐れなくて下さい。しかし、過ちを為したと気付いた時は、一刻も早くそれを正しなさい。何故なら、そうしないと、それはあなたの進歩の障害になるかも知れないからです。しかし、くよくよ思っははいけません。あなたを余りにも用心深くさせることになるからです。いつも過ちは間違った応用の結果であり、それらを通じて私達は正しい手順を学ぶということを覚えていて下さい。そして体験は知識の拡張に無くてはならないのです。

【解説】

「過ちは繰り返してはいけない」とは、いろいろな場面で説かれている言葉です。本項は更にたとえ痛い体験をしたとしても、その原因を見極め、過ちを繰り返さないように、自分の姿勢、心境を修正し、相手との関係を修復する等の対応を行えば、その体験は大変意義あるものになる、体験は進化にとって必要だと説いています。

とかく私達は、同様な過ちを繰り返しがちなのは、その修正を行わずに済ませていること、反省が無いことが原因です。しっかりとその分析が出来ていないと、心の隙間に再び同様な要素が入り込むことを許すことにもなるからです。

私達は前に進む為には、一つ一つ自分自身の弱点や問題点を解決して行く必要がありますが、その為には自らの体験をしっかり味わい、得た知恵を活用して行くことが大切です。

018 Remember every act is perfect - be it good or bad - as we classify it. For every action calls for a full coordination of your mind, body and consciousness. So you grow into perfection by action and experience.

018 あらゆる行動は私達の分類によるところの良くも悪くもそれ自身、完全であることを忘れないで下さい。何故なら、あらゆる行動はあなたの心と身体、そして意識の完全なる整合を必要とするからです。ですから、あなたは行動と体験によって完全なるものに成長を遂げるのです。

【解説】

仮に推奨されない行為、誤った行動であっても行為そのものは自分の心と肉体、それに意識とが一体になって行われているという訳です。即ち私達は自分の行為について或る意味自らに備わった全てを総動員して行っていることとなります。

しかし、このことはその行為について自らの責任において行われたことに注意しなければなりません。何を行っても自由だということでは無いのです。言い換えれば各々の行為行動を行う中で、自分自身どのようにこの3要素が連携融和しているかを観察することも重要になるものと思われます。舞台上で演じている芸術家が自らの状態を別の角度から冷静に見守るような心境かと思われます。

行動する中で、これらの3要素の関わり方を理解することが大切で、単に心の中で想念を巡らせているばかりでは、行動による体験が得られない以上、限界もあろうかと思ひます。世の中には「行動療法」という治療法もあると聞きますが、体験を経て本来の自分に気付くことが重要かと考えます。

019 Even Jesus had to go through many unpleasant experiences and made a mistake when he drove the money changers from the Temple. For he taught, judge not. But when he realized his mistake he knelt in front of the Temple and asked his Father for forgiveness.

019 イエスでさえ多くの不快な体験を経なければなりませんでしたが、あの寺院から両替商を追い出した時は過ちを犯しました。何故なら、彼は裁くなと教えていたからです。しかし、過ちに気付いた時、彼はその寺院の正面にひざまずいて彼の父に許しを請うたのです。

【解説】

本項で述べられているイエスが両替商達を寺院から追い出した話は有名ですが、その後イエスが自らの過ちに気付いたという話は私自身、聖書に載っているという記憶がありません。アダムスキー関係者の間で言い伝えられているように、アダムスキー氏自身がイエスに従っていた聖ヨハネであったことに関係した記述であり、とりも直さず当時イエスに従っていた者のみが知っていることではないかと思われる。

イエスでさえ過ちがある訳ですから、当然私達は毎日過ちの連続、不快な体験ばかり経験していても当然かも知れません。そこで問題になるのは、その一つ一つの体験から何を学ぶかということになります。私の心の状況や考え方の何処に問題があって、本来はどのように行動すべきだったかを考察し、次回には改良した対応を試みることに、もっと因なる意識の声に耳を傾けて相手を受容する心構えを保つことに重点を置くことです。

一つ一つの痛い体験から珠玉の知恵を学び次に備えることがご自身のステップアップにつながります。

ご連絡 [2016-09-22]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、次回の更新は9月26日以降になる見込みです。

2016年9月22日
竹島 正

020 We of today have a greater responsibility for we have more to compete with and more temptations than those who lived in the earlier days. So a greater alertness and determination is required if we are to understand and fulfill the purpose for which we were born.

020 今日の私達はより大きな責任を有しています。私達には昔の時代より多くの競争があり、多くの誘惑があるからです。ですから、私達が生まれて来た目的を理解し成就するには、より大きな警戒状態と決意が必要とされるのです。

【解説】

古代ローマ時代に比べれば、現代の地球人が持つ威力は計り知れない大きさがあります。武器としては核兵器を手元にあり、今日では手頃にミサイルや遠隔操作の無人機も持つに至っています。また、発達した科学技術は資源の争奪等、様々な大規模手法で地球をむさぼっているのです。

こうした中、自己の心を暴走させれば仮に一握りの人達の誤った行動も人類全体に深刻な状況をもたらすことでしょうし、支配層は情報をコントロールして人々を望む方向に導こうとしています。

創造物の最高位の地位を与えられた人間はこれまで自分なりの方法で文明を進めて来た訳ですが、それも現在では各地の紛争や地球規模の環境異変等、存亡の危機に達しています。これら諸問題を解決することが求められていますが、どれ程の人々がそのことに気付いているかは疑問です。地球の歴史は何万年単位で文明の崩壊と隆盛を繰り返しています。かつてのムーやアトランティスの文明のように、再び消滅してしまうのか、私達はその岐路にあると著者は説いているのです。

021 There can be no question regarding the fact that we were born for a reason or purpose, and there could be many. If this were not true, there would be no need for human beings.

021 私達が何らかの理由或いは目的の為に生まれて来たという事実に関して何らの疑問はあり得ません。もしそれが真実でないとするなら、人類の必要性は無いことになるからです。

【解説】

私達地球人がこの地球という惑星の存亡に責任を持ち、この惑星全体を本来の美しい星に復帰させるのが務めであり任務です。他の者がその任にあたる訳ではないということでしょう。本文は私達にこの本来の任務を深く自覚することを求めています。

もちろん、他惑星人は今後も必要に応じて支援して呉れるかも知れませんが、先ずはその惑星の住人がその惑星を統括すべきなのです。そういう意味からこの地球にとっても私達地球人の存在や動向が重要となります。母なる大地と言いますが、その息子の長年の誤った行動が父母を長らく苦しめているのです。

私達はもはや必要とされなくなって、地上から一掃される前に本来の姿を取り戻さなければなりません。今まで培った科学技術や知識を他の生きもの全体との調和に生かして行くこと、自らの心の横暴を良く統制して、因なる声、意識の指導に気付いて、それらと融合することが求められています。最近よく言われる”持続可能な発展”の真の意味はその辺にあるように思います。

022 The major purpose for man seems to be -- an unlimited Expression of Cosmic Intelligence -- as no other form seems to have that scope of ability. Yet to do this, every phase of creation must be understood. When Jesus instructed his followers to be "about the Father's business" he had reference to this way of life. And in order to do this one must study each manifestation from the lowest to the highest.

022 人間の主な目的は、宇宙英知の限り無い表現であるように思えます。他の形有るものがそのような能力の可能性を持つとは思えないからです。しかし、これを成す為には、創造のあらゆる段階が理解されねばなりません。イエスが弟子に「父の事に携わる」ようにと命じた際、彼はこのような生き方との関連で述べたのです。そして、これを成す為には、人は最低位から最高位に至るまでの各々の現れを学ばなければなりません。

【解説】

本項はルカ伝第2章49節を指すものと思われます。解釈 (http://stonepillow.dee.cc/kurosaki_frame.cgi?42+2+2-2) によれば、"聖書に記されしイエスの最初の御言であり、極めて重大なる一節である。イエスはここに神を「わが父」と呼び給うた。(中略)「父」のことを思う時、他に何事をも考えることができず、肉の両親のことをも忘れてしまうほどの熱心さであった。心配してこれを尋ねていた両親をかえって不思議に思い、その両親がイエスの心理を解しないことを怪しみ問うた。イエスの神の子に在すことの最も良き証拠としてこの御言が残されていた"、とされているようです。

イエスが「父」と呼んだ創造主の事柄に携わることが、私達の本来の務めなのですが、その為には著者はまずは低次なものから最高次のものまであらゆる創造現象を観察し、学べと説いているのです。

やはり無関心が最もいけない態度であり、創造主への不遜です。私達は自分に与えられた好条件に感謝するとともに、努めて幅広い分野に関心を持ち、それら創造物の役割や生きて行く為の仕組みについて学ぶ必要があります。そうした関心を持つことで、それらとの一体感や印象の交流も可能になるという訳です。

023 We find no two human being that are alike. For the different talents with which each is endowed makes the difference. But like the keys on a piano, when one learns the tone of each and strikes it accordingly a beautiful harmonious melody is the result. The opposite can be brought forth when not understood.

023 私達はそっくりな2人の人間を見つけることはありません。何故なら各々に授けられた異なる才能が相違を作り出しているからです。しかし、ピアノの鍵盤のように、人が各々の音色を学び、適切にそれを打ち鳴らせば、結果として調和のあるメロディーが生まれます。理解されなければ、その反対が引き起こされ得るでしょう。

【解説】

本項では著者は私達一人一人に対し、私達が存在する意義について語りかけています。各々が他とは異なる才能を有していると説いているのです。

そもそも理由や意義の無い創造物は無いという訳です。別の言い方をすれば、芸術家が作品を製作する際には、たとえ数多くの作品を仕上げた巨匠であっても、毎回製作にあたって込める思いに優劣の違いはありません。作品一つ一つは作家の思いが込められているということでしょう。

私達一人一人が自由に自分に託された才能に気付くこと、それらを人生を通じて開花させることが出来れば、この地球は様々な花が咲くお花畑に似た楽園になれる筈です。

著者はまた、一人一人の役割をピアノの各々の鍵盤に例えています。それも一大ハーモニー（調和）を奏でる為に互いに協調・融和を求めていることに他なりません。

自分が本来授かっている才能を発展させ、それらを自分の為でなく、他の者に役立つ形で発現すること、調和した運用を目指すべきだと著者は説いているのです。

024 So we will endeavor to understand the self by knowing the equipment we have to work with.

024 ですから、私達は私達が日々共に働かなくてはならない道具を知ることによって自分自身を理解するよう努力することにしましょう。

【解説】

ここで著者は私達自身を「道具」と簡潔に表現していることに注意したいところです。即ち、本来の目的の実現にとって用いられるべき道具としての自分自身のことです。自分の肉体、心、更にはその奥に通じる意識が全て本来の目的を実現する為に役立てるべき存在という訳です。

もちろん、職人さんが道具を非常に大切にするように、その道具が適切に維持管理され、いつでも働けるようにして置くことが必要なことは皆さまご存知の通りです。職人の腕の良しあしはその道具を見れば良く分かるという訳です。

さて、私達は自分に最も近いこの道具をどのように取り扱えば良いのでしょうか。無謀に取り扱えば傷んだり壊れたりしてしまい、本来の役目は果たせません。まずはじっくりその道具の特徴や内容を学び、それらを与えて呉れた創造主の込められた意図を知る必要があります。

長い人生をこの道具と共に生きる訳ですから、職人さん同様、自らの道具を大切に扱うべきことは言うまでもありません。

025 First -- What is a human being ? As we see the body which is an effect, we observe that it is composed of flesh, bone and liquid. And not much different than most animal forms. But that which makes up the form is never seen with the physical sight as it is made of myriads of cells. Each cell is independent yet it blends with all of the others for the common good and maintenance of the form. Just as the three billion people of the earth make up the human family. But because they have not been taught the part which they may play in life, disorder results. This disorder is minor compared to the total order on earth. For if it were not so the planet earth would be in a chaotic state. So now we must try and learn the cause of disorder.

025 第一に、人間とは何でしょう？ 人体を見ると、それは一つの結果であり、私達はそれが肉と骨、そして体液から構成されていることに気付きます。そしてそれらは大部分の動物の身体と大差が無いことがわかります。しかし、身体を作り上げているものは肉眼では決して見ることは出来ません。なぜならそれは無数の細胞から出来ているからです。一つ一つの細胞は独立していますが、同時にその形有るもの共通の目的や維持の為、他の全てのものと融合しているのです。丁度、地球の30億人の人々が人類家族を作り上げているのと同様です。しかし、人々は生命において果すべき役割を教えられて来なかった為、混乱が生じています。それでもこの混乱は地球の秩序全体と比べれば小さいものです。何故ならもし、そうでなければ、この惑星は渾沌状態になっていることでしょう。ですから、今、私達は混乱の原因を学ぼうと努力しなければならないのです。

【解説】

私達自身の身体も地球という惑星に相似している、即ち互いに状況を反映、同期しているということでしょう。自分の中で起こっていることは、地球の中で行われていること、更には宇宙で進んでいる事態と高いに密接に結びついていると観るべきなのかも知れません。

実はその現象も元はと言えば、私達の肉体を構成する微小単位である細胞を更に深く構成するのは分子・原子であり、それらは宇宙全体で共通のものであるからであり、それら分子・原子レベルに迫る微小世界に英知が由来すれば、それも理解できます。宇宙全体に基本的な情報が共鳴、連動することも想定される訳です。

こうした観点に立つと、本文の意味が更に明解に分かるように思います。私個人としては一人の人間としての存在ですが、その詳細は各部位の一体的な働きが不可欠であるのと同様、私達自身も宇宙の構成要素の一角として、その者に相応しい行動、調和した姿勢が求められることとなります。また、自分を道具と称するのも、より大きな成果物の一員、一要素として宇宙全体に描かれる絵画におけるモザイクのひとつかけらに過ぎないという思いもあるように思います。

026 The average human is a mentalist governed by the ego which is itself an effect of the cause. And as the mind is the process of learning it seeks to guide itself by other material effects and there are many things that it does not understand. And the things that are not understood are feared and disliked. And the things that are pleasing to the senses (or ego mind) are liked. Yet oftimes the likable things become blocks that prevent the individual from progressively learning.

026 普通の人間はそれ自身は因の一つの結果でしかないエゴに支配されている心至上主義者です。そして心は学習の課程にいる為、心は他の物質的結果によって自分を導こうと探し求めますが、心が理解しない多くの事柄があります。そこで、理解されない事柄は恐れられ、嫌われます。また、感覚（或いはエゴの心）を喜ばせるものは好かれるのです。しかも、多くの場合、好まれる物事は進歩的な学習からその者を妨げる障害になるのです。

【解説】

ここでのポイントは、通常私達は「心」を唯一の指揮者として生活していると、その限界について指摘していることにあります。実はこの「心」なるものは、私達が誕生した時から学習の課程にあると本文では表現されています。つまり、毎回の人生における赤ん坊の歩みのように、毎日少しずつ学習の課程にあるという訳です。

当然、何も分からないところからスタートする訳で、自らの足の運び方から、自分の肉体の制御について習得して行くこととなります。また数々の失敗を経験し、痛い目に遭いながら幼年期を過ごし、長い時間を掛けて成人に達するというのが私達地球人の歩みということとなります。

そこには周囲の影響も受けます。自分が経験した事柄を長らく心に記憶として留めるということもあるでしょう。しかし、それらの全ては起こってしまった「結果」や具体的な事物に結び付けられ、本人の心の拠り所ともなっています。

しかし、よく考えると、本来、私達はこのような過去の経験や失敗事例に執着する必要はなく、もっと開放的な心境、移ろい易い"結果"でなく、その源流にある"因"に目を向ける必要があると思います。私達が結果に囚われていると、実はその結果は将来ともに有効になる経験にはなり得ず、確固たる拠り所になるものではないと説く、仏陀の教えを思い出します。

この心が執着しやすい性格であることをよく知った上で、それを解脱し結果に頓着しない生活を送る必要があると説いている訳です。仏陀は生まれた直後に数歩歩いたとされていますが、まさに仏陀の真価を伝える言葉かと思います。

027 We can observe that life lends itself to all nature without divisions. And it seems that man's free will has separated him from his natural expression of life.

027 私達は生命は分け隔てなく自然全てに自らを貸し与えていることに気付きます。そして、人間の自由意思こそが人間を生命の自然な表現から分離させて来ているのです。

【解説】

生命は基本的に"借り物"という視点は、自分の命は創造主から与えられたもの、更にはいつかは返却すべきもの、本来自分の所有物でないことに繋がる視点です。またこの短い本文から、私達はその生命が万物に均等に授けられていること、即ち生命あるものすべて、同じ源泉から生かされていることを知ることが出来ます。

従って、個体の大小、見かけの美醜に関わらず、全てが共通の親を持つという点で、"兄弟姉妹"の関係にある訳です。

共通の息吹が体内に流れているということは、それらの息吹を経由すればあらゆる生きものと一体化でき、互いに意思を通じ合えることも、本項が示すところです。

028 So we must first -- condition the mind which is made up of the senses to not accept the effects as the ultimate answer as it has been doing. But patiently analyze the reason for the effect before coming to any conclusion. It should not make any difference whether it be a personal effect related to one's self, or another person or form of life.

028 ですから、私達は最初に、過去にやって来たように結果を最終的な答として受け入れることの無いよう、諸感覚から成り立っている心を調整しなければなりません。代わって、何らかの結論に到達する前にその結果に対する理由を忍耐強く分析することです。それには御自身の個人的な結果であろうと他の人の或いは他の生命体についてであろうと何ら違いは無いはずで。

【解説】

私達が先ず考えなければならないのは、結果（結末）にはそれを引き起こした原因があり、理由があるということです。全てのものが一つの法則の下にある訳で、良くも悪くもその法則が機能していることを見定めなければなりません。それをせずに、ただ結果だけに頼っていたのでは、その本質を見失ってしまい、結果に翻弄される不安定な状況に陥ります。

仏陀は"無常"を説きましたが、それも私達がこの原因と結果の関係を正しく理解していないと変動する結果に本筋を見失ってしまうと諭したような気がします。

重要なのは目の前にある結果は原因があって生じたもの、即ち一つの創造作用として生み出されたという視点です。その仕組みを認め、注意深く原因との因果関係を探究すれば、物事を生み出す普遍的な因果の法則を知ることが出来るということでしょう。いわゆるカルマも類似した概念であり、その理解の上に立って、善行を積む意義がある訳です。

私達が目指すのは健康で充実した生き方ですが、それを実現するのも、日々の生活の中で、この普遍原理を学び、自ら応用すること、観察を通じて因を学んで自ら好結果を呼び込む心境を磨くことです。

029 As an example we will use the form of a tree and analyze its purpose. As we observe the effect we find that its services are many, both as a living tree and the products that can be made from it. For many useful things are made from the wood of its trunk and it fertilizes the earth by dropping its leaves. But we do not see the energy or life force which emanates from it and without which we would not have the pure air which is found in virgin forests. For it transmutes monoxide gas to oxygen which is essential to life. And all plant life serves in this field.

029 例として、樹木を取り上げることとし、その目的を分析しましょう。私達はその結果を観察すると、私達は生きている樹木及びにそれから作られる製品共に木がもたらす便益は多種に及ぶことを発見します。何故なら、木材からは様々な有用な物が作られますし、その葉を落すことで土壌を肥沃にするからです。しかし、私達は樹木から発せられているエネルギー、生命力は見えていません。その生命力が無ければ、処女林に見られる純粋な空気は生じないでしょう。何故なら、樹木は一酸化炭素ガスを生命に必須である酸素に変えるからです。そして全ての植物生命体はこの分野で務めを果しているのです。

【解説】

いわゆる"森林浴"を楽しんでいる時、私達は木々の葉が真夏の暑さの中でも日差しを緩和し、涼しい風を通すことを知っています。地上の多くがこれら植物で覆われ、またその植物が動物達を育てていることも分かります。

もちろん、日常生活においては今この原稿を記載する机も椅子も木材から作られていますし、それらは過去に木々が成長し造り上げた幹から作られたものである訳です。このように木は私達の生活の様々な場面で役に立っている訳ですが、これらはまだ、結果に属する内容と言えます。

木々の本来の意義は、植物の機能としての大気浄化にあると著者は説いています。その作用こそが私達にとって本当は最も大切な要素ということになります。また、これら木々その他植物が果たしている大気浄化は目に見える作用ではありませんが、それらは私達が自然観察をする中で、例えば雨上がりの日差しの中で幹から水蒸気が立ち昇る様子や、露のしずくが葉の周辺に付いて輝く光景などで垣間見る美しさの中に気付くことが出来るものでしょう。

これら木々の生きる姿に私達は感謝と畏敬を持ってこれに接し、時に"神木"としてしめ飾りを巻いて敬う訳であり、そこには木の中に生命の息吹を見ようとしている私達日本人の古来からの自然への向き合う姿があるのです。

030 In observing the effect of forms we do not see the liquids or life blood, which we call sap in the tree, which flows through it making it a living thing. Nor do we see the roots in the depths of the earth and the work that they do in drawing energy from the earth unto themselves. Nor do we hear the molecules that make the form speak to each other in guiding it to the fulfillment of its purpose. This could be called the cause behind the effect.

030 その形ある結果物を観察する時において、私達は木の中の樹液と呼ぶ液体、生命を支える血液を見ていません。しかし、それは木の中を流れてそれを生き物と成しているのです。私達はまた、地表深くある根を見ることもありませんし、根が木々に土壌からエネルギーを引き出す為に果す仕事を見ていません。また、私達はその形有るものを構成する分子が互いにその形あるものの目的を果すために導く中で、互いに話しをする声を聞くこともありません。これは結果の背後にある因と呼べるものでしょう。

【解説】

本項は"目に見えない因なる部分"とはどのようなものを指すか具体的に示しています。もちろん"因なる"世界は更に奥深いものがあるでしょうが、先ずは私達は木々が生きている証である樹液の流れや地中の根の働き等々、外観のみでは得られない重要な要素があることを自覚すること、結果（外観）にのみ頼っていたのでは対象物の真相は理解出来ないことを知る必要があります。

その上で、目が外観を認識する際、自らの判断をその目が示す情報のみでなく、その現象の奥に息づく目には見えていない様々な動きや活動に気付くことが大切になります。

この生命の科学の第1課で私達が身に付けなければならないことは、私達が自分自身の身体も含めて日常目にする様々な対象物の本質的な価値や機能は外観ではなく、その内部に宿る更に活発な生命活動にあることに気付く洞察力、知覚力なのです。

031 Now we must school ourselves to see the cause and the effect manifesting as One when we look at an effect. Form, we recognize with our physical sight as an effect to an effect. The mind must become aware of cause through consciousness. The moment that your eyes glance upon a form the consciousness will give the mind an impression of the life within the form. And you become single minded, as Jesus said man should be.

031 そこで、私達は一つの結果を見る時は、原因と結果が一体となって現れていることを見るように自分自身を訓練しなければなりません。私達は形あるものを自分の肉眼という結果に対して一つの結果として認識します。しかし、心は意識を通じて因について気付くようにならなくてはなりません。一つの形有るものをあなたの目が一瞥した瞬間、意識は形有るものの内部にある生命の印象を心に与えるでしょう。そのようにして、あなたはイエスが人はそうあるべきと言ったように二心の無い状態になるのです。

【解説】

この講座の取り組みは決して書物を読むような形態で進められるべきではありません。各自の日常生活の中で、少しずつ実践しながら身に付けて行くことが望まれています。

本項では原因と結果を同時に観ることを説いています。その為には私達の心はまず外観に加えて内部から来る印象類に気付く感受性を求めています。心と意識が一体になる状況下においてそれが可能となるからです。

その状況を実現する為には、私達は自らの心をどのような状態に保つ必要があるか等々、とかく先入観に陥り易い即断的な心をより落ち着いたもの、より寛容的なものにする必要があります。

032 When the form is seen with the mind and the consciousness reveals the cause we then see the visible and invisible at the same time. i.e. If you start making a plan for a house by drawing it on paper, you are producing the first effect that comes to the mind by conscious impression. You are using the consciousness and the mind as one. The consciousness alerts the mind what the design is to be. After the plan is drawn you may make many changes due to the experience you have had with houses. Even then the consciousness will point out the improvements that can be made which were not present in the houses you have known.

032 形有るものが心で見られ、意識がその因を漏らす時、私達は目に見えるものと見えないものを同時に見ることになります。即ち、もしあなたが紙に図を描くことによって家を作る計画を立て始めるならば、あなたは意識の印象によって心にやってくる最初の結果を作り上げていることになります。あなたは意識と心をつにして用いているからです。意識は心にデザインはどうあるべきかを注意します。計画が図面化された後、あなたは家について得たこれまでの経験に基づき多くの修正を行うかも知れません。しかしそれでも、意識はあなたがこれまで知っている家には存在しない改善点があることを指摘するでしょう。

【解説】

本事例から私達は創造的な仕事の中に意識と心が一体になれる機会があることを学ぶべきです。これまで経験したことのないもの、誰かが提示した手本の無い中で、私達が物を造り上げる為には意識の力を借りなければなりません。その為に心は作品作りに向き合う際には、何らかの特別な心境を保つ必要があるということでしょう。

しかし、ひとたびその極意に気付けば後はとめどなく湧き起こるアイデアを形にして行く作業であり、心はその印象の通り道となって、具体世界にその形を残す道具になればよいという訳です。

このように私達には元来、印象を湧き出す源泉が備わっており、必要なことはその泉から湧き出すアイデアを無にすることなく、活用することです。

多くの芸術家が作品作りに取り組む時、寝食を忘れる程没頭することは良く知られていますが、まさにその時は内なる意識と現実世界にそれを具体的に描く役割を持つ心が一体化し、その芸術作品を通じて創造主の知性が表現されていることになるのです。

033 This could be called the development of the mind in intelligence. There is really nothing that you do that does not have the consciousness behind it. Your mind may change and modify an impression either for good or bad results, depending upon the mind's intelligence or how well it accepts the instructions. To produce good results the mind must have total faith in consciousness and permit itself to be guided by it.

033 これは知性における心の発達と呼んでもよいでしょう。あなたが成すことで背後に意識の無いものはありません。あなたの心は、その心の知性に依存して、あるいは意識の示唆を如何に良く聞き入れるかによって、良い結果となるにせよ悪い結果になるにせよ、印象を変化させ或いは修正するかも知れません。しかし、良い結果をもたらす為には、心は意識に全信頼を持ち、自らが意識によって導かれることを良しとしなければなりません。

【解説】

実は日常的にどのような心境を維持すべきかについて、本項はその秘訣を説いているように思います。取り分け第1課は「生命の分析 原因を知ること」というテーマが設けられていますが、その「因なるもの」の存在を私達に示唆してくれるのは決して従来の私達の目や耳の感覚ではなく、「印象」という別系統の情報交流から来ること、またそれらを受け入れ、学ぶ姿勢が重要だという訳です。

更に発展させて私達自身自らの心をこの意識が提供する印象を受け入れて、それを実行に移す中で自らの成功体験を得ることが出来、少しずつではあっても学習し、進化して行けるということでしょう。

結局、私達は日々の学習訓練によって少しずつ自分の中にある意識の存在を知り、それとの協働関係を如何に作り上げるかが問われていることになります。

034 Here you may say that you do not wish to follow blind faith. Yet to accomplish what you feel down deep within yourself that you can -- you must use it. For what is blind faith? When you were planning your house you were using blind faith for the house was not present as a finished structure of concrete and plaster. Whatever you do in your life is performed with blind faith, for you never know what the results will be in any act. Whether walking or riding or whatever you are doing you hope that all will be well, but you are never sure. In fact 99 % of our life depends upon blind faith. I leave the 1 % to past experiences, but even there you are not sure the results will be the same if repeated.

034 ここにおいてあなたは、盲目的な信頼に従うとは思わないと言うかも知れません。しかし、あなた自身の中の奥底であなたが出来ると感じていることを達成する為には、あなたはそれを用いなければなりません。何故なら、盲目的な信頼とは何でしょうか？あなたがあなたの家を計画している時、あなたは盲目的な信頼を用いています。その家はコンクリートとシックの仕上げられた構造物として存在していないからです。あなたが人生の中で何を成そうと、それは盲目的な信頼とともに成されます。あなたはいかなる行動においても結果がどのようになるかはわからないからです。歩いている、或いは乗り物に乗っている時、或いはどのようなことをしているにかかわらず、あなたはすべてはうまく行くように願いますが、確信を得ることはありません。実際には、あなたの人生の99%は盲目的な信頼に頼っているのです。私は残りの1%を過去の体験に残していますが、それでさえ、あなたは仮に繰り返しであったとしても結果が同じになるかどうかは確かではないのです。

【解説】

昔から”信仰”や”信念”、目には見えない創造主への”信頼”等々、様々な表現はされていますが、そのいずれの概念も英語では”faith”という言葉が用いられますし、区別はありません。本項の主眼もその”faith”が如何に私達の進化に必要なものかを説いています。

これまでの学習から、私達は自分の経験や知識とは異なる何か宇宙全能の存在が自身の内側にも存在し、もし私達がこれらから発せられる助言の印象を感知し応用すれば、如何に素早く物事が成就するかを学んでいます。

しかし、この貴重な助言は常に印象として授けられるため、私達は先ずはその発信元を信頼し、何ら判断することなくそのまま率直に実行することが求められています。実は、その際重要となるのは、その時の私達の心の状態、心境です。仮に自分の経験になく未知のものであってもその源泉から与えられた印象類に対して私達は何ら疑問を挟むことなく、受け入れる素直さが必要であり、その際の”faith”こそが重要なキーポイントになる訳です。

035 Faith is the foundation of all manifestations. And one without faith is like a ship without a rudder or captain. Once your mind has trust in faith, it will trust the instructions of consciousness, thus allowing the consciousness and mind to work as one. Then the consciousness of God which is the cause, and the sense mind of man which is the effect, have been united. And the biggest Mystery of Life has been dissolved.

035 信頼は全ての創造の現れの基礎です。そして信頼の無い者は舵や船長のいない船のようなものです。ひとたびあなたの心が創造主への信頼に委ねれば、心は意識の指導を信頼するようになり、その結果、意識と心が一体として働くようにさせることとなります。そうすれば因である神の意識と結果である人間の感覚の心が一体となって結びつくのです。そして生命の最大の神秘が氷解することになるのです。

【解説】

"As a man thinketh"(人は思い通りのものになる)と言ったJames Allen (ジェイムス・アレン) の言葉のように、私達は自分の望むままの人生を生きているのではないのでしょうか。心の底で望んでいる人生の姿を私達は知らず知らず実現させているのかも知れません。

”無”から”有”を生じさせる為には必ず宇宙の創造的な作用が必要であり、それを導き入れる為には、まず私達の心自体がその宇宙的創造作用の存在を認知し、出迎えなければなりません。その時、必要な心の状態、心境について、この"faith"という信頼感が重要となる訳です。

実際にはアイデア・印象を実現させるには、現実世界に働きかけることが必要で、その際の道具として私達の心や身体が必要となるのです。そしてその製作過程、実現過程を客観的に観るとすれば、私達の心と宇宙的意識とが一体化しているように見えることでしょう。

この原理を理解出来れば、あらゆる場面、あらゆる物事に応用でき、私達は他惑星の住人と同様、進化の道を歩むことが出来るというものです。

036 What is consciousness ? No one definitely knows except that it is a life force that is the creator of all forms. For without consciousness man would not be a living being. And in man the best way that we can describe it is -- a state of alertness. And a state of alertness is a state of feeling or awareness. In the animal it is known as instinct which does not have to depend upon sound. The language of consciousness is the language of the Creator that one feels when he becomes conscious of things not yet experienced. Jesus expressed it in these words -- Blessed are those who see and hear not yet believe. For they shall enter the Kingdom of Heaven. And the kingdom of heaven was used in reference to the realm of Cause, a sea of consciousness or everlasting life. For consciousness proceeds all manifestation.

036 意識とは何でしょう？誰一人、それが全ての形有るものの創造主である生命力であるということ以外、明確には知ってはいません。何故なら意識無くしては、人は生き物とはならないだろうからです。そして人間においてはそれを最も適切に表現するとすれば、それは警戒の状態とすることができるでしょう。そして警戒の状態というのは印象もしくは気付きの状態です。動物においてはそれは音声に頼らない本能として知られています。意識の言語は未だ体験していない物事について意識的になる時に感じる創造主の言語なのです。イエスはそれをこのような言葉で表現しました。「見もせず、聞きもしないのに信ずる者は幸いなり。何故なら彼等は天の王国に入るだろうからである。」そしてこの天の王国とは因の領域、即ち意識の海、永続する生命について用いられたのでした。何故なら意識は全ての創造の現れに先立つからです。

【解説】

本講座の中で最も重要な点を指摘しているのが、本項ではないかと思っています。即ち私達は自分自身の「心」については自分の分身として、また訓練すべき対象として理解出来ますが、この沈黙の生命力である「意識」については容易には認識出来ないでいます。しかし人体の実態は時々刻々その作用に全てを委ねている訳です。

この意識なるものの存在に本来、精力を傾けなければならないことは明らかです。座禅その他の修行もまさにそれを知覚する為の訓練に他なりません。私達は自身を掘り下げて探求する中で自ずとこの意識なるものに到達するものと思われれます。

しかしその探求は決して外に向けてのものであってはなりません。他の世界ではなく自らの中に本来備わっている生命力は自らの中に見出される筈のものです。私達は自己を研鑽し、自我を削り取ると同時に内部から光り輝くものが現れるようになることでしょう。自我（エゴ）が小さくなるにつれて意識の輝きが増して来るという具合です。

037 You see we are like a diamond in the rough. When man first found the substance that turned out to be a diamond, he saw a rock through his physical sense of sight but something inside of him told him that this rock was different from others. It was his consciousness and not his mind that alerted him to the fact that if he would cut and polish it, it would be the most beautiful thing that he had ever seen. Radiating every color conceivable. But this result would require patience and a lot of hard work, even pain at times when cut by the sharp edges. Every man is a diamond in the rough and there are many rough edges that must be removed before he can see the purity of himself.

037 私達は未加工のダイヤモンドのような物です。人が後でダイヤモンドと判明する物を最初に発見した時、人は自分の肉体の視覚を通じては一つの岩を見たに過ぎないのですが、自分の内部の何かが彼にこの岩はその他とは違うと知らせたのです。彼にもしそれをカットとして磨けばありとあらゆる色彩を放ち、これまで見たことのないような最も美しいものになるという事実を警告したのは彼の意識であり、彼の心ではありません。しかし、このような結果に至るには忍耐と努力、更には鋭い刃先でカットされる時の痛みさえ必要とされることでしょう。すべての人間は未加工のダイヤモンドであり、自分自身の純粋さを見い出す為にはそれ以前に多くの粗い角を取り除かなければなりません。

【解説】

その自分を磨く過程を本項はダイヤモンドの原石に例えています。外見上は他の石と何ら変わらなくてもその石の本質は内部の意識を通じて私達は知ることが出来るとしています。いわば一人一人の才能は意識の声によって知ることが出来るという訳です。

しかし、その原石も磨く工程を経なければ輝く存在にはなれません。私達自身も自らの外側にこびりついた永年の汚れを削り取る作業が必要だということでしょう。またその過程では痛みも伴うことも多いように思われます。長年培った習慣的想念は身体各部に余分な汚れをもたらしており、それらを取り除くには忍耐が必要です。

私達が本来持っている美しさを表現する為に先ずは心の中から不要な執着を取り除くことが必要です。し、他者が輝く姿を見て、自分にもその可能性が備わっていることを知らねばなりません。生命は等しく万物に与えられており、その発揮にこそ各自の努力が為されるべきなのです。

ちなみに仏典の中には「金剛經」という名のお経があるとのこと。同じ「ダイヤモンド」（金剛石）をイメージした菩薩の修行の完成を目指して説かれたとされており、本項に通じる響きがあります。

038 This is not a pleasant process for each removal, in most cases, will cause a pain of one kind or another. But the more pain he is able to endure -- the finer the stone will be.

038 これは多くの場合、心地よい過程ではありません。ひとつひとつの取り除き作業にあれやこれやの痛みをもたらすだろうからです。しかし、その者がより多く痛みを耐えられればそれだけ、よりすばらしい宝石になることでしょう。

【解説】

自分の欠点を直視しこれを改善することは容易ではありません。元来知らず知らず身に付けてしまった悪癖をそもそも取り除こうとすること自体、貴重な心掛けという訳です。

むしろ多くの場合、やむを得ない状況下に追い込まれた末にどうするかを問われる場合の方が多いのかも知れません。多くの失敗の際、本人がどのような行動をとれるかが問われていることとなります。

つまりは、是正を必要とされる際に本人が現実に向き合い、その原因が自らの欠陥部分にあることを認め、その対応、改善策に立ち向かうことが重要です。実は自らの問題を認めることは容易ではなく、通常は自我（エゴ）が激しく抵抗し、プライドを捨てきれないままで終わることも多いものです。もちろん、そのままでは事態は未解決で悪化の一途を辿ることになります。

必要なことは事態の原因となった要素を分析し、それに対して必要な改善策を躊躇なく進めることです。このような時に苦痛を伴う対応を図ることで私達は進化出来るということです。

039 A perfect diamond will reflect pure light from each facet that is cut upon it, and there can be no imperfections if the cosmic frequencies are to manifest in full.

039 完璧なダイヤモンドはカットされた一つ一つの面から純粋な光を反射するでしょうし、宇宙の諸振動が溢れるほどに現わされるなら、欠点などというものはあり得ない筈です。

【解説】

自己研鑽の積み重ねは私達一人一人を輝くダイヤモンドに仕上げていると本項は説いています。しかし、ここでより重要なことは、これら精進の積み重ねは生涯を越えて持ち越せるということかと思えます。人の一生において全てを完璧に仕上げることは難しいように思いますが、また途中段階で今生が終末を迎えたとしてもその継続に次の人生が用意されているように思うからです。

そういう意味では現在の与えられた環境において出来ることを、出来る努力を惜しまず日々実践することが現世を活用することであり、次につながる生き方であるように思われます。確か何処かの仏典にたとえ死に行く最後の時に悟ったとしてもそれは喜ばしいという主旨のお話が載っていたように思いますが、それはもちろん死の後に来る次なる人生、転生後人生を祝うことでもある訳です。

一人一人が研鑽を続け、自らの才能を発揮することは創造主の最も喜びとするところです。それは出来の悪い子供がようやく本来の道に目覚め、自ら努力する姿を見守る親に似ていると思うのです。一人一人がこのように神を喜ばせる為に日々を務めることによって私達の住む惑星は真のパラダイスに変貌を遂げるということです。

040 Our habits of thinking in relation to past and present teachings in all fields of life are the rough spots that must be removed. Some will be harder to remove than others, but determination of purpose will bring the desired results. Then will come the polishing or establishing of new habits which perhaps will not be easy or pleasant at first. But when all of this is accomplished the Glory of God will manifest through the form once known as man.

040 生命の全ての分野についての過去及び現代の教えに関連した私達の思考習慣は取り除かなければならない荒削りな汚点なのです。ある部分は他より取り除くのがより困難かも知れませんが、目標に向けた決意は望む結果をもたらすでしょう。その後、研摩即ち、最初は容易でも快適でもない新しい習慣が来ることになるのです。しかし、この全てが達成される時、神の栄光が人として知られる形有る者を通じて現われるでしょう。

【解説】

ここで著者は私達自身の問題として、これまでのおよそ生命に関する私達の思考習慣に大きな問題があり、それらをこすり取らなければならないと厳しい指摘をしています。

本文では具体的に何処の部分かについて指摘していませんが、おそらく私達の思考の習慣には多くの汚点があり、それらを取り除かなければならないということです。また、それらの汚点を削り取りさえすれば本来の神の輝きが発現するとも説かれています。

本章における説明の流れに沿えば、ダイヤモンドの原石にこびりついた不純物の塊は取り除かなければならないという訳です。董源、これらの作業には痛みが伴います。虫歯になってしまった部分を取り除いて更なる浸食を防ぐ為にも、蝕まれた部分は早めに取り除かれるべきであり、治療に伴う痛みは十分に価値があるというものでしょう。

また、注意深く本文を読めば、著者は思考の習慣を特に問題視していることが分かります。つまりは同じ現象を観ても、同じ書物を読んでも人それぞれ受ける印象は異なりますし、それはプラス側にもマイナス側にも大きなバラツキが生じるものです。このように各自の思考習慣は真実を受け入れる態勢にはないことも重要なポイントです。現象に向き合うについても予断に陥ることなく、ありのままを受け入れる広く寛容な心境が第一だということでしょう。

041 It has been said that a rolling stone gathers no moss. But moss used in reference to man's accumulation of things has deterred his growth in cosmic intelligence. But the rolling one becomes polished by striking problems or other rocks and thus the debris is removed.

041 転がる石には苔が付かないと言われています。しかし、人による物事の蓄積に関連して用いられる苔は人の宇宙的知性における成長を思いとどまらせて来ました。しかし、転がる石は諸問題や他の石とぶつかることによって、不要なものが取り除かれるのです。

【解説】

誰もがよく知るように河原の石は皆、丸く先が尖ったものはどれ一つありません。何千年、何万年の間、時に押し寄せる洪水や奔流によって上流の石はこすれあい今日の円満な姿になったのです。本項ではそれらの石が元来の山の頂から下って来る時の様子を表現し、私達の人生の歩みと比較しています。

つまり最初のデコボコで粗雑さが残る原石は、ころがる（即ち行動する）ことで様々な問題にぶち当たり、自身にも大きな痛手を負うことも多い訳ですが、それは石の持つ本来の美しさを表現する為に必要なことだと説いています。途中でころがること、行動することを放棄して周囲にコケがむすほど停滞してしまうと、二度ところがることを思い留まることにもなってしまい進化は停止します。

各自は自分に与えられた才能を開花、発展させる為には積極的に行動し、問題に当たることで自身の欠点を取り除かなければなりません。そうすれば遂には石本来の美しい結晶構造を表現することが出来、大河の河口近く穏やかな水の流れを支える玉石の一つとなることが出来るということです。

042 The real beauty of man's finer abilities has become covered with moss and lost to his vision. For all that he can see is the moss which is a parasite that lives on the body of another form. This is equivalent to human habits that cover the real man. While the rolling rock may come up against many problems and rocks twice its size and endure pain while bumping against them and losing parts of itself, it keeps on rolling. And finally it is polished to a high degree and shows the colors and minerals of which it is made. And in some rocks beautiful designs are formed when the minerals by the law of affinity adhere to one another.

042 人間の繊細な能力に関する真の美しさは苔に被われ、見失われています。人が見ることができるもの全てはその肉体あるいはその他の形有るものにとりついて生きている寄生生物である苔なのです。これは真実の人間を被う人間の習慣に相当しています。転がる岩は多くの問題やその大きさの2倍もある岩に出くわして、衝突して痛みを堪え、自らの一部を失いながら、それは転がり続けます。そして、最後にはそれは高度に磨き抜かれ、それを造り上げている様々な色彩や鉱物を示すようになるのです。そして岩の中には鉱物が親和の法則によって互にくっつきあうことにより美しい模様を形作られているのです。

【解説】

私達に本来備わっている美点というものが、各自の習慣その他長年の悪癖により、すっかり覆われて見えなくなっていると著者はその状況を警告しています。ある意味、聖書のエデンの園の話として記された遠い昔から、私達が日々塗り固めてしまった習慣的想念が本来の私達の姿を覆っているということです。

この講座のテーマは、これら長年月の内に自身を覆ってしまった「苔」を取り除き、本来の美しさを取り戻すことにあります。

しかし、どうすれば良いかについて、本項では問題解決に向けた各自の「行動・実践」だけが唯一の方法であると説いているように思われます。石が転がる（行動する）中で様々な問題と直面し、時に痛い体験をする中でも、転がり続けることで、やがては自身の欠点（デコボコ）が取れ、遂には本来の美しさが表に現れることを私達に説いています。

決め手は例え行動の結果、痛い目に遭ったとしても、それで行動を止めることなく、継続することで自分を磨くことが出来ることです。行動に伴うあらゆる経験は決して無駄になることはありません。これら体験を踏まえて次のステージに進めば良いのです。

043 It may take ages to do this, but through patience and determination a human can express this beauty in ever increasing fineness. And thus become The Christ in God's Kingdom.

043 このことを成すには年月を要するかも知れません。しかし、忍耐と決心を通じて、人間は永遠に高まる繊細さの中、この美しさを表現することができます。そして、このようにすれば、人間は神の王国におけるキリストになるのです。

【解説】

実はこれら日々の自分の欠点を削り取る作業は単に個人の”自分磨き”には終わらず、私達が想像する以上に大きな意味を持つものであることを本項は説いています。

仮に一人が自らの生き方をより清いものに転換できれば、その影響は他にも及びます。2000年余の昔、イエスはたった一人で人々に人の生き方を説き、自らの生涯を見せることで今日まで続く人々の信奉を得て来ました。仏陀も含め輝く存在は未永く人々を導く存在となるのです。

私達は最初は自分自身の問題解決の為の努力、修行に取り組まなければなりません、その先には人々を導く者となる筈だと本項は説いているのです。

044 So the first thing a student of life should do is to cultivate the ever present awareness of Cause and Effect. Where not only the mind will see the form as it has in the past, but also it will permit the consciousness to reveal the invisible supporter of the form. It will be like driving a car with full awareness of all of its working parts which produces the power, that the sight does not see.

044 ですから、生命の学習者は原因と結果に関する不断の気付きを養うことを最初にしなければなりません。心がこれまでそうであったように形を見る他に、意識が形有るものの目に見えない後ろだてを明かすことを容認させることです。それは自動車を視覚では見えないその動力をつくり出す作動部品の全てを完全に意識しながら運転することに似ています。

【解説】

第1課を振り返り、本項では改めて私達が物事（現象）に接する際に目に見えるもの、現れた「結果」と同時に、それを支える目に見えない「因」の両方を同時に観ることが必要だと説いています。隠れた様々な機構が車を動かすメカニズムになっていることを十分理解しながら車を運転するような状況を作り上げるといふ訳です。

それには私達は自然界やその他あらゆる要素を先ず学ばなければなりません。観察を通じて各々の内部がどのような仕組みになっているかを知る必要があります。

しかしそれだけでは不十分ということでしょう。奥から来る印象を感知する為には、私達はあらゆるものを受け入れる心境と覚悟を先ずは持つ必要があります。私達はこれまでの自分（自我）を頼りにすることなく、もたらされる印象に従って生きることを選択する必要があります。印象の贈り手（創造主）を信頼して、それら印象が流れる経路になることが必要です。

045 Just reading this lesson will be of very little value but daily and momentary practice will bring results. When you have questions pertaining to any of the lessons you should write them down. And if you do not find the answer in the forth coming lessons after receiving three, you may send them to me.

045 ただ、この教科を読むだけでは何らの価値にもなりません、日々のそして刻々の実践が結果をもたらすことでしょう。この教科のどの部分についてであれ、疑問がある時は、それらを書きとめて下さい。そしてもし、3課を受取った後もあなたが次ぎに来る教科までに回答を見つけられなければ、それらの疑問を私に送って戴いても構いません。

【解説】

私達が取り組もうとしているのは、単に知識として知ることではありません。いくら知識・情報として持ったとしても、自らの体験で裏打ちされない限り、永続する記憶にはなりませんし、自ら行動しない限り先には進めないからです。

第1課の最終項で著者は改めて”実践”の必要性を読者に説いています。私達が陥りやすい表層的な知識欲を戒め、自らの心を訓練することの必要性を諭しています。また、おそらく当時、毎月送られて来たと思われる本講座の各章のテキストに関し、疑問があったら3ヶ月待って、それでも疑問が解決しなければ著者宛に寄こしてもよいとしています。自ら問題点に1、2ヶ月向き合えば大抵の問題点は解消するとも説いているのです。

私達は一步一步、わずかな歩みであっても実践することが重要なポイントです。決して解決を急ぐべきではありません。進化の道ははるか彼方に続いており、一つ一つの実践結果を良く味わって確実なものとするの方がはるかに大事です。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON TWO

The Mind and Its Component

By GEORGE ADAMSKI

046 In lesson number one we left you with the idea of driving a car in full conscious awareness of all of its parts.

生命の科学-学習コース

第2課

心とその構成要素

ジョージアダムスキー 著

046 第1課ではすべての部品を完全に意識しながら自動車を運転しているという概念で話しを終えました。

【解説】

前項では理想的な姿として運転者からは目に見えない自動車内部の様々なメカニズム（機構）を完璧に意識しながら車を運転する状況が説かれていました。車を運転する上ではもちろん前方をよく見て自分の車の進む方向を確認したり、ハンドルやレバーを操作したりするという従来通りの操作は必要です。その上で車内部の様々な機構について熟知していることが理想と言えるでしょう。

この場合、車が私達の肉体であり、運転者は私達の心、そして肉体内部の精妙な機構が因なる意識という訳です。その3者が一体となって運用されて初めて本来の目的が円滑に達成されることとなります。

私達は不安定な状況の運転者が何ら車内部の状況に無頓着のまま乱暴な運転を続けている問題に先ずは気付く必要があります。本来はもっと長期間活躍できる筈の高級車が私達には与えられていますし、それをいたわりながら未永くその恩恵を享受することが求められているのです。

047 Now we proceed to analyze the mind, which is made up of the senses. This sense mind is actually in the process of creation through its constant learning. It is like a sensitive plate which receives impressions from its observations of effects. And most of the time its conclusions are not in accord with natural law.

047 これからは、感覚から成り立っている心なるものを分析することにしましょう。この感覚の心は実際にはその絶えざる学習を通じて創造される過程にあります。それは結果の観察から印象を受ける感受性のある板のようなものです。そしてほとんどの場合、その出す結論は自然法則と調和していません。

【解説】

この生命の科学講座が、これまでの宗教や哲学と大きく異なる点が本項に示されているように私達の心や意識、更には細胞、原子分子の本質的意義と役割、活動の実態等について具体的に解説している所にあります。平易な表現がされている為、何気なく読み進んでしまいが、その説いていることは具体的であり、かつ深遠です。他惑星の文明から地球にもたらされたテキストとされる由縁も納得できるというものです。

私達の当面の課題は自らの心をよく観察し、実態を把握することですが、その心についてのイメージが本項の主題です。心が印象を得る際の状況を感光板のようなものと表現されています。デジカメの画像素子のように一瞬の光のパルスに対してもカメラは鮮明な画像を着像出来るように私達の心は想念・印象を感知するという訳です。

問題はその画像素子は成長の過程にあり、感度も得られた印象の把握や解釈についても、拙い状況であり、学習を進めて行く状況にあるということです。つまりは日々、私達は自分の心の動きを見守って、それが正しい学習の途についていることを確認する必要があるのです。

ご連絡 [2016-11-03]

いつもご覧いただきありがとうございます。
都合により、明日の更新はお休みします。
次回更新は来週月曜日になる見込みです。

11月3日
竹島正

048 In order to better understand the action of the mind, let us consider it in four parts, like four different people.

048 心の活動をより良く理解する為には、それを4つのパーツ、丁度、4名の異なる人のように考えることにしましょう。

【解説】

本項に関連して思うことは現在のパソコンの最新ソフトWindows10の起動画面は、このことを象徴しているかのイメージを持っていることです。4つの窓から部屋に光が差し込んでいますが、それはそれぞれ4つの感覚器官を通じて心にもたらされる外界の情報であり、部屋の中にはそれに対応する感光板があるという設定です。

この基本ソフトの開発者が本講座を知っているとは思われませんが、Windows（窓）という基本ソフトによって外界からの光（即ち情報）がもたらされるというイメージを表したかったものと思われま

す。私達はこの暗い部屋、即ち自らの心をより明瞭に、即ち明るくして部屋をもっと開かれたものにすると同時に、この限定された窓（既存の感覚器官）に限ることなく、より広く外界との繋がりを持つる想念・印象を自由に出入りさせることで実現することが必要です。

イエスの時代から暗闇は私達の心を象徴するものでしたが、その中を照らす灯火（ともしび）や松明（たいまつ）に象徴される信仰は私達を導くものとされて来ました。私達がこれから取り組むべきは、この4つの窓（感覚）を本来の正常な状態に整えることであると本項は説いています。

049 The most predominant individual is sight. The next predominant one is hearing. Then taste and smell. You may say here, what about touch? The touch could be called a nerve impulse reaction which is not a sense, but it gives a sense reaction to the mind. As each sense acts independent of the others, oftentimes one will disagree with the others. i.e. The sight may perceive a beautiful flower but the aroma is very unpleasant to the sense of smell and it rejects it. So the unity of mind is already divided. The same is true with the other senses, for one may like something and another dislike it. And while this is taking place, as it has for ages, pain and an unpleasant existence is the result.

049 その内、最も支配的な者は視覚です。次ぎに支配的なのは聴覚です。次に味覚と嗅覚になります。あなたはここで、触覚についてはどうしたのかと言うかも知れません。触覚は感覚ではなく、一つの神経パルスの反応と呼ばれるようなものですが、心には感覚のような反応を起こさせるのです。各々の感覚が他と独立して行動する為に、時として一つの感覚が他と意見を相違することが起ります。即ち、視覚は美しい花を認識するでしょうが、その臭いが嗅覚にとっては大変不快であれば、嗅覚はそれを拒絶します。ですから、心の一体性は既に分断されているのです。他の感覚についても同様です。何故なら、ある感覚が何かを好ましく思っても、もう一方がそれを嫌うかも知れないからです。そしてこのことが起っている間、その結果として何世代にわたって、苦痛と不快が存在して来たのです。

【解説】

既に多くの読者がご存知の通り、アダムスキー氏は一貫して4つの感覚についての問題を説いています。視覚、聴覚、味覚、嗅覚がそれであり、触覚は感覚的な反応は示すがそれは好き嫌いの意見を持つような感覚ではないとしています。

私達は未だこの事柄の意義について十分に理解するものではありませんが、本文で言う視覚から嗅覚までの4感覚が独自に判断を行っていることは良く分かります。

最も良く分かる事例は食べ物の例でしょう。口に含んで味に違和感があるものについては味覚が警告を發し、いち早く外に出すことを求めますし、近づけた際に異様な臭気を感じたものは食べ物として拒否する等はいずれも感覚の働きです。これらは実は私達自身を守る為に各々の感覚がチェック機能を果たしているということでもあります。同様な意味で視覚は外観の状況を知らせますし、聴覚も危険を察知して私達に警告する役割を担っています。

実は本来はこのように私達自身を守る為、必要な情報を得る為の感覚であった訳ですが、長年私達自身がそれらに依存して来たこと、全ての情報はこれら感覚の判断結果のみを頼りにして来た為、4感覚は次第に増長し私達自身を支配するようになったものと思われまます。

しかし、これらの感覚からの情報は所詮、表層的なものであり、また各感覚の判断もまちまちで相互で異なることも多いのです。その結果、それらに依存している私達は時に混乱することになると本項は説いています。

050 Jesus said a double minded man is unsuitable in all of his ways. And it is double minded when one sense likes something and the other does not. So Jesus urged man to be single minded in all of his ways. In other words unite all four senses for the purpose of service and not judgment. And this can only be done by conscious guidance. For in consciousness there are no likes or dislikes, it understands the purpose for all manifestation but the mind does not. All manifestations are conceived in consciousness and born into the world of effects. Just as the mind was conceived in consciousness and born as an effect of that conception. This is why it is so easy for the mind to guide itself by effects. And not having the knowledge and the reason for all of the effects it passes judgment in either likes or dislikes.

050 イエスは二心ある者は全ての道において不向きだと言いました。そしてひとつの感覚がある物を好み、他の感覚が好まない時、二心となるのです。それゆえ、イエスは人に全ての道において心一つになるように求めたのです。言い換えれば、裁きではなく、奉仕の目的の為に4つの感覚を統合せよということです。そしてこれは意識の導きによってのみ為され得るのです。何故なら、意識の中では好きとか嫌いとか無く、全ての創造物（注：manifestation）にとっての目的を理解していますが、心はそうではないからです。全ての創造物は意識の中では生まれ、結果の世界に生まれて来ます。丁度、心が意識の中では生まれ、その結果として生まれるのと同様です。これが心が自分を結果によって導くことをそのように容易になる理由です。そして心は結果物の全てについての知識や理由を知らないが故に、好き嫌いの判定を下しているのです。

【解説】

私達自身もこれまでの経験から、やはり邪念を排除して誠実に事に当たる時に問題の解決策に辿りつくことを知っています。また、仕事の出来る者は集中して問題解決に当たりますし、これらは本項で説く内容とも一致しています。そこには心の迷いがありません。

良い例が運動競技の例であり、記録を出すほどの競技者は皆、迷いの無い心境が不可欠であることをよく分かっているのではないかと思います。まずは自分自身を一つにしなければなりません。その方向は私達の存在意義に沿ったものであるべきです。

私達自身が何処から来たのかについては本文では平易に記されています。実際、私達はもっと真剣にこのことについて考え直さなければいけないと思っています。そもそも自分が何を託されてこの世に生まれ来たのか、その創造主の御心を拝察することは、生命を与えられた者として最低限の義務であると思うからです。本文では"全ての創造物は意識の中では生まれ、結果の世界に生まれて来ます"とあります。私達は結果の世界で迷う以前に、本来の意識の世界についてもっと関心を持ち、知ろうとすることが必要です。

051 In time it must retract these opinions if it is to have a pleasant existence. All of the troubles in the world have been so created. And when they become too great, people decide to place them in The Hands of God, which is the All Inclusive Consciousness that created all things with a purpose. Each person will hope that this Great Intelligence will correct the situation. But when the correction is shown in many cases, it is not accepted for it is not understood by the mind which made the mistake in the first place.

051 もし快適な存在を得るのであれば、いずれはこれらの意見を引っ込めなければなりません。世の中のトラブルの全てはそのようにして造り上げられて来ました。そして、それらトラブルが大きくなりすぎると、人々はそれらを万物をひとつの目的で創造した全てを包括する神の御手に委ねることを決意します。各個人はこの偉大な知性が状況を修正してくれることを望むのです。しかし、多くの場合、修正法が示されても、その修正案は受け入れられません。最初に過ちを犯した心によって理解されないからです。

【解説】

私達は駄々っ子のようなものだということでしょう。各々自分勝手な文句だけを言って過ごしている訳ですが、問題にぶつかると自らは何の解決策も持たない為、ただ騒ぎ回って最後には問題そのものを放棄するか、“神様”にお願いするしか方法が無い訳です。

本来問題解決は事態が肥大化しない内に対処すべきであり、私達はその問題の発生段階、つまりは“原因段階”、即ち“想念段階”から是正を行うことが重要ではないかと考えます。既に学んで来たように、全ては想念・印象のレベルから物事は現実化に進行する訳で、その源となる想念・印象のレベルにおいて常に正常な状況を維持すること、より高次・深遠なるレベルに自らの心を保つことが重要です。

また一方では自らの心の過ちについては、いち早く改めることが必要となります。各々の場合には本文に記載があるように、意識による是正のアドバイスが与えられますので、その印象を快く受け入れれば、事態は必ず良好な方向に進むこととなります。

052 And oftimes the mind takes the stand of least resistance, a state of inertia, and does nothing. It tries to escape its responsibility instead of having the determination to learn by correction. It has been said that God helps those who help themselves. So the individual must do something in order to correct the undesired results and have the rewards hoped for.

052 そして、しばしば心は最小の抵抗、慣性状態をとり、何もしなくなります。心は修正によって学ぼうと決心する代わりにその責任を逃れようとします。しかし、神は自ら助ける者を助けると言われてきました。ですから、個人は不本意な結末を修正し、望んでいた報酬を得る為には何かを成さねばなりません。

【解説】

本項は私達自身（エゴ）の特徴をよく表しています。多くの場合、私達は大きくなった問題に対して何ら直面し解決に努力することなく、放置した上に責任逃れに明け暮れるからです。

一方でよく言われることは、問題を抱え込んだ場合、無理せず十分眠って一時期問題から離れよと説かれる場合があります。それは自我（エゴ）がその問題解決に耐えられない場合、神経症に陥ることを避ける為でもあるのです。本項で言うことと全く逆の対応ではありますが、それほどに私達の自我（エゴ）の取扱いは容易ではないという訳です。

しかし、放置してもいつかはその問題に直面せざるを得ませんので、私達は少しずつでも解決に向けた行動をとる必要があります。また行動を始める中で、解決策が授けられるようになるとも説かれています。前課で学んだように石が転がり問題nぶつかる中で磨かれるように、実践行動こそがゴールに繋がるということです。

053 The pride of the sense mind may find the process painful, but the sense man must learn by experience. And to do this he must school the senses to respect one another. For as it is now they have no respect and as a result a person has no respect for his being. Thereby he has no respect for others, except those who please one or another sense.

053 感覚心のプライドはその過程に苦痛を見い出すかも知れませんが、感覚人は経験によって学ばなければなりません。そしてこれを成すには、各感覚を互いに尊敬しあうよう訓練しなければなりません。何故なら、現在そうであるように、それらには尊敬感が無く、その結果、人は自分の存在に尊敬感を持っていないからです。それ故に、人はいずれかの感覚を喜ばせるもの以外に他に対して尊敬感が無いのです。

【解説】

私達が抱える多くの問題を突き詰めて行くとプライド（面子）に行き着きます。その要因は本項で説かれているように、そもそも私達の感覚自体が各々他を尊重しないことにあるという訳です。自分の判断（裁き）は当然誰もが認めるべきだという主張です。

本来は、よく"傾聴"という表現がされるように先ずは他の者の説明を聞く姿勢が重要です。聞く耳を持たない態度は思考の柔軟性に欠け、問題解決を妨げます。その姿勢を先ずは自らの心の中から実践せよと著者は説いているのです。自らの四感覚を相互に信頼させ、一体となって機能するようにすることから始めるといことです。

しかし生じてしまった問題を解決するには、その真の原因に直面する勇氣、たとえ自我（エゴ）がそれまでのプライドを失うことを恐れて尻込みしても、是正に向けた行動を執らない限り前進はありません。"聞くは一時の恥"と言われる通りです。基本は心身をいつでも柔軟に保ち、いつでも必要な是正、修正を行える心構えが必要だということでしょう。

054 Unless the sense mind disciplines itself and allows the consciousness to govern it, it will continue as it has in the past.

054 感覚心が自身を鍛練し、意識に心の支配を任せるようにしない限り、その状態は過去と同様、引続くことでしょう。

【解説】

心を柔軟でオープンな状況に保って、因から時に授けられる印象をしっかり受け止め活用することが大切な所です。その前提となるのは私達自身が自分を向上させようと思うことであり、至らない自分自身を何とかしたいと思うことです。

これまでの体験からも先ずは自らの気持ちを鎮めて、問題の回答を宇宙的拡がりを持つ空間、因の領域に求める心境、落ち着いた中でも答えを求める謙虚さが重要だと考えます。いわばそのような心境はアンテナを因の世界にまで拡張するようなものです。

外から見ると本人はガムシャラに努力せず、他力本願のように映るかも知れませんが、心主導でなく、目に見えず耳に聞こえない意識の指導に従うことの方が遥かに重要であり、ゴールに近いのです。私達は所詮、生涯を通じて自分自身に向き合い、自分を改良して生きて行かなければなりません。その過程で自身の実状を直視し、少しずつでも改善する日々の精進が説かれています。

055 If a family is to be happy, each individual of the family must respect each other member as he would like to be respected. And each must have trust and faith in the parents that are the guiding hands. And so it is with the senses - they are the family that make up the household of a man. And they must be taught respect, trust and faith in each other. And above all, for the parent which in the consciousness. It will not be easy to rehabilitate the senses due to the many habits that they have cultivated. But this must be done if we are to have a heavenly type of life. There is no other way except through learning and understanding the reason for life.

055 もし家庭が幸せになろうとするならば、その家族の各員が自分がそうされたいように互いを尊敬しなければなりません。そして各々が導き手である両親に信頼と確信を抱かなければなりません。そしてそれは諸感覚についても言えることです。それらは人間という家庭を作り上げている家族なのです。そしてそれらは互いに尊重し、信用し、信頼することを教えられねばなりません。その中でも両親である意識に対しては特にです。それらが養った多くの習慣の為、諸感覚を矯正するのは容易ではないでしょう。しかし、私達が天国のような生活を得ようとするなら、この作業は成されなければなりません。生命の存在理由を学び、理解することを通じて以外に他の道は無いのです。

【解説】

心を鎮め、気持ちを整えるとはどのようなことかについて本項は説いています。

私達の心は過去の体験でしか判断出来ませんが、因からの印象は絶えず私達に新しい概念のヒントを与え続け、私達を導いて呉れています。いわばその贈り主であり、私達を子供のように見守って呉れる存在への信頼なくしては私達は前進出来ません。そこにFaith（信仰、信頼）が重要となる訳です。

もちろん私達の心は暴走を戒めなければならぬのですが、単に問題があるとするのではなく、互いに尊重する姿勢こそが大事だと説かれています。感覚こそ元来、私達に授けられた道具や窓であり、それらを本来の姿に戻すだけで良い訳です。

これらの事柄は毎日、自分で一つ一つ確かめること、一日の心構えを決めて実践し、その得た結果から宇宙普遍の原理・法則として納得・確認することが重要です。

056 DISCIPLINE OF THE SENSES

How is one to discipline the senses? The sense of sight which guides itself by effects, as it is an effect of consciousness, seldom takes the time to study the cause back of what it sees. And by now if you have learned the first lesson well, there should be a desire to know the purpose for which each form has been created. And this can be revealed to the mind when an effect is viewed with the second sight, so to speak, or with the sight of consciousness. And as stated before single sighted.

056 諸感覚の鍛錬

諸感覚を鍛錬することとはどのようなことを言うのでしょうか？結果によって自身を導く視覚は、意識の結果の一つであるため、めったに自分が見るものの背後の因をじっくり学ぼうとはしません。そしてこれまで、もしあなたが第1課をよく学んでいたら、個々の形有るものが創造された目的を知りたいという願いが湧き起るはずで、そして、これが結果がいわゆる第二の視覚、言い換えれば意識の視覚で見られる時、心に明らかにされるのです。こうしてこれまで述べたように一つの視覚になるのです。

【解説】

大事なものは日常の私達の感覚が如何に目に見えない因の存在に関心を持ち、因を知ろうとするかにあります。あらゆる事例の真の解決策は従来の私達自身の心の思考などでは得られる筈もありません。新しい発見は常にその因から来る無言の印象から与えられる訳で、それら想念・印象に気付くようにならないければ、問題解決は難しいと言えるのです。

この場合、重要と思われる点は、身の回りのあらゆる存在物に対して、その由来や背景、創造された目的等、今日までの長い年月の中での歩みやそのものの果たして来た機能を知ろうとする気持ちであり、感覚を鍛錬する必要があると本項は説いています。

先ずは物事への関心からということでしょう。観察が大事という真の意味でもあります。仏典では"観世音"とか"観音"という言葉がありますが、世の中を見る時、想念・印象の波である目には見えない"音"を"観る"とは言い得た表現ではないでしょうか。

057 A child in a classroom is a good example. A good student follows the instructions of the teacher without having any opinions of his own during the time that the lessons are being given. After this he tests the information given to see if it is correct and where it fits into his own life. While another student will speculate on what a teacher is going to say, thereby he is ahead of what is being said. And he misses important points and has no clear knowledge of the subject. The first student profits from the instructions. The second one does not. In the case of the attentive student he humbled his mind to listen, but the second one became aggressive and lost the valuable points.

057 教室にいる子供が良い例です。良い生徒は教科が教えられている間は如何なる自分の意見を持つことなく、教師の教えに従います。その後、生徒はその与えられた情報が正しいか、そして自分の生活の何処に当てはまるかを知る為、確かめます。一方、もう一人の生徒は先生が何を話そうとしているかについて思いを巡らし、話されていることの先に行っています。彼は重要な要点を見逃し、本題に関する明瞭な知識を得ることがありません。最初の生徒は教えから利益を得ましたが、次ぎの生徒は得られません。傾聴した生徒の場合は、自分の心を謙虚にして聞こうとしたのですが、次ぎの生徒は攻撃的になり、価値ある要点を失ったのです。

【解説】

この目に見えない私達の指導者に対して、どのように対処したらよいか、本項は学校の授業を例に私達に説いています。

何かを教えてもらう場合、教師を信頼することが第一であり、先ずは教師の伝えることを受け入れる姿勢が重要です。次々に教えられる事柄に対して、疑念を持つ態度は心自体がその疑念に対する思考が回転し、手一杯になってしまう為、それ以降の教師の話が耳に入りません。その結果、教師が伝えたかった主旨がその生徒には十分伝わらないことになります。

私達はこれから探究しようとする"因"に対しては常に生徒であることを忘れてなりません。教師である"因"から想念・印象によって教えが授けられる際には、私達は謹んでその印象を拝受し、自らの生活全般に活用すべきな訳です。

これは実は容易なことではなく、自分自身を因に対して常に謙虚に保ち、信頼する態度が必要です。教室において生徒が教師を信頼することに似ています。また教師の方も理解している生徒か否かということとは良く分かるものです。"創造主から愛される"という表現がありますが、それも本事例における教室で素直に学習に取り組む生徒を指すものと思われます。

058 The mind, in order to learn from the consciousness must humble itself to get each point in a clear manner. For this instruction comes only by impressions. Whether observing an object or listening to sounds, impressions will be given independent of the mind. Consciousness is not governed by habits like the mind is. i.e. When I made the first contact with a space person my mind wanted to know many things, especially things that conformed with my habitual life. I had to control my mind and remain silent so that I could receive all that he wished to impress upon my mind. Had I speculated on what was to be given, I would have missed the significant of the meeting.

058 心は意識から学ぶには各々の要点を明瞭に理解する為、自らを謙虚にしなければなりません。何故なら、この教えは印象によってのみもたらされるからです。ある物体を観察する際や音に耳を傾ける際に、印象は心とは無関係にやって来ます。意識は心のように習慣に支配されておられません。ですから、私が最初に宇宙人と会った時、私の心は多くの事柄、特に私の生活習慣に合った事柄を知りたがっておりました。私は自分の心を抑制し、相手が私の心に印象付けたいと思っていたこと全てを受け入れる為に沈黙を続けたのです。もし私に何を与えられるのか考え巡らせていたら、私はその会見の重要ポイントを見失っていたことでしょう。

【解説】

重要なことは常に受容的な心境を持ち、授けられる印象に対して鋭敏さを保つことだと思います。結局答えはいつもインスピレーション即ち、想念・印象という瞬時のパルスで贈られて来ますので、それを正確に受信する為には心自体を空 (Empty) にして置く必要があるのです。まさに"心貧しい状態"という訳です。

その為には沈黙が必要で、心の中を自らの想念が満たしているようでは他の印象が入り込む余地はないのです。また、とかく私達は興味本位の関心から様々な情報を求めがちですが、私達にとって必要なことは、先ずは"因"との関係における基本的な理解であり、"因"と"結果"との関連性を理解すること、納得できる体験を得ることです。その為には枝葉末節的な知識への要求は脇に置いて、基本的な事柄について理解を深めることを優先させなければなりません。

059 In later contacts when I was given the privilege of asking questions, I did. But in each case I had to wait for that privilege to not interfere with what was being given. Many things did not fit into my way of life at the time but I was patient and trusted the ones who were giving me the knowledge. At first it was like a puzzle but at the end when all parts were put together the picture was clear. Had I been impatient and interrupted the individuals who were giving me the information I would have lost the precious jewels and had nothing but confusion. As I became as a child to the instructor, I was given many privileges and I am now living in the Cosmic Kingdom instead of the world that I did before.

059 その後の会見で私が質問の特権を与えられた時、私は質問しました。しかし、どの場合でも私は与えられている事柄を邪魔しないようその特権を待たなくてはなりません。多くのことが当時の私の生活の仕方に合いませんでしたが、私は忍耐強くまた、その知識を授けてくれる人々を信頼しました。最初、それはパズルのようでしたが、ついに全ての部品が繋ぎあわされた時、その絵は明確なものでした。もし、私がせっかちで、その情報を授けてくれる個人を遮ってしまったら、私は貴重な宝石を失い、また混乱以外何物も得なかったことでしょう。私は教師に対して子供のようになることで、私は多くの恩典を与えられ、今や私はそれまでの世界に代わって宇宙的王国に住んでいます。

【解説】

本項では「学ぶ」際のとるべき基本的な心構えについて、著者自身の体験という形をとって私達に解説しています。

実際、このような事例のように私達自身が他惑星の宇宙船に招かれることはあまり考えにくいのですが、この著者自身の体験を語る中で、著者は私達が"因"に対して指導を仰ぐ際の心構えを説いているように思います。また、人生における師となる者とその弟子との関係も同様です。

私達は程度の差はあっても、他者に教える、或いは他者から学ぶ機会が多いものです。そのいずれの立場に立つ場合でも、師弟の関係はかくあるべきという訳です。従って特に私達は師となる際には、その教えを受け取る人達を心底受け止め心血を注いで育むことが必要ですし、その弟子にあっては師を信頼して伝えられる内容の真価を味わい、その意義を深めるなど教えに共鳴することを第一としなければなりません。

060 The consciousness is a cosmic teacher and unless the student does as I have done in this case, he shall have nothing but confusion in the end.

060 意識こそは宇宙的教師であり、学習者は私がこの事例で行ったようにしない限り、最終的に混乱以外の何物も得ることはないでしょう。

【解説】

私達が目指す、アダムスキー氏が説く最大のテーマである”意識”に対する基本的な姿勢は、前項まで述べられてきた”教師”に対する”生徒”の姿勢にあると本項は明示しています。

つまりは”意識”から与えられる内容（印象）を素直に受け入れることから始まる訳で、一つ一つを味わい、自分の体験・記憶とした上で、改めてそれらの知見の関連性を考察するということでしょう。もちろん所定の位置にはめ込むことが出来れば、最後には全体像が見渡せるジグソーパズルのようなものということでしょう。

重要なのはたとえ断片的、即ち単発的であっても”意識”とつながったわずかな経路からやって来た印象も大切に受け止め、そこから何を学び、身に付けるかにあるのです。

061 Many people have asked me why I did not ask this or that, trifling things in most cases, but had I done so I would not have the knowledge that I have today. Jesus said, lest you become as a little child you cannot enter the Kingdom of Heaven. Which is the kingdom of cause. And the Bible states that there is nothing hidden that shall not be revealed in time.

061 多くの人々が私にあれこれといった多くの場合、つまらぬことを尋ねなかったのかと聞いてきますが、もし私がそうしていたら、私が今日得ている知識を得ることはなかったでしょう。イエスは言っています、幼子のようにならない限り、天の王国に入ることは出来ない。それは因の王国でもありません。そして聖書はやがて明らかにならないものは何も無いと述べています。

【解説】

そもそも何を学び探究すべきかということでしょう。仏教ではひたすら"悟り"という心境を求めることから始めるように思います。"悟り"とは自らの心に残響として残る雑念や執着を取り除いた先にある理想的な心の状態を指すものと思いますが、その心境、即ち本講座の言葉で言えば、実際に"因"の存在を身近に感じ、無音の中から想念・印象が次々に湧き出して本人を導くという"意識と一体化する"ことは相通じるものがあると思っています。

しかし、そのような心境は心自体が発する意見や興味本位を追求したのでは到達できません。私達は心を空（クウ、カラ、empty）にして、与えられる印象を素直に受容する姿勢を第一にしなければなりません。

私達は"因"というこれまで学んで来なかった新分野に対しては、先ず基本的な心構えや注意点を十分身に付けた上で取り組むべきで、当初は成果が挙がらず年月が掛かるように思うことがあっても、軌道に乗れば、その後はみるみる成果が挙がると説かれています。

ご連絡 [2016-11-25]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。
都合により、次回更新は11月29日（火）になる見込みです。

竹島 正

062 Patience and faith are the foundation of such a reward. For those who become impatient become shipwreck.
062 忍耐と信頼はこのような報いの基礎です。短気な者は挫折します。

【解説】

宇宙の源泉から来る電波を求めてひたすらアンテナを向ける電波天文学者のように、私達は宇宙の”因”から来る印象にじっと耳を傾ける態度が必要です。私達自身は感度も性能も劣る機器な訳で、時々に来る大きな出力の信号しか受信出来ないのですが、それでも時には波長が合うこともあり、心の中に入れることが出来るものと思われます。

しかし、その為にはじっと贈り主を信頼して待つことが必要で、次々にアンテナを動かしては、本来の観測は出来ないということでしょう。私達には忍耐が必要なのです。

これまでの学習経験から、印象は精妙ですが、印象ほど確実なものはないように思えて来ました。解決策を的確に示唆して呉れる存在はそのまま宇宙普遍の生命活動へと繋がっているようです。少しずつ毎日の精進と体験の積み重ねがやがて揺るぎない悟りを構築する土台の石になるように思われます。

063 The Bible also states that man has many talents. So we will observe the talents with which the Infinite man is endowed. And the important part which each one plays in the cosmic plan where men are equal.

063 聖書はまた、人は多くの才能を持っているとも言っています。ですから私達は無限なる人が授かっている才能を観察することとしましょう。そして人々が等しく存在する宇宙の計画の中で1人1人が担う重要な役割についてもです。

【解説】

誰でも他人より優れているものをいくつも持っているということでしょう。今生涯でそれらを開花・発展させ他の人達に貢献できれば、その人生は充実し、生きがいのあるものとなる筈です。自分を生かす道を得ることは素晴らしいことであり、創造主の意図に叶っていることとなります。

一人一人が自分に授けられた才能を先ずは知ることが大切なのですが、同時に私達はそもそも才能とは何かについて考える必要があります。本文では人々は平等に才能が与えられていると記されています。つまりは創造に寄与すべき才能には様々な側面があるのです。

とかく私達は芸術家に対しては素晴らしいと賞賛する一方、日常の仕事、あるいは下働きの仕事には価値をあまり見出しません。しかし、畑で作物を作る者が居なければ毎日の食事はおぼつかなくなりますし、安全衛生的な水を供給し、排水を処理する仕事が滞れば私達に深刻な影響を与えます。

実は、本項で著者は私達それぞれには役目があり、才能を生かす仕事があると言っているように思います。誰にも平等に様々な才能が与えられ、実はそれらが生かされて社会が成立しているという訳です。

064 The construction of a large building can be used as an example of what we mean, especially when it is to be a new type of architecture. The completed building is pictured on the screen of a man's mind by the consciousness. Once the mind sees the picture clearly a blue print of the impressions is drawn in order to retain the design of the structure. As in the drawing of the house plans, this is the first effect of the cause. Then the blue print is placed in talented responsible hands to bring about the manifestation. This individual in turn procures artisans and materials for the construction.

064 大きな建物の建設はこの意味するところの一例として用いることができます。新しいタイプの建築の場合は特にそうです。完成した建物は意識によってある人物の心のスクリーンに描かれます。その人物の心がそのイメージ（姿）を明確に見るとその建物のデザインを保持する為、すぐに印象に基づく青図が引かれます。家の建築計画の作図の時と同様、これが原因の最初の結果です。次に青図はそれを現出させる任務を担う人の手に委ねられます。この人物は次にその建設に必要な職人や材料を手配するので

【解説】

私達が印象による意識の指導に従う時、私達の心の中にその印象が持つ具体的なイメージを見ることが出来るという訳でしょう。このインスピレーションこそが私達が望むものである訳です。

一方、それら印象を具体化、現実化させなければ単なるアイデアで終わってしまいます。そこで私達はこれを実現させる為に多くの人達の力を借りなければなりません。そこには人間各自に授けられた才能が生かされる必要があるのです。

一人の建築家が感受した印象もその建築家一人ではその建物を実現させることは出来ません。多くの才能を結集して初めて意識が与えたアイデアを実現出来る訳で、そこには多くの者が各々の才能を発揮し協力する必要があるのです。

065 The first workers that he engages are what could be called of the lowest talents. For they will be the ones responsible for the ditch in which the foundation of the building will be laid. And without which the building could not be built.

065 最初に雇う労働者は最も低い才能の者達と呼ばれるかも知れません。何故なら彼等は建物の基礎を置く為の溝を受け持つ人々であるからです。しかし、それ無しでは建物を建てることは出来ません。

【解説】

本項で描かれる状況は誰もが見たことがあることでしょう。とかくこのような仕事は低いレベルと見做されがちですが、基礎工事に雇われる者に対して芸術家同様の価値と才能を見出す視点は金星における価値観でもあるのです。

私達は従来の私達の視点を大幅に見直す必要があります。その建物が建設されるのに本当に必要なものは何かを考える時、あらゆる要素が各々均等にその建物を支えていることが分かります。丁度、人間の身体がどの部位も無くてはならない役割を持っているように、私達一人一人は広大な宇宙の中で自ずと占める位置を持っているのです。

こうした自分の役割に気付く時、また他人の役割を認める時、私達は自らも含めて宇宙の一員としての自覚が生まれるものと思われれます。また各自の役割を果たす時、以前、著者が”喜んで踏み石(stepping stone)になる”と言及したように、後から来る者の理解促進に貢献できることも喜びとなるのです。

066 From here on many talents will be employed to complete the structure. The final touch of historic recordings and beauty will be the murals painted upon the inner walls of the entrance. And for this the finest artist will be engaged. But even he with all of his talent cannot produce what is asked of him if the pigments of his paint had not been processed from the pick and shovel man through the various refining steps necessary. And this is true with the brushes and other equipment which he must use. And without these his talent would be of no value.

066 ここからは、多くの才能を持った者が建物を完成させる為に雇われることになります。その歴史的記念と美の最終段階の仕上は入口の内壁上に描かれる壁画となるでしょう。そしてその為に最高級の画家が雇われることでしょう。しかし、彼の才能全てをもってしても、彼の使用する顔料がツルハシとシャベル人夫で取り出されてから必要な精製工程を経て処理されていなければ、依頼されたものを造り出すことは出来ないでしょう。そしてそれは彼が用いる刷毛やその他の道具についても同じく当てはまりません。

【解説】

誰もが分かるように、壁画は建築物の最後の仕上げとして描かれます。この時に描かれる作品はその後長い間人々から称賛される作品となることでしょうが、その絵を支えるのは画家の力量だけではありません。絵の具から筆に至る一つ一つの道具や材料までそれらを支えるために払われた多くの職人の努力があることを知覚せよと説いています。

画家はそれらの職人達の成果品を用いて作品を描いている訳で、いわば他人の努力の成果を活用している訳です。この場合、注目したいのは職人氣質です。自分の納得したものしか世に出さないことであり、多くの場合、成果品に名前を入れることもありません。優れた仏像も世界各地に残っており、人々の信仰を集めていますが、今だかつて私自身、それら古来の仏像に製作者の名前が彫られている例を見たことはありません。

よく現地で誰が建立したかを伺うのですが、まず名前が出ることはありません。仏師は自分の納得する像が出来、僧侶による開眼供養が終われば、それは”仏様”として存続し、自分の作品でなくなるからかも知れません。

肉体に刺青をして創った人の名前を記入するようなものだからです。もちろん私達の創造主もそのようなことはする筈もなく、作品を構成する部位の一つ一つに”創造主”の名前を彫り付けることもない訳です。これらはすべて、その後はその作品に全てが含まれていると認識することに由来しているものと思われれます。作品自身が自ずとその背景を表現するという具合です。

067 Here you can see that the lowest talent is equal to the highest. From this you should know what the word equality really means. And this is far from the average definition of the word.

067 ここにあなたは最低位の才能が最高位の才能と等しいことがお分かりになるでしょう。ここからあなたは世界の平等というものが実際、どのようなことを意味するかを知らねばなりません。また、これは世の中の平均的定義とはほど遠いものです。

【解説】

一人一人、また草木の1本1本が無くてはならない存在であること、その理解が「平等」という真の意味であることを本項は説いています。私達の経験からもそれらの一つが失われた際に物事がうまく進まないことを知って初めてそれが果たして来た重要な役割に気付くことも多いのです。健康問題についても、体内の諸器官の内、一つでも支障があれば、全身に影響が及びます。また、道具の一つでも欠ければ、良い作品を造ることが出来ない彫刻家の例もあることでしょう。

こうした各行動を支えている様々な目に見えにくい要素が機能して初めて成果を出せるのであり、世の中のものは相互に関連しているという訳です。

私達はこれまでこの世の中を自分と比較して劣っているもの、優れているものに区別して来ましたが、実際にはこれらの価値はこのような視野では把握できません。究極には各々が重要な価値を持っていることとなりますが、それを納得するためには、自ら良く観察して各々の相互関係を学ぶことが必要となります。

068 Another example for the sake of clarity. When King Solomon's Temple was finished he expressed a wish to have the man who had done the most in bringing about its completion, honored in a ceremony and seated in a chair next to his own on the Throne. All of the men of different talents presented themselves in clothing appropriate for the occasion, each hoping for the honor. But a blacksmith entered dressed in his working clothes. A burned apron and dirty hands from the forge, and seated himself in the chair. This caused a stir and complaint among the other men.

068 明確にする為にもう一つ例を挙げましょう。ソロモン王の寺院が完成した時、ソロモン王はその完成に最も貢献した者を式典で表彰し自らの王座の隣に座らせたいという希望を明らかにしました。様々な才能の持ち主が、各々その名誉を期待して、その場面に相応しい身なりで出席しました。しかし、ひとりの鍛冶屋が作業衣のまま入って来ました。仕事場から焼けたエプロンと汚れた両手のまま、その椅子に着席したのです。これは他の者たちの間に騒ぎと不平をもたらしました。

【解説】

現在私達が学んでいるこの講座の内容は、宇宙の法則性、基本原理のようなものであり、その教えるところは旧約聖書の時代と変わるものではないという訳です。ソロモン王の時代どのような出来事があったかは知りませんが、栄華を極めた寺院の披露の場にあった逸話が本項で紹介されているのです。

私達は職業の価値をその者が取り扱う金銭的な額の大小や芸術性の有無により差別して来ましたが、前項まで学んで来たように、各々の果たす役割の大きさに差異はありません。それらのいずれも一つ欠けては、全体の機能が発揮されないからです。

同様に私達一人一人も社会の中で各々役割があり、一人一人の役目を十分に果たすことが求められますし、その価値を等しく尊重されるべきものです。

069 The King turned to the blacksmith and asked him by what right he seated himself there. With this the blacksmith arose and questioned the other workmen by saying, "who fashioned your trowel and your compass" ? They replied "you did". Then he said, "could you have built this Temple without these ?" Their answer was "no." Then he said, "the honor belongs to me."

069 ソロモン王はその鍛冶屋に何の権利によってそこに座っているのかと訪ねました。すると、鍛冶屋は立ち上がり、他の者たちにこう訪ねたのです、「誰があなた方のコテやコンパスをこしらえたのか?」。彼らは答えた。「お前だ」。すると彼は言った。「あなた方はこれら無しにこの寺院を建てることができただろうか?」。彼らは答えた。「いいえ」。すると彼は言った。「それでは、その栄誉は私のものだ」。

【解説】

私達は物事全般の価値を現在、金額で表現しています。そのものがいくらで購入出来るのかを基準に価格を決めているのです。

先日、ある会合の折、近くで切手収集家の大きな集まりがありました。オークション等が開催されていたようです。本来は郵便料金を支払った証拠としての意味ですが、収集家の間ではわずかな紙切れに大きな価値が設定されているのです。このような仕組みが地球では一般化している訳です。

しかし、ここで注目すべきは実際、この逸話のように王の前で鍛冶屋がそのように発言したとするなら、ソロモン王の時代は各自自由な意見を王の前で言える大変、フラットな社会、上下関係に緩やかで開放的な社会であったことが分かります。著者はこの事例をこの講座の中で紹介することの背景には、私達が本来、このような上下関係でなく、自由に意見が言い合える平等な社会を目指すべきことを示唆しているように思えるのです。

070 This equality is lived on Venus and Saturn, for each talent is respected as a Divine gift from the Creator unto creation. And it manifests in ever field of endeavor - sports, art, etc. There is not the feeling of competition that we of earth express. But rather a feeling or desire for a finer quality of expression of individual talents towards the fulfillment of the Divine purpose. It is only the ego mind that desires honors for its accomplishments.

070 この平等さは金星と土星では実行されています。あらゆる才能が創造物に対する創造主からの神聖なる贈り物として尊敬されている為です。そしてそれはスポーツ、芸術等々、努力におけるあらゆる分野に現わされています。地球の我々のような競争意識はありません。むしろ、聖なる目的の達成に向って個個人の才能に関してより精緻な表現を感じたり、望んだりするのです。その達成に対して名誉を求めるのはエゴの心だけです。

【解説】

長い間、地球では競争相手を下す為の競技が行われ、勝者が栄誉や富を得るようなゲームが行われて来ました。競い合うスポーツは今日ではそれを職業や興業とするビジネスも盛んになっています。

しかし本項では、これらとは全く異なる価値観を持つ社会、他の惑星の平等感について説かれています。人生を意義あるものとして生き抜く為には、現在自分に与えられた才能を伸ばし、社会に貢献することこそ優先すべきで、名誉や名声は後からついて来るものです。

実はこの才能を開花させる上でも、無言なる知性、意識の存在は欠かすことが出来ないように思います。所詮、人間（エゴ）の考えること、予測することにはあまりに限界があります。しかし一度私達が印象に従って行動する時、私達のエゴは解放され、いままで経験したことのない状況の中で、本来の才能を発揮することが出来ます。各自の才能発揮についても、無心無我の状況を作り出すところが重要かと考えます。

071 Jesus brought this truth to the people when he said that the man who desired honors from earthly men, had none coming in heaven. He also said not to worry about tomorrow, for the sparrow neither sows nor reaps, yet the Father takes care of each of them. But this calls for definite faith in the consciousness. For he also said, "are you not more than the raiment?" This is the law by which all Venusians live.

071 イエスは地球の人達からの名誉を望んだ者で天国に来る者はないと人々に述べてこの真実を当時の人々に伝えました。彼はまた、明日を思い煩うなスズメは蒔くことも刈ることもしないが父はそれら個々の者を養ってくださっているのだから、とも言いました。しかしこれには意識に対する絶対的な信頼が要請されます。何故なら彼はまた、「あなたは衣服より以上のものではないか」とも言いました。これは全ての金星人が生きている法則です。

【解説】

名誉を求めず、明日をわずらわず、ひたすら宇宙を生かす創造主を信じる心境こそ重要です。このことは単に覚者の言葉というだけでなく、天地創造の時代から未来永劫続く宇宙的な真理・法則であり、この法則性を如何に認識するかがポイントになります。

上記の言葉は単なるキレイゴトではなく、実際に現実世界を動かす法則を理解した結果、導かれた要点・エッセンスなのです。

一見して優しいように見えますが、その示す世界は深遠です。同時に人間を除く多くの生きもの達はこの心境に生きているということでしょう。各々の生涯は必ずしも全て幸福という訳にも行きませんが、それでも創造主の導きに絶大なる信頼を寄せて、「その日暮らし」、即ち毎日この時を大切に生きることが全ての創造物が実践しており、自然界はその上に成り立っているのです。

072 As you can now see, everyone in his daily life is important in one form or another. The thing that we must do is to learn the importance of each one, as the advanced space people do on their planets. In this way each individual effort is honored as he serves others. Directly or indirectly.

072 今やお分かりのように、あらゆる人はその日常生活の中で何らかの形において重要なのです。進化した宇宙人が彼らの惑星で行っているように、私達が行わなければならないことは各々の重要性を学ぶことです。このようにして、個々人の努力はその者が直接的あるいは間接的に他に奉仕することに対して榮譽を受けるのです。

【解説】

結局、人生を作り上げているのは各自の毎日、毎時間、毎秒の過ごし方、行動の仕方にあるのです。もちろん将来の目標は進路を目指す方向を定めるもので重要なのですが、それに増して大切なのは一時、一時の印象に対しどう行動し対応してその指導に従うかにあります。

しかし同時にまた、私達は自分達が置かれている環境、愛すべき自然環境や動植物達の生きる姿もよく観察し、その中にある美しさに感動することが大切です。自らの心をそれら模範となる対象物の生きる姿から学ぶことは大いなる喜びであるのです。

季節は今、秋を迎え木々はその葉の色調を日々精妙に変化させています。朝日に照る紅葉から深緑のグラデーションの立ち姿等、思わずその街路樹の美しい佇まいに見ほれてしまいます。

私達の周囲にはこのように無尽蔵の教師、教材がある訳で、その中で毎日を如何に充実させて過ごすかが求められているのです。

073 You may say here, what about the people among us who are criminals and those who harm others? These actions could be considered mistakes on the part of the actor since he has been taught to guide himself by effects. And most everyone has been guided by effects, so we have all made mistakes. But if we are wise and desire understanding we shall then learn the reason for our mistakes and make the corrections. And we can be thankful for the experience that taught us a lesson. For without this we would not know the better way.

073 ここで、あなたは私達の中であって犯罪者であったり、他人に危害を与える者についてはどうかと言うかも知れません。これらの行為は結果によってのみ自身を導くように教えられて来たその行為者の側の過ちと見なせるでしょう。そしてほとんどあらゆる人が結果によって導かれており、私達は皆、過ちを犯します。しかしもし、私達が賢明であり理解を望むなら、私達は私達の過ちの理由を学び、修正しなければなりません。そうすれば私達はレッスンを私達に教えてくれたその体験に対して感謝することにも成り得るのです。何故なら、このこと無しにはより良い方法を知ることは無かったからです。

【解説】

本項で著者は触れていませんが、実は私達自身、容易に犯罪者になり得ることに注意しなければなりません。心が思い通りに行かない現実になり、恨んで周囲に暴力をはたらくとか、喧嘩の相手を傷つけ殺人を犯す等の事柄は、私達の心が暴走しやすい状況を反映しています。

それ程に私達の心は不安定な状況にある訳です。このことを良く戒めているのが仏教であるように思います。自分の心を見詰めること、監視することは本講座も指摘するところです。

本項においては、それらの原因を私達の心が「結果」の世界のみに軸足を置いていることから来ると説明しています。結果の世界は移ろい易く不安定です。そこに軸足を置いているのは、永続する安定感は得られません。私達は自分の基盤を、因に置き、因からの印象の発現の場所として自身を活躍させることです。自らが因からの印象の発現の経路となること自体に喜びがあり、その成果については関心を持たないことです。このようなことも本項で著者が示唆する内容かと思われれます。

074 History does not necessarily have to be repeated, for it is man's action that make history. We will cover this more thoroughly in the coming lessons but at the moment we will continue with the mind.

074 歴史は必ずしも繰り返される必要はありません。何故なら歴史を作るのは人間の行動であるからです。つぎの課ではより完全に取扱いますが、ここでは心について続けることとしましょう。

【解説】

逆説的に言えば、この地球では歴史は繰り返されているということでしょう。著者は「ムー」や「アトレンティス」時代から、今日まで様々な文明が隆盛し、また滅んで行ったことに言及しているのです。この目下の文明も一大転換期にある今日、私達はその原因が何処にあるのかについて真剣に考える必要があります。

おそらく、その唯一の解決策は私達自身の日常生活のあり方に係っている筈です。各自が毎日どのような想念の下に生活しているかは、その者の環境をもたらしめているでしょうし、他者への影響はやがて社会全般にも広がる影響力を持っていると思うからです。

先日、NHKのテレビで85歳の女性絵本作家、甲斐信枝さんの日常が紹介されていました。大変若々しいその画家は畑や草むらの雑草達と話をしながら、細密画を描きます。毎日植物と会話しながら優れた絵本を多数出版されています。

彼女の生き方から私達は改めて、植物との印象による意思の交流の実践を学ぶことが出来ますし、日本でもルーサー・バーバンクのような植物と会話出来る人物がいることにうれしくなりました。

そのように生きるかはその人本人次第ですが、その手本となる生き方は多くの人々に本来の生き方を目覚めさせるものであり、ひいては人類を新たなステージに導く程の力を発揮します。

075 We have been taught that the mind is the man as well as the knower. But as the mind is an effect, this statement is far from the truth. Yet within the form of man lives the knower. If the mind would humble itself and become the observer of the form through which it works, it would soon realize how little it does know. i.e. There is no question in our minds that we have brilliant people in the world, for the new inventions in the recent years prove this. In the field of electronics the things that are done could be called miracles. Things like correcting instruments from earth that are many miles out in space, and talking back and forth with a man in a capsule orbiting the earth. These accomplishments only show the potentials of the human mind when it listens to the guidance of consciousness. Yet with all of the knowledge at present there is not one man in the world that can create a human form and have it function as we do. But within the form there is that knowledge which manifests every day in the birth of children. Not to mention the thousands of other form creations.

075 私達はこれまで心こそが人間であり知る者であると教えられて来ました。しかし、心は一つの結果であり、この声明は真実とはかけ離れています。しかし、人体の内側には知る者が生きています。もし心が自らを謙虚にし、その知る者が人体を通じて働く様子の観察者になるならば、心はすぐに心がいかに少ししか分かっていないを自覚することでしょう。つまりこういうことです。世の中には素晴らしい人々が私達の中にいることについては疑問はありません。近年の新たな発明がそれを物語っています。エレクトロニクス分野では為されている物事は奇跡と呼ばれても良いでしょう。宇宙空間に何マイルも離れている装置を地上から修正するようなことや、地球を周回するカプセル内の人間と相互に通信するようなことがそれです。これらの成就した出来事だけでも人間の心が意識の指導に耳を傾けた時に発揮する人間の心の可能性を示しています。しかし、今日の知識の全てをもってしても、世界中に一人として人体を造り出し、それを私達同様に機能させることが出来る人はおりません。しかし、その人体の内部には毎日、赤子の誕生として現出する創造的知識が備わっているのです。その他、何千もの他の創造物についても言うまでもありません。

【解説】

もちろん何事を為すにも強い意志を持ち、時々に出逢う問題を解決して行くことは大事です。しかしそれ以上に大切なのは、私達は創造主から創造された存在であり、一つの結果物であるということです。即ち私達自身の自我（心）は全てを知る者ではなく、そもそもの私達自身の発生の経過を見れば、実に目にも見えない卵子の受精からこの世に生じたものである訳です。

これら創造の過程は精妙なもので、一つの細胞から何兆個もの複雑な機能を持つ生命体が構成されて来ました。その知性は何処にあるのかが、私達が追及しなければならない課題であり、これら知性は科学技術の進化とは比べようもない精妙さを持っています。

しかし、本項で著者は同時にこれら創造の知性は私達自身の中に、私達の自我（心）とは別個に存在すると説いています。その創造の知性とどのように親しくなり、日々生きる上での指針を得るかが本講座の主目的ということになります。

既に本講座が執筆されて以来、私達はコンピュータや電子機器その他の分野で、驚くべき進歩を遂げており、居ながらにして遠隔地の状況を見たり、世界各地に蓄積された知識を調べたりすることができるようになる等、技術の上では大きな進歩を遂げています。今後は私達自身についての理解が求められる時代になっているのです。

076 So the mind does not have to go far to learn. For it can learn from the form through which it works if it humbles itself to the knowledge within the form. We can now see where the saying "man know thyself and you shall know all things" originated, for all creation is governed by this law. And there is no greater truth than this that has ever been spoken.

076 ですから、心は学ぶ為に遠くに行く必要はないのです。何故なら、形あるものの内部にある知識に心自らが謙虚になりさえすれば、心は形あるものの働きを通じて形あるものから学ぶことが出来るからです。私達は今、「汝自身を知れ、そうすれば全てが分かるであろう」という言葉が何処に起原を持つかを知ることができます。何故なら、全ての創造がこの法則に支配されているからです。そしてこれまで語られた中でこれほどに偉大な真実はありません。

【解説】

これまで古代ギリシャの格言程度の認識でしかありませんでしたが、この「汝自身を知れ」という言葉の本質は本項で説かれているように大変深遠な内容を持っています。調べて見るとその出典はギリシャ最古の神殿入口に掲げられた3つの格言の一つのことです。（ちなみにその内もう一つは「中庸」を説くものであり、かねがね著者アダムスキー氏が指導して来た内容と一致しています）

本項では私達自身の学習態度として、自らを謙虚にして物事の観察を行うことで創造物の内側に息づく創造的知性を学ぶことの重要性を述べているのです。

そして更に言えば、私達自身を教材として、日々の生活の中で自身の心の作用や体内の諸活動、そして私達内部で働く生命力について実感し、意識して観察することで、その作用が現実世界に如何に影響を及ぼしているかを学ぶことです。私達自身の中に全ての要素があり、それらは休むことなく活動している訳で、そのような状況に気付けば、学習する上で他に必要なものは何もないことが分かります。

077 THE CREATION OF A HUMAN FORM

A pregnant mother knows that a conception has taken place within her being, but her mind does not know what is to be done in the creation of the form. Many times she wonders what is going on. There is not a mind in the world that knows exactly the type of intelligence that is responsible for the growth. It is true that pictures have been taken from conception to birth, but not of the intelligence that brings about the form from moment to moment. This intelligence is superior to the minds of men and that of the mother, for they know not what goes on. This proves that the mind is subject unto a greater intelligence than its own. Yet the mind has the potential of attaining equality if it allows itself to be guided by the higher intelligence.

077 人体の創造

妊娠した母親は自分自身の中で妊娠が起ったことは分かりますが、彼女の心は形あるものの創造において何を為すべきかは知りません。何度も彼女は何が起っているのか不思議に思います。しかし、胎児の成長に責任をもっている知性のタイプを正確に知っている心はこの世に一つもありません。妊娠から誕生までの写真が撮られていることは真実ですが、一瞬一瞬人体を形作っている知性について写真に撮られることはありません。この知性は人間の心や母親の心より優れており、それらは何が起っているかを知っています。このことから、心はそのもの自体より大きな知性に支配されていることを示しています。しかしまた、心は自らをそのより高い知性によって導かれることを許すならば、それと同様な能力を持つ可能性を有しています。

【解説】

本項では私達自身、自分について如何に鈍感、無知であるかを指摘しています。最も大切にされるべき赤ちゃんの誕生に至る過程すら母親が自らの体内で起こっている創造作用についてほとんど分かっていないという訳です。

実は私達各人は本項と同様な状況の下でこの世界に生まれ出て来ました。無とも言える大きさの受精卵から赤ん坊の大きさになる間は、まさに”創造の日々”ですが、それを指導し、人体を形成させている知性が如何に知覚されていないかが問われているという訳です。私達地球人はこのことを理解しようともしていませんが、他惑星人は理解が進んでいるということでしょう。

地球上の科学レベルでは当初、受精卵にある遺伝物質が各々に細胞に複製伝達されることぐらひは解明できていますが、まだ各部位を形成する発端等々、具体的なところは理解されているとは思われません。

しかし、私達はいわゆる科学的手法による解明努力の他に、もっと自らの心自体を謙虚に訓練して目に見えない知性との交流について励むべきではないかと思うのです。全ての知性が実は私達自身の中に備わっていることを如何に自覚し、自らの知覚力をより深遠なる印象の世界に深化させることが、日々の精進・訓練によって出来ると本項は私達に示唆しています。

078 And what is this higher intelligence? Again we have to refer to the consciousness for a definition. For at times it impresses the mother's mind to seek a certain type of food that she does not ordinarily care for, because this chemical is needed in constructing the infant form. And this intelligence causes the movement within the mother's body. No voice of instruction is heard yet the mind of the mother knows that some change has taken place. This is done by impressions for consciousness does not use sound as we know it. It is this consciousness that is the creator or builder of the form as near as we can tell. And this is all done independent of the mind. Even here the mind may interfere by opposing the impressions that come, like the food. Either by not seeking it or not being able to get it, which could bring about an imperfect form.

078 次に、このより高い知性とは何でしょうか？ここで再び定義の為に意識について引用しなければなりません。何故なら時々、胎児の建設に化学物質が必要となる為、それは母親の心に彼女が普段は好まないある種の食べ物を求めさせるからです。そしてこの知性は母親の体内に運動を生じさせます。声に出しての指導は聞こえませんが、母親の心は何らかの変化が起ったことを知ります。意識は私達の知るような音を用いませので、これは印象によって行われます。私達がこの形あるものの創造主あるいは建造者と呼ぶのに近いのはこの意識なのです。しかもこれは心とは全て独立して行われています。ここにおいてもなお、心は食べ物の場合のようにやって来る印象に反対することによって妨害するかも知れません。それを求めることをしないか、摂ることが出来ないことによって、不完全な人体をもたらすことになるかも知れないのです。

【解説】

ここでは具体的な意識による指導事例について解説されています。最も重要な人体の創造過程では実際、最低限の心の役割として、必要な元素を摂取するよう母親は意識から指導を受け、促されるとしています。

言葉ではなく、母親の内部から何らかの衝動が湧き起り、普段は好まない種類の食品を欲するという訳です。そこには意識による印象が母親の心に送られ、それに呼応して母親が必要な種類の食品を摂取するのです。その印象に従うことで人体の創造が無事進行することになります。

このように私達地球人のレベルは自らの体内で起こっている日々の生命活動について何一つ自覚もなく、無関心となっています。しかし、この事例から分かるように、私達の肉体は驚くべき知性を有しており、私達はこれら精密な機構の上に乗って毎日を送っているということです。丁度、高級乗用車に乗り込む場合のように、車の内部の仕組みについては何一つ知らないまま、車をスムーズに運転出来るという訳です。

079 The mother has been used as an example, but people daily ignore impressions that are given to the mind by the consciousness and cause many imperfect acts that could have been avoided. All because the mind has been exalted through the ages and has given no thought to its parent - the consciousness. It supports itself by past acts and repeats history instead of going forward. There is some improvement historically, but actions are still founded on the past, like the destruction of men in war, instead of evolving above the past. The mind has an opportunity to bring newness each day by following the guidance of consciousness.

079 母親の件は一つの例として用いられましたが、人々は日常的に意識から与えられた印象を無視しており、避けることができた多くの不完全な行為を起しています。全ては心が長い時代を通じて誉められ、その両親である意識には何らの配慮も与えて来なかったことに原因があります。心は過去の行動によって自身の拠り所とし、前進する代わりに歴史を繰り返しています。いくつかの進歩も歴史的にはありますが、戦争における人間の破壊のように過去を超えて進化することの代わりに、行為は依然として過去に基礎を置いています。しかし、心は意識の指導に従うことによって、日々新鮮さをもたらす可能性を有しています。

【解説】

前項では赤ん坊が生まれるまでの母体で起こる様々な変化において、意識による指導に母親が呼応して必要な食物を摂取する事例が取り上げられましたが、実はそれは一例であり、意識はその他あらゆる機会を通じて、私達に語りかけて呉れているということです。

日常如何なる時も常に意識からの印象は惜しみなく降り注がれており、私達は自らの心を穏やかなものに鎮めて、それら印象の経路として自らを解放すれば、途端に様々な新しい概念、新しい知見に気付かされるという訳です。

このことに気付けば、もはや私達は自らの体験のみに頼ることなく、物事を正しく、また深く洞察することが出来るものと思われれます。他惑星人が千年もの寿命を持ち、若々しく活発である背景には、この意識からの印象を受け入れ、常に新鮮さと活力とを受けているからと思われれます。宇宙における創造的生命力は常に印象・インスピレーションとして私達に授けられています。

ご連絡 [2016-12-22]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。
都合により、明日の更新はお休みします。
次回の更新は12月26日になる見込みです。

竹島 正

080 The mind acts as it does mostly through fear caused by a lack of knowledge and faith. For if it changes, it knows not what the next moment might be like. Fear is the master of the mind and governs nearly every human being on earth, in one form or another. Very few people realize that fear is a dominant factor for we have been children of its household for centuries and now feel that it is a natural way of life. We do not even know that we fear, yet fear is nothing but a lack of understanding of the laws that govern life. And these laws cannot be learned by studying effects, especially of human experiences. For most of these are the result of fear dictation.

080 心というものはそのほとんどが、知識や信頼の不足が原因で生じる恐怖を通じて行動しています。何故なら、もし変化があった場合、心は次の瞬間にどうなるのか知らないからです。恐怖は心の主人であり、地球上のほとんどの人間をどのような形態にしる支配しています。私達は何世紀の間、そのような（恐怖に支配された）家庭にいる子供であった為、私達の中で恐怖が支配的な要素であるということを知っている人々は極くわずかであり、今やそれが自然の生き方だと思えるようになってきました。私達は私達自身が恐怖していることすら知らないのですが、恐怖は生命を支配する諸法則の理解が欠けていることでしかありません。そしてこれらの諸法則は結果、とりわけ人間の体験を学ぶことによってでは学習することができません。何故なら、これらのほとんどが恐怖による指図の結果だからです。

【解説】

私達がこれまでとは全く違った生き方を本当は求められていると本項は指摘しています。歴史は振興と破壊を繰り返しており、個人の体験も役に立つようなものではないと諭しているのです。

その理由は、私達は生命本来の道を長らく歩んで来なかったためであり、その根源には恐怖による支配を拭えないからだと言っています。突き詰めれば不安定な結果物を抛り所としていては、次に訪れる事象には対処できず、結局は未来を恐れることとなります。その人々の不安感をビジネスにするのが保険業界ということでしょう。また、私達自身、そのような自分に気付かず過ごしている訳です。

そのような視点を一新して、私達は先ずは宇宙を貫く法則とでも呼べる創造的生命力を知覚し、因からの印象に対して自らの心を解放し、その印象を積極的に受け入れることです。野のヨリ、空の鳥達が何らの心配を見せることなく、自由に日々を謳歌している姿は私達の手本でもあります。

081 F.D.R. expressed it well when he said, "there is nothing to fear but fear itself." For fear promotes fear. Our late President Kennedy made the statement, "Ask not what the Nation can do for you but what you can do for the Nation." I would say it this way ; it is not what God will do for you but what will you do for God? And God is the consciousness of our being. Or we could put it this way, it is not what the consciousness does for the mind, but what the mind can do for the consciousness.

081 F.D.R. (フランクリン・D・ルーズベルト、Franklin Delano Roosevelt)は「恐怖以外に恐怖すべきものは無い」と言ってそれを上手に表現しました。恐怖は恐怖を助長するからです。故ケネディ大統領はこう声明しました。「国家があなたに何を為せるかと問うのではなく、あなたが国家に何を為せるかを問え。」私ならこう言うでしょう。「神があなたに何をしてくれるのではなく、あなたが神に何をなすかである」。そして、神とは私達自身の意識なのです。そこでこういうようにも言えるでしょう。「意識が心に何をなすかではなく、心が意識に何をなすことができるかである」。

【解説】

以前何処かのレクチャーテープの中で著者アダムスキー氏が本項と同じ話をするのを聞いたことがあります。おそらく、氏のお気に入りの表現であったものと思われる。

話の流れとしては、ルーズベルトによる恐怖への対峙の決心を示す言葉の持つ意義を示した後、ケネディによる国民各自の積極的な行動を促す言葉、更にはその行動を私達自らの内側にある「意識」に向ける必要があると諭しています。

これまで私達は未来が不安だとして、その不安感自体に支配されて来ました。しかし、本来的には不安定なのは、仏教でも言うように結果物、即ち一見堅固に見える物質世界だということでしょう。仏陀は不変なのは「法」（法則）であると説いていますが、本講座ではそれを宇宙を貫く「意識」、宇宙的生命力、印象の流れであると表現しています。それらは物質ではないので、何らの妨げもなく宇宙を貫き、それに対してこれまで私達は何も自覚しないまま、ただその恩恵を受けて来たのです。「意識」に対しては本来、もっと貢献できる存在になればと著者は説いています。

082 All of our life we have been doing things the hard way. Either in one extreme or another. Now the time has come to settle down into the middle, which is the conscious eternal highway. And stop taking the mental by-ways, for the center balance will make life much easier.

082 私達はこれまで生活のすべてを困難なやり方で物事を行って来ました。ある極端から他の極端のいずれかであったからです。しかし今や、意識的な永遠の大道である中庸に落ち着く時期を迎えています。そして心の横道を取るのを止めるべきです。中央のバランス状態は生活をはるかに容易にすることになるからです。

【解説】

最近思うことは、このアダムスキー氏の伝えた"宇宙哲学"というものは、地球古来から伝わる数多くの宗教や哲学の本質と何ら違わないということです。一口に真理は一つと言っても、私達自身、古来から同じ内容を繰り返し教えられてきたことに気付かなければならないと思うのです。真理、法則である以上、地球人が体得したこともあるでしょうし、また他惑星文明から地球に伝達されたことも多いものと思われます。

本項で言ういわゆる"中庸"もその一つで、仏典にも出て来ますし、孔子の説くところも有名です。

本項で著者は、私達が有頂天であったかと思うと、何かの原因でその後すぐに落胆し落ち込んでしまうような生活を送っていると指摘しています。それは私達が理解力の劣る心の反応をそのまま行動の指針にしていることによると説いています。本来、意識の示唆する方向に進めば何らの問題もなく、事態が進捗して安寧な生活になるということです。その為にも私達は自らの心を監視し、常にバランスのとれた状態に保ち、いつでも意識からの印象による指導に即応できる態勢である必要があります。

ご連絡 [2016-12-28]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

今年の更新は本日が最終日です。

明年は1月5日からの再開の予定です。

皆さま、良いお年をお迎え下さい。

2016年12月28日

竹島 正

083 On this highway we shall find that all creation expresses a Divine intelligence. For consciousness is the life of even a grain of sand. It lives independent of forms, yet it activates all matter. It speaks the silent language which we call impressions, yet moves with a force far greater than any sound. And you and I are the highest manifestations of it, for without consciousness the mind would be nothing.

083 この大道では、私達はすべての創造物がある一つの神聖な知性を表わしていることに気付かねばなりません。何故なら意識は砂粒一つ生命でもあるのです。意識は形とは独立し、しかも全ての物質を動かしています。意識は私達が印象と呼ぶ無言の言語で話していますが、どんな音よりもはるかに大きな力で揺り動かしています。そしてあなたも私もその意識の最高位の創造物と言えます。何故なら意識無くしては、心は何らのものでもないのです。

【解説】

私達が毎日の生活の中で、自分が正しい道を歩んでいるかどうかの判断は、本項の内容に合致している精神生活を送っているかにあります。つまりは、身の回りの事物に対し、各々が神聖な知性を現していると見える心境であるか否かになります。

真に宇宙的な生活を送っているとしたら、毎日どのような小さな存在物に対しても親しみを感じ、それらが実に英知を持って行動していることに気付く筈なのです。

私達は毎日をこのように美しく活発な世界に生きることによって、私達に出入りする想念・印象は本来のキレイな状態に浄化されて行くように思われます。そして万物の観察者である私達人間はやがて本来の最高位の創造物の位につくことが出来るのです。

084 The mind can be developed to see the pictures in a room that it takes a T.V. to produce. And the sounds and music that are in the air that take an instrument to amplify, and so on with the other senses of the mind, but if consciousness withdraws from the body we consider the form dead. Yet one can lose the functioning of the mind and all of the senses become very dull, but so long as consciousness is there he is a living being. This proves that the consciousness can live independent of the mind which the mind cannot do. Considering the two phases of man we find that they are comparable to two people living in the same house, one depending upon the other. One mental, the other conscious. The conscious part is of the Cosmos, the mental of the world. The worldly must learn to blend with the cosmic before the union with its creator can be realized.

084 心は部屋の中でテレビが造り出すような映像を見るほどに発達させることができます。また、気中にある増幅する装置を必要とする音声や音楽も見聞きできるまでになりますし、このことは心の中の他の感覚についても同様です。しかし、意識が肉体から離れれば、私達はその形有るものを死んだと考えます。しかし、心の機能を失い、全ての感覚が鈍くなったとしても、意識がそこに存在する限り、その者は生きた存在であり続けますが、心はそうは出来ません。このことは意識は心とは独立して存在できることを証明していますが、一方心は意識と離れて存在できません。この人間の2つの側面を考える時、私達はそれらは同じ家に住む2人の人間、一方が他に依存している場合のように例えることができます。一つは心、もう一つは意識です。意識の部分は宇宙的であり、心は世間的です。創造主との結合を実現するまでには、この世間的な部分は宇宙的部分と混じりあうことを学ばねばなりません。

【解説】

本項の解釈はやや迷うところがあります。著者が私達がテレビやラジオを作り出して空間を流れる映像や音声をキャッチしていること自体について心の発達と表現しているのか、或いは私達の心自体、そのような直接空間を流れる映像や音声を感知できるまでになっているのか、2つの解釈が可能となるからです。

もちろん、テレビやラジオを作り上げたのは人間ですし、私達の心の成果であることは正しいと思うのです。

しかし、本項の重要なところは、実は私達の内側には2つの存在があり、心の他に全てを知る意識があることを強調している点です。この内、本当の意味で私達を支えているのは意識の方で、意識が離れば私達は生き続けることは出来ません。

それほど重要な知性が実は自分（心）と同じ部屋の中に暮らしていると考えたと、実に頼もしくなります。常に師匠といっしょに生活出来ることはこの上ない喜びである訳です。

085 To make the blend it is necessary for an individual to cultivate the habit of having the mind think of the cause behind the action, what ever it may be. And analyze each action to see if it was habitual from the past experiences and purely mental and self centered, or of a cosmic nature, which one must strive to attain.

085 この融合を造り出すには各人は自らの心に行動の背後にある原因についてそれが何であろうと常に考えさせる習慣を養うことが必要になります。そして個々の行動についてそれが過去の体験から来る習慣的なもので単に心によるもの、自己中心のものか、あるいは宇宙的な性質のもの、人が達成しようと励まねばならないものかどうを見分けるよう分析することです。

【解説】

結局は日々の私達の想念や行動をそれらが因に根差したものか、或いは私達自身のエゴに由来したものであるかを分析し、チェックすることが必要になるということになります。自分が正しい方向に進んでいるのか否かを知ることは船が本来目指すべき目的地に向かって進んでいるか、方位磁石を確認する船長と同じです。

問題は私達が目指すべき"因"・意識との交流に当たって、それらは常に印象により語りかけて来る訳で、私達の感性が鈍ければ感知のしようがない訳です。この為、私達はあらゆる機会を通じて、自ら因の存在に気付くことが唯一の解決策になるという点にあります。

その為にはどんな些細な事例でも、因を知覚した体験を大切に、その状態を良く覚えて置き、次に備えることが重要となります。

086 Regardless of what the expression may be, one should make the mind recognize and respect the consciousness as the life of the expression. Consciousness is not a respecter of forms or persons, it lends itself to all in all acts. For itself knows neither good nor bad, but its guidance is always for what we call the good.

086 その表現物が何であれ、人は自らの心に意識をその表現物の生命体として認識し尊敬させなければなりません。意識は形有るものや人物の尊敬者ではなく、それはありとあらゆる行動に自らを貸し与えています。何故なら、意識自身は善も悪も知ることはなく、それでいてその導きはいつも私達が善と呼ぶものに向っているのです。

【解説】

全てのものの中に"因"即ち"意識"の存在を見ることだと著者は私達に要点を説いています。またその因は物体の中にその存在を支える為に自身を貸し与えていると教えています。生きものはもちろん、あらゆる物質はこの"因"の働きによって存在しているということでしょう。

この壮大なる事実の前に、人間が下す"善悪"は意味を成しませんし、あらゆる行為はこの"因"の支持なしには成立出来ないのです。全ての行為は"因"を動員して行われるからです。

しかし人間の誤った行為に対してはどのような解釈をすれば良いのでしょうか。磔（はりつけ）に処せられる際に、「父よ、彼らをおゆるしてください。自分が何をしているのか知らないのです」とイエスが語ったように、私達が自らに与えられた力を無知であるが故にとんでもない方向に使っているという訳です。

まだ続く他人を殺傷する兵器の開発や領土の拡大、他人の信仰を排除する思想等々、私達の精神レベルはまだ遠くイエスの時代から何らの進歩を遂げていないように思われます。

087 Our misinterpretation of its impressions gives us bad results. For many times the mind does not want to be dictated to and acts on its own. The mind in some cases is like a child who is told that if he touches a hot stove he will be burned. But he does not want to be told, so he burns his hand and it is painful. But he did have the experience even though this is the hard way of learning.

087 そのもたらされる印象への私達の過った解釈は私達に悪い結果をもたらします。何故なら多くの場合、心は指図されることを嫌いますし、自らの判断で行動してしまいます。ある場合には心は熱いストーブに触ると火傷すると教えられている子供のようなものです。しかし、彼は教えられることを嫌って、手に火傷をして痛い思いをするのです。しかし、これが学ぶ上で辛い道であったとしても彼は体験を得た訳です。

【解説】

ここで重要なことは、私達自身、毎日どのような心境で過ごすかということでしょう。因からの印象は常に全ての生きものに分け隔てなく次なる行動の指針を与えて呉れています。その印象に対し、私達の心は尊大となり、自らその意識による指導に従うよりは自らの意見によって行動することの方が多いためです。

しかしその結果は手痛い経験を残す方が多いということも私達が良く知るところです。私達が進化する為には、いち早くこの印象の恵みに対し、心を素直に解放し、その恵みを享受することではないでしょうか。

その為には心を鎮めて、やって来る印象を素直に受け入れ、自分の仕事や生活の進め方に生かすことだと考えます。経験上からもこれらの印象は私達個々人が求めるあらゆる側面に対し、支援して呉れる存在であるように思っています。そしてそれに必要な唯一の心境は”素直”ということに尽きるのではないのでしょうか。イエスが言った”幼子のように”という言葉は、それを端的に表現しているのです。

088 THE WILL OF GOD is a term often used. If you cannot learn by His guidance which is the consciousness, then He lets you learn by your own mental will which brings painful results. So God is not responsible for your experience.

088 神の御意志という言葉がしばしば用いられます。もし、あなたが意識である神の導きによって学ぶことができないなら、神はあなたをあなた自身の心の意志によって学ばせますが、その心の意志は貴方に苦痛をもたらします。ですから、神にはあなたの体験への責任は無いのです。

【解説】

私達は何としてもこの"意識"なる言葉に託された概念なり、実感を急ぎ持つ必要があります。著者が繰り返し述べているように、この無言の生命の躍動感、知恵、衝動というものが"創造主のご意志"ということでしょう。その恵みに気付くことが私達の当面の最大の課題であり、仏教で言うところの"悟り"でもあります。

そのことに気付くことが出来れば、以後はその意識との交流により、私達は本来の進化の道を歩むことが出来ます。各自が創造の経路となって自らを通じて創造主のご意志を表現することが出来るようになるからです。

もちろんその為には、私達は自我（心）を極力小さくしてこの創造主のご意志に意見を挟まないようにすべきことは言うまでもありませんし、自らの心の在り様も次第に分かっていくというものです。

089 Some reports have come in from the first lesson. And wonderful results are being obtained by those who are really sincere. This is not surprising as every thing that has even taken place is recorded in consciousness, and can be drawn upon when the mind of man becomes attentive.

089 いくつかの報告が第1課から寄せられています。そして実際に誠意ある学習者によって素晴らしい結果が得られています。これは驚くべきことではありません。何故ならかつて起ったあらゆる出来事は意識の中に記録されており、人間の心が敏感になる時、引き出されることになるからです。

【解説】

皆様ご存知のように本来、この講座は1課ずつの通信教育の形態をとっていました。その結果、著者が第2課を記していた時、第1課を学んだ読者から成果報告が寄せられたという訳です。

その内容は不明ですが、本文の内容から見て、過去の記憶についての報告であったようです。ここで著者は"意識"の作用の一つとしてあらゆる行動を記憶することを掲げています。つまりは私達全ての者の行動はそのまま意識の中に記憶されるということです。

この記憶について典型と思われるものは、演奏家が譜面なしで長い曲を演奏したり、舞台上で役者が長いセリフをよどみなく語る事、著名な講演者が長時間、原稿なしでレクチャーする等、私達の身の回りにも驚くべき記憶の持ち主が存在するということです。彼らは適宜適切にその時求められる題材についての的確に語り、行動することが出来る訳ですが、それは本当は"意識"と繋がった状況に自身を置いていることだと思われます。

自身を少しでも意識と合体、統合出来るような状況を作り出せば、必要な情報は無尽蔵に湧き上がって来ることでしょう。意識にはそうした支援、指導の力が満ちているという訳です。

090 This is the reason the course has been simplified by the Brothers, and is different than any course of study presented before. In its simplicity it gives the major parts of self that the student must work with.

090 このことがこのコースが宇宙兄弟達によって単純化されて来た理由であり、これまで提示されたいかなる学習コースとも異なる理由です。その単純さの中で、学習者がいっしょにやっ行って行かなければならない自己の主な部分を理解させているからです。

【解説】

確かに仏教も含めてあらゆる宗教、哲学上の究極の教えと本講座の目指す所は大変類似しています。その延長で言えば、どの宗教の教えを学んでも同じ頂上に辿りつく筈で問題はないとも言うことが出来ます。

しかしそれでも重要な点は、本文に記されているように、私達が身に付けなければならない"意識"との関係について出来るだけ簡潔に現代の私達が分かりやすいように他惑星の兄弟達の支援によって制作されたのがこの講座であることです。

他に様々な重要点はあるでしょうが、まず第一段階として取り組むべき内容、身に付けるべき事柄が本講座に記されているということです。既にマスターし、進化を遂げた他惑星文明から私達に向けてそのエッセンスを贈られたものと言うことが出来ますし、教えの当初から長年月を経過し一部は本質からずれてしまった既存の宗教を、今更時間をかけてトレースするまでもないこととなります。

それよりは自分自身も含めて身の回りの生きている自然の生命を教材として直接、本講座の内容を学ぶことの方が遥かに大切ということです。

091 The Creator's laws are very simple. If this were not true Jesus would not have said, you must become as a little child. A child is trusting and uncomplicated in its way.

091 創造主の法則はとても単純です。もしこれが本当でなければ、イエスは幼子のようにならなければならないとは言わなかったでしょう。子供は信じ易く、その行動に複雑さはありません。

【解説】

期せずして段落087の解釈文と同じ主旨の内容が本文に記されておりましたが、まさにその通り、相手（即ち"意識"）を信頼し、その指導の声に素直に従うところが重要となるということです。

つまりはこの現世においては自分自身も含めて人間（エゴ）は平気でウソをつく者も多いのですが、各自の内側にある"意識"は私達を裏切ることなく、常に良い方向に導きの手を差し伸べてくる訳で、その導きに素直に従うことが必要で、あれこれ思いわずらうことはありません。

そういう意味で、かつてイエスは"幼子"や"野のユリ"その他のように、私達は自分の中に与えられている本来は最も近い存在である"意識"を信頼し、安寧に生きて行けと諭したということでしょう。

092 Until now, man has been doing everything the hard way with his mind. And has created mystery upon mystery where no mystery exists. And nothing is impossible.

092 今日まで人間は自分の心を用いてあらゆる物事を辛いやり方で行って来ました。そして神秘の無い所に神秘に次ぐ神秘を造り上げて来ました。しかし、不可能なことは何も無いのです。

【解説】

"全て自分の力で思うように進めて行く"ということは、その反対に"何もせず、惰性に流れる"生活よりは良いのかも知れませんが、実はそれにも多くの問題があるのです。多くの場合、誤った心の解釈から他人を傷つけ、自身も後で後悔するような行為も多くなるからです。

つまりは私達はこれら両極端でしか生きて来なかったのではないのでしょうか。これに対し本講座では私達内部に、著者アダムスキー氏が何処かで述べたように"自分の手"よりも近い場所、私達の内側に"意識"があり、絶えず必要な指導を与えて呉れる状況を自覚、認識せよと説くものです。

そのことを知覚出来れば、失敗は少なくなり、より充実し成果の挙がる生活に変貌させることが出来ると本章をまとめています。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON THREE

The Application of Cosmic Law

093 In lesson two we left you with the term, "The Will of God." And the explanation that God is not responsible for your experiences. And to clear this we will use electricity as an example.

生命の科学-学習コース

第3課

宇宙的法則の応用

093 第2課では「神の御意志」という言葉で、そして神はあなたの体験に責任がないという説明で話しを終えました。そしてこのことを明確にする為、一例として電気を取扱うことにしましょう。

【解説】

私達は宇宙を貫く法則（仏教では"法"と表現しています）の下に生きています。それは物理や化学の法則と同じで何処でも誰にでも当てはまるものです。即ち、ある原因を作れば必ず遅かれ早かれ同様の結果が生じるということ、いわば"播いた種は刈り取らなければならない"という原理です。もちろん、精進努力を積み重ねれば思わぬ時に飛躍的に自らの環境が変化し望み通りになることもその一つですし、またその逆も同じです。

本項では電気を例に、この後創造主の意志、宇宙の法則について説いて呉れるとしています。

宇宙における様々な要素の一つである電気については未だ私達はその上辺だけの現象しか知りませんが、それでも電燈をはじめ様々な電化製品、電子機器を作り上げている現代では電気の無い生活は考えられません。それほどに生活に欠くことのできない要素をどのように観たら良いのか、以後の各段落で考える機会を得られればと思います。

094 An attendant at a power plant that manufactures electricity sends out the current that you may use it for your benefit. He knows what the electricity is capable of doing and how it is to be used. And we are instructed how to use it. When used as instructed, many benefits are derived in many ways. We can even experiment with it providing we follow the law, without being hurt.

094 電気を起こす発電所の係員はあなたが自分の恩恵の為に使うことが出来る電流を送りだしています。彼は電気というものでどのようなことが出来るかや、どのようにして使用されるべきかを知っています。また、私達はその使い方について教えられています。教えられた通り使用する場合は、様々な面で多くの恩恵が引き出されます。私達は法則に従えば怪我をすることなく、電気で実験すらすることができます。

【解説】

ここでは著者が発電所で電気が製造され、各地に送られる様子を描写していますが、このことは何を示唆しているのでしょうか。

やはり想起されることは、電気は各家庭のコンセントから発電所までそれぞれ繋がっているということでしょう。つまり発電所は私達の生命力の源、文字通り「パワー」（注：英語では"電力"の意）の源ということになります。そしてその発電所長は送り続ける電力の持つ役割、人々を豊かにする潜在力を十分に知る責任者ということになり、贈り主、創造主を示唆しています。

重要な点は、私達各人はこの生命の糸（電線）によって各々繋がっていることであり、各人は常にこのパワーを享受して毎日を暮らしているということです。日常、この基本的な事柄に私達は気付くことは少ないのですが、いざ自分の生命が尽きる時になって私達はようやくその事実をかみしめることになるのではないのでしょうか。

095 i.e. An electric socket is made to hold a light bulb and not for a finger to be placed in it when the current is on. Even when it is not, should one be standing in moisture, he can receive a shock. If one gets hurt or has an unpleasant experience by the misuse of the law, he cannot blame the man that is willingly giving him the power. He can only blame himself, either for ignorance of the law, or aggression on his part.

095 即ち、電球のソケットは電球を固定する為に作られたもので、電流が流れている時に指を入れる為のものではありません。指を入れなくても、湿った場所に立って（ソケットを触った）場合にはショックを受けるかも知れません。仮に法則の誤用によって痛い目に逢ったり、不愉快な体験をしたとしても、電力を喜んで送っている係員を責めることは出来ません。自分自身が法則について無知であったか、自分の無謀な行為について自分自身を責めるべきなのです。

【解説】

法則を認識した以上、私達はその法則を本来の正しい使い方に留意しなければなりません。本項の電球のソケットのたとえのように無謀な行為は自ら痛手を負うことでその者自身の体験になるのですが、本来は必要のない経験である筈です。

重要な点は良くも悪くも「法則性」は大きな力を発揮しており、この物事を実現に向かって推し進める力を有しているということです。これについては古来から「畏れ多い」という表現が日本神道にあります。まさにその通りの対応、心境が必要です。

具体的には各自の心が抱く想念、私達自身が受け入れる想念が物事を現実させてしまう力を持っていることだと考えます。実はこの学習講座を進めて行くにつれて、私達が直接、創造主と様々な経路で結びつきが強く、また大きくなる結果、自分が願うことが実現するようになることに皆様気付かれるのではないかと考えています。

つまり、学習を続けるにつれて、私達の日頃の想念が周囲に与える影響がますます大きくなるという訳で、実は学習を進めるについてこれまで以上に私達は自分を律することが求められることになるというものです。

ご連絡 [2017-01-24]

いつもご覧戴き、有難うございます。
都合により、明日の更新はお休みします。

2017年1月24日
竹島正

096 The Creator gives us the power of life, and intelligence through the avenue of consciousness. The personal ego mind can use this in accordance with the law or it can transgress the law and receive either bad or good results, as with the electricity. Every individual has been granted this free will.

096 創造主は私達に意識という大通りを通じて生命の力（パワー）と知性をともに与えています。個人のエゴ（自我）の心は法則に従ってこれを利用できますし、法則を逸脱することも出来ますが、その結果、電気の場合のように良い結末あるいは悪い結末を得ることになります。各自は皆、この自由意志を許されているのです。

【解説】

私達の自由意志とはどのようなものかについて、本項では説かれています。

創造主から示された法則を正しく用いることも、誤った方向に応用することも私達自身に委ねられているという訳です。

これまで私達はただ自分本位に法則を利用することだけに生きて来ました。本来はその法則をより正しく用いることが求められている訳です。自らに与えられた生命力と知性をどのように活用するかは私達各人に任されている、そのことを自由意志と称しているのです。

しかし、その応用の結果については創造主の責ではありません。原子力は物質の本質に迫るエネルギーを解放させる意義もありますが、大量殺戮に活用しようとするのは全く人間の側の誤りであることは明らかです。またその結果、文明が滅んだとしてもそれは人間の側に責任があるのです。

私達は自由意志の中に生きていくべきですが、自ら学び経験を重ねる中で、真に学ぶべきことはそれら生命力の贈り手の意思であり、贈り手の意向です。身近な意識の中にその息吹を感じ取ることが重要です。

097 We can use the television set again, as a good example. The set in itself has no power or intelligence. But there are instruments in it equivalent to the brain or mind of man which cannot act until the power is turned on. When this is done, intelligent expression follows. Let us say that the intelligence is inhaled into the set through the ether or radio waves which carry the message. And as they come into the set the expression takes place, and not only the message comes through, but the individuals are shown as a living image on the screen. As I understand it, there are 80 different frequency channels in this nation over which programs are carried. Each channel is separated from all the others, yet some are so close that they encroach upon another. This calls for a very fine instrument to keep them separated. All channels use the same power and the same law, but there are sets that can only pick up a few channels. Yet all must depend upon the power and the ether waves to be of service. And they must inhale and exhale the waves to have the continuance of the program.

097 テレビ受像機を再び好例として述べましょう。テレビ自体には電力も知性もありません。しかしその中には電力が入れない限り行動出来ない人間の脳や心に相当する装置があります。それが為されると、知性的な表現が続いて起るのです。メッセージを運ぶエーテルもしくは電波を通じて知性がその受像機に吸込まれると言うことにしましょう。そしてそれらが受像機に入るや、表現が起りますし、スクリーンに個人が生きているイメージで映し出されます。私の知る限り国内には番組を放送している80の異なる周波数チャンネルがあります。各々のチャンネルは他と分離されています。この為、それらを分離し続けるにはとても繊細な装置が必要になります。全てのチャンネルは同一の電力と同一の法則を用いていますが、中には数チャンネルしか受信できないテレビもあります。しかし、全ては機能を発揮する為電力とエーテル波に依存しているのです。そしてそれらは番組を継続する為にはこれらの波を吸込み、吐き出す必要があります。

【解説】

とかく私達は自分（エゴ）が自らの身体をコントロールし、これまでの知識からあらゆる事柄を自由に推し進められるし、そのようにして来たと考えています。しかし、よく考えれば、このテレビのたどるのよう、私達は電波に乗せられた情報・知識を再現するテレビ受像機に過ぎないことが分かります。即ち、本文にあるようにテレビ受像機自体に番組のコンテンツがあるのではなく、それは単に電波を体内に取り入れて、その電波が刻々に示す知性を表現しているのに過ぎません。知性の内容は送り手の側にあるのです。

そういう意味では、私達は英知の表現者であり、仲介者ということになります。時々刻々湧き上がる想念・印象を如何に損なうことなく、体現するか、現実世界に表現するかがそのテレビ受像機の価値となる訳です。高性能のテレビになる為に、私達は心身共に精進する必要があります。

098 So it is with man. For he has all the potentials of expression built in, as it were. And he must inhale and exhale the breath of life to be of service. Should he cease breathing he would become a stilled instrument without any motion. Yet to inhale and not exhale the continuous state of life expression would cease. THE BREATH OF LIFE must pass through the form continuously for it to be active. It is comparable to the ether waves that feed the television set. Notice that the breath of life and the ether waves are everywhere and know no barriers, but they need an instrument to express through.

098 それは人間にも当てはまります。何故なら、人は内部に言わば全ての表現力が組み込まれているからです。そして人は役立つ為には、生命の呼吸を吸込み、吐き出さねばなりません。人がもし呼吸を止めたとしたら、何らの行動もしない静止した装置になってしまうでしょう。また、吸込むだけで吐き出さなければ、生命の継続状態は止まってしまうでしょう。「生命の呼吸」は形有る物が活動的である為には絶えず体内を通っていなければなりません。それはテレビを養っているエーテル波に例えることができます。注意して欲しいことは、生命の呼吸もエーテル波も何処にでも存在し、それを妨げるものは無いのですが、それらは表現される為には道具が必要なのです。

【解説】

あらゆる才能が各自に備わっており、要はそれを如何に引き出し表現するかが、課題となるということです。テレビ受像機の例のように、私達はその才能を表現する為には、電力即ち生命力を必要とする訳で、その生命力を常に呼吸し、吐き出す必要があります。

つまりは自身に取り入れた生命力を、今度は自身の才能を開花させ、表現されたものとして社会に放出、表現することです。

よく人間の役割を生命力を通すパイプであるとされて来ましたが、本来の意味は現実世界に向けて、生命の意図する姿を表現し、世に示すことかと考えます。

本文にあるように、生命力はあらゆる場所にくまなく存在し、その表現者を待っているのです。

099 Man's mind could be compared to a detector tube in the T.V. set which cannot function until the power is turned on. And consciousness is the power and intelligence that motivates the mind through the process of the breath of life. And without this breath which we call air, nothing could live. Not even a grain of sand, for everything depends upon it. As it manifests through the various forms it brings forth a complete melody, expressing life in its fullness.

099 人間の心は電力が投入されない限り、機能できないテレビの検波管に例えられることが出来るでしょう。そして意識は生命の呼吸という過程を通じてその心を活性化する力であり知性です。そして私達が空気と呼ぶこの呼吸が無ければ、何物も生きることが出来ません。一粒の砂でさえもです。何故ならあらゆるものがそれに依存しているからです。そしてそれが様々な形あるものを通じて姿を現している為、それは生命を豊かに表現する一つの完璧なメロディをもたらしています。

【解説】

私達が知覚すべき”意識”なるものの具体的な作用と役割について本項は分かり易く私達に説明しています。そもそも私達の人体とはどのようなものか、そして”心”と”意識”の関係は何かということについてです。

また、著者は私達が呼吸する空気の持つ役割について説いている点についても注目したいところです。ヨガをはじめとして呼吸法を説く分野も多い訳ですが、その空気を呼吸する動作は、それによって私達の身体に取り込まれた酸素が活用され、代謝において生成する二酸化炭素の排出という重要な役割を持っていることは私達の知るところです。その呼吸が実はもっと深遠な役割を持っていることが示唆されているのです。また、本文に記されているように万物の存在にとっても、空気は必要不可欠であることも重要な部分です。

このことは宇宙空間には大気があることを示唆している訳で、他惑星も地球とその状況は大差のないことも示すものとなっています。

呼吸はこのように私達の生存に不可欠であることは、息が出来なければ死んでしまうことから明らかですし、ヨガその他の修行に占める正しい呼吸法の修得は、本文が説くように呼吸に伴う生命力、意識の働きとも関係することをしっかり認識、記憶し日常生活に応用することだと説いているのです。

100 As we observe the harmonious blend in nature, we do not find the same in man. The reason for this that man has a free will and he must learn how to apply the law of the Creator. Through which he will learn the right and wrong usage of it, if he is to become an instrument of full expression. And this is the purpose of his being. He must school his ego sense mind in coordinating all of the senses, as we explained in the previous lesson. This is comparable to a musician tuning the strings of his violin that each may blend with the other, if a harmonious melody is to manifest.

100 私達が自然の中で調和した融合を見る一方で、人間にはそれと同じ（調和）を見ることはありません。この理由は人には自由意志があり、人は創造主の法則を如何にして応用するかを学ばなければならないからです。人は完璧な表現ができる一つの楽器になる為にはその過程を通じて正しいあるいは誤った応用例を学ぶことになるのです。そしてこれこそが、人の存在の理由なのです。前課で述べましたように、人は自分のエゴの感覚心を全ての感覚と調和するよう鍛練しなければなりません。これは調和あるメロディーが現出する為には、音楽家が自分のバイオリンの各弦を各々が他と融合するように調律するのと同様です。

【解説】

これまで自由意志については、人間に与えられたものと漠然と考えがちでしたが、よく考えればそれは私達各人に与えられたもので、その活用については各人の責任に委ねられているということに気がきます。

即ち、どのように日常生活を過ごし、日々の精神生活を送るのかについては全く各人に委ねられているという訳で、調和ある生活を送るか否かは実に本人次第ということになります。

しかし、当然のことながらお手本や模範は必要であり、本書をはじめとする学習書や数多くの教師が地球を訪れて来たということでしょう。それでもどのような人生を送ろうとするかは、全く本人の意志次第であり、その成果も本人に帰すべきものということになります。

自分が自身に内在する宇宙的要素を如何に発現、表現するか、その生き方を決断するのは私達自身であり、他者が指示することは出来ない訳ですが、それでも他の手本となる生活を築くことが出来れば、その者は他の者の教師となれる筈です。多くの教師が輩出することで、世の中は次第に本来の姿に戻って行くことでしょう。各人の生き方、日常の過ごし方、日頃の想念の抱き方が世の中に与える力は大変に大きいものだと考えています。内村鑑三の“後世への最大遺物”もそれを指しているものと言えます。

101 And the ego must learn how to apply the impressions that come from the guidance of the THY WILL which is the conscious will, instead of the will of the mind. If a harmonious life is to be enjoyed, the will of the mind must submit its will to the will of consciousness, then the THY WILL is done. The difference between the two is - the conscious or THY WILL does not force itself. It is kind and mellow in its expression, while the ego will is aggressive, domineering and self-centered. Conscious will knows no fear - the ego will fears all through life and makes many mistakes.

101 そしてエゴは心の意志に代わって意識の意志である「汝の意志」の導きから来る印象をどのようにして応用するかを学ばねばなりません。もし、調和ある生活を謳歌するなら、心の意志は意識の意志にその意志を委ねなければなりませんし、そうすれば汝の意志が行われるでしょう。これら2つの違いは意識あるいは汝の意志はそれ自身を強制しないことにあります。その表現はやさしく、豊潤ですが、一方、エゴの意志は攻撃的で横暴、自己中心的です。意識は恐怖を知りませんが、エゴはその生涯を通じて恐れており、多くの過ちをおかすのです。

【解説】

いずれにしても日々、私達は何らかの意思決定をして行動に移すことになります。しかし、これまでの私達は自分の限られた心の範疇の意思しか知らないまま、問題だらけの行動を起こし、痛い体験のみを積んで来ました。

しかし、既に学んでいるように、私達の内部にはもう一つの存在があり、宇宙の本源と通じるものが存在し、私達を支え続け、養い続けて呉れています。本文ではこれを「汝の意志」と表現されていますが、それは無言の意識の意志とも言えるものです。

このどちらを採択すべきかは明らかなのですが、現実には私達は自分のレベルに近いエゴの意志、心の意志に従い易いのです。実際にどのような想念・印象に従うべきかは説明が難しいのですが、それでも実は大切な印象・想念ほど、精妙、微妙なものであるように思います。それらに気付く為には、常に心を止水明鏡のごとく鎮めて置き、僅かな振動にも気付くこと、またそのような高い次元の想念周波数に同調出来るよう、自らを高めて置く必要があることは言うまでもありません。

102 All nature, with the exception of man, operates by the will of Cosmic Law. In plain, nature lends itself to the law, or the will of the Creator. Yet the form of man operates under the same law that nature does, while the free-will of man operates contrary to it.

102 すべての自然は人間を例外として除けば、宇宙の法則の意志によって動いています。簡単に言えば、自然は自分自身をその法則、創造主の意志に委ねています。一方で人間の身体は自然と同様、同じ法則の下で動きますが、人間の自由意志だけがそれに反して働いているのです。

【解説】

自然界の中で勝手気ままに過ごしているのは人間だけという訳です。その人間も人体は他の生命体と同様、宇宙の法則に従っているのです。本文ではこの宇宙の法則に従う行為を”自らを宇宙の法則に委ねる”と表現しています。”他力本願”はこのことを示唆しています。

つまりは自己の意思を無にして、宇宙本源から来る助言を信奉し、それに従うという創造主に従順な生き方をしているということです。その為には、先ずは宇宙の法則に気付く必要がありますし、やって来る印象を感知する必要があることが分かります。

言い換えれば、想念・印象の感応能力に優れているとも言えることです。一方の私達はそれら宇宙本源に由来する印象に気付くことなく、粗雑な自らの意志により行動していることとなります。

103 The Divine Will always expresses in perfect harmony and causes no distortion in any manifestation. That is why the human form under this will manifests so well. And yet it is abused more than any other form known, by the free-will or will of the ego. i.e. When one eats a meal, the mind or the will of man knows not what is to happen to the food in the body. And if the ego is in a happy harmonious state the food will be beneficial to the body. On the other hand, if the ego is disturbed, confused or tensed and out of harmony with the law, or consciousness, indigestion is bound to follow causing gas around the heart and constipation. Proving the Divine Will, will not lend itself to the distorted will of man. So man pays the price for the distortion through pain and suffering. And this is the only way that some people can learn.

103 聖なる意志はどの創造物においても常に完全な調和をもって表現し、如何なる歪みも生じさせません。それがこの下にある人体がかくも申し分無く現出している理由です。それに加えて人体はエゴの自由意志、つまりは意志によって他の如何なるものよりも酷使されています。即ち、人が食事を摂る時、心や人の意志は肉体の中で食物がどのようになるか知りません。もし、エゴが幸せな調和ある状態であれば、食物は肉体にとって有益なものになるでしょう。他方、もしエゴが掻き乱され、混乱しあるいは緊張して法則や意識と調和出来なくなっている場合には、消化不良になり、心臓の周囲にガスを発生させたり、便秘を引き起こします。聖なる意志は人間のねじれた心にはご自身をお委ねにはならないとしましょう。そうであれば、人は痛みや苦痛を通じてこのねじれに対して代償を支払うこととなります。そしてこれこそが、ある種の人々が学べる唯一の方法なのです。

【解説】

唯一、私達各人の心だけが宇宙全体の調和を乱し、問題行動を起こしているという訳です。よく”心を無にして”という表現をしますが、心を無にした結果、何も無くなるということではなく、代わってこの宇宙くまなく存在する聖なる意志が顕在化し、私達を助けるということに繋がるのです。

心の驕りを戒め、常に謙虚に保つことで、私達は自らこの宇宙の英知とも言える普遍的な知性に親しみ、支援を受ける立場を堅持しなければなりません。このことはイエスが「幼子のようにならなければ」と言われたこととも通じるものです。やって来る宇宙的な印象に対して率直に受容し、その主旨に沿って行動する姿勢が大切です。

また、本文ではこれら創造主の意志は人間のねじれた心には関与しないと記されています。つまり、私達の心に左右されることなく、物事を指導している訳で、たとえ私達の心が法則を受け入れず、その結果、不愉快な結果を得たとしても、それらから影響を受けることのないということです。それらの好ましからざる結果を通して私達は自らの行動や取り入れた想念レベルを反省する必要があるだけです。

104 Fortunately there is a harmonious law that works through the body independent of the mind, or the body would not last the years that it does.

104 幸いなことに、身体の中には心から独立して働く調和ある法則があります。そうでなければ、人体はそのように何年も持続することは無いでしょう。

【解説】

最近、日本では高齢者の定義年齢として75歳が提案されたとのことです。それほど、日本人の寿命が伸びて来たことになりました。今では60歳を越えてもなお働き続けることは極普通のことですし、今後迎える高齢化社会もこれら高齢者自身が社会貢献することが唯一の解決策となることでしょう。

実は人間の寿命は更に長寿命を保てるだけの潜在能力が備わっており、宇宙と調和して働く仕組みがあると本文は示唆しています。これまでは荒れた心や恐怖心その他の不協和音を帯びた想念が肉体を蝕んでいた訳で、それら肉体本来の働きを妨げていたということでしょう。

同乗記には1000年を超える長老のお話が掲載されていますが、人間本来の寿命は同乗記の長老を考えれば、地球人類も本来の寿命は更に伸びるのかも知れません。宇宙法則の中では時間というものはあまり意味を持たないのかも知れません。寿命が尽きても次なる肉体が用意されるのであれば、永続する存在となるからです。毎日の時間を如何に充実させるかが重要となるだけです。

105 This shows that there are two stages of intelligence in the human form. One the Cosmic - directing the functioning of the body. And the other - mental opposition that causes the suffering in the body. A Clergyman expressed this well when he said that humanity has become Un-Godly. This is true, for people no longer look to the Creator for guidance, and they do not have faith in the giver of life. And as a result, they exercise their free-will to the full extreme under the master of fear. So greed has taken over, and it is like a cancer which is bound to destroy this civilization if it continues. These are the fruits of the free-will, where one Will does not trust another. But how can it when the will of man does not trust the Will Of The Creator or consciousness?

105 このことは人体は知性において二つの段階があることを示しています。一つは人体の機能を指揮している宇宙的な存在、そして他は人体に苦痛をもたらしている心の反抗です。ある牧師はこれを人類は神を敬わなくなってしまったと言ってこのことを良く表現しました。これは導きをもはや創造主に求めない人々にとっては真実ですし、彼等は生命の贈与者に信頼していません。その結果、彼等は恐怖の主人の下、最大限まで自分達の自由意志を行使するのです。そのため、貪欲が支配するようになりましたが、それはもし続くならこの文明を滅ぼすことになる癌のようなものです。これは一つの意志が他を信用しない所に突る自由意志の結実の結果です。しかし、人間の意志が創造主の意志、あるいは意識を信頼しないとしたら、どうなってしまふことでしょうか。

【解説】

最近の報道では世界の富豪62名の総資産が世界人口の半分、36億人の総資産に等しいと伝えられていました。しかし、その一方で冬空の中、一日中、外で交通誘導に従事して来た人が、その埃と冷え切った身体で帰宅の途に付く姿を目にしました。日本でも人々は厳しい状況の中で懸命に日々の生活を送っているのです。しかし、そうした一方で、このような富裕層が増加し、貧富の差が広がって行くのが地球の現状なのです。

もちろんその打開策も税制その他の面において必要でしょうが、その本質的問題は本項に記されているように、自由意志による無配慮は貪欲社会に辿り着くことだと思われまふ。

これらの問題は惑星自体の末期症状とも呼応するものと思われまふが、私達は現段階で、原点に踏みとどまり、私達の自由意志から宇宙に源を置く創造主の意志に転換する必要があるのです。自由意志の帰着点が現状の地球の状況だと見做すべきなのです。

106 We can see the results, for the whole world is living under the cloud of fear one against the other. And no one trusts another human being.

106 私達はその結末を見ることが出来ます。何故なら、全世界が相互に対する恐怖の雲の下で生きているからです。そして誰一人として他人を信用してはいないのです。

【解説】

最近自宅のメールアドレス宛にウィルスを送りつける者が増えて来ました。それも何らかの”請求書”とか”資料の送付”とかを装うもので、添付ファイルを開くとウィルスに感染し、データが盗まれたり壊されたりするものと思われます。この状況を見るとつくづく現代社会も落ちるところまで落ちて来たなと思う次第です。

本書が執筆された当時、著者が記しているように、既にこのような状況は世界的に起きつつあったということでしょう。

こうした中、私達はどのように生きて行くべきでしょうか。もちろん降りかかる危険については早期に察知し、その隠された意図を見抜いて、それらに関わらないことはもちろんです。しかし、それだけでは十分ではありません。私達各人はこれら暗闇の世の中をそれぞれの場所で灯火をともし者となるべきでしょう。「宇宙哲学」の表紙にはタイマツがデザインされていました。一人一人が暗黒の世の中で人々の足元を照らす光となることが求められています。

107 You may say here, it is a mess. Yet it is the product of the exalted ego or human mind. For it no longer allows itself to be guided by the consciousness or creator.

107 ここであなたは、それを乱れと言うかも知れません。しかし、それは増長したエゴ、即ち人間の心の造り上げた所産です。何故なら、エゴはそれ自身を意識あるいは創造主によって導かれるものとはしていないからです。

【解説】

本項で著者が私達に説いているのは、私達が直面している状況は全て私達の心の反映、私達の精神状況を映し現実化しているということです。良くも悪くも私達は自らの心を映す環境の中で暮らしていることであり、あらゆる想念が創造作用を持っているのです。

しかし、このような状況は決してあきらめるべきものではありません。実に私達の身近に、自分の手足よりも近い場所に創造主と繋がる存在、宇宙的意識が存続し、私達を支え続けて呉れているからです。

また同時に、圧倒的に大きな自然環境、人間の手が加えられていない大自然には未だ地球本来のパラダイスが広がっていることでしょう。身近な自然の中にも季節の移ろいに呼応した草花草木、小鳥や虫達の営みを見ることが出来ます。多くの人達が野鳥観察や草木の写生を好むのはそれらの生き生きとした姿に宇宙本来の生きものの姿を認めるからだと思います。

私達はこれら身の回りの自然を教師として、自分本来の生き方、即ち日々の暮らし方を見直すことが求められています。

108 Perhaps you feel that I use the word consciousness a great deal and place emphasis on it. And you may wonder, why? It is because the consciousness has been neglected through the ages while the mind has been exalted. And did Jesus not say that we are the Temples of the Living God? It could be said in this way, know ye not that ye are the embodiment of the living consciousness?

108 おそらく、貴方は私が意識という言葉を変多く使用し、それに力点を置いているとお思になるでしょう。そして何故だと思ふかも知れません。それは何世代にわたり心が増長して来た一方で、意識は無視されて来たからなのです。そしてイエスは私達は生ける神の社であると言わなかったでしょうか？それはまたこのように言うことが出来ます。貴方は自分が生ける意識を体現したものであることを知らないのかと。

【解説】

ある意味、この生命の科学をはじめとするアダムスキー哲学を理解する上で、カギとなるのがこの”意識”という概念でしょう。これまで私達は様々な知識を作り出し、文字や記号で表すことで他者に伝えて来ました。これら知識を蓄えることで科学を発展させ、技術を伸ばして来ました。また心に湧き起こる想念や印象の存在も多少は理解できたものと思われます。

しかし、実は肝心の”意識”についてはほとんど考えもしていないのです。”意識”は自身の存在を心に強いることなく常に無言であるからです。この無言・沈黙の中に英知が溢れんばかりに宿っており、あらゆる生命体を無言のまま育てているという訳です。

この意識の存在に気付くことが”悟り”であり、覚醒とされて来たように思われます。私達はこの覚醒された先達のその後の生き方から、意識を自覚することが如何に価値あることかを知ることが出来ます。

人の一生の時間は長いように見えても短いものです。とりわけこの分野の理解は重要にも拘わらず、私達はあまりに忙しく日々を送るあまり、気付こうとする努力が足りません。私達各人はイエスの頃から説かれている私達が最も頼りとすべき”意識”の存在を探求しなければなりません。

109 The Breath Of Life is proof of that, and it is given freely to all forms of life. For was not the first clay form of man activated into life by THE BREATH OF LIFE, breathed into its nostrils by the Creator? And it became a living soul, or a conscious being. A new born child is slapped on the buttocks and made to take the first breath, or it would not be alive. And notice here, the mind is only partially active, yet the baby is consciously alive. We know that a young mind knows no fear until fear is imposed upon it. Or until it begins to act with the mind and gets hurt, then fear takes over.

109 生命の呼吸はその証しですし、それは生命のすべての形有るものに無償で与えられています。人間に形取られた最初の粘土が創造主によって鼻から息を吹き込まれ、生命の呼吸によって生けるものになったのではありませんか。そしてそれは生ける魂、意識ある存在になったのです。生まれたばかりの赤ん坊がおしりを叩かれて、最初の呼吸をさせられますが、そうしなかったら、生けるものとはならないでしょう。そして、ここで注意して欲しいのは、赤ん坊の心は一部しか生きていませんが、赤ん坊は意識的には生きています。若い心は恐怖が押し付けられない限り、恐怖を知らないことを私達には分っています。あるいは赤ん坊が心といっしょに行動し、痛みを得るとその時から恐怖が支配するようになるのです。

【解説】

先日あるテレビ番組でアフリカで独り活躍する日本人医師の姿が紹介されていました。その中に難産の末、羊水を大量に吸い込んでいた赤ん坊から羊水を吐き出させ、最初の呼吸が始まるまでの医師の措置が放映されていました。呼吸を始めなければ命が無い緊迫した状況です。

やがて赤ん坊は泣き声を上げると同時に自ら呼吸を始めるようになり、周囲の者を安堵させたという訳です。これは人間の誕生の場合ですが、人の死の時は呼吸が止み、そして心臓が止まるという中で肉体が死を迎える訳です。

このように私達は昼夜を問わず呼吸していることが生きて居ることの証でもあるのです。しかもその呼吸する空気はあらゆる生きものにとって共通のものということもポイントとすべきでしょう。

古来からもこの呼吸についての重要性は多くの呼吸法があることから分かるように、広く着目されたところではあります。私達は生命代謝の基本という呼吸作用の中に更に深遠な意義を探究し、知覚するよう注意を払う必要があるのです。

110 This shows that consciousness knows no fear - for it is the possessor of all knowledge. The mind does not have the knowledge and lives in fear. And as a result it has promoted all kinds of mysteries in relationship to life and its continuance.

110 このことは、意識は如何なる恐怖も知らないことを示しています。何故ならそれはすべての知識の持ち主であるからです。一方、心はその知識を持ちませんし、恐怖の中に生きているのです。そしてその結果、心は生命とその存続に関連してあらゆる種類の神秘を助長させて来ているのです。

【解説】

前項の赤ん坊の誕生の時のように、生まれたばかりの人間の心は何も無い所からスタートするという訳です。一方、“意識”の方は最初から全てを知っています。成長著しい赤ん坊の身体づくりをどのように進めたら良いか等々、赤ん坊が呼吸を開始し母体から独立した生命体として機能し始めた瞬間から、ものすごい速さで各細胞に必要なそれぞれの指令を出しているということでしょう。穏やかに眠る赤ん坊の身体の中では、活発な生命活動が進んでいるのです。

このことから考えれば、真実の宇宙生命の活動は、実は外見上は大変穏やかなものであり、それに従う私達の肉体も緊張やストレスを感じるものは全く無く、大変スムーズで落ち着いているものだと思います。

一方、これに対し私達の心は、時々痛い体験から経験則を学びますが、それらが起こった前後の状況を理解しないまま結果だけを掴む為、自分が理解できない“神秘”として探究することなく棚上げすることが多くなるのだと本項で著者は注意しています。今日的に表現すれば、“超能力”その他、自分が理解出来ない要素をミステリーと片付けて終わりにする傾向を指摘しているのです。

この生命の科学講座は、これらミステリーを一つ一つ解き明かして、全容を理解する学習講座としての大きな意味を持っていると著者は私達に説いています。

111 We are now in the third lesson and I have not asked any one to concentrate or meditate, as taught in other fields. If anything, these ancient methods have brought the unpleasant conditions that we today face in the world.

111 私達は今や第3課に入っており、私はこれまで誰一人にも他の分野で教えられているように精神集中や瞑想をするようにとは言って来ませんでした。むしろ、これら古代の手法は今日私達が世界で直面している不愉快な状況をもたらして来たのです。

【解説】

仏陀が悟りを開く前、それまで多くの苦行者を訪ね、自らも苦行を続けた末にそれらの修行方法の限界を感じて肉体を苦しめる方法を捨てました。そして、少女スジャータからの乳粥の施しを得て肉体を養い、菩提樹の下で黙想の後、やかに覚醒に至ったというお話は有名です。

本項も同様な基調をもって著者アダムスキー氏はこれまでの私達に教示されてきた瞑想等の修行は覚醒をもたらすどころか、問題を引き起こしていると指摘しています。

実はそれほど”意識”というものは実際、私達に近いところにあるながら、私達自身、気づきにくい存在だということかと思えます。それを気付く為に極度に集中したり緊張したりするのは逆効果なのかも知れません。丁度、前々項(109)の述べられているように赤ん坊の状況は100%、意識が全面に出て赤ん坊の生存を助けているのですが、赤ん坊自身は安心してその指導に従っており、その穏やかな肉体の状況こそが意識に通じることになるものを思っています。

112 The thing that we ask you to do is - become aware of your real self, the eternal part of God, or The Creator. Let your mind become conscious of consciousness as your guide in everything that you do. Then the admonition "Man know thyself and you shall know all things," will be your reward. But the mind must learn to trust the consciousness at all times.

112 私達が貴方に実行して欲しいとお願いしたいことは、貴方の真実の自我、神の永遠なる部分、創造主に気付くようにすることです。貴方の心を貴方が為す全てにおけるガイドとして意識を意識するようにさせて下さい。そうすれば、訓戒「汝自身を知れ、そうすれば全てを知るだろう」を褒美として受け取ることになります。しかしその為には、心は意識を如何なる時も信頼することを学ばなければなりません。

【解説】

前項（111）に続く解説文になりますが、私達の内側にある本項で言う「真実の自我」について、如何に気付くかが最大の課題と言えます。これまで著者はそれを”意識”と表現して来た訳ですが、この無言の知性とどのように向き合うかを避けては、私達の進化は望めないのです。

しかし、その存在は私達の心自体が謙虚になって、自分以外にも自身の中に知性が存在すること、更には私達の心はその存在から教示を受けるべき立場であることを自覚するようになってはじめて感知されるものなのです。

永らく私達はこの一点の真理を外部に求め、様々な所を巡って来ましたが、本来は日常生活の中で自分の中にあるその存在と親しみ、教示としての想念・印象を受ける喜びを味わうべきなのです。

自身の中に全てがあり、創造主を戴くミニチュアの神社のような存在が私達各人だということかも知れません。イエスも「生ける神の宮」と表現していたこととも通じるものがあります。

113 Also notice that we did not forbid you to live a normal life. All that is asked of you is - live a conscious life and not a mental one. And do, and use, all things in moderation. That is all that is necessary to fulfill the purpose of life. This is how our space brothers have grown in knowledge and live a heavenly way of life.

113 また、私達が貴方に普通の生活を送ることを禁じていなかったことにも注意して下さい。貴方に求められていることの全ては、心による生活でなく、意識による生活を送ることです。そして全ての物事を適度に行い、また用いなさいということです。それが生命の目的を成就する上で必要なことの全てです。この方法によって私達の宇宙兄弟達が知識において成長でき、今、天上の生活を送っているのです。

【解説】

私達各人は、自らの毎日の生活、言わば精神生活をどのように送るべきか、本項は分かりやすい言葉で解説しています。つまりは全てを意識中心の生活に改めることを第一とし、その他については特段の戒律を設ける等のことは必要なく、あらゆることを適度に行ってよいのだとも説いています。

やはり一番大切にすべきは”意識”を最重視するということでしょう。”意識”は自ら主張することはありませんし、心とは異なり騒ぎ

立てることもありません。常に沈黙している存在と言えるかも知れません。その為、何も分からない私達が”意識”に気付く為には、あらゆる場面でこの意識を思い起こして交流の糸口を探す努力が必要となるのです。そうする中でやがては門は開かれ、私達も”意識”の知性と交流できる存在、”意識”からの印象を感受出来る存在になれるということでしょう。

本文では必要なことはこれだけだと明言されています。自身の内側にある真の自己、”意識体”と一体になることで、私達は日常生活の中でも宇宙的に覚醒した存在に進化出来るのです。

114 And remember you cannot have a manifestation or good results if you do not use both sides of the law. The objective and the subjective, or the negative and positive - male and female. You cannot use one and exclude the other and expect good results. Let us go back to electricity for an example. Electricity is one power consisting of two phases, negative and positive. One phase cannot be used in the absence of the other and give useful power. But when they are combined and balanced the manifestation is perfect.

114 ここで覚えていて欲しいのは貴方は法則の両面を用いなければ、創造の現れや良い成果は得られないということです。主観と客観、積極性と消極性、男性と女性がそれです。一方を用いて他方を排除しては良い結果は望めません。一例として電気について振り返ってみましょう。電気は2つの側面、マイナスとプラスからなる一つの力です。他方無しで片方を用い、有益な電力を得ることはできません。しかし、それらが統合されバランスがとられた時、そのもたらす創造の現れは完全になります。

【解説】

”プラスとマイナス”、”陰と陽”等、現象に潜在する2つの対極要素を私達は観て来た訳ですが、本項ではそれらの一方を良しとして他方を排除してはいけなさと諭しています。とかく私達はあらゆるものを裁きがちであり、”善悪”、”良否”の区別を付けて、自らが良しとした方向のみに目が行きがちな点を戒めています。

私達はこれらの2極の要素を共に受入全体の理解の上に物事を進めて行くことの重要性を指摘しているのです。電気はその好例でしょう。プラスとマイナスの両者があってはじめて具体的な作用、働きが起こせる訳です。

古来より陰陽の2要素を自然界の働きに観た多くの先人が居た訳ですが、それら2要素の調和、融合の中に真に創造的世界が広がっているということを本項は説いているのかと思います。”生と死”、”昼と夜”、”寒と暖”もそれぞれ一方が良く、他方が悪い、更には両者が良くないとする分別ではなく、両要素があってはじめてこの世界が成立していることの意味をかみしめて、その両者を活かしながら生きて行く必要があるのです。重要なことは決してこれら2極を中和して真ん中に静止するよう著者が求めているのではないことに注意する必要があります。自身の中に、これらプラスとマイナスからなる”波動”そのものを受け入れることかと思っています。

115 So it is with the law of the Cosmos. Positive Thinking, that you may have heard about, has hurt more people than it did good. God's purpose cannot be divided and give good results. Nor can one judge His laws and omit parts of them, be it through lack of understanding or egotistical aggression, which has been done through the ages. People judge the Creator's creation without knowing the reason for each part. And in this way they have been judging the Creator and exalting the ego mind above His Intelligence.

115 ですから、それは宇宙の法則についても言えることです。陽的思考は、貴方が聞いたことがあるかも知れませんが、それが為す良い事以上に多くの人々を傷つけて来ました。神の目的は二分されて良い結果をもたらすことは出来ません。人は理解力の不足に由来するにせよエゴの侵略行動に由来するにせよ、神の諸法則を裁いてその一部を除くことをしてはならないのですが、それを長年行って来ました。人々は創造主の創造物を各々の部分の存在理由等を知らないまま、裁いて来ました。そしてこのようにして、人々は創造主を裁き、自らの自我の心を創造主の知性の上位に置き増長させて来ているのです。

【解説】

まさに本項は今日世の中で起こっていることを警告している所でもあります。断定的な考え方で世の中全てを断じることは、多くの人達を傷つけるということは、現在米国等で起こっていることでもあります。一部の真理を盾に全てをその考えで押し通すことは危険です。その断じることの中にエゴの裁きが入り込んでいるからです。もちろん過去の人類の歴史が民衆の支持によって上り詰めた独裁者が引き起こした惨状を記憶している筈です。

そういう意味で"Positive Thinking"（断定的、陽的、積極的な考え）の中には、私達の想定を超える危険性もはらんでいるのです。戦意高揚し国民を戦場に送り出す初期の頃は組織的な作戦で人々を盲目にさせて来たということでしょう。

一方、私達の目指すべきは、もっと静かで精妙な世界です。最も肝心な存在である"意識"は普段、誰からも気付かれぬまま、私達の肉体を支えています。その宇宙普遍の存在こそ、私達が本来求めてやまないものです。そういう意味では仏教も真理を悟ること、その法則（ダルマ）に寄り添うことを目指しており、個人の死などを頓着しない冷静、科学的な立場にあるように思いますし、本項で言う断定的な態度とは対極を成す立場のように思われます。

116 And we have become lost in our own mis-creations by separating ourselves from our consciousness which is of the Creator. We have become intellectual giants, but moral morons from a conscious point of view.

116 そして私達は創造主である私達の意識から自分自身を分離することによって私達自身が造り出した誤った創造の諸物の中で迷子になってしまっているのです。私達は知的には巨人になっていますが、意識の観点からは倫理上、低能に成り下がっています。

【解説】

私達は本来のあるべき姿、即ち自らの内部に宿る意識が黙していることを良いことに、長年、自我の心を増長させ、自分の都合の良い言い訳を作り上げて生活して来ました。その結果、私達は創造主を裁き、倫理に劣るが知識の上では巨大化したイビツな存在になってしまいました。

他の生きものたちは、知識や知性は劣りますが、意識に従うという点では人間よりはるかに優れています。その結果、大自然はかくも調和した美しさを保ちますし、私達人間もそれらの静かで調和した世界に憧れるものとなっています。

一方、知の巨人となった人間の世界はどうでしょうか。世の中の経済の動きをコンピュータが自動で収集し、株の売買を自動的に行って利益を得る等、AI（人工知能）を金儲けに活用することも行われ始める等、他人を出し抜く競争社会、他人を利用する風潮は社会を悪化させています。

これに対し多くの教師、先人が本来の人間のあるべき姿を説いて来ました。その教えが自身の中にある意識の声に耳を傾け、それに従えということです。自分のこれまでの経験や知識等はどうでもよく、自らに与えられる意識の声、即ち印象をはるかに大切なものとして受け止め、それらを表現し、実現することだということでしょう。今読んでいる「釈尊の生涯」（中村元、平凡社）の中に、釈尊が説く教えを聞いた者が直ちに、悟りを得たという記述が多くあります。本当に真理を得た者と接し、お話を伺うことで、長年の曇りがたちどころに覚めるということでしょう。その背景には、私達自身の内側に、既に十分な備えがある為、それに気付くきっかけが必要なだけだという訳です。同乗記における他惑星の長老との会見がそのような事情を示唆しているのです。

ご連絡 [2017-02-23]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。
都合により、次回更新は週明け月曜日になる見込みです。

2017年2月23日
竹島 正

117 Instead of gathering all form life into the sea of consciousness we have divided and separated, and this is why we cannot see God's life manifesting through us and all form life, as our space brothers do. For when they look upon a form, be it of man or any other expression, they do not see just the form, they see the consciousness that supports the form. This is seeing the Creator expressing through the form when the THY WILL and not the mind will is done. Their world and all life on it are conscious manifestations of the Creator, and are so honored.

117 すべての形有る生命を意識の海の中に集めることをしない代わりに、私達はそれらを分割し分離して来ました。これが私達の宇宙兄弟達がしているように私達が私達やすべての形有る生命を通じて神の命を見ることができない理由です。何故なら、彼等が形有るものを見る時、それが人間であれ、他のどのような表現物であれ、彼等は単に形だけを見ることはなく、彼等はその形有るものを支えている意識を見るのです。これが心の意志でなく「汝の意志」が行われている時、形あるものを通じて創造主を見ているということです。それらの世界とそれの上に成り立つすべての生命は創造主の意識の現出であり、そのように榮譽を受けているのです。

【解説】

何も植物や動物を調べるのに、分類したり種を特定したりする研究をすべきでないとする訳ではありません。問題としているのは、私達の日常の在り方が外形のみを見て、それらを区別し仕分けする一方、それらの内部に存在する共通した生命力を見ようとししない点にあるのです。外見や形だけがそのものの価値だと見做している点が問題なのです。

しかし、それでは真の一体感は生まれません。同じ情景を見ても、感動する人と何らの興味を持たない人が居ることも確かです。その原因は何処にあるかと言えば、一人はその形あるものの中に自分と同じ生命が宿っていることを知覚でき、またその情景の中にそれらが調和交流して生命を躍動させていることに気付くことが出来るからでしょう。

同じ世の中に生活している私達は、本項で著者が説くように、宇宙兄弟達のものの見方をいち早く身に付けてせつかくの美しい世界を享受し、創造主に感謝すべきです。「もったいない」という言葉が日本語にはありますが、日々の生活に意識からの働きかけを取り入れないことこそ、その最たるものと言えるのです。

118 As you can now see, man or his mind is in the process of creation, working towards a perfect manifestation by learning. And time is not involved, for there is no time in Eternity. So it then behoves us to study the various phases of creation that we may learn its reason for being. Then we will not judge our Creator, as we have in the past through lack of knowledge. For truthfully no man can judge his Creator or any of His creation. When man makes a thorough study of Life's purpose, understanding replaces judgment. For then man as the highest expression, becomes one with his Creator. And his intelligence is in line with the Creator's intelligence.

118 今やおわかりのように、人、すなわち人の心は学習を通じて完全なる創造の現出に向かって努力している創造の過程にあります。そして時間は関係ありません、永遠には時間が無いからです。ですから私達はその存在の理由を学ぶことが出来るよう、様々な創造の段階を学ぶことは私達にとっての義務なのです。そうすれば、かつては知識の不足から行って来ましたが、私達は私達の創造主を裁くことはしなくなるでしょう。何故なら、本当に人は自分の神や神の如何なる創造物をも裁くことは出来ないのです。人が生命の目的を徹底して研究する時、理解が裁きに置き換わります。そうなれば、人は最高位の表現者としてその創造主と一体になるのです。そしてその知性は創造主の知性と一致します。

【解説】

よく"若気の至り"という表現を用いますが、私達はその人生において学習の課程にあることは確かです。そして生涯の終末を迎えた時、自身で何か本質的なこと、本講座で学びつつある領域の事柄について理解出来、創造主の意図が多少とも実感出来ていれば、今人生は大成功ということになるのではないでしょう。

もちろん、各自の歩む人生は人それぞれであります。最も身近な存在である家族や友人に対し、その生涯を手本として見せることが出来れば、役割の一つを果たすことが出来たと言えるように思います。たとえ高齢になっても毎日、何かに向かって努力をすればそれは少しずつでも積み重なって人生を豊かにして呉れるものと思われ。また、自然の美しさや精妙さに気付くことも多くなることでしょう。

従って、もし私達が進歩の道を歩んでいけば、必ず目的地にも到達出来るでしょうし、過去、即ちこれまでの自分に比べて向上させることが出来ている筈です。芸術家と同様、習作を積み重ねた上でやがてその代表作が生まれる程の技量の段階に至ると同様です。

119 You may ask, how do we classify intelligence. Man classifies it as the result of actions or expressions. If we use this same classification, then we must admit that we are living in a sea of intelligence. All forms that live and express are using certain phases of it, and fulfill the purpose for which they were created. All of these lesser forms act automatically under the guidance of nature. Or we could say, by direct guidance of the Creator.

119 知性についてはどのように分類するのかと貴方は問うかも知れません。人はそれを行動や表現の結果から分類しています。もし私達が同様の分類をするなら、私達は自分達が知性の海の中に生きていることを認めざるを得ません。生きそして表現する形有るものは皆、その（訳注：知性の海）何らかの側面を活用しており、それらが創造された目的を達成しています。これら（訳注：人より）下位の形有るもの達は自然の導きの下、自動的に行動しているのです。言い換えれば、創造主の直接の指導によっていると言えるでしょう。

【解説】

前項（118）の最後に述べられている「知性」について、本来どのようなものかを本項で解説しています。

本項では知性を行動や表現から推し量ることが出来るとし、私達は知性の海の中、即ち私達を取り巻くあらゆるものが知性を持った存在だと説いているのです。

また、全ての形あるものがその本来の生存の目的の為に、創造主の指導そのままに生きて居る訳で、「置かれた場所で咲いている」のです。誰もが春には道端の草地で小さな蝶が楽しげに舞う姿を見たことはあるでしょう。また、地面を覗き込むと蟻達がせわしげに働いており、それぞれ与えられた状況の中で不平を言うことなく、むしろ喜々として生命を謳歌しているように思われます。

それに引き替え、人は様々な問題を抱え、身の回りのこれら小さな生きもの達の暮らしを観る余裕もなくなっているようです。しかし、生きものには各々に応じた本来の行動や表現の為の知性が絶えず与えられており、それを受け入れ享受しさえすれば、楽しい本来の人生が待っている筈です。その贈り手を信じることで、結局は自我だけではやって行けないことを早く気付く必要があるのです。古今東西の教えは全てこの一点において同じ要点を説いているように思います。

120 When we say Nature, it is used as a representative of The Mother Principle of Divinity. For she is the one through which forms are born. This is the feminine side of life, while the Supreme Intelligence is the masculine. And the two are working as one to bring forth the many manifestations.

120 私達が自然と言う時、それは神の内の母性原理を代表するものとして用いられています。何故なら、そこから形有るものが産まれるからです。これは生命の内の女性的な面を示しており、一方で至上なる英知は男性面を表わしています。そして両者は多くの創造物をもたらす為、一体となって働いているのです。

【解説】

私達自身、母の身体から生まれ出た訳で、この身体の源は各自の母に由来します。全ての生きものがこうして母なる存在からこの世に生み出され、その同じ法則は地球全体に行き渡っており、"母なる大地"と表現されることとなります。

一方で、本項ではその一つ一つの生誕を指導する究極の英知を父なる存在としています。各々の生き方、暮らし方に示唆を与える知性の存在もまた、その生育に不可欠であり、母性、父性の2つの働きが一体となっはじめて形あるものが創造されるということでしょう。

重要なのは、これら創造作用の中には他者への裁きや敵対的な要素は一切無いということでしょう。昔、"Love and Peace"とう表現がありましたが、大自然本来の営みの中には、豊かな愛情表現はあっても、好戦的な要素は無いところに気付いていた人達が当時も居たということです。

121 Ninety per cent of life as we see it is governed by the law of direct guidance. The 10% which is man, has separated himself from the law by using his free-will.

121 私達が見るところ生命の内90%が直接の指導によって治められています。残り10%の部分が人間については、自分の自由意志を使って法則から自分自身を分離させて来ているのです。

【解説】

私達人間が地球全体に10%程の影響を与えていると著者は指摘しているように思います。その人間自身、自分に与えられた自由意志が自分を宇宙の法則性からかけ離れたものにして来たという訳です。

宇宙から来る無言の印象に従うのではなく、人源は自ら考え、行動して知識を積み重ねて来ました。その結果、もはや他の動物をしのぎ、惑星を支配する文明にまで発展させています。

しかし、その自由意志が私達を墮落させ、倫理をおとしめ、欲望を助長する殺伐とした社会を作り出しているのです。何をしても自己責任、何をしても他人に知られなければOKという風潮は、私達が本来めざすべき姿ではありません。それらの結末は、決して好ましいものになることはないからです。

仏陀は人々に守るべき戒律を説きましたが、それは私達の自由意志をコントロールする一環でもあったと思われる。また、モーゼの十戒にも同様な響きを観ることが出来ます。最もいけないことは、自身の内側にある創造主の期待を裏切ることです。時には横道に入り込むこともある私達ですが、重要なのはこれらの反省に立って、私達は自らの意志、自由意志で創造主の門を叩いて、中に入れてもらうことだと考えています。

122 Let us assume that, the first man on earth did not have a teacher to guide him along the path of life, so he had to use nature as a teacher. i.e. As he listened to the winds passing through the trees with their varying types of leaves, he noticed that each produced a different sound. And as he listened to the birds and the rushing waters of the brooks and rivers, and other sounds that nature produces, he desired to reproduce the sounds. So he made a flute type whistle and later other instruments. Man innately desires to become as his Creator. So nature has been his greatest teacher.

122 ここで地球上の最初の人間が人生の道程を導く教師を持たず、自然を教師とせざるを得なかったと仮定しましょう。即ち彼は様々な形の葉を持つ木々の間を通り過ぎる風に耳を傾ける時、各々が異なる音を発することに気付きました。そして鳥達や溪流や川の水の流れやその他、自然が造り出す音に耳を傾ける時、彼はそれらの音を再現したいと思ったものです。そこで彼はフルートの形式の笛、そして後には他の楽器を作ったのです。人間は生来、自分を創造した創造主のようになりたいと願っているのです。ですから自然は彼の最も偉大なる教師であったのです。

【解説】

実は本項と類似したことが私達の置かれた状況とも言えるのではないのでしょうか。アダムスキー氏や他惑星からの支援者達が私達の近くに居る訳ではなく、私達は独りで自らの道を求めて進んで行く状況にあるからです。

その中で本項は、身近な自然に注目せよ、自然から学べと説いているように思います。丁度、原始の時代に人間が初めて笛を作ったように、自然を観察し真似ることで成長して来たということでしょう。

同様に、現代の私達の教師は常に身近にある自然であると言えます。先日もあるアジアの地で休日、寺巡りをしていた所、幹の所々から房（ふさ）のように束ねたたくさんの実を出すヤシの木と出会いました。残念ながら名前は分かりません。気が付くと木の上の方にはそれらが熟した大量の実が稔っています。数珠や房の形といい、お寺に相応しい植物ではと感心した次第です。おそらくは何らかの薬効成分も含んでいるものと思われれます。

私達の身の回りには、まだまだ初めて見る自然の不思議がいっぱいあります。それら学習、観察の機会を通じて、私達は自然から様々な事柄を学ぶことが出来ますし、その心境になれば私達は自然の一員となり、孤独ということはありません。多くの植物画の作家がそうであるように、自然観察の中には楽しみがいっぱい詰まっているということでもあるのです。

123 Even today man is going into the depths of the ocean and into space, only to learn from nature.

123 今日でさえ、人間は海洋深く潜ったり、宇宙に進出していますが、それらはただ自然から学ぶ目的からです。

【解説】

重要なのは自然、即ち宇宙と向き合う態度であろうと思われます。海洋深く探査することや地中の奥を調査することは、私達の棲む惑星を理解することが目的であるべきです。また、地面を掘り進める中で、過去の文明の遺構も発見され、地上でこれまでどのような事柄が起こったかも分かることでしょう。

東日本大震災以来、貞観（869年）の地震や津波の痕跡が注目されていますが、過去1000年単位で繰り広げられる大きな変動も地球のそこそこに記憶されています。

このように自然を探究することは私達に宇宙の経緯やこれまでこの惑星が辿った道のりの多くを学ぶ機会となっています。

同様に私達自身の過去についてもまずは知ろうとする努力も必要だと考えています。自分はどのような体験を本来持っているのか、自分自身を掘り下げ理解することも必要でしょう。それは必ずしも楽しい体験ばかりではないのですが、自分と向き合うことで学ぶことも多い筈です。

124 The most unfortunate part of man's learning is that his ego is impatient and tries to exalt itself above his teacher or Creator. And it is here that he makes his biggest mistakes, for he applies his will instead of Thy Will, and thus complicates things instead of simplifying them. He follows his mind which should be a pupil, instead of the consciousness which is the teacher and the life of every form. And yet his only salvation is to return back to Nature's guidance. For he can never become independent of it no matter how much he learns or how old he becomes. It will have to be nature by which he evaluates his knowledge.

124 人間の学習における最大の不幸は、人間のエゴが短気で自らを自分の教師である創造主の上に増長させようとすることにあります。そして人間がその最大の過ちを犯すのがここなのです。何故なら人間は「汝の意志」の代わりに自分の意志を用い、そうして物事を単純化する代わりに複雑化しようとするからです。人間は形有るあらゆるものの教師であり、生命である意識の代わりに、生徒であるべき自分の心に従っています。そして人間の唯一の救いは自然の導きに立ち返ることです。何故なら人間は如何に多くを学び、如何に年老いても自然から独立することは決して出来ません。人間が自分の知識を評価するのは自然によらざるを得ないのです。

【解説】

じっと解決策を授けて呉れる意識からの印象を待つこともなく、あるいは騒ぐ心の声があまりに大きすぎる為、それら差し伸べられる助言に気付くことなく、私達は自分自身で勝手な対応を続けています。もちろんその結果は更なる問題の拡散に繋がって行くという訳です。

本項で短気を戒めていることにも注意が必要です。他の者に命令ばかり、裁きばかりをして玉座に座り続けている私達は、一たび何か物事が思い通りに進まないと、直ぐに問題視したり、騒ぎ立て、混乱を助長しがちです。

それもこれも私達が意識から来る精妙なる印象の振動に同期することが出来ない低レベルの振動の持ち主であることにも起因しているのでしょう。謙虚に自然や宇宙に対して自らが学習者、訓練生の一人であることを自覚し、他の動植物がどのようにして安寧な暮らしを続けられているのか、観察を通じて学ぶことが肝要です。

125 Today we have scholars and learned men in all fields of endeavor, but all of them have to depend upon nature for their knowledge by studying nature's material and production of form life. And since man must depend upon nature for life itself, then it behoves him to let nature, rather than his ego, guide him. Or let his consciousness be his guide instead of his mind.

125 今日、私達の回りにはあらゆる努力分野において学者や知識人がいますが、彼等全ては自然界の物質や生命体の産生を学ぶことによって彼等の知識を自然に依存しなければなりません。そして人間は生命自体を自然に依存している以上、人間には自分のエゴよりは自然をして自分を導くようにする義務があるのです。言い換えれば自分の心に替えて、自分の意識を自らの導き手とすることです。

【解説】

おそらく本項で述べられているのは、多くの研究活動における秘訣と呼べるものではないかと考えています。研究の中では失敗はつきものですが、それは誤った概念の下、考え出された想定が現実と異なっていたことを意味します。しかし、それら失敗と思われる現象の中により価値のある要素が潜在していることも多々あるものです。それらの存在をそっと示唆するものが意識からの印象なのです。

結局、私達はこの意識の声である印象とどのようにして親しみ、受け入れやすい体質、心境になるかが問われているということでしょう。自らの心を常に謙虚にして、与えられる印象、インスピレーションを大切に扱うことです。特別な「行」を行うのではなく、日々の生活の中で心掛けるテーマとして著者は説いているように思います。

126 From experience we know that nature is governed by the Supreme Intelligence.

126 経験上、私達は自然が至上なる英知によって治められていることを知っています。

【解説】

本項で言う"至上なる英知"の機能を最も良く実感できるのは、私達自身の身体活動でしょう。私達の身体は私達の心が発する感情等から悪影響を受けることはあるものの、大部分は独自に活動を続け、身体を維持しています。それらは誰の指示で動いているのか、私達は考えて見る必要があるのです。

血液がくまなく全身を流れ、各細胞に必要な栄養素や酸素を運び、各細胞は各々の機能を果たし、絶えず更新を果たしていることでしょう。こくした全細胞は一説に60兆とか、37兆とかの数があるとされており、ある統制の下、地球の人間の数ほどの細胞が調和した人体を運営維持していることは驚きです。この統制者を"至上なる英知"と本項では呼んでいるのです。

私達はこの英知から各細胞に与えている指導の声、無言の印象にもっと関心を持ち、それらと調和した精神生活を送るべきです。生命力を表現している肉体を妨げる行動や想念活動をすべきでないことは明らかで、いち早くこの指導の声に従う心境を確立しなければなりません。

127 So let us go back to the word intelligence; We may look upon a man that from all appearances represents intelligence, yet when he expresses himself we realize our mistake. Yet when looking upon an unassuming, unimposing man we find from his expression that he is quite intelligent. So we do classify intelligence by expression or action.

127 そこで知性という言葉について立ち返ってみることにしましょう。私達はすべての外見要素から知性そのものであるような一人の人間を見かけたとします。しかし、彼が自分自身を表現した時、私達は自分達が間違っていたことを思い知ります。しかし一方、謙虚で出しゃばらない人間を見るとき、私達はこのような彼の表現からその者がまったく知性的な人物であることに気がきます。ですから、私達は表現や行動によって、実際、知性を分類しているのです。

【解説】

その者の知性は外見ではなく、その者の行動や発言等、表現の中に表われると説いています。とかく私達は外見を整えること、見た目の良しあしという自らの視覚の判断によって評価しがちです。しかし、その者の内側の知性と外見とはあまり関係がないと本項は私達に諭しているのです。

その証拠に私達は私達の身の回りに他惑星から来ている宇宙人に気付くこともありませんし、だまそうと近づいてくる者に容易にだまされ餌食になりやすいのです。

外見ではその人の本質が分からないことは、イエスも聖書の中で自分が復活して戻って来た時に多くの人達がその人物がイエスであることに気付かないと話していたこととも一致しています。

私達は形あるものの内部にある不変の魂、知性にもっと関心を持つべきで、視覚の反応に過ぎない外見への関心を捨て、そのものの本質を理解しようとする融和、融合的な心境になる必要があります。いわば自分の意識を対象の内部まで浸透させ、相手の意識と一体となることで相手を理解するというような感じかも知れません。

128 All nature is expressing intelligence in varying degrees, for there is not a form, even a grain of sand, that does not express the purpose for which it was created, even better than man. A blade of grass as a tender shoot will come through the hard crust of the earth as it uses the power of the cosmos and obeys the intelligence that directs it. Yet man finds it difficult to penetrate a hard surface.

128 全て自然は様々な程度に知性を表現しています。何故なら形有るものはどれ一つ、砂粒一つでさえ、それが創造された目的を表現していないものはおらず、人間以上に良く表現しているものさえいます。一枚の草の葉は、柔らかな新芽の時、地面の硬い塊を貫いて現れますが、それは宇宙のパワーを用い、それを導く知性に従っているのです。しかも人間には硬い地表を貫くなどということは困難であることが分かります。

【解説】

最近よく食卓に"スプラウト"がのぼるようになったのは、種が芽を吹く時点の生命力を私達も取り込みたいと思っていることに他なりません。種が発芽し、若芽が地中を上昇し伸び上がる様は、種から新芽へステップアップする目覚ましい光景として捉えることが出来ますし、その過程こそ本項で言う"知性"が顕在化している状況と言える訳です。

そういう意味では私達は春にこそ私達自身も含め自然界を貫く原理、宇宙的知性の働きを観る絶好の機会ということが出来ます。

種が芽吹くことについて思うことは、彼らは迷うことなく自らに示唆された指示を忠実に実行し、芽を伸ばした先が安全な環境なのかどうかは厭わないことです。芽吹いた直後に牛に食べられてしまうかも知れませんが、種はそのような保証を求めたり、躊躇することなく、変身を遂げようと精一杯の行動をするのです。

その多くは成長する過程で、他の者の餌となり、他の者に役立ち、自然界全体を回しているのです。その種たちに示唆する宇宙的指導には私達の考えが及ばない程の深い意味合いがあるということです。

ご連絡 [2017-03-14]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。
都合により、明日の更新はお休みします。

3月14日
竹島正

129 With all of the intelligence we have today, no man can give the exact answer of how an apple or any fruit became such from a flower. This shows us that as great as man's intelligence is, it is still puny compared to what is manifesting in nature, the expression of the Creator.

129 今日、私達が持つ知性の全てをもってしても、誰一人として一つの花からりんご、あるいは何らかの果物がどのようにしてそのように成るのか正確な答えを出せる者はいません。このことは人間の知性が偉大だとしても、創造主による表現、自然における現れと比べればそれは依然としてちっぽけなものであることを示しています。

【解説】

私達が如何にちっぽけな存在であるかについては、自分自身を観察すれば良く分かります。一生の内でもどれほどの事柄が達成できるかや自ら考え出した事柄等、大自然を生かしている一大知性に比べれば取るに足りないものと言えるでしょう。

そうした中、私達は自然を観察し、その秘められた機構や仕組みを学ぶことで創造主の深い配慮を知り、またそれらの指導に素直に従う動植物たちの潔さに感銘するものです。

よく見る光景として、車庫の地面を足早に移動する蟻たちがいますが、彼らは自動車が動き出し、タイヤで轢かれそうになっても、それら命を落とす危険を恐れて活動をやめたりはしません。気温が上昇し、蟻たちの行動に適した状況になれば、たとえ人に踏まれても何ら気に止めることなく、自分の使命を果たそうとするのです。

そこには失敗や死に対する恐怖は微塵も無く、ひたすら宇宙の法則に対する信頼があるということでしょう。そしてその信頼の延長戦上には生命の再生、生まれ変わりについての確信があるということかと思っています。

130 Luther Burbank expressed himself well when he said that nature gave him the knowledge of how to improve upon vegetation. He stated that he was working with the Creator, and through His creation he saw Him face to face. Man will never be free from the drudgery he now is enduring, and the confusion in which he finds himself, until he returns unto the true teacher, the conscious director of all creation. We live in and are a part of its manifestation.

130 ルーサー・バーバンクは、自然が自分に植物に対する改良の仕方の知識を与えてくれたと言ってその実態を良く表現しました。彼は創造主と共に働いていることや、創造主の創造を通じて彼は創造主を間近に見ているとも述べていました。人間は真実の教師、すべての創造物の意識の指揮者の元に帰らない内は、現在耐え忍んでいる骨折り仕事や自分自身の混乱から決して自由になることは無いでしょう。私達は創造の現れの中に生き、その一部であるからです。

【解説】

実際にこの宇宙的知性の指導に従った例として、著者はルーサー・バーバンクを挙げています。ご存知のように丁度エジソンと同時期に生きたバーバンクは日本でもトゲ無しサボテンやアイダホポテトその他、珍しい品種の開発者として知られています。現在でもサンフランシスコ郊外のサンタローザにはバーバンクの居住跡や温室等が保存され、記念公園 (<http://www.lutherburbank.org/>) が立っています。

そのルーサー・バーバンクは膨大な数の苗から驚くほど手早く目的の苗を選定したとされています。私も以前、その記念館を訪問したことがあります。当時の作業記録はわずかな手帳のメモが残る程度で、具体的な記録は残っておりません。おそらくバーバンクは畑を見回る中で、どれを育種すべきか瞬時のインスピレーションを得ていたということでしょう。

日々の行動を宇宙からのインスピレーションに委ねることが如何に大切かを私達に示す好例が、ルーサー・バーバンクなのです。

131 It is not the prayers, the mantrums or the meditations that will bring this to us. But a re-birth into a fully conscious being of cause instead of the mental effect. In other words we must reverse the process of our learning. Instead of being mentally aware as an ego of the mind the mind must become aware of consciousness, as it has in the past of itself. For conscious awareness is the key that unlocks the storehouse of knowledge to the mind. It is the link between the Creator and creation.

131 このことを私達にもたらずのは祈りでもマントラでも瞑想ではなく、心による結果に代わって因による完全に意識的存在への生まれ変わることなのです。言い換えれば、私達は自分達の学習の過程を逆転させなければなりません。即ちそれまでの自分自身のように、心に属する自我として認識するのではなく、心は意識に気付く必要があるのです。何故なら意識への気付きは心に知識の貯蔵庫を開く鍵であるからです。それは創造主と創造物との間をつなぐ環（きずな）なのです。

【解説】

真の意味での”生まれ変わり”への転換を本項で、著者は求めています。しかし、まだ私達はそのわずかな糸口を掴んでいるに過ぎません。本項では、それらは瞑想や読経等では到達できないとも述べています。

もちろん、厳しい苦行だけでもその覚醒は得られないのかも知れません。

本件について私達が思い出すのは、仏陀が長い苦行に従事し、多くの教師に出会う中でも覚醒には到達できず、最終的にはスジャータから捧げられた乳粥を摂り、これら行き過ぎた苦行では覚醒は得られないことを悟り、その後、数々の誘惑を克服して、最終的に悟りに至ったという話です。

つまり、私達のこれまでの考え方を一転させ、宇宙生命を支える”因”を知覚し、因に従うという一大転機が必要だということでしょう。これまでの自分を捨てること、全く異なる価値観に従って人生を送ることに通じていることでしょう。どうやって生まれ変わることが出来るかというニコデモの問いにイエスが答えたように、私達にはこれまでの心への依存でなく、自身の内側にあるもう一つの自分である意識への一大転機が必要だという訳です。

132 Once man realizes this and makes daily use of it, he will no longer complicate things and he will feel himself one with his creator.

132 一度、人がこのことを悟り、それを日々活用すれば、以後は物事を複雑化したりすることはなく、自分自身が創造主と一体になっているように感じることでしょう。

【解説】

上達のカギは日々の生活の中で実践に移すことであると本項は説いています。理論を一時的に学ぶことや、非日常的な精神状態の中で何かを掴もうと努力することよりは他の動植物たちと同様に、日常生活の中で意識の声を知覚し、印象に従うことの方がはるかに効果的だということでしょう。

とにかく私達は様々な理屈を設定し、議論して来ましたが、実際の真理とはもっと単純明快なものかと思えます。その単純さを如何にして知覚するかが重要となります。多くの哲学者が困難な課題を前に苦悩しているかと思いますが、真実はもっと単純であり、幼子でも理解出来る包容力を持ったものかと思えます。

一度その包容力に包まれれば、他に望み得るものはなく、安心して身を任せることが出来る筈です。私達が目指すべきこれらの自覚に向けて、日々の生活を誠実に送る中で、これまで私達をすっぽり覆っていた心のベールを取り去り、身の回りの世界の素晴らしさをいち早く認識すべきなのです。

133 The Venusians and others have done this, thus enabling them to advance as they have. They do not fight nature - but blend with it by understanding its laws. For this reason they honor all manifestations including their planet, as a Divine creation. They live the thought that a creator could not create anything lesser than himself. And with this feeling towards all nature they see Divinity expressing everywhere.

133 金星人や他の人々はこのことを既に達成しており、このことがそのように進化することを可能にしています。彼等は自然と戦うことはせず、その諸法則を理解することによって自然と溶け込むのです。この理由から、彼等は彼等の惑星をも含め全ての創造物を神聖なる創造作用の一つの現れとして敬います。彼等は創造主は自分より劣ったものを創造できないとする思想を実践しています。そして全ての自然に対しこの感覚を持つことで、彼等はあらゆる所に神聖の現れを見るのです。

【解説】

重要な点は、私達には困難と思われるこの意識による指導が、他惑星人には十二分に理解され、実践されているということでしょう。その上で、著者アダムスキー氏は私達にその取り組み姿勢について繰り返し説いているのです。

宇宙を貫く創造主の法則に従うことは本来はそう難しい課題ではない筈です。何故なら、地球上においても人間以外の動植物達は皆、この法則に従って素直に生き、生命を謳歌していると思われるからです。

そこで問題なのは、唯一私達の長年、増長してしまった心の取扱だけなのです。自らの心を鎮め、自らの主張を捨てて、宇宙から来る印象を大切に、自身を含めてあらゆる創造物への探求を通して、創造主の意図を学ぶことから始めるべきなのでしょう。

私達には既に手本があり、先人の歩みに従って進むことが出来るという訳です。

134 As Luther Burbank said, they see the Creator face to face. Thus they learn the relationship and purpose of all manifestations serving each other and thereby serving the creator.

134 ルーサー・バーバンクが言ったように、彼らは創造主に直接対面しています。彼らはそのようにして互いに奉仕し合い、そうすることで創造主に仕えている全ての創造物の相互関係と目的を学ぶのです。

【解説】

ルーサー・バーバンクも金星人達も日常、創造主と対面し、万物の関連性と役割を理解し学んでいるという訳です。まだ未熟な私達はこの種の心境を体験体得するものではありませんが、イエスが述べたように他惑星人は古来からこの心境を維持して来たということでしょう。

創造主を知ろうとする私達ですが、それは自身の中で最初に対面すべきなのかも知れません。自然環境の中には今なお手付かずの原生林があり、雄大な大自然もあるのですが、そこに行かなくても毎日のご自身の身体活動の中に、もし創造主を見出すことが出来ればどんなに素晴らしい毎日を送ることが出来るかと考えてしまいます。

生まれたばかりの人間の子はその誕生、再び生まれ出たことも喜ぶかのように、何を見ても微笑みますが、実は生まれたばかりの彼らこそ、日常的に創造主と対面を果たし、日常生活を享受しているのかも知れません。創造直後の存在物は創造主に対する記憶もしっかり維持しているという訳です。

135 In the next lesson we will explain this relationship. It is important to understand if confusion is to be eliminated. All that is asked of any one is to become more and more conscious of consciousness which is the true self behind every act or thought. In plain, give the consciousness the recognition you have been giving the ego mind, in everything you do or see. Be aware of the invisible intelligence behind every act and word. By doing this it will eventually become automatic for you.

135 次の教課ではこの関係を説明しましょう。混乱を取り除く為にはそのことを理解することが大切なのです。誰に依らず求められていることのすべては、あらゆる行動や考えの背後にある真実の自己である意識をもっともっと意識するようになることです。平たく言えば、あなたがこれまであなたが行ったり見たりするすべてにおいて、エゴの心に与えていた認識を意識に与えよということです。あらゆる行為と言葉の背後にある目に見えない知性に気付きなさい。こうすることによって遂にはあなたはそれを自動的に行えるようになるでしょう。

【解説】

本項では”意識”をもっと知覚する必要があること、またそれは従来私達が自分の心に与えて来た役割に替わるべき存在だとしています。つまりはこれまで私達が”自分の心”として取り扱って来たものの代わりに”意識”をその座に就かせることを求めています。

しかし、よく考えてみると私達自身、自らの心の実像についてよく知る者ではないのかも知れません。日常的には心の活動にさえ何ら気付くことなく惰性的、習慣的な精神生活を送っているのではないのでしょうか。

そして改めて内省する中で実に身勝手に怠惰、それに恐怖に支配された日常を送っていることがわかります。こうした中、私達は自分の心の働きの現実の姿を観ること、そしてその限界を知り、更にその背後にある”意識”の存在にこそ認識を与え、その姿を見るように勤めることが必要です。

その際、本項で著者が指摘するように、あらゆる行動や想念の源となっている”意識”という存在を知ろうとする姿勢が重要となります。その探求を繰り返すことで、次第に私達はその目に見えない存在に気付くことが出来るのです。

136 When you begin to enjoy and understand a broader field of life you will know that you are progressing. And ideas and thought will be coming faster than you have ever known before. Do not question anything from the standpoint of disbelief, but make an analysis of every thought and act to see if it was a premeditated mental reaction or a conscious one. And where it fits into your life in relationship to others.

136 あなたは自分がより広い生命の分野を楽しみ、理解し始めていけば、自分が進歩しつつあることが分かるでしょう。そしてアイデアや考えがこれまでに無い程、速く浮かんで来ることでしょう。何事にも不審の念に立って疑問を投げかけてはならず、あらゆる想念や行動をそれが前もって考え出された心の反応なのか、意識によるものなのか、他との関連においてあなたの生活の何処に当てはまるかについて分析することです。

【解説】

私達が正しい道程を歩んでいるかどうかは、これまでに比べてより多くのアイデアが湧き、多くの事柄に感動出来るようになることで分かります。たとえ同じ対象を見ても、“意識”とのつながりを得た者は、その対象の背後にある知性や美しさを認めることが出来るからです。

多くの芸術家は白いキャンバスに何を描くかを想起する時、キャンバス上に自分の描くべき事物や光景のイメージを見るのだと思います。自分に与えられた印象に対して素直に受け入れ、その中に秘められた意義を洞察することも必要になることでしょう。私達はその画家のようにやって来る印象に自身を同調させ、印象が意図するものを理解しようとする時、私達ははじめて創造主の手助けに従事できる栄誉に恵まれることとなります。

宇宙的印象は本来、大変貴重なものであり、私達は与えられた印象を取りこぼすことなく、自身の進化に活用する必要があります。

137 Keep your mind as much as possible on the finer qualities of life, as you would on a fine quality of music. And if you do this daily you cannot help but make progress.

137 あなたの心を精緻な音楽に耳を傾けるように、生命のより精妙さに関心を持ち続けさせなさい。毎日これを行えばあなたは進歩せざるを得なくなります。

【解説】

事物や行動或いは自然活動の中に、私達が何に気付くかが最も重要だということです。気付きの能力を得る、即ち”悟り”に至った後は、私達は様々な現象を通じて、その背後にある精妙な仕組みや法則性にも気付くことが出来、世界観、宇宙観にも繋がる理解力を育むことが出来ます。

これを達成する為には、日常的に心の中を通過するかすかな印象をキャッチ出来る感性が必要ですし、かつて自分が同様の印象を得た時の心境をよく覚えて置き、再びその状況を再現出来るよう心を整える必要があります。

同乗記には長老が毎秒何千もの想念・印象を感知すると書かれていたと思いますが、私達の進化の先にはそうしたレベルまで人間の能力は高められるということでしょう。世の中には年齢を重ねるにつれて”老化”が大きな問題となっていますが、ひとたび進化の道を進み出すなら、私達は能力が増すことはあっても衰えることはないという訳です。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COUESE

LESSON FOUR

The Relationship of All Creation

138 In the last lesson we stated that we would explain the relationship of all creation as simply as possible in order to eliminate confusion. We will deal with the many kingdoms that serve man. For without each he could not live and the Cosmic Plan would not be complete.

生命の科学—学習コース

第4課

創造物すべての関連性

138 前課では混乱を取り除く為に出来る限り単純に創造物すべての関連性を説明しようとして述べました。私達は人間に奉仕する数多くの王国について取扱うこととなります。何故なら、各々の王国が無ければ人は生きることが出来ませんし、宇宙の計画も完全にはならないからです。

【解説】

私達自身も含めて各々の役割や相互のつながりについて広く学ぶ必要があるという訳です。

何ものも独りでは生きていない訳で、私たちは人間だけでなく動物・植物・微生物、更には鉱物の支援と奉仕を受けてはじめて生きられるのです。

その理解が最も重要であり、その学習を通じて私達はそれらに共通した言語である印象のやり取りを身に付け、相互関係の中自身を理解する必要があります。

この理解の上に立てば、私達は自身が宇宙の生きた一員であることを自覚するに違いありませんし、自身の能力を生かすべき分野も見つけることが出来ます。学ぶ中で私達は自身の役割を果たすべき所、自らのジグソーパズルの1片を正しい位置にはめ込むことが出来るという訳です。

139 It is man's duty as the highest expression of intelligence to understand all of life's phases in relation to himself
139 英知の最高位の表現物として自分自身との関連におけるあらゆる生命の側面を理解することは人間の義務です。

【解説】

本課で身に付けるべきテーマが地球や宇宙における私達の存在位置という訳です。

とかく私達は他者のことには関心が持てないでいますが、私達自身が様々な存在物、動植物界から鉱物世界に至るまでの奉仕の結果に依存していることを知れば、それらとの関係を考えない訳には行きません。

そういう意味では私達の日々の生活の中で、どのようにこれらのもの達と関わっているかを積極的に学ぼうとすることが大切です。

とりわけ、日々の食事や衣服、住まいがどのようにしてもたらされたかを考えれば良いでしょう。その過程を通じて、私達は様々な奉仕の上に成り立っていることが分かる筈です。

最初はこれらは知識としての理解に留まるかも知れませんが、やがてその理解は印象の世界にまで及び、理解と洞察になるものと思われます。その結果、私達の視界は急速に広がり、宇宙との一体感を生まれるものと思われます。本課で学ぶ関連性は私達を豊かにして呉れるものです。

140 For analysis we will start with the invisible gases which seem to our understanding almost nothing. But within this kingdom are groups that vary in consistency and purpose. And from these come the many forms, as they solidify.

140 分析の為、私達の理解にはほとんど何も無いように見える目に見えないガス類から話しを始めることにしましょう。しかし、この王国の中にはその密度や目的を変化させるグループもあります。そしてこれらが凝固する際、それらの中から数多くの形が現れます。

【解説】

著者が最初に取り上げているのは気体の世界です。いわば目に見えない世界ということになります。私達が通常目にする対象物と私達自身の間は”何もない空間”だと私達の心は思いがちですが、物理や化学で習っているように、そこには莫大な数の気体分子があり、活発に動いているのです。

その”空気の重さ”は1 m立方で約1キロもある訳ですから、実に多くの数の分子原子がひしめいていることになります。

この気体は宇宙にまで境目がなく繋がっていますが、私達が空を見て分かるように、この気体の世界は風や雲、雨滴等々、様々な変化を私達に見せて呉れています。

著者はこれら気体の活動を関連性を学ぶ最初の科目にしているのです。仏教では”縁起”という表現を使うようですが、その縁起、即ち物事の関連性の由来はこのように目に見えない状態であることに注目したいのです。肉体も最後はそのほとんどが気体に帰る訳で、全ての原始状況は気体に行き着くということかも知れません。

141 In the gaseous state the highest activity exists. And the gases continuously combine and separate to bring forth the different combinations within the kingdom. Some combine and slow up their action and continue to do so until they become a form. In the first part of the slowing stage they become liquids which we classify as chemical elements. Thus in the liquid stage one chemical element mixes with another and creates phases that are different than they were originally.

141 気体の状態の中に最高レベルの活動が存在します。そして気体達はその王国の中で常に結合し分裂して異なる結合をもたらします。あるものは結合しそれらの行動を緩め、それを続けることによって遂には一つの形あるものになります。緩やかになる最初の部分では、私達が化学の要素で分類するところの液体になります。このように液体の段階で化学要素は互いに混じり合う結果、それらが元にあったのとは異なる諸側面をつくり出します。

【解説】

既に私達はこれまでの物理の研究成果から、気体状態における分子の運動について学んでおり、気体において各分子が最も活発な状況であることを知っています。

宇宙における恒星や惑星の創造という壮大なドラマについて、私達地球人はよく知る者ではありませんが、宇宙空間 (Space) と呼ぶように、一見何も無いと思われている空間には気体分子が充満し、それら活動の結果、やがて気体分子が液状に変化する等の創造過程を経ることになるという訳です。

本文に記されているこれらの状況について、詳細は不明ですが、おそらく著者アダムスキー氏は、他惑星人から与えられた知識を私達に授けているものと思われます。

視覚には”無”の空間と思える中に、創造の最高レベルの活動が起こっていることを私達が気付くというところが大切な部分です。従来、神秘とされていた部分を科学的に解明し、理解することが本講座の意義であり、本講座が他惑星文明からの恵みの書と言われる由縁でもあります。

142 Through this mixing process extreme heat and extreme cold and the many variations between result as the action continues. And some combinations of gases and liquids cause mild or violent combustions. But out of these come the solidification of liquids that are composed of gases and parts of matter. But they are so fine that we have not as yet been able to make a microscope or instruments able to detect them. Yet they are there, and have to be in order to produce what we know exists on this planet.

142 この混合の過程を通じてその活動が継続するにつれて、極端な高温と極端な低温、そして様々な中間領域が産み出されます。そして気体と液体の内、いくつかのものの組み合わせによっては、穏やかな、あるいは荒々しい燃焼を引き起こします。しかし、これらから気体と物質の一部からなる液体の固化が起ります。しかし、それらはとても微細な為、私達はそれらを検知できる顕微鏡や装置を作り上げることは未だ出来ていません。それでもそれらはそこに存在しており、この惑星で私達が知る存在するものを造り出す為にはなくてはならないのです。

【解説】

宇宙空間における万物創造のドラマは、この気体の状態における諸活動からもたらされるということでしょう。

この惑星も目下、崩壊の過程にあるとされていますが、やがてはその形を保つことが出来ず、宇宙の塵に戻るのかも知れません。そうした後、塵や微粒子となった後、再び本項に記されているように、惑星等の形成に参画することも有り得るのです。

前項でも記されていましたが、この目に見えない粒子群の状態、気体状態が最も活発ですが、それらがやがて小さな液状粒子になり、微小な核となると本文では説明されています。

丁度、水が水蒸気として気体に精化され、一定の活動を経た後、大気中で雨滴を形づくり、雨となって地上に戻る場合と同様です。これら大空の核は雲として私達は認識している訳ですが、その実態はこれら微細な粒子が空気中に漂っている状況です。

このように私達は日々の生活の中で、実際これら創造の過程を目にしていることになります。

143 So we naturally assume that all planets and forms are made of very much the same materials. And they vary only in size and fineness or coarseness of structure.

143 ですから、私達はおのずと全ての惑星や形有るものはとても似た物質から成り立っているものと考えています。それらは構造における大きさ、繊細さや粗さが異なっているに過ぎません。

【解説】

現在の地球人の理解では、人間が生存可能な惑星は地球以外には無いとの身勝手なものとなっています、しかし、少し考えれば永劫の宇宙の中で皆同様なガス体という基本状態から創造された以上、大多数の星々は、皆同様同質のものであると考えるのが自然です。

宇宙は地球と同じ法則で貫かれており、同じ創造主の下に生きているのです。

もちろん、地球上の化石から分かるように、各惑星は長年月をかけて進化の道程を歩んでおり、恐竜その他の繁茂する時期もあるのですが、いずれは人間が暮らせる段階に到達するものと思われま

その延長線上で考えれば、宇宙には無数の地球に似た惑星があり、地球と同様の営みが繰り広げられていることは容易に理解出来ることでしょう。まさに「父の家には多くの館がある」という訳です。

144 At this point let us go back and analyze, or speculate on what the steps would be to build a form embodying all of the elements necessary for self reproduction.

144 ここで自己再生に必要な要素全てを体現する形有るものを作り上げるのにどのような段階があるかについて振り返って分析し、また考察して見ましょう。

【解説】

これまでの記述を元に考えれば、原子分子等の微粒子の相互の活動に起因して液状化、微細な固体粒子が生成することが分かります。

しかし、これらのいわば”物質”段階から”生物”が構成されるには、一段と高いレベルの創造作用が必要であると考えられます。

今日的に言えば各細胞の構成を指導する遺伝物質DNAがその細胞の再生産や各部位への成長を支配している筈です。その大本のDNAはそれでは何処で創られているかについても、私達は考える必要があるという訳です。

具体的なことは分かりませんが、宇宙で行われている創造作用の内、最も精妙、深遠な部分はこれら遺伝物質が実際、宇宙の中で生み出されているということかと思えます。生命の基本となる部分にこそ、創造主の意図が織り込まれているのです。

ご連絡 [2017-04-06]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。
都合により、明日の更新はお休みします。

2015年4月6日

竹島正

145 One of the planets of our system would be a good place to start. As it represents one of billions of planets which in turn produce the many forms borne upon it.

145 私達の太陽系の中の一つの惑星は話しを始めるのに良い例となるでしょう。何故ならそれは、何十億もの惑星を代表しており、その後はその上に多くの形有るものを産み出すものだからです。

【解説】

目下の科学では地球の歴史は46億に遡るとされています。今日の地球の状態になるまでそれ程の年月を要したことになります。（注：地球誕生から現在までを「1年365日」のカレンダーとして表したサイトがあります。<http://www.ne.jp/asahi/21st/web/earthcalender.htm>）そしてその間、地球を構成する分子原子は輪廻転生を繰り返し、膨大な数の”生涯”を経験したという訳です。もしそれぞれに記憶される部位があるとすれば、私達が驚くほどの知識と経験とを有していることになります。

この地上に暮らす私達は、地面を掘り返しては自らが貴重だとする特定の鉱物を求め、”宝石”や”金”と名付けて環境汚染を引き起こしたり、わずかな存在でだるウランを抽出して、他国を攻撃するばかりか自らも破壊しかねない程の強力な兵器を作り出しています。これらは長年月培われた惑星をむしばむものでしかありません。

地球に暮らす私達にとって今、必要なことは、私達自身の肉体も含めて全ては地球という惑星から生まれ出たもの、共通の由来であることを自覚することです。全ての創造物が同じ源泉から生まれ出たものであり、兄弟姉妹であるということでしょう。そのことを仏陀やイエス、更には神道その他諸々の精神導師はいち早く理解し、人々にその保つべき心境を説いたものと思われまます。

146 Now let us visualize the steps of creation into form when the liquids begin to solidify by slowing up their action within the liquid kingdom as the gases did to form the liquids. For once the liquids begin to solidify they vanish just as the gases did. Even though they are ever active in the pattern of creation.

146 さて、気体が液体を形成したように、液体の王国の中でその活動を緩慢にし液体が固化し始める際の形有るものに至る創造の歩みを思い描いて見ましょう。何故なら、一端、液体が固化し始めるとそれら液体はガスの場合と同様に消滅するからです。しかしそれでも、それらは創造の形式の中では依然として活動を続けているのです。

【解説】

誰もが知っていることですが、硬い鉄の塊もアセチレントーチで温度を高めて行くと柔らかくなり、遂には溶けて液体に変化します。私達が知っている固体その他の物質の状態はこのように温度や圧力によって、液体や気体、固体という3つの相の間で変化するのです。

ここでは星の形成において最初はガス体が集積し、温度や圧力が高まり、液状になった後、その一部が冷えて固体になるという惑星誕生の過程を示唆しているものと思われます。地球内部には火山の噴火で分かるように、強烈な熱や圧力の下、岩が溶けたマグマが存在しますし、私達はまさに惑星創造の過程の中で生存している訳です。

本項は私達に万物の創造作用として、私達が目にする様々な物質は実は変容、変遷するものであることを伝えているように思います。全ては移ろい行くという意味では仏教にも似ていますが、それよりはもっと積極的に私達自身も含めて、全ては創造の過程に生きていると考えるべきでしょう。

147 This is a good example of what takes place : When we look into a beautiful clear sky, we do not see anything but the sky. Yet we know that between us and the blue are layers and layers of gases such as oxygen and hydrogen, etc., that we do not see. But once they slow up their activity a cloud will appear. And once it slows up its activity it may then reactivate itself and become totally invisible as it returns to its invisible gas. Yet even here we may speculate that some change has taken place among the original gases

147 起っていることの良い例がこれです。私達が美しく澄んだ空を見入ったとしても、私達にはその空しか見えません。しかし、私達は私達とその青い空の間には私達には見えない酸素や水素等のガスの幾重もの層があることを知っています。しかし、一旦それらが活動を弱めれば、雲が発生することでしょう。そしてその雲が活動を弱めたとしても、その後再び活動を活発化し、目に見えない気体へ戻り、完全に見えなくなってしまうかも知れません。それでも私達はその元の気体の間で何らかの変化が起ったと考えるかも知れません。

【解説】

青空を見上げる中で私達は時として何も無いと思っていた空間に雲が湧くことを知っています。本項はそうした現象の中に気体分子が液滴、更には固体の粒子への変化している過程を見ることを説いています。

飛行機に乗っているとよく分かることですが、大気は広大な海のように、様々な形態の雲が浮かんでおり、時に飛行機を大きく揺らす程、大気の気流は大きく変化しています。これらの元々の原因は、大気全体、地球全体の動向とも関係しているでしょうし、地球の運行や太陽の活動とも関連する壮大なドラマとも言えるものです。

このように実は私達の身の回りには、目で見分ける程の創造作用が起こっており、目に見えないものが目に見える存在になる事例も多いという訳です。その上で、私達は自身の感受性を高め、目に見えないものをガス体のように本来活発な活動を担う存在として認識することが大切です。言い換えれば、高度なもの程、目には見えない存在ということに気付くことかと思えます。

148 But should the cloud get heavier by continued slowing up of its action the atmosphere will begin to feel moist for now the gases are coming into a liquid state and moisture will start dropping to earth, which is the second kingdom in action

148 しかし、雲がその活動を減じ続けることによって濃密になって行けば、大気は湿気を感じるようになるでしょう。何故なら今や、ガス類は液体状態になりつつ有り、水分はやがて地上に落下しはじめることでしょう。それは活動する第二の王国のはじまりなのです。

【解説】

文字通り、私達創造物の全ては"無"から生じたと言えるかも知れません。即ち目には何一つ見えないガス体の状態から、目に見える状態に活動レベルを低減させ遂には形あるものとして存在するようになったからです。

しかし、実はその後も"無"とも言える大気と私達は密接に繋がっています。むしろ繋がらなくては生きて行けないのです。生きている限り休むことなく私達は呼吸を続けますが、その呼吸による酸素の摂取と二酸化炭素の排出無くしては、肉体は維持される筈もないからです。

このように私達は大気、即ち空間にも大きく依存している訳で、惑星を取り巻く空間が宇宙でもあり、私達を支えているということでしょう。日々繰り広げられる空の雲の動きの中に創造の営みを見ることは楽しいことでもあります。

ご連絡 [2017-04-13]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

都合により、次回更新は4月24日になる見込みです。
長期間、お休みとなりますが、ご了承下さい。

2017年4月13日
竹島 正

149 In order to clarify what we mean we can use the illustration of the creation of form when liquids transform into solids. A drop of water placed on dust will absorb the dust unto itself. And if a small amount of water is allowed to move slowly over dust it will absorb so much that the liquid vanishes and a mud ball takes its place. It is no longer liquid, but moisture that holds the dust together to form a sphere. Should there be enough liquid to absorb all of the dust that might be available there is no saying how large this sphere could become.

149 私達の意味するところをはっきりさせる為、液体が固体に変容する際の形あるものの創造についての例を用いることにしましょう。塵の上に載せられた一粒の水はその上に塵を吸収させます。そしてもし、小さな水玉が塵の上をゆっくり移動するようにさせたら、それは塵を最後には液体が見えなくなるまで吸収し、遂にはそれに代わってひとつの泥玉ができることでしょう。それはもはや液体ではなく、球体を形作る為塵を繋ぎ止めている水分なのです。もしすべての塵を吸収するに十分な液体があれば、この球体が何処まで大きくなるか誰も発言することは出来ません。

【解説】

本項では著者が一連のガス体から液体や固体に変化する創造的過程をより分かりやすくなるよう、例を説いています。

この例では水が塵に吸収され塵が粉体から泥玉に形作られる過程を記している訳ですが、そもそも私達が日常見る形あるものの本質が述べられているように思われます。つまり、私達の目の前にある創造物は、私達自身の肉体も含めて、この泥玉のようなものだと著者は示唆しているのではないのでしょうか。

私達の肉体は他とは明確に区別されている個体として私達は認識している訳ですが、それも元来は塵のかけらが人体を構成する為に集められたものと言えるでしょう。その集積する力を発揮しているのは、本文の事例では水という訳ですが、更にはより大きな創造作用のある要素が私達の肉体を維持し存続させているということになります。

従ってもし、これらの作用が維持できなくなれば、私達の肉体も含めて、全ての形あるものは元来のガス体に帰って行くに違いありません。

150 All of the particles of dust are made up of various gases which are capable of producing minerals as well as germs or seeds. And these can produce other forms once the proper conditions prevail. From the first kingdom to the present, activity continues in varying degrees that produces the changes.

150 塵の全ての粒子は様々なガス状物質から成り立っており、そのガス状物質は鉱物や胚や種子等を造り出す可能性を持っています。そしてこれらはひとたび適当な条件が広がれば、他の形有るものをも造り出すことができます。この最初の王国から今日まで、変化を造り出す活動が様々な度合に続いているのです。

【解説】

鉄もその融点（1500℃）以上の高温になると、ヒュームと呼ばれるガス体になるとされています。即ち、高温ではあらゆる元素がガス体になるという訳です。

本項では創造の始原段階で全てはガス体から始まると説かれており、あらゆる生命の源とも言うべき要素がこれらガス体の中で人知れず培われているとしています。原始混沌の中の創造の働きであり、創世記の記述が思い起こされます。

その後は宇宙における様々なバランス上、新たな星や惑星が形成されることになるや、これらガス体は更に集結し、微粒子（塵）となり、やがて新しい星や惑星が生まれ出され、"天地"が創造されるという訳です。

これら創造の物語の最初に位置するのがガス体であり、目に見えない存在というところが、ポイントかと思われま

ご連絡 [2017-04-25]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。
都合により、明日の更新はお休みします。

2017年4月25日

竹島正

151 We know that wherever there is activity from any source, energy is the result. We classify this energy as friction, static electricity, or kinetic. And it can be seen when clouds are forming and moving at a good rate of speed and take on what we call static electricity. And when they have a full charge they discharge this force in the form of lightning. If there are two or more clouds discharging towards each other and cross lines of force like two electric wires, at the point of crossing they produce a flash and an explosion. And at this point a lightning bolt may be created. This bolt contains most of the minerals known on earth. Prior to the discharging of the clouds there was apparently nothing but empty space between them, yet there must have been something there at the point of crossing to create a lightning bolt. The necessary elements were there and only needed the proper conditions to solidify them into the form we call a lightning bolt.

151 私達は如何なる源泉からにせよ、活動がある所には、エネルギーが結果として生まれます。私達はこのエネルギーを摩擦や静電気、あるいは運動エネルギーに分類します。そして雲が形成され高速度で移動していわゆる静電気を取り込んでいる時、それを目で見ることができます。そして満杯まで充電されると、それらは電光の形でこの力を放出するのです。もし二つ以上の雲が互いに放電しあい、2本の電線のように力線を交叉させている場合、交叉する点において、それらは電光と爆発を生じさせます。そしてこの時点で稲妻が造り出されるでしょう。この稲妻は地球上で知られているほとんどの鉱物を含んでいます。雲からの放電の以前にはそれら（雲）の間には見掛け上からっぽの空間があるだけでしたが、それでも交叉する時点で稲妻を造り出す何かがあった筈です。必要な要素はそこにあり、稲妻と呼ぶ形態にそれらを固化する為の適当な条件だけが必要だったのです。

【解説】

本項でまず注目したいのは、著者はエネルギーがあるから活動が生じるのではなく、活動の結果としてエネルギーが生まれると説いていることです。これまで私達は活動（行動）はエネルギーの結果の表現として捉えて来ましたが、どうもそれは誤りで、行動の結果としてエネルギーが生まれるという訳です。

具体的な例として、本項では雷雲の活動を説明しています。私達が何も無いと思っていた空に突如、雲が湧き起こり、電光（稲妻）や大音響の落雷が生じることを知っていますが、これも元はと言えば、雲の呼ばれる微細な氷核粒子が上昇する中で摩擦によって静電気を帯び、それが耐え切れない程帯電した後、一挙に放電するという訳です。

雷についてよく言われるのは、空気中の酸素や窒素がその高温のプラズマ状態により硝酸等の肥料成分が生じるとか、地球原始の時代に最初の有機物が生じたのもこの雷の働きであるということです。更に本項で著者は、この稲妻にはほとんどの鉱物が含まれていると説いています。まだ、私達は本当の大気の姿やその構成要素について知識を有していないという訳です。

私達の身近にある自然の諸活動の中に、これら惑星誕生や存続に不可欠な要素が数多く怒っていること、それらが目に見えないガス体の活動となっていることを自覚するところがポイントです。

152 This alone is proof that space is made of the elements which produce the many forms known to man that depend only upon the combination of the elements. As stated before, it can be said that the birthplace of forms is in space. And the miraculous part is that the law known as disintegration can also be called the law of birth. For when disintegration takes place, regardless of the form, the elements of which it was made return to the original state.

152 このことだけでも空間が人間に知られている多くの形有るものを作る元素から成り立っており、それら形有るものはその元素の組み合わせのみに依存しているということの証しとなります。以前に述べたように、形有るものの誕生の地は空間にあると言えるでしょう。そして分解として知られる法則はまた、誕生の法則として呼ばれるべきであることは奇跡的なところです。何故なら、形有るものに関わらず、分解が生じる時、それを作っていた元素が元の状態に回帰するからです。

【解説】

人が死後に土に還るとか荼毘に付され氣中に上るとか表現される訳ですが、私達の肉体は私達が生きている限り、必要不可欠なものですが、死後はその存在は不要であり、早々に分解、揮散が起こり、最終的には皆、ガス体に帰すということでしょう。般若心経では”空”という言葉でこのガス体を表現しているように思います。しかし、ここで注意したいのは、”空”は”Empty (空虚)”という意味ではなく、”宇宙 (Space)”と言うべき、ガス状物質が満ちた空間というイメージで語られているということです。以前にも記したと思いますが、かつてウエイン・ダイヤー氏が血液中の鉄について同様な主旨の発言をしています。鉄鉱石であった鉄が様々な経緯を経て人の血液中の重要成分として酸素を細胞の隅々に運ぶ働きを持ったことを揚げています。鉄の原子にとっては、鉱山の奥深くにじっと待っているよりは、人間を活かす働きを担った方がはるかに多くの体験をするでしょうし、やりがいもある筈です。私達はどのように多くのガス状原子に体験を与える役割と責任を持っていることとなります。

153 All gases contain the potential of repeating the cycle again and again. Everything in nature seems to be doing this. Which means that the gases in their original state seem to be constant, while the forms come and go. All of this takes place in a continuous state of action in varying degrees which we could call speeds or frequencies.

153 すべてのガス成分はその循環を何度も何度も繰り返せる能力を有しています。自然におけるあらゆるものがこうしているように見えます。つまり、形が行き来する一方でガス成分の元々の状態は変わらないように見えることを意味します。これら全ては私達が速度や周波数と呼ぶような様々な度合いの中、連続した活動状態として起っているのです。

【解説】

”形あるものは移りゆく”、”すべては無に帰す”とは仏教の表現ですが、本項はまさにその理（ことわり）を説いているようです。仏陀は紀元前6世紀の誕生とされており、その説かれた教えは、後年のイエスの教えとともに、実際には他惑星において培われた真理にも由来していることを、本項から感じ取ることが出来ます。

ここで重要なことはガス体（”空”）や宇宙（”Space”）の中に普遍的な存在状態があるということです。私達自身の肉体も含めて形あるものは絶えず変化し、究極にはガス体の状態に原子を解放してあげる必要があるという訳です。つまりはいつまでも各原子を自分の身体に閉じ込めて置くべきではなく、より大なるものを形成する為に解き放つべきだということでしょう。

私達を取り扱っているこの講座は、科学の探究として生命活動の本質を学び、私達自身を理解することを目指しています。

154 The primal force of creation, the Cause, or purpose, is constant. While the manifestations or effects of the cause are transitory. All of this is governed by varying vibrations, speeds or frequencies, which in their change constantly produce new effects. And each is important to the other, for no part could perform as it does in the absence of the others.

154 創造の主なる力、因、あるいは目的は不変です。一方、形の現れや因の結果はつかの間のものです。それらすべては振動や速度、周波数の変化に支配されており、それらの変化にあたって、絶えず新しい結果を生み出しているのです。そしてそれぞれは、他にとって重要であり、いかなる部分も他の存在無しには自らの任務を果たすことができません。

【解説】

本項の内容も前項と同じく、形あるものは絶えず変化することについて述べています。その根本的原理はかく言う創造作用自体が振動や速度に直結しており、他との関係において影響を受けるからとしています。

これを言い換えれば、物質を構成する各原子の振動、原子核を巡る電子のスピン（回転）は他の振動やスピンと互いに影響し合い、常に変化するということかと思えます。私達は気付かないのですが、全てのものが互いに影響を受けながら変化しているということでしょう。

これら振動に影響されるという点で重要なことは、想念波によって物質は影響を受けるということです。刻々と発する私達の想念は、私達自身の肉体にその最も大きな影響を与えます。悲しみや怒りが如何にご自身を傷つけてしまうのかは、よくよく考えねばなりません。

私達が保つべき心の状態（心境）はどのようなものであるべきかは、自らの想念が自分ばかりでなく他者にも大きな影響を与えていることを考えれば、自ずと明らかである筈です。イエスが説いた博愛や仏陀が説いた慈悲の心境は単なる心構えではなく、こうした物質の真相に基づいたものであったのです。

155 I trust that we now have some light or understanding of the first kingdoms, and how it may have been possible for creation to take place from what appeared to be nothingness, into form manifestation. Yet we may go a little further and ask, where did the gases come from in the beginning? And what, or who, set the law of attraction and repulsion in action where the various gases either combine with or repel one another ?

155 私達は今や第一の王国について、また、どのようにして一見何も無いように見える所から形有るものに創造が起こり得るのかについて、いくらかの光明あるいは理解を得ているものと信じています。私達は更に進んで最初にガス成分は何処から来たのかと尋ねるかも知れません。そして何が、あるいは誰が様々な気体が互いに結合したり反発したりする活動に親和や反発の法則を設けたのかと。

【解説】

更に探究を進めれば、本項にあるように、そもそも原子は何処から来たのか、また法則は誰が創り上げたのかに行き着きます。

誰でも中学や高校時代に元素の周期律表を学んだことでしょう。実は多様な原子もそのような表に整理され、系統別に整えられる訳です。ちなみに仏教の曼荼羅は宇宙の成り立ちを説くものとされていますが、私にとって、これは周期律表にも繋がるイメージがあります。

私自身、自分の役割、即ち自然界における立ち位置について十分理解出来てはいませんが、本来はより大きい曼荼羅の構図の中で位置づけが為されている筈だと思うのです。そして宇宙の諸法則も、これらの間を関係づけるものとして成立しているものと思われまます。

私達は未だ理解出来ていませんが、宇宙にあまねく存在する原子を統制し、創造の過程に駆り立てる存在があることは確かですし、私達はその流れに従って各自の出来ること、即ち才能を發揮すべきことは言うまでもありません。

156 In the first two stages we find that some kind of intelligence as we call it, was the director behind the scenes.

156 この最初の二つの段階の中、私達がある種の知性と呼ぶものがそれらの光景の背後の指導者であったことに気がきます。

【解説】

各分子・原子が動き回る混沌とした状態の中から、液体や固体が形成されて行く過程には必ずそれを導く法則、創造主の意図がある筈です。本項で著者はその意図を見抜くよう求めているのです。

とかく私達は目に見える状態、形になった段階で初めてその存在に気付く訳ですが、実はそれに先行して生じているプロセスに創造のエッセンスが存在するということでしょう。つまりは目に見えない空間や極微の世界に活発な創造作用が起こっているという訳です。

目の前の空間を何も無い空虚(Empty)な場所と捉えることと、原子・分子が密集する中、創造作用が目まぐるしく起こっていると観ることに大きな差があることが分かります。

157 Do we not classify intelligence on a basis of an expression or manifestation? Isn't it true that we judge a man's intelligence by how well he expresses himself or how well he produces something or behaves? And if he does not come up to the standards of society he is called a moron. Doesn't this manifestation which appears to be more orderly in bringing forth results, baffle men representing intelligence? I would say that it does, and we will notice this more as we go on. It shows that there is an overall Cosmic Intelligence as well as Cosmic laws that governs all creation. And this intelligence does not need a form as it embodies itself in all forms for various purposes. And all manifestations through the gases and mineral kingdoms will themselves to this intelligence except man.

157 私達は知性を表現や創作を基礎に分類していないのでしょうか。私達はその者が如何に上手に自らを表現するかとか、如何に上手に何かを造り上げるとか振舞うとかによって、その者の知性を査定しているということではないのでしょうか。そしてもしその者が社会の標準に達していない場合、その者はまぬけと呼ばれます。そういう意味では、はるかに整然と結果をもたらしているように見えるこの創造作用は知性を代表する人間を当惑させてはいないのでしょうか。私はそうだと思いますし、私達は先に進むにつれてそのことに気付くことになることでしょうか。全ての創造物を支配する宇宙の法則とともに総体的な宇宙の知性が存在するのです。そしてこの知性は様々な目的の万物の中に自らを体現している為、ひとつの形を持つ必要はありません。そして気体や鉱物の王国の中のすべての創造物は、人間を除いてこの知性に自らを委ねているのです。

【解説】

私達は自然の中に何を観るべきか、何を学ぶべきかを本項は説いています。

ある人は花の美しさ、またある人は小鳥達の姿をめぐるかも知れません。これらはもちろん、自然の造形の作品であり、その美しさは細部を観察すればするほど、目を見張るほどの調和と美しさを備えたものであることに気付きます。

今日では良いカメラも出来ていますので、その感動を写真に収めることも容易な時代になりました。こうした中、私達はここで自然の中の美しさを単にその形あるものの表層的な美しさだけに目を置いてはいけないと思う訳です。

本項では、それら創造物を指導し、導いている宇宙の法則性を観ることを説いています。私達自身、今後どのように生きるべきかも含め、私達が頼りにすべきはこの目に見えない法則であるのです。

158 We have the evidence that all matter that does lend itself, is in a constant state of existence. And is everlastingly being refined into a higher state of expression or service to all parts, fulfilling the Cosmic Purpose. We know this to be true for the earth made of matter has existed for billions of years and has gone through many changes. Yet human civilizations have come and gone. One continues under the will of a creator, while the other ends through the will of the mind. This does not mean that the matter of which man is made ends. Nor does it mean that the consciousness ends. But the ego mind has an end when it insists on acting independent of the Cosmic Intelligence. For the only things that continue on are Cosmic Consciousness and matter, through the process of constant action and newness.

158 私達には自らを貸し与えているすべての物質が常に変わらぬ生存状態にある証拠があります。そしてそれは宇宙的目的を成就する為、より高い表現状態やすべての部分に奉仕する中で、永続的に洗練されているのです。物質から出来た地球が何十億年も存在し、多くの変化を経て来たことにより、私達はこれが真実であることを知っています。しかし、人類の文明はこの間、去来して来ました。ある文明は創造主の意志の下、続きましたが、他は心の意志を経た結果、終わっています。このことは人間を作っている物質が終りになるということを意味するものではありません。また、その意識が終ることを意味するものでもないのです。エゴの心が宇宙的英知から独立して行動することを主張する時、終末を迎えるのです。何故なら、永続する唯一のものは永続的な活動と新鮮さの過程を通じた宇宙意識と物質であるからです。

【解説】

形あるものは移ろう訳ですが、それでもそれらを構成する成分である分子・原子は変わることなく存在し続け、再び新たな創造の過程に活躍する筈です。以前、ウエイン・ダイヤー氏が自分の血液中の鉄分は死後、何処に行くのかと問い掛けた講演記録を聞いたことがあります。鉄の原子は自分の死後も大地で生き続けることを私達は知覚しなければなりません。

一方で、人間の造り上げた文明の遺産は衰亡の過程を幾度となく過ぎて来ました。つまり、人の心を拠り所とするものは文字通りはかない存在なのです。一方、それに引き換え宇宙創造の作用は、これら人間の心には左右されず、普遍的な力を発揮します。

このことは仮に現在の文明が核兵器の開発競争や宗教対立、更には戦争経済の支配者によって再び滅びることがあっても、宇宙の中には再びエデンの園を創り出す力が備わっているということでしょう。私達が学び、吸収すべきは、宇宙の中に浸透しているこれら創造作用の源泉ということになります。

159 Yet even the human form has evolved because matter lends itself unto the Cosmic Will and keeps progressing. And the matter of which the human form is made has a certain influence upon the mind or ego. So the mind has progressed also to a small degree. Not because of its own will but because of the part that the body intelligence plays upon it.

159 しかもこの人体ですら、物質が自らを宇宙の意志に委ね、進歩を続けているが故に進歩して来ました。そして人体を構成する物質が心或いはエゴに幾分かの影響を与えています。その為、心もまた、わずかながら進歩してきました。心自身の意志の故でなく、肉体の知性が作用する部分の故にです。

【解説】

人体自身も進化の道を歩んでいることは過去の地上の原人達や古代人の体型の変化からも理解出来ます。本項で述べられているのは、こうした人体の進化変遷には人体を構成する原子・分子達の向上心が寄与しているということでしょう。私達自身、私達の身体を構成する要素から常に助けられているということでもあります。

このように宇宙は自然と進化向上の途上にある訳ですし、その進歩を妨げる唯一のものが、私達自身の心であり、その驕りや強欲さ、支配欲にあるのです。その結果、犯罪者や策略家は一時の繁栄を得ても、本質的に宇宙を貫く法則を相容れない以上、長続きする筈もなく、その末路は惨めで落胆した状況でこの世を終わることになります。

しかし、これら宇宙の法則の方向性を学び、それに沿った方向に自ら歩んで行けばこれらの法則が皆さまの背中を押してくれる筈です。そして進化の道の歩みを加速することは間違いありません。宇宙における基本的な方向性を知り、それらを自らの進化の力とすることが大切です。

160 i.e. Scientists have recently discovered that the memory of life's experiences are recorded within each molecule within the cells of a form. And each form of man is made of trillions of cells. And each cell in turn is made of thousands of molecules which carry a memory pattern of past and present action and a pattern for future action. These molecules are grouped for service to the many parts of the body according to the function of the part but all are interrelated. They not only carry the memory of the progress that an individual form and mind has made, but also the progress of all matter from the lowest conceivable stage to the present. This could be called the foundation of form growth guided by the memory molecules known as consciousness. This gives us a clue how a consciously alerted person who has learned to submit his critical mind to the obedience of conscious impressions that are given steadily by the molecules, can receive much information.

160 即ち、科学者は生命における体験の記憶はその身体の細胞内に記録されることを最近発見しています。そして人体は何兆もの細胞からなっているのです。そして個々の細胞は過去と現在の行動や未来の行動に関する記憶パターンとを運ぶ何千もの分子から構成されています。これらの分子群は肉体の多くの部分の機能に応じて各部に奉仕するようグループ化されていますが、皆相互に関連しています。それらは個々の肉体や心が成した進歩の記憶だけでなく、認識できる最も低次の段階から今日にいたるまでの全ての物質の進歩をも運んでいます。これは一つの意識として知られる記憶分子達に導かれた形有るものの成長の土台と呼ばれるべきものです。これは意識的に警戒状態にある人がこれら分子達によって絶えず与えられている意識的印象に自身の批判的な心を解き放つことによって、如何に多くの情報を得られるかがカギとなっています。

【解説】

記憶が人体各細胞に残されることは重要です。私達の日々の行動や想念の一つ一つが細胞を構成する分子に記録されることは、太古からの地球の歩みもまた分子に受け継がれることとなります。

私達はこれまで人間の自我だけが唯一の知性であるなどと勝手に主張して来ましたが、実は自身も含めあらゆる物質には宇宙開闢以来の歴史が詰まっているということにもなるからです。

問題はその知性をどのように取り出すかにある訳ですが、その前に私達は自身をそのような妙なる振動に同調出来るよう、心を清らかに保つ必要があります。これら精妙なる調べに同調するためには、心を柔軟・受容的にして置く必要があります。

その上で、これら身内から来る知性を受け取り、それらを自らの将来に生かすことで進化を遂げることが出来るというものでしょう。

161 We know something about psychometry that permits a person to hold a ring or a watch belonging to another and give the owner a reading. These people have schooled themselves to accept impressions that come, without any feeling of doubt. And these impressions come in vibrations from the molecules that have had the experience.

161 私達はある人物に他の者に属する指輪や腕時計を握らせ、その持ち主にリーディングを与える精神測定（サイコメトリー）について幾分か知っています。これらのことが出来る人々は如何なる疑問の感じを持たずにやって来る印象類を受け入れるよう自分自身を訓練して来ました。そしてこれらの印象はその体験を持った分子から振動としてやって来るのです。

【解説】

私達は想念は物質に記録されるとは考えて来ましたが、その原理は本項に示されているように、その想念は分子・原子に記録され、後年再びそれらの想念を分子・原子から感受することにある訳です。決して不思議な現象でも、誰かの未知の超能力でもないところが重要なポイントです。

即ち、誰でもご自身の感度を高めれば、それら残存する想念に同調することが出来る訳です。そういう意味では、地球にある様々な巡礼は、かつて偉大な導師達が過ごした場所を巡る中で、これら残存する導師の想念を感じ取ろうとする意義があるのではないのでしょうか。

しかし、より重要な点は、日々私達がどのような想念を自身の肉体を構成する細胞、即ち分子・原子達に浸透させているかにあります。将来ともに残留する日常の想念が絶えず自身の肉体各部に染み込まれていることは、畏れ多い限りと言う他はありません。

162 We can say that these tiny memory molecules are actually conscious entities capable of maintaining the form and guiding the mind if the ego allows it to do so. They are the knowers of all that has ever been or is. This proves that the human mind once properly schooled can commune with all forms in nature. And mysteries regarding life would not longer prevail. And secrets and guess work would cease to be, for these tiny memory molecules have recorded all action.

162 私達はこれら小さな記憶分子達が実際、形有るものを保ち、もしエゴがそれを許すなら心を導くことができる意識的な実体であると言えます。彼等はかつて存在したあるいは現在存在する全てのものを知る者です。このことは人間の心は一旦適切に訓練されれば、自然にある全ての形有るものと親しく語り合うことが出来ることを意味しています。そうなれば、生命に関する神秘はもはやはびこることはないでしょう。また秘密や憶測の作業は終わりを遂げることでしょう。何故ならこれら小さな記憶分子群は全ての行動を記録しているからです。

【解説】

具体的にどのような仕組みで各分子・原子に想念が記録されるのかは明かされていませんが、著者が本分中に"memory molecules (記憶分子群)"と述べていることから、私達は各細胞のDNAその他の遺伝物質がその主要なものと考えることが出来ます。

この場合、記憶分子が遺伝することを考えるといわゆる"日本人が持つ性格"とか"親の気質そっくり"とか言われる事柄も、実際にはこれら記憶分子「の発現効果である可能性も高いことが分かります。芸術家が何世代も継承されて行く背景には、これら記憶分子の効能も多く含んでいるのかも知れません。

このように考えると、現代に生きる私達は未来の子供達への責任も大きいことが分かります。良質な想念、良質な記憶を積み重ねる中で、未来の人類に発現する要素を日々蓄える必要もあるからです。

163 This is the true Cosmic Self. This discovery has been made with the help of our space brothers many years ago, but not until now do our scientists realize its value and potential. And they named it DNA and RNA. Yet the space brothers have been using this knowledge for thousands of years. And they have applied it in their daily life by schooling their minds to be obedient to impressions coming from these memory carriers

163 これこそが真実の宇宙的自我というものです。その発見は何年も前に宇宙兄弟達の支援によって成されましたが、最近まで私達の科学者達はその価値と潜在能力について認識して来ませんでした。それで科学者達はそれをDNAやRNAと名付けました。しかし、宇宙兄弟達は何千年もの間、この知識を活用し続けています。そして彼等はこれら記憶の運び手からやって来る印象類に従うよう自らの心を訓練することによって自分達の日常生活にそれを応用して来たのです。

【解説】

本文で著者が説いている内容と比較すれば、現代の分子生物学と称される分野は、本項で述べられているDNAやRNAという遺伝物質が有する本来の機能のわずか一部しか取り扱っていないように思います。即ち、生物種の同定、個人の識別等であり、一方では遺伝子組み換え操作等、誤った方向に応用することも行われている訳です。

しかし、本項を学ぶ私達は、私達自身の肉体細胞それぞれに含まれるこれら遺伝物質こそが永劫の間、蓄積された知識を持ち、また各個体が体験した記憶を保存していることを深く認識する必要があります。自らが持つ膨大な記憶を紐解くことが各自のこれからの進化にとって必要なことなのです。

生物が子孫を残すことは自然界の基本であり、動植物のこれら営みの成果の上に各生物が生存しています。そういう意味では各々の種の生殖活動には本来、宇宙的な役割と意義が含まれていることが分かります。人類の進化は世代を受け継ぎながら進んで行く訳ですが、祖先の体験や文化が子子孫孫に生かされるようになれば、未来は明るいものとなる筈です。その為にも、他惑星人が達成しているように、先ずは私達自身、自らの中に太古から連なる知識や記憶を活用するすべを身に付けなければなりません。

164 DNA according to scientists is a master blue print which carries instructions of life. And anyone who has given thought to the creation of form life, whether of man or an insect, must admit that there is some kind of intelligence that directs the structure of the form. As there are no two identical forms, this suggests that there are minor changes in each case. And that the matter which is used in making the form must have a certain kind of intelligence in order to receive directions.

164 科学者達によればDNAは生命の指令を運ぶ設計原図であるとのこと。そして人間であれ昆虫であれ、生命体の創造に考えを寄せた者は誰でもその形ある者の構造を指揮するある種の知性が存在することを認めなければならないでしょう。また、全く同一な形が無い以上、各々の場合においてわずかな変化があることが分かります。そして形有るものを造る中で用いられた物質もまた、指示を受ける為にある種の知性を持っている必要があるのです。

【解説】

もちろん、細胞の設計図を持つDNAではありますが、それだけでは新しい細胞を生み出すことは出来ません。何より全ての分子・原子がそれらDNAの指示する内容を理解し、従う必要がある訳です。言い換えれば全ての分子・原子はこれら創造過程を含めあらゆる知性に反応するということでしょう。

よく仏教説話の中に仏陀が歩いた跡に花が咲いたとか、様々な動物が仏陀に従ったという話がありますが、それも高いレベルの想念にはあらゆる動植物が呼応することを示唆しているのです。

私達各自は、自らを実験対象として如何に日々の想念が自身の肉体に影響を与えるかを確認する必要があります。個々の細胞の動きまでは把握できませんが、少なくとも身体全体の状況を注意深く観察し、自らの想念レベルによって最も大きく影響を受ける自身の身体の変化との関係を学ぶ必要があります。

これら日常的な研究を通じて、何が宇宙的、即ち宇宙の法則に沿ったものであり、何がそうでないかを理解することが出来ます。もちろん誤りは人の常ですので、誤りに気付いた段階で適宜、誤りを修正し、前に進んで行くことが重要なことは言うまでもありません。

165 In the study of life, on other planets, half of the DNA would be considered the feminine part, and the other half the masculine. And there is constant relationship going on between the two parts which produces the messenger called RNA. And this carries the information of heredity or specific instructions, depending upon the type of a form. And as you can now see, there is a trinity involved. Two phases of DNA and one of RNA. You can also see that the two parts of DNA manufacture the RNA with a specific message.

165 他の惑星における生命の学習では、DNAの半分は女性部分、残りの半分は男性部分と考えられていることでしょう。そして、それら二つの間にはRNAと呼ばれるメッセンジャーを造り出す不断の関係があります。また、これ（メッセンジャー）は生命体のタイプによって異なる遺伝の情報や個別の指令を運びます。そうすると、既にお分かりのように、三位一体がそこに関連されています。DNAの二つの側面と一つのRNAです。そしてあなたは、二つのDNAの部分が特定のメッセージを携えたRNAを造り出していることも見る事ができます。

【解説】

DNAの二重らせん構造には、男性・女性それぞれの要素の一体化という意味があることにも私達は気付く必要があるという訳です。

日本では正月の飾りや神社の本殿に掲げられる注連縄（しめなわ）がありますが、本来の意図は、私達に生命の本源的なパターンとしてこれら遺伝分子の構造と男性・女性の役割について教示するものであるのかも知れません。詳細については知りませんが、出雲大社の巨大な注連縄にはよほど大きな意図があつて、歴代作られて来たものと考えられるべきかと思われまふ。

これまで知るところでは、DNAの基本構造は比較的単純でデオキシリボースと言う五角形の糖の2つの位置にりん酸が繋がった鎖状の骨格を成し、それぞれA（アデニン）とT（チミン）、G（グアニン）とC（シトシン）という物質のペアが結合し、それぞれ2本の骨格がA-TとG-Cで繋がりに合っているというものです。

比較的単純な構造とも言えますが、そのA-TとG-Cのみが結合点という所が、DNAの二重構造が剥がされ、それぞれ一重になった後でも再び片方からでも元のDNAに復元できることにもなる訳です。生まれ変わりの際、男性は女性に、女性は男性に転生すると考えることもこれに類したことも知れません。

これらDNAやそれに付随するRNAの機能の意味については、より深遠な意味があることを本項で著者は示している訳で、私達も日常、その意味を考える必要があります。

166 Protons in a form are very important for the creation of a messenger. The germ called E in science, or COLI flourishes in the intestinal tract of any form, and is referred to as ribson. As every form must feed on something, the food must be converted into protons and other needs. The whole procedure is chemical, and apparently according to science, the ribson acts as a universal translator.

166 メッセージャーを造り出すのにその生物体の中の陽子が大変重要になります。科学でE 或いはCOLI と呼ばれる細菌（訳者注："Escherichia coli"、略称"E.coli"と呼ばれている"大腸菌"のこと）はどのような生物体でも腸管に繁殖し、リボゾームに関連し言及されています。あらゆる生物体は何らかのものを食する必要があり、食物は陽子やその他の必要物に転換されなければなりません。すべての手順は化学的であり、科学によればそのリボゾームは普遍的な翻訳者として活動しているとされています。（訳者注：原文の"Protons(陽子)"は"Proteins(蛋白質)"の誤記の可能性もありますが、そのままの訳としています。なお、原文の"ribson"は"ribosome (リボゾーム)"の綴り誤記と解釈しています）

【解説】

本項執筆当時、既に著者は今日で言うメッセージャーRNAと呼ばれるDNAの持つ情報を転写して送り込まれる役割を持つ要素について述べていることは驚きです。本項の内容について未だ著者の示唆する内容に理解出来ていない部分もあるのですが、私達の身体内で起こっている細胞の合成、増殖について説かれていることは容易に理解出来ることでしょう。特に私達の腸の中の主要な細菌である大腸菌が大きな役割を担っていることを示唆していることも重要なポイントでしょう。

普段何の注意もせず当たり前と思っている事柄の中には私達を根底から支える仕組みが働いている訳です。

こうした知識を知った上で日常の生活をしている者とそれらを考慮することなく生活を送っている者の差は実は大変大きいのではないかと考えます。もしその精緻な仕組みを意識していれば、やがてそれらの"因"からの印象も感受でき、同期することも出来るようになると思うからです。本講座のタイトル「生命の科学」はその点を目指した学習でもあるのです。

167 Cells in a form are grouped for specific purposes. i.e. The cells used to make a heart could not be used to make a brain, etc. But each group is in harmony with the others to produce a manifestation of a perfect form for a specific purpose.

167 体内の細胞達は特定の目的毎にグループ化されています。即ち、心臓を造り上げる細胞達は脳やその他を造るのに用いられることはありません。しかし、各々のグループは特定の目的の為、完全なる肉体を現出させる為に、他と調和しています。

【解説】

現代の科学レベルによる説明では、身体の細胞は皆同じDNAを持つとされています。DNAは全細胞の設計図を有しているという訳です。当初の受精卵から細胞分裂が生じ、各々の細胞の形成が進むのは、その細胞分裂の過程で特定の部位に相当する部分の設計図が読み込まれることによるとされています。そうして各器官に分化されて行くようです。

その過程で心臓は心臓を形成する為の細胞、脳は脳細胞がそれぞれ形成されて器官を構成する訳です。言い替えば、全員が等しく全能の能力を潜在的に有していますが、具体的な場面では各自は自らの役割分担を責任を持って達成し機能することで身体全体を機能させていることが分かります。同様に私達の社会も各自の潜在能力は皆平等であり、社会を機能させる為に様々な職業が必要だということでもあります。

168 I use this portion of scientific discovery in relation to memory and heredity to show that this type of intelligence operates independent of the mind. But the mind must learn about it in order to cooperate. And in this way the mind will know what has transpired in the past and what is taking place in the present.

168 私は記憶と承継に関係するこの部分の科学的発見をこの種の知性が心とは独立して作用していることを示す為に用いました。しかし、心は協力する為にはそのことを学ばなければなりません。そしてこのようにして、心は過去に何が起ったのか、現在何が起っているのかを知ることでしょう。

【解説】

本項で著者はこれまで私達がDNAやRNAを遺伝物質と称して来ましたが、実はそれらの中に私達の記憶も収録され、文字通り太古以来の記憶が遺伝物質の中に組み込まれて行くと言っているのです。

これら遺伝物質の持つ記憶にアクセスすることが出来れば、私達は生命誕生以来の悠久の歴史を知ることが出来ますし、過去の知見のみならず、宇宙の出来事をも追体験できることとなります。

これを実現させる為には、各自の身体細胞に気持ちを揃え、これらの英知ある分子・原子と同調する必要もあることでしょう。実際、私達の記憶と呼ぶものの本質もこれら遺伝物資との関係があると本項は示唆しているように思われます。

これら知識の泉は私達自身の中にあり、それらを探究する、即ち自らを学び知る中で私達は生命の尊さを学ぶことになるのです

169 Now let me describe what I have seen on instruments and diagrams that the space people study on this subject. Their method is simplified and easier to understand than the way our scientists are presenting their findings. As an illustration let us use two parallel lines, one white, the other black. One is masculine and the other feminine and at certain intervals they cross each other in the form of a figure 8. And they are constantly active. Within the figure 8 they produce from seven to nine different combinations depending upon the purpose. After reaching nine such loops the messenger is born with a specific message. And it carries the blue print of what the next step is going to be but it does not separate itself from the past. This is where the memory is carried on. And memory is the only part of man or any form that becomes eternal. For as we know, man is not a man without a memory. And you can see that by this process the memory of the past is steadily connected with the experiences of the present. And all of this takes place independent of the world of man.

169 ここで宇宙人がこのテーマについて学ぶ際の装置や図表について私が見たものを説明したいと思います。彼等の方法は私達の科学者達はその発見を発表するやり方より、単純化され平易です。実例として2本の平行線を用います。一方は白、他方は黒とします。一つは男性、もう一つは女性であり、ある時間間隔でそれらは8の字の形に交わります。またそれらは絶えず活動的です。その8の字の形でいる間に、それらは目的に応じて7~9の異なる結合を作り出します。そのような9種の輪が出来た後、ある特定の伝言を携えたメッセンジャーが誕生します。そしてそれは次の段階は何が為されるかの青写真を携えています。それは過去から分離したものとはなっていません。ここが記憶が受け継がれる場所であるからです。そして記憶こそが人間であれ、いかなる形有るものが永続する唯一の部分です。何故なら私達は人間は記憶無くして人間ではないことを知っています。これで皆さんは、この過程により過去に対する記憶は現在の体験と常に繋がっていることが分かるでしょう。そしてこの全ては人間の世界とは独立して起っているのです。

【解説】

DNAの二重構造は様々な「8の字」パターンを形作り、メッセンジャーRNAを作り出して、その記憶を新たな細胞に引き継ぐという一連の細胞の増殖過程について、他惑星ではより鮮明に学んでいるという訳です。

これら2本の分子構造が絡み合う行為は宇宙産生の基本イメージを表すものと言えますし、日本の神社の注連縄（しめなわ）も同様な原理、即ち各自の細胞で刻々行われている活発なる生命誕生の息吹を祀る象徴かと思われます。

重要なことは、今日体験した事柄、発した想念が翌日造られるご自身の一部に承継され、記憶が蓄積されて行くと解釈されることです。言い換えれば、私達は日々自身を自ら造り上げているということです。

170 This is the reason that the Will of man must will itself to the Will of this process if it is to know what it has been and its reason for being. We bring this to you in relation to our present science which is only on the brink of this knowledge. And as stated before, the space people have known and used it for thousands of years. And if man is ever to know his true self, this knowledge is very essential. For within it lies the absolute certainty of life.

170 これが人間が過去どうであったか、またその存在の理由を知りたいとするならば、人間の意志は自らをこの過程の意志に従わせようとしなければなりません。私達はこのことをこの知識のふちにいるだけの私達の現在の科学に関連してあなた方に授けているのです。そして以前述べたように、宇宙人達はこれを何千年も以前から知っており、活用しています。そしてもし、人間が自分の真の自己を知るのであれば、この知識はとても必須なものです。何故ならその中に生命の絶対的な確実性があるからです。

【解説】

自身の肉体の各細胞が記憶を運ぶこと、そしてそれら細胞の経験を紐解くことで宇宙開闢以来の歴史や知識、経験を学ぶことが出来ることを、既に何千年も前から他惑星人が知り、学んでいたと著者は本項で私達に明かしています。

私達はDNAに潜む膨大な知識を自ら学び取れるような感性が必要だということでしょう。これらの取り組み姿勢はDNAの配列を研究し、配列のどの部分が身体形成の何処の部分の設計図に相当するかを学んでいる私達の研究レベルからは、相当の開きがあることでしょう。

一方で私達の科学は、これら英知であるDNAを勝手に切り取り、それらDNAに含まれる記憶という根本的な要素に気付かないまま、組み換え生物を創ったりと創造主に代わる行為にまで及んでいます。私達は各細胞が実は様々な記憶を運ぶことの意味をもっと深く考え、最も身近にある自らの細胞から学び取ろうとする姿勢が必要なのです。まさに”ご自愛”下さいという表現が当たります。

171 We all must admit that as mentalists we know little about what is going on in our bodies. But we do know that a certain kind of knowledge is operating through the body that knows what to do when the mind does not. So the mind has been accepting this on blind faith as an established fact. Yet it is the duty and privilege of the mind to learn all that takes place within the form if it is ever to have a peaceful existence. And thus fulfill the purpose for which it was created and eliminate the conditions brought on by confusion and fear caused by uncertainties. Then the mind would not repeat mistakes as it does today.

171 私達は皆、心至上主義者の私達は自分の身体で何が起っているのかほとんど知らないでいることを認めなければなりません。しかし、私達は心が知らなくても身体を通して何を為すべきかを知っているある種の知識が作用していることは分っているのです。ですから、心はこのことを確立された事実として盲目的信仰の上に受け入れて来たのです。しかし、心が平安な存在であり続けたいのであれば、形有るものの中で起っているすべてを心が学ぶことが心の義務でもあり、また特権でもあるのです。そしてこのようにすることが、その形有るものが創造された目的を成就させ、不安状態による混乱や恐怖によってもたらされた状態を取り除くことになるのです。そうなれば、心は今日のように誤りを繰り返すことはなくなるでしょう。

【解説】

本項は、そもそも私達の心と肉体の関係はどうあるべきかを説いているように思います。

中でも私達は自らの意思、即ち心こそが自分の本体であり、肉体の支配者であるとして来ましたが、果たしてそうなのでしょうか。現代の生命科学や本講座のこれまでの記述から、あらゆる生きものが等しく構成する細胞というシステムには共通する遺伝分子があり、それらが分化して各々の身体を部位を造り上げていることが分かっています。

更にはその遺伝物質が記憶をも運んでいると、これまで本講座で説かれて来た訳です。つまりは肉体の側の中に英知があり、私達の心は無知な暴君でしかなかったのです。

このように考えれば、全ての知識は私達自身が持っていることになり、それらの存在にどのように気付くかが次の課題になります。もちろん時間は十分にありますし、何処に行くにせよ自身の膨大な図書館とも言える肉体と一緒にある訳で、こんなに頼りになることはありません。私達各自が生まれて来た目的はこれら知識の宝庫から適切なものを取り出して、各自実践活用し、行動することで他者ともそれらの知見を分かち合うサービス（奉仕）に従事することでしょう。”汝自身を知れ”とは、このように深い意味があったのです。

ご連絡 [2017-05-25]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、明日の更新はお休みします。

2017年5月25日

竹島 正

172 You can see that the mind is seldom aware of the conscious intelligent operation within the form. For when we sleep the consciousness operates the form while the mind knows nothing. Thus proving that there is a form of intelligence which never rests. And the mind must unite with this intelligence in order to be the knower. Once this is done man will eliminate all the unpleasant ways of life he now endures. And he will know what goes on in every form known, and its purpose. And divisions will no longer cause mysteries.

172 あなたには心は身体の中の意識的知性活動についてまれにしか気付かないことが分かるでしょう。何故なら、私達が寝ている時も意識は心が何も知らない間にその身体を運営しているからです。このことは決して休むことのないある知性体が存在していることを示しています。そして心を知る者となる為にはこの知性と結びつかなければなりません。ひとたび、これが為されると、人は現在耐えているあらゆる不愉快な人生を取り去ることでしょう。そして全ての形有るものの中で起っていることやその目的を知るでしょう。そうなればもはや分裂が神秘をもたらすようなことはなくなります。

【解説】

私達の心は決して私達自身の支配者ではありません。眠ってしまっても身体内の活動は何一つ変わらず続きますし、肉体の維持活動は心とは別な英知の下、着実に実行されているからです。全ての肉体の活動は心とは別の所で行われている訳であり、私達の心はその英知を探究し、その教えを乞う必要があるのです。

自分の中に英知を司る存在があり、物質に膨大な知識・経験が蓄積されているにも拘わらず、肝心な自身の主人公が何も知ることなく不安定な状態を続けていて良い筈もありません。

内部にこのような立派な仕組みを与えられている以上、他に求めるものは何もない訳で、心はそれを自覚すれば自ずと落ち着いた穏やかな状態となる筈です。その中で身体の中で起っている事柄を学び、自ら探究する中で、心自体をより素直で感受性のある、これら英知と同期出来るような高次元な存在に仕上げなければなりません。

173 The method that the space people use in working with this great intelligence is, to observe all forms with their consciousness instead of the mind. In plain they become conscious of the form as though they were the form, which they really are for nothing is separated from the whole. And in this way man as a mind blends with the whole

173 この偉大な知性とともに関わり合う上で宇宙人達が用いている方法は、心に代わって意識で全ての形有るものを観察するという事です。平易に言えば、彼等はあたかも彼等がそのものになったかのようにその形あるものを意識するようにするという事であり、実際、彼等はそのもの自身になります。何故なら何物も全体から分離することがないからです。またこのようにして心としての人間は全体と混和するのです。

【解説】

本項で注目すべきは、ここで意識が必要とされることです。

今までは細胞のDNAという遺伝分子が私達自身の記憶も含め、あらゆる知識・情報を承継していると説明されて来ましたが。その上でそれら分子原子と実際に交流し、教えを受ける為には、意識を活用する必要があるのです。

この場合、「意識」を特段に新たなものと捉えるべきではなく、著者は私達が用いる通常の意識という概念の延長線上にある要素こそが、私達の心や自我と称しているものより、はるかに大きな役割と機能を持っていると説いているのです。

この意識は対象物と一体化したり、相手の存在を認知する際に用いる概念ですが、実はその要素の中により大きな機能があるという訳です。即ち、これら極小の分子達と交流し、その知性を認識するのも、この意識を通じて行われるということです。

そのような意識を積極的に活用する中で、次第に私達は意識を通じて様々なものと交流を深めることが出来るという訳です。

174 There is no specific pattern that can be given by which man must work, as there are no two people alike. So no set formula is given in this course as in others. Just become awakened or aware of the conscious intelligence that is operating within your being. And eventually this will become habitual to the mind's way of thinking. And the mind and the intelligence will become a unit instead of two separate parts as they are today. This is the way the space people have developed and they now can commune with any form without words.

174 人がそれに基づいて取組まなければならないような特定の行動形式というものは授けられるものではありません。二人として同じ人間はいないからです。それ故、この講座においても他と同様、定められた形式は与えられません。只、貴方の中で作用している意識的知性について目覚め、気付くようになることです。そうすれば、遂にはこれが心が考える際の習慣になることでしょう。そして心と知性は今日そうであるような二つの分離した部分から一つの一体物になることでしょう。これが宇宙人達が発達させてきた方法であり、彼等は今やいかなる形有るものとも言葉によらず交流できるようになっているのです。

【解説】

よくよく考えると各自の性格、個性は各々異なる訳ですが、その基本的なものは終生変わらないように思われます。つまりあくまで個人的見解ですが、各自の何回もの人生を経験する中で、培われるようなものではないかと考えます。

従って、各自の進化の上での課題、自我の問題も様々であり、各々取り組むべき内容は異なっており、他人に進む道を示してもらうことは出来ないのです。

自ら考え、工夫して精進の道を進む必要があります。その際に誰もがとるべき方法が、この細胞の中の英知と意識を用いた印象による交流を果たすことだと本項は説いています。毎日、少しずつでも心掛けることによって、次第に私達はその能力を蓄え、万物と印象によるコミュニケーションを行うことが出来るようになるのです。

175 If we are to know what we feel that we should - who we are - and what we have been, then we must use the same method that they have used. There is one thing that we must remember, we cannot judge and divide and discriminate, or resent, according to likes and dislikes and have this knowledge. For once you get impressions coming from the memory buds there will be all kinds. And some you will have a tendency to dislike or even be frightened by them. For remember here on earth there are very low stages of life's manifestation that the ego might not like. But without these manifestations life would not be complete, for all phases are necessary. But once they are understood the judgement against them ceases. Like a drama on the stage where cruelty is resented, yet without it the phases of life would not be truly expressed.

175 もし私達が知るべきだと感じている私達が誰で、また何であったかを知る為には彼等が用いて来たのと同じ方法を用いなければなりません。ここで覚えておかなければならないことは、私達はこの知識を持った上で、好き嫌いによって裁いたり、分割したり、差別したり、腹をたててはならないということです。何故なら、ひとたび記憶の芽からやって来る印象類を捕捉するや、あらゆる種類のものがやって来ます。そしてあるものについては、あなたは嫌う傾向になるでしょうし、恐怖すら覚えることでしょう。何故なら、地球ではエゴが好まないようなとても低い段階の生命の現れがあるからです。しかし、これらの現れが無くては生命は完全にはなりません。全ての側面が必要なのです。しかし、一度それらが理解されれば、それらに対する裁きの気持は消えてしまいます。残忍さに憤りが湧く舞台の上の劇のように、それがなければ生命の側面が真に現されているとは言えないのです。

【解説】

自分が誰で、これまでどのような生き方をして来たのか、その全ての記憶はこれら意識を通じて物質（原子・分子）の中の記憶を探ることで分かるようになる訳です。しかし、最初はそれらの知見は私達の心が目を背けるような側面もあると本項は指摘しています。創造の過程ではある意味、残虐とも受け取れる要素があるという訳です。

その上であらゆる要素をありのまま受け入れ、全体を観ることで私達は人知の及ばない創造主の意図や仕組みを学ぶこととなります。その際、心による勝手な裁きを行ってはならないのです。

もちろん各人がこれまで歩いて来た中には、必ずしも良い人間でなく罪深い生き方もして来ている筈で、それらの記憶にも向き合うことも必要でしょう。各自の過去の様々な人生に気付くことも反省材料には有用かと思うものです。清濁あわせて飲み込んだ上で、人本来の進むべき道を示すことが必要だと著者は説いているように思います。

176 It seems cruel to us to see a big fish swallow another, but it is just as cruel to see a man eat a carrot. For it is a living thing made of molecules just as you or I, or the fish. And the memory carriers do have records of all phases of life, from what we might call the cruelest to the highest.

176 大きな魚が他の魚を飲み込むのを見ると残酷に思えますが、それは人間が人参をかじるのを見て残酷と思うのと同じです。何故ならそれはあなたや私、或いは魚と同じ分子群からなる生き物であるからです。そしてその記憶を運び手は私達が最も残酷と呼ぶものから最高位のものまでの生命のあらゆる側面の記録を持っているのです。

【解説】

私達が暮らす世界、自然の仕組みは互いに助け合い、関連しながら全体として調和ある（持続可能な）環境を造り上げています。その中には生きて行く上で必要な日々の糧を他者に頼る仕組みもある訳です。

仏典には飢えに苦しむ虎に自らを与える話もありますし、母親が自分は食わずとも自らの子に食物を与える姿もよく目にします。これらは自らを犠牲にしても他者を助けたいとする基本的な原理、宇宙的な要点なのかも知れません。

分子・原子の極小な世界からこれらの相互依存関係を観れば、互いに新しい体験を分かち合う融合的な関係にあることが分かります。つまり相手に食べられることで、その個人としての体験の枠を越えて、新たな分野の記憶がそれら分子・原子に与えられることになるからです。その見識には貪りや怒り、恐怖等の要素は一切ありません。

177 This is where duality sometimes comes in. For you may love someone dearly and yet you do injury to them. This conflict is caused by memory cells of a lower nature, and those of a higher nature. If we knew something about our self we would combine these memories in relation to each other instead of the extremes with nothing between to support either of them. This lack of understanding is the cause of mysteries and misunderstandings. And when we hurt anyone we hurt ourself for we are all the same. We do this because our mind has not been trained to act as a good catalysis. This can only be done when the mind knows the reason for life.

177 ここが二重性が入り込む所以です。何故ならあなたは誰かを愛おしく愛しているかも知れませんが、それでもあなたはそれらを傷つけるかも知れません。この矛盾は低次元記憶細胞と高次元記憶細胞とによって引き起こされているのです。もし私達が私達自身についてなにがしかを知っていれば、私達はこれらの記憶を相互に補完することなく極端に走ることを止めて互いに関連づけてこれらの記憶を統合させることでしょう。この理解不足こそが神秘と誤解の原因なのです。また、私達が誰かを傷つける時は私達は自らをも傷つけることとなります。何故なら私達はすべて同じ存在だからです。私達の心が良い触媒として行動するよう訓練を受けていないが故に私達はこのようなことを起こしているのです。その心の行動は心が生きて行くことの原因を知るようになる時にはじめて実現することとなります。

【解説】

釈迦が完全な悟りに至る前、菩提樹の下で瞑想していると、前に様々な様相を見せる敵が現れ、釈迦に挑みかかります。それに対し釈迦は落ち着いた態度でそれらを諭し、それらを消え去らせます。その時、現れた"敵"は釈迦ご自身の中にある要素だとされています。つまり、本項で言う自らの身体内の細胞に記憶された低レベルの記憶かと思われます。

しかし、心がそれらの本質を理解できれば、たちどころにそれら低レベルの要素は中和され、体内から消滅することにもなるでしょう。私達がより高次元存在となる為にはどうしてもこの段階を踏まねばならないことにもなります。

東南アジア（ラオス）の仏像のほとんどは、坐像で左手を手の平を上にした状態で自らの膝の上に、右手を手の甲を右膝から地面に触れるように下げていますが、そのポーズは釈迦がその悟りの際にしていた形であると伝えられています。

つまり、仰ぎ見る仏像は釈迦が悟りを得た瞬間のお姿を表現しているとも言えるでしょう。私達自身にある二重性の本質を見極め、それらを調和に導き中で、湧き起る想念のレベルを向上させることが出来るものと思われます。

178 For if we desire to be as our creator we must face all phases of life without being disturbed. The Creator faces his creation without discrimination. For should he like one and dislike another he would be dividing himself, and thus do no better than man. But all phases of creation are loved by its creator for its purpose is known. It is a human trait to discriminate and through this many hurts are received because the ego mind separates itself from the whole.

178 もし私達が創造主のようになりたいと望むなら、私達は心を乱されることなく生命のあらゆる側面を直視しなければなりません。創造主は自らの創造物を差別なく直視しています。何故ならもし創造主があるものを好み、他のものを嫌うならば、創造主は自らを切り裂くことになり、人間よりましなことができなくなるからです。しかし創造のあらゆる側面はその目的が知られているが故にその創造主によって愛されています。区別するのは人間の特徴であり、エゴの心が自身を全体から分離してしまう為、この過程を通じて多くの痛みを受けることになります。

【解説】

問題の本質は私達人間の側にあるのだと本項は説いています。善と悪、良と否に区別しがちな私達の心にこそ問題があり、世界のあらゆる事象は各々、目的や意義を持って全体と調和し、関連しあっている訳で、それらを区別し、裁くべきではないのです。

大きな生きものが小さな生き物を呑み込むことは、確かに弱肉強食ではありますが、獲物を狙う肉食獣達も、貪欲ということではなく、腹が満ちればそれ以上の狩りを行うことはありません。

一方、私達人間の方は足りるとすることを知らず、また憎しみ或いは狂った信念の下、他人を殺傷することまで行います。調和のとれた地球という”園”の中で他の存在とは交流もなく孤独な種族となっています。問題はそれら影響力が次第に増して来て、大気や水、土壌にも大きな力を及ぼすようになって来たことでしょう。その文明が過去に滅びたもの達と同様な末路にならない為にも、私達はいち早く差別する心から物事の調和・融合を観る心に変貌させなければなりません。

179 The apple is made of matter and supported by conscious life the same as we are yet it does not scream when we bit into it. Why? Because it does not have the kind of mind that man has, endowed with a free will which is in constant opposition to Cosmic law.

179 りんごは私達と同じ物質から成り立っており、意識ある生命によって支えられていますが、私達が噛み付いても悲鳴を上げることはありません。何故でしょうか？それは人間が持つような、宇宙の法則に常に反対している自由意志を授けられているような心を持っていないからです。

【解説】

ここでは植物の「心」について述べています。著者は私達との違いを「心」にあるとし、植物には私達のような自由意思が無いことが、リンゴを食べる際、リンゴが痛いと呼ばない理由だと説明しています。

これについては昔、植物にウソ発見器をつなぎ、植物が人間の想念に反応することを突き止めたバクスター効果（1966年）が有名ですが、植物が人間の想念に呼応する反応をすることは確かだと思われま
す。「植物と会話をする」という意味では、トゲの無いサボテンの品種を育てたルーサー・バーバンク、「星の王子様」に出てくるバラの花の話等、多くの例を見つけることが出来ます。

その上で、植物は人間のような自由意志、自我というものは持たず、より融和的であり、宇宙からの指導的想念に極めて従順な「心」を持つ存在なのでしょう。以前、ある人から、「自分が自宅で育てている植物について、たとえ遠く離れていてもその植物のことを思っていることだけで、随分違いが出る」ということを伺ったことがあります。つまり、遠く離れていても相手に想念を発することでその植物は呼応するという訳です。まして相手が人間であれば、なおさらであり、遠く離れた惑星でも思いは届くということでしょう。

180 Can a man become immune to pain? Yes, we hear of those who can walk on hot coals without pain. But they have learned how to discipline their mind, and the mind had to be willing in order to be disciplined. This shows that whatever unpleasant conditions the mind faces, it is of its own creation through misapplication of the law. So it behooves the mind to become a willing student of cosmic principle if it is going to enjoy the blessings that life offers. This is where the memories from the past can serve man in recalling values he has gained through experiences he has had.

180 人間は痛みを感じなくなる事が出来るのでしょうか？もちろんです。私達は痛みを感じることなく、焼けた炭の上を歩ける人々について聞いています。しかし、彼等は彼等の心を如何に訓練するかを学んで来ており、心は訓練されることを喜んで応じなければなりません。このことは、例えどのような不愉快な状況に心が直面しようとも、それは法則の誤用によりそれ自身が造り上げたことを意味しています。ですからもし心が生命が提供する祝福を享受しようとするなら、心は宇宙の法則について喜んで学ぶ学生にならなければなりません。ここがこれまで体験を通じて得た貴重なものを人間に思い出させる過去の記憶が役立つところなのです。

【解説】

本項は第4課のエッセンスを示しています。

これまで第4課では、人体の各細胞、各々の分子・原子の中に不朽の記憶が蓄積されることを学びました。まさに今日私達が体験し発した想念が明日の私達の身体を造る際に引き継がれるというのです。

分子・原子は悠久の歴史の中で、実は様々な体験を経ており、宇宙の創造主から来るインスピレーションも膨大な数、保持し記憶しているという訳です。このように私達はその最も近い自分の身体に莫大な図書室を有している訳で、私達はその知識を得ようと少しでも努力すれば、容易に道は拓ける筈です。

Willing student of cosmic principle (宇宙の法則について喜んで学ぶ学生)こそ、私達が目指すべきものです。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON FIVE

Consciousness, The Intelligence And Power Of All Life

181 We are actually living in an invisible sea of life. And as I have said before, we should school ourselves to become aware of the visible and invisible at the same time. For today we are only mentally aware of the visible forms with which we have contact. Yet all forms rise from the lowest upwards, looking so to speak into invisible space. And why should this be so? Does not all creation look to its creator as a child looks to the mother for guidance? And as space is the birthplace of all forms, they look to and live within the household of their birth.

生命の科学学習コース

第5課

意識、即ち全生命の知性と力

181 私達は実際には生命の目に見えない海の中で生きています。そして以前にも述べたように、私達は私達自身を目に見えるものと見えないものとを同時に気付くように訓練すべきなのです。何故なら今日、私達は私達が接する目に見える形あるものだけに気付いているからです。しかし、すべての形有るものは最下位から上部を目指して、言わば目に見えない宇宙に向けて昇っています。そして何故、このようなことが起るのでしょうか？全ての創造物は丁度、子供が母親に導きを求めるように、創造主を求めているのではないのでしょうか。そして宇宙は全ての形有るものの生誕の地であり、それらの生まれた家庭を見つめその中で生きています。

【解説】

私達が生命の海の中で暮らしているという感覚は、これから私達が意識を自覚する上で大切な概念だと思えます。つまり私達の周囲は私達自身が触れ、その中に浸っているように常に接触、つながった生命体とも言える媒体に囲まれているというイメージです。

このことを私達は未だ完全には認識出来ていませんが、いずれ私達の理解力や感受性が高まれば、より明確になるものと思われまます。その延長には本課で学ぶ意識というものの存在があるのです。

これまで私達は自分の心、自分勝手な意志が全てだとして来ましたが、実際にはとんでもない話で、ほとんど全ての生命活動が、心によって自覚されないまま、目には見えないこれら生命の海の中で人知れず行われている訳です。本文では私達人間も生来の生き方の傾向に沿ってやがては高次な世界を目指して進化して行くとしています。私達の研究対象も物質の探究から更に進んで目には見えなくてもより高次な働きのある因の世界も分かるよう、知覚を広げる必要があるという訳です。

182 Living as we do, guiding ourselves by other effect no different than ourselves, we remain close to the form life of earth. Which is in itself only an expression from its lowest state of awareness.

182 私達は自分達と何ら変わらない他の結果物に頼って自らを導いて生活している以上、地上の生物体に近いまま留まっています。それらはそれ自身、悟りの最も低位な状態から来る表現でしかありません。

【解説】

いやおう無く変化する結果物に私達は重きを置きすぎており、その背後に流れる目に見えない法則性について全く重きを置いていないことを著者は注意しています。

仏教でもこの点を説いていますが、その説くところは本講座と同様で、"法輪"という宇宙的法則を説くことが仏教の本質であろうと考えています。

私達の生きる拠り所を何処に置くべきかは、各人にとって重要なことですが、それを自分達と何ら変わらない結果物に置くべきではないと本項は指摘しています。それは自分の生きがいや他を他の人間や物、まして現在の変化する時代にあって更に不安定となる貨幣に置いては、安寧の心境に到達することは出来ません。

私達は永劫不変な存在にこそ自らの生きる拠り所を置き、変動する社会のうねりの中でもしっかり自立した生活を推し進める必要があります。

183 Even some marine life strives to see the light above the water. And the liquid of water would not be if it were not for the essence of hydrogen and oxygen which are invisible. In this invisible state the prime of life cannot be seen with the sense of sight of the human mind. But it can be known to the mind through consciousness. For consciousness is the intelligence and power that is independent of the forms, yet it activates all forms when it acts through them. Consciousness knows no light or darkness as man classifies these frequencies. Nor does it know good or bad for these are classifications of the mind through misapplication of the law.

183 ある種の海洋生物でさえ水面上の光を見ようと努力します。また液体である水は目に見えない水素と酸素の基本化合物が無ければ存在しないでしょう。この目に見えない状態の中では生命の本源は人間の心の視覚では見ることは出来ません。しかし、意識を通じて心に知られることは可能です。何故なら意識は形有るものから独立している知性であり力であり、それを通じて働く全てのものを活性化するからです。意識は人がこれらの振動を分類するように光とか闇とかを区別することはありません。また、善悪も知ることはありません。これらは法則の誤用を通じた心の分類だからです。

【解説】

先日もある所で無数の羽蟻が街灯の光に集まる光景に出会いました。実はその光景はいつも起こるのではありません。気温や湿度が上がり、彼ら羽蟻達にとって都合の最も良いタイミングで起こる集団行動なのです。その日は今考えると翌日雨が降る前の蒸し暑い夜で、その時、彼らは一斉に光を目指して周囲から集まるものと考えます。その後、彼らは羽を捨てる為、街灯の下にはおびただしい数の羽が積もります。

これらはその羽蟻達にとって一生に一度のイベントであることでしょうし、光に集まる意義を良く知り、天候の行く末を察知した上での行動と思われる。

一方の私達人間はこれらのもの達のように命を掛けて行動する目的を見失い、怠惰に暮らしているように思われます。暗黒の人間社会にあって光明に気付き、それを求める願望を無くしてはいないでしょうか。トビウオが水中を離れてしばし空中を飛ぶように、自らの暮らす次元より高次元の世界、因の領域を知ろうと行動することが求められています。

184 No form or mind can live independent of consciousness. For outside of it, if there were any, would be absolute nothingness. So it is up to man to strive to have his mind listen to the teacher, the parent of all creation.

184 如何なる形有るものも、また心も意識と独立して生きることは出来ません。何故なら、その外側というものがもしあったとしても、そこは、絶対的な無であろうだからです。ですから、自らの心をすべての創造物の教師、両親に耳を傾けさせようと努力することが人間の義務なのです。

【解説】

このわずかな数行が私達が目指すべき「意識」の本質を示しています。

言い替えば万物を包む媒体であり、それを通して宇宙における様々な物体、またそれらを構成する記憶する物質と融和し、互いに交流を持つことが出来ることを私達に示唆しているのです。

前項で話があったように、私達は身の回りの物質世界にあまりに拘泥し、その背後にあり、また私達全てを包み込んでいる意識の存在に対して、あまりに関心・無頓着であると言えるでしょう。この意識の活動と役割は一生掛けて学び取るだけの価値がありますし、その意識を知る中で、私達は進化の道を歩むことが出来るという訳です。

185 Let us now place the mind in relationship to consciousness as an observer of conscious action. And for this the shore of the ocean can be used as an example. For as we gaze out over the vast stretches of water we know that there is untold life within its body. So let us become consciously aware of the activity that is taking place within its depths that the sense mind does not see. We should now become consciously aware through impressions of the many active forms and see those as small as a grain of sand searching the bottom of the ocean for food. And millions of kinds of form life from the bottom to the surface doing the same thing. Some never rise from the bottom to see the light near the surface, while others do.

185 それでは意識に関連して心を意識的活動の観察者の立場に置いてみましょう。そしてこの為には、例として大洋の岸辺を用いることが出来ます。何故なら、私達が水の広大な広がりの方を見つめる時、私達はその中に人知れぬ生命があることを知っているからです。ですから感覚の心が見ることのない海中深く起っている活動について意識的に気付くようになりましょう。私達は今や、多くの活動する形有るものの印象を通じて意識的に気付くよう、また大洋の底を食物を探している砂粒ほどの生き物を見るようにならなければなりません。しかも海底から水面まで何百万もの種類の生命が同様なことを行っています。あるものは決して水面近くの光を見る為に海底から浮かび上がることはありませんが、そうするものもいます。

【解説】

意識を知る為の一つの訓練法として著者は海岸に立って海を見る中で、膨大な海の中に暮らす生きものの姿を思い浮かべること、意識することを勧めています。

海はまさに目の前にありますし、私達はその広大な水域に文字通り無数の生きものが暮らしていることを知っていますが、私達の目は目の前の水面しか見ていないのです。

目の前に広がる世界に対し、私達は自分の感覚器官のみに依存している為、肝心な内部の生き生きとした世界に気が付かないまま過ごしているという訳です。

これを打開する為には、先ずは自らの感覚を研ぎ澄ませてその内部を知ろうと努力すること、印象を感受できるよう、心を明鏡のごとく鎮め、通過するかすかな印象にも反応する感度を持たなければなりません。何よりも私達は物事のほんの表層の一部しか見ていないことを自覚しなければなりません。

186 The whale, although there are others, masters the pressures and elements of the sea, for it is able to go to great depths yet it can swim on the surface of the water and partake of the invisible gases from space that enshroud the earth. And there are some like the flying fish that leave the liquids for an experience in the sea of gases. Thus they have experience in two different kingdoms. The liquid of the water and the gases of which the liquid it made.

186 クジラは、他の者もいますが、海の様々な圧力や要素をマスターしています。何故なら海中深くまで潜ることが出来ますし、水面付近で泳ぎ地球を覆っている宇宙から目に見えないガス類を取り込むことが出来るからです。そしてトビウオのようにガスの海での体験を求めて液体を離れる者もいます。そのようにして彼等は二つの異なる王国での体験を持つのです。液体としての水とその液体を造ったガスの二つです。

【解説】

本項で著者は、私達は同時に二つの世界を享受できることを示唆しています。つまり三次元の物質世界とそれを取り囲む意識の世界です。しかし、とりわけ注意したいのは、古来から言われている霊界その他の神秘的なものを推奨しているのではないということです。

丁度クジラやトビウオが大気と海の世界を自由に行き来するように、私達は両方の世界を等しく理解し、生活に応用するという所が重要な部分です。霊の世界、意識の領域のみに生きるのではないというところがポイントなのではないでしょうか。

変化する物質の世界にあっても同時に宇宙の記憶や引き継がれる印象や体験等、不可視な要素が全てを指導し、知識を与えていることを知る時、私達は自らの本来の潜在力、可能性を知ることになるものと思われまふ。因の意見を体現することを通して得た体験こそ後代に伝えるべきもの、後世への最大遺物と思うからです。

187 Man should become aware of living two different experiences at the same time, for he is living on top of the earth of three dimensions, yet depending and living in the fourth dimension. For from the crust of the earth towards the sky is the invisible fourth dimension which we call space. Outside of it we could not live any more than the fish that cannot live out of the water. No form could live without the support of the fourth dimension for it is the air which we call atmosphere in which earth forms live and breath. And if it were withdrawn no form could live, not even the earth.

187 人は同時に二つの異なる体験を生きていることに気付くべきです。何故なら人は3次元である地上の頂上に生き、かつ4次元に依存しその中で生きているからです。地上の塊から大空に向かって私達が宇宙と呼ぶ目に見えない4次元が広がっています。魚が水無しでは生きて行けないのと同様、私達はその外側では生きて行けません。如何なる形有るものも4次元の支援が無ければ生きられません。何故なら地上の形有るものが生き、呼吸する私達が大气と呼ぶ空気が無ければ如何なるものも生きては行けないからです。そしてもし、大气が取り去られたら、如何なるもの、地球でさえも生きることができません。

【解説】

私達が因の世界を知覚するという事はどういうことかについて、本項で著者は地上に立つ私達が実は地上に属する一方で、頭上に広がる大気、宇宙空間こそ私達自身を包み込む四次元世界だとしています。魚が水中でしか生きられないように、私達もこの惑星自身も宇宙空間からの支援無くして成り立たないと先ずは自覚する必要がある訳です。

もちろん私達は地上に足を置く者であり、様々な地上の制約を受ける訳ではあるのですが、より根本的には宇宙からの支えを受けているのです。多くの細胞はそれら宇宙からの声に待機し、そのヒントを得ようとスタンバイしており、その指示を受けるや100%信頼してそれを実行に移します。そうした成功体験は同時に揺るぎない信頼に成長して行きます。私達も日頃の成功体験を積み重ねる中で、これらの印象の源をますます信頼することが出来るようになります。

地上のものは移ろい易い中、宇宙から来る印象ほど確かなものはなく、私達に向けて発せられる恩寵の想念をインスピレーションとして感受出来れば、こんなに素晴らしいことはありません。

188 Man's troubles begin in the fourth dimension. For he as a sense mind operates in the three dimensions, an effect of the cause. So he gives much time to the world of effects and understands it fairly well. But he has trouble associating the invisible world around him with the world in which he lives. And when he uses his mind instead of his consciousness to try and understand the fourth dimension, he becomes confused. And the great difference which exists in the invisible fourth dimension which is cause, makes it still harder for him to understand, as he has been taught in the three dimensions for centuries. Even the ancients did not understand the fourth dimension, for had they done so they would not have divided heaven and earth. Or cause and effect.

188 人間の諸問題は4次元で起ります。何故なら、感覚の心としての人は原因の一結果である三次元で働いているからです。その為、人は結果の世界に多くの時間を費やしており、その世界をかなり良く理解しています。しかし、人は自分が住む世界と自分の回りの目に見えない世界に関しては悩みを持っているのです。そして人が4次元を理解しようとする時、自らの意識を使う代わりに心を使う為、混乱するようになるのです。そして因である目に見えない4次元に存在する大きな違いは更に理解を難しくしています。何世紀もの間、人は3次元世界の中で教えられて来たからです。古代人達も4次元を理解していませんでした。もし理解していたら、彼等は天と地、あるいは原因と結果に分割しなかったであろうからです。

【解説】

私達の悩みや苦しみその他、抱える問題の由来は四次元世界への無理解に起因すると本項では説かれています。分かり易く言えば、三次元世界のもの、例えば足元の石や草木その他地上にあるものは何一つそのような問題には係りなく生きていくという訳です。つまり悩んだりして問題を訴えているのは私達の心だけだということです。地上にあるその他のもの達は皆、等しく宇宙を理解し安寧な生活を送っているということでしょう。

こうした問題、私達自身の問題が何処に生じるかについて、本項は三次元世界に軸足を置く私達の心に問題があるとしています。思い通りにならない等々の問題は、物事が成就する仕組み、四次元世界の作用が三次元世界に発現するという法則性を十分理解していないことによるのです。

要は私達は両者の関連性を学び、その法則性を理解することから始めるべきで、いたずらに結果のみを求めるべきではないということでしょう。

189 Since the beginning of time man has schooled himself to want concrete facts which are three dimensional like himself. He left the fourth dimension to mysteries and theories. And only here and there an individual could see the relationship of all dimensions. And when he would express his analysis he usually had very few followers.

189 時のはじまり以来、人は自分と同じ三次元の具体的な事実を求めるよう自分自身をしつけて来ました。人は四次元を神秘や理論に置き去りにしてきました。また、そこそこでわずかながら、すべての次元世界の関連性を見る事が出来た者がいました。それでも、その者が自らの分析結果を表現する時、彼にはいつもほんのわずかの追従者しかいませんでした。

【解説】

重要な点は私達の軸足を何処に置くかということです。これまでの私達はより堅固で変化しないと思い込んで来た三次元、即ち物質世界に自らの拠り所を求めて来ました。しかし果たしてこれらのものは永久に各自のもの、いつの時代にも不変な価値を持つかと言えば、バブル時代を経験した私達は、それば誤りであることを知っています。

一方、私達は他の動植物達は何故未来を憂い、将来を心配することなく生活を送っていられるのか全く分からないでいます。そこには死に対する恐怖や未来に対する心配事をもたらずような心は無く、ただ印象に従順な単純な心があるものと思われれます。しかし、それ以上に創造主や因に対する確固たる信頼や畏敬があることがその違いを生じさせているのです。

一概に言うことは出来ませんが、私達が存在を信じる因の世界は、想念・印象を通じて現実世界を導き、創造の目的に沿って物事を実現させている訳で、この世界にこそ私達の希望と信頼を置いて生きて行くことです。創造の目的に合致すればその夢はたちどころに現実化し、皆さまが思い通りの生活を送ることを可能とする訳です。

190 Jesus for one tried to explain the fourth dimension, but even today his teachings are not understood. As a result the fourth dimension has been placed in the abstract side of life with the hope that it will be understood in the here-after. But how could one ever understand if he did not have some comprehension of it here? One must learn the next step to be taken before he can understand the reason for it.

190 一例として言えば、イエスはこの四次元を説明しようと努力しましたが、今日になってもその教えは理解されていません。その結果、四次元は今後理解されるだろうとする希望と共に生命の抽象的な側に置かれて来てしまいました。しかし、人がそれを今ここで何らかの会得をしない限り、これから先どのようにして理解できるというのでしょうか。人は進むべき次の一步を学ぶべきで、その理由は後になって理解出来るのです。

【解説】

イエスも仏陀も私達に四次元世界について説こうとしていたと本項は指摘しています。目に見え手に触れることが出来る三次元世界にあっても、その思考は四次元世界に広げられることを、これらの師は身を持って私達に示されたということでしょう。

私達の進むべき道は従前の物質世界の探求ではないと著者は本項で示唆しています。その上で何故それらが必要かは、意識や想念の働きを学ぶ中で自ずと理解されると論じているのです。

その為に私達は創造主がどのような存在であり、私達とどのような関係にあるか等、自ら探求する必要があります。これら探求の道は各自のもので、他の者が力を与える訳には行きません。自ら体験し実践する中で少しずつ理解が深まるというものです。達成出来たこの状況を仏教では悟りと言いますが、仏陀がそうであったように、その到達には長い年月の努力が必要です。目の前の現実の中で如何にして見えない世界を意識し、与えられるインスピレーションに従順になれるかがカギとなるものと思われま

191 The wealth of time could not be as great as an understanding that man must have before his future is secure. For without it he cannot hope to have the knowledge that our space brothers have.

191 時間の豊かさは人が自分の未来を確実にする前に会得していなければならない理解以上に偉大ではありません。何故ならその理解なしには私達の宇宙兄弟達が得ている知識を持つことは望めないからです。

【解説】

「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」（孔子）の通り、最も重要なことは宇宙の法則性に関する私達の理解、即ち悟りです。この理解こそが私達の進化の土台であるからです。

この理解はもちろん私達を取り巻く四次元世界、意識と私達との関係についてです。古来、多数の人々がある者は祈りにより、またある者は沈想によって自らを取り巻く不可視の世界とその働きを理解しようとして来ました。仏教寺院をはじめとする道場はこれら学習の場であり、僧侶は自らの精進を目指して感覚を鋭敏なものとする修行を行うものと思われまふ。その修行の中で、目に見えない法則（法輪）を見抜き、改めて宇宙の規則性に気づき各自が次に取り組むべき課題を知るということでしょう。

私達の前には確かに無限の時間がありますが、そのこと以上に法則の理解、悟りに到達すること、宇宙の法則性を理解することに価値があるのだと著者は説いています。

192 Man has learned much about the three dimensional world and now it is time for him to blend his knowledge with the four dimensional invisible world around him. That is if he is to do away with the mysteries that he has been governed by all of this time. And this can only be done by the mind, the effect, humbling itself to the consciousness - the cause, and thus allow it to explain the relationship of the two. Only consciousness can do this as it is the fourth dimension that knows no limitations.

192 人は三次元世界については既に多くを学んでおり、今はその知識を自分の周囲にある目に見えない四次元世界と融合させる時です。それは人が常日頃、支配されている諸神秘を取り去ろうとするならばです。そしてそれは、結果である心が自身を因である意識に謙虚にすることによってのみ可能となりますし、そうすることで意識に両者の関係を説かせることが出来るようになります。限界を知らない四次元である故に意識のみがこのことを為し得るのです。

【解説】

何故多くの教えが私達には謙虚さが重要だというのかが、本項で説かれています。

これまで私達は自分の意志の強さが全てを解決し、一人一人の目的地に導くとして来ましたが、果たしてそれは真実でしょうか。私達はこれまでのこのような姿勢を改め、私達の周囲の空間にこそ、感謝の念を抱き、そこからもたらされる印象（インスピレーション）の価値について自覚する必要があるのです。

本項では私達がこれまで学んで来た「知識」をその空間世界と融合させることを求めています。現象を整理した知識を創造作用の因にまで遡って理解し、実感することを求めています。

この周囲の空間を何と見るかで私達の生活観は大きく変わります。創造主に繋がる印象の海と理解することと、何も無いただの空気と位置づけることの間には文字通り「雲泥の差」があるのです。私達はこの一見、虚空と見える中に生命活動の奥義を見届ける必要があるのです。

193 The three dimensional effects are the coarser part of its expression, like sound which is produced through a low state of friction or conflict among the elements. But consciousness in its fourth dimension does not produce sound as we know it. Its method of communication is through the feeling awareness given in the form of impressions.

193 三次元世界の結果物は丁度、粗いレベルの摩擦や各要素類の間における争いを通じて造り出される音のように表現の内でもより粗雑な部分でしかありません。しかし、意識は四次元世界にあって私達が知っている音を造り出すことはしません。その意思疎通の方法は印象の形態における感じによる気付きを通じて行われます。

【解説】

意識世界についての私達の知識は、ほんの限られたものに留まっています。しかし多くの芸術家や宗教の創始者が得たそのイメージは日常の私達が考え及ばない程、精緻で美しいものであったことでしょう。本項では意識は想念の世界だと説いています。完成したイメージが行き交う創造の源であるのです。

この目の前の意識の世界に対し、私達はこれまで盲目であり、自分の前の目に見える部分しか関心を持って来なかった訳です。しかし、他の生きもの達はそれを知覚し自分達の生活に活かしているのです。それ故に多少の現実世界の変動に対して、何ら恐れることなく泰然としているのです。また、創造主への信頼、生命の永続性を理解しているが故に特段、死を恐れることもないのです。

般若心経の中に「空即是色」という表現がありますが、まさに空間こそ万物の拠り所であり、意識世界が万物の基礎であると仏陀も説いていたものと思われまます。

194 So in order to unite that which is now divided in man, the mind must be willing to be taught by consciousness. And remember, consciousness is the soul of any form which makes life possible.

194 ですから人の中で分断されているものを統合する為に、心は喜んで意識によって教わるようにならないければなりません。そして覚えておいて欲しいのは、意識はあらゆる形あるものを生命たらしめている魂であることです。

【解説】

私達が誰に対して謙虚にならねばならないかが問題です。自我の欲望の言うなりになったり、支配者の忠実な配下になることではありません。私達自身の存在を支えている不可視の意識に対して常に信頼を置き、その助言に耳を傾けること、傾聴する姿が求められているのです。

私達が如何に既存の感覚器官に依存しているかは、室内を真っ暗にした際、私達は何も出来なくなり、一歩も動くことも危うくなることから良く分かります。実際には明かりの有無の他は何一つ変わらないにも拘わらず、急に盲目状態になった私達は何をするにも自信がなく、行動が出来なくなるのです。しかし少し考えて見れば、身体各部は外界の光の有無に係らず、正常に活動していますし、生命としては何一つ不自由は無いのです。独り「心」だけが、不安を訴えているのです。

視覚が機能しなくなった中でも、それに代わり得る感覚的な要素があるように私自身は今、考えています。つまり目をつぶっても自由に動き回る意識があり、それは肉体を超越して遠く他の場所への拡がり、印象を捕捉し理解することが出来るような存在です。この存在こそが本講座で著者が説く「意識」であり、万物とも融合・融和出来るものだと考えています。

195 That we may understand more clearly let us become aware of the rim of the earth, as we did the shore of the ocean. And let the conscious messenger reveal to the mind the things in space, beginning with the fourth dimension. First, we will give you some idea of what is there in this invisible state. And as stated before it begins with the crust of the earth.

195 よりはっきり理解できるよう、以前大洋の岸辺で私達が行ったように、地球のふちに気付くようになりましょう。そして意識の配達人に四次元が始まる宇宙での物事を明かせましょう。先ず最初に私達は皆さんにこの目に見えない状態の中に何が存在するのかについていくらかの概念を授けましょう。そしてそれは以前述べたようにまず地殻から始まります。

【解説】

私達が最も確実だとして来たこの地面がどのように四次元世界である空間と繋がっているかは、地球を取り囲む宇宙空間を想い浮かべれば良いと著者は説明しています。海岸で目の前に広がる広大な海の中に想いを巡らせたように、空を見上げる必要があるという訳です。私達はむしろ海よりは空の方が遠くまで見渡すことができますし、夜空を眺めれば何百光年先の星の姿を見ることもできます。

こうした観察を通じて私達は自分と同様な創造物の存在を知ることはもちろん重要なのですが、それ以上に私達が目に見えない媒体を通じて宇宙の中のあらゆる存在と常に繋がっており、その空間から絶えずサポートを受けていることを自覚することがより重要です。

目的は私達自身の日常生活の中にこれら宇宙からのインスピレーションを活用し、私達と万物との関係を理解することにある訳で、これまで気付くことのなかった意識という無言、不可視の存在について、より深く親しみ理解することを目指さなければなりません。

196 Scientists know of various kinds of gases that proceed into space. The word gas does not mean much but the component parts of which gases are made, does. For in these is the food that the three dimensional world must have in order to live. As an illustration we will use this manifestation that has been used elsewhere in the lessons. When we gaze into a clear blue sky we see nothing, yet under proper conditions a lightning bolt is created in that space, which is made of minerals well known on earth. This shows that the component parts of what we call gas has substance that can produce solids. This is not the only proof for we have others. Many meteorites have landed on earth in various sizes, and when examined they contained the minerals known on earth. I am sure that these meteorites have not been thrown off of the earth and then returned. For they have dropped on the moon and other planets, so they must have been made in space as the lightning bolt is. This tends to prove that all elements known on earth in a coarser form have had their origin in a refined state in space. And as stated before, space is an incubator of forms in which planets and all forms are born and have their being.

196 科学者達は宇宙に向かって進む様々な種類のガスについて知っています。ここでガスという言葉はあまり意味はなく、ガスを構成している成分が重要なのです。何故なら、これらの中に三次元世界が生きて行く上で必要な食物があるからです。実例としてこれまでこの講座の何処かで用いられて来た創造作用を示しましょう。私達が晴れ上がった青空を見詰めても何も見えませんが、ある適した条件のもとでは稲妻がその空間に形成されますし、その稲妻は地球でよく知られている鉱物群から造られています。このことは私達がガスと呼ぶ成分には固体を作り出すことができる物質があることを示しています。これは唯一の証拠ではありません、私達には他にも証拠があるからです。多くの隕石は様々な大きさで地上に着地しますが、調査するとそれらは地上で知られている鉱物を含んでいることが分かります。私はこれらの隕石が地球から投げられて再び戻って来たものではないことを確信しています。何故なら、それらは月や他の惑星にも落下していますし、それゆえ、それらは稲妻のように宇宙で造られたに違いないのです。このことは、地上で知られている粗い形態にある全ての元素は、宇宙空間に精化された起源を持っていたことを示すものと言えるでしょう。そして、先に述べたように、宇宙は惑星やすべての形有るものが生まれ、そして存在する孵卵器なのです。

【解説】

いわゆる星間物質と称されるガス状物質が惑星その他の星を誕生させます。本項では宇宙空間におけるこのような成分は単にそこに浮遊して、その間何かに活用されると言った状況のものではなく、本当はもっと精緻に精化され高品位に維持されたものであると説いており、宇宙空間こそが万物創造のフランシス器なものと説いています。

以前にも述べたことがあります、隕石の多くは鉄を含むようですが、その断面を見ると鉄の結晶の姿が良く分かります。実はそれ程に宇宙空間では万物がその本来の純粋な姿に精化されているということでしょう。私達が想像する以上に、宇宙は整理整頓された状況にあり、唯一地球だけが混乱、混沌とした乱れた状況なのかも知れません。

直接、創造主の意識のみが作用する場所は、手付かずの自然環境と同様に、宇宙本来の静かで調和の取れた創造的世界になるという訳です。

ご連絡 [2017-06-30]

いつもご覧戴き、有難うございます。

都合により、次回更新は7月4日（火）になる見込みです。

2017年6月30日

竹島正

197 If the planet earth has produced out of its own body all that is upon it, and itself was born from the elements of space, then this should be a good proof that all planets are humming with life in varying degrees of development.

197 もし地球という惑星がそれ自身の体内から地上にある全てを作り出す一方、それ自身は宇宙にある諸元素から生まれたとすれば、すべての惑星は様々な発達程度の生命で活気溢れているという良い証拠になるはずで

【解説】

夜空を見上げると文字通り無数の星々が見えますが、その一つ一つの太陽に地球のような惑星が連なる状況は、宇宙は生命に満ちていると言うことが出来ます。また、それらの一つ一つに多くの生きもの達が暮らすこと、それらと私達は印象によって相互に影響し合えることを考えれば、宇宙における生命の仕組みの大きさや深さに改めて気付かされます。

これまで私達は自己のことにのみに関心が集中し、このような全体的な思考概念が消えうせていました。しかし、同じ宇宙空間から同種の惑星が誕生し、同種の生きものが棲息進化を遂げていることを考えれば、進化した他惑星人が遠い惑星を互いに訪問することは、自らの歴史の歩みを学ぶ場でもあることでしょう。

現在、仕事で途上国支援の業務のお手伝いをしていますが、それもかつてわが国が辿った歩みと比較しながら、今後必要となる知識や技術の移転を主目的にしています。しかし、同様のことは他惑星の兄弟達からアダムスキー氏を通じて、今後私達地球人が必要な概念について、本講座を通じて伝えられたものと考えます。宇宙の中では様々な進化段階の惑星社会があり、各々がその歩みを進めているということでしょう。

198 Even though great distances exist between planets and there is no established communication with them, this does not prevent one from knowing what is going on upon them. But to do this the mind must be trained to listen and be taught by the conscious messengers, without questioning the impressions while they are being given. Some will come in the form of thoughts and some with thoughts and pictures.

198 惑星間に長い距離が存在し、相互に確立された通信手段が無くても、それは人がそれら惑星上で何が起っているのかを知ることを妨げるものではありません。しかし、これを為すには心は与えられている間、その印象類に疑問を挟むこと無く、意識の伝達人に耳を傾け教えを受けるよう訓練されなければなりません。それらの内、あるものは考えとして、またあるものは考えと画像の形でやって来ることでしょう。

【解説】

遠く離れた者同士が相手の状況を分かり合えることはよくあることです。また、重大な発見や発明が同時期に起こることもよく知られています。実はこれらは私達の中には距離に関わりなく印象を互いに感受できたことに由来するものと思われれます。私達はこれまで知らず知らずの内に印象を感受し、活用したことがあるということでしょう。

距離に関わり無く印象が届くことは、印象はいわゆる四次元世界に属し、三次元世界の制約を受けないことを意味します。近くに居ても別の印象世界にアクセスする者も多いことでしょう。しかし、師弟や兄弟、夫婦等、強い結びつきは転生後も記憶は継承され、各自の中に留まることでしょう。その者が転生後、長年月経過して互いに再び出会う時、初対面であっても何か惹かれる印象を持つのは、互いの過去の結びつきに由来するのかも知れません。

仏陀が涅槃に向かうにあたって、仏像が造られたとされていますが、師を慕う弟子達はひたすら師の面影を求めて仏像を拝したものと思われれます。仏像は物理的には木は銅の塊ですが、その示すところは遠く離れた仏国土（惑星）に転生された仏陀との印象を通じた日々の交流を求めることに由来しているものと思えます。

199 When thinking of this let your mind be attentive as it was while viewing the ocean. And while the ocean has boundaries, space has none. This phase of development is very important, even when we begin to travel in space ships. For had I not developed along this line to some degree, my trips in space crafts taken bodily would have been of little value. Because there were many things on the ships and in space that my mind did not understand. But my consciousness revealed them to me. And later my understanding was verified. The language barrier was not present for in some cases I exchanged ideas with the space brothers consciously. This would have been impossible mentally.

199 このことを考える際、貴方の心を大洋を眺める時のように注意深い状態にさせることです。大洋には境がある一方、宇宙にはそれはありません。私達が宇宙船で旅行するようになった時でさえ、この発達の段階は大変重要です。何故なら、もし私がこの線に沿って幾分かの発達を遂げていなかったら、肉体を伴った宇宙船に乗っての私の宇宙旅行は大した意味を持たないものとなっていたことでしょう。何故なら、宇宙船や宇宙には私の心が理解しない多くの物事がありました。しかし、私の意識がそれらを私に明かしてくれたのです。そして後になって、私の理解は確証されました。言語の障壁は有りませんでした。ある場合には私は意識的に宇宙兄弟とアイデアを交換したからです。これは心では不可能なことでした。

【解説】

イエスが「私はこの世のものでない」と言った時、イエスは自分の意識は私達のように地上に属しているような限定されたものでなく、広く宇宙に広がり他の惑星社会と居ながらにして繋がっていると、私達に説いていたと考えます。

同様に私達も自らの意識を広く宇宙にまで拡大し、その意識を通過する印象を感受する鋭敏さを持たなければなりません。本項の中で著者アダムスキー氏は、自分が事前にこのような訓練をしていた為にその後の宇宙旅行で役に立ったと述べています。これまで私達の心が経験して来なかった新しい事象や異なる文化に遭遇した時、心が動揺することなく、真実な姿を理解する為には事前の学習や印象感受による理解が不可欠となる為です。

多くの人々が宇宙人とのコンタクトを願い、宇宙旅行を望む中で、このような準備が整った者のみにその体験が与えられるものと思われれます。多くは自信の想定を確証し、次のステップに導くことが彼らの支援目的であるからです。自らの意識を宇宙に拡げることの重要性は全てのものに勝るキーポイントです。

200 The schooling of the mind is not an easy problem, but it is worth the effort even though it takes years to accomplish as it did for me. There is not a person on earth that does not receive impressions either from the earth, the inhabitants upon it or from other planets as well as the Cosmos. But there is a difference between the human and the cosmic impressions. For a mind is a mind whether on this planet or elsewhere and it has a tendency to confuse impressions and misapply them to suit the personal desire. Oftimes the mind permits the imaginary faculty to run away with it. The imagination is like a screen or a slate upon which the pictures are drawn and the human has a tendency to distort them.

200 心の訓練は容易な課題ではありませんが、それは私についてもそうであったように、達成に何年も要したとしても努力する価値があります。地球にいる人間で地球から、またその住人から、あるいは宇宙と同様に他の惑星から印象を受けてない人はいません。しかし、人間から来る印象と宇宙の印象とは違いがあります。何故なら心というものはこの惑星上の場合も他の場所でも同様で、印象類を混乱させ、個人的な願望に合うように不正に使用する傾向があるからです。しばしば、心はその想像力にその印象といっしょになっての暴走を許します。人の想像力とはその上に絵が描かれるスクリーンや石板のようなもので、人間はそれらを歪める傾向があるのです。

【解説】

ひらめき（インスピレーション）の真の意味を悟ることなく、自らの勝手な解釈からあらぬ想像を展開させて混乱するのが人の常ですが、本項ではこれら心の感受性を正しく伸ばすことの重要性と難しさを説いています。

もちろん、結果を觀れば自分の解釈の妥当性は分かる訳ですが、私達は如何にして素直に感受した印象の本質を知るかが重要となり、それを実践するための心の訓練が必要ということになります。

本文にも記されているように、宇宙にはおびただしい数の人間が住み、それら人々のだけでも毎秒いくつもの想念を放っており、それに加えて宇宙本源に由来する想念波動も無数に行き交っている訳で、私達は先ずはより高次の想念を導き入れ、同調出来るよう自身を精化する必要があります。

こうした中、貴重な想念・印象にめぐり合うことは、砂漠の膨大な数の砂粒から、一つの輝く至高の粒子と出会うような奇跡であり、貴重な体験です。その貴重な機会を生かすか無為にするかは、ひとえにその時の心の状況に掛かっています。もたらされる貴重な印象を最大限享受する為に、私達は常に心を空 (Empty) に保ち、与えられる印象に備える必要があるのです。

201 i.e. The imagination can mate a flea with a dog on the slate but this can never be done in the cosmic plan. The picture would represent a misplacement of the law and this is where one must be very careful if we are to have the truth. There is so much of this going on now, and that is why we get so much confusion regarding our space brothers. This is caused by misapplication of the true law in order to satisfy the individual ego. And the un-natural stories come from this source.

201 すなわち、想像では石板の上でノミと犬をつがいにすることが出来ますが、宇宙の計画ではそれは決して起りません。その絵は法則の履き違いであり、これは私達が真理を得る上でとても気をつけなければならぬ所です。このようなことは今、多く起っており、それが私達の宇宙兄弟達に関してこれ程、私達が混乱している理由です。このことは私達各自のエゴを満足させる為に真の法則を誤用することによって起ります。また、不自然な物語がここを源としてもたらされます。

【解説】

私達が印象を重視する生活になった場合に最初に直面するのが、本項で示されているような心による印象の歪曲、曲解です。感受した印象そのままを大切に扱うべきなのですが、私達はとかく自分（エゴ）の都合の良いように解釈を進め、印象の本来の意味を捻じ曲げ易いのです。

私達自身の感受性を高めると同時に、その印象の素直な解釈が求められる訳で、私達の進む精進の道を歩むことは容易ではないのです。しかし、その2点さえクリアすれば、後は意識の指示の下、進化の道は末永く続いて行くことと思います。とりわけ重要なのは印象を素直に受け入れることでしょう。誠実さが求められるのは何よりこの一点にかかっているからです。

最終的に印象を行動に移す際、何を実現させるかは私達の責任です。印象自体は宇宙開闢以来、膨大な数、宇宙空間を行き交っており、いずれは出会う機会もあるでしょうが、それを誤った解釈する心そのままでは、終生救い難い存在になるからです。

202 To guard oneself against such wild impressions, remember that a human form is always a human form even on another system. For the pattern for man is cosmic. The difference would be in the refinement of the form and the expansion of knowledge in different fields of expression. Yet the similarity from the lowest to the highest will be present for there are no blanks in the cosmic plan. In the field of service he who is guided by cosmic consciousness recognizes no divisions but blends all phases of manifestations in relationship to all others. No discrimination or judgment exists for one who has an understanding. Analysis for the purpose of correction and understanding of the misapplication of the law is ever present.

202 このような粗野な印象類から自分を守る為には、人間という形態は他の太陽系においても常に人間の形であることを覚えておいて下さい。人の為のパターンは宇宙的だからです。違いがあるとすれば、その形の精緻さと様々な表現分野における知識の広がりにあるでしょう。しかし、最低位から最高位の間には類似性が存在し続けています。何故なら宇宙の計画に空白は無いからです。奉仕の分野において宇宙意識によって導かれている者は如何なる分断を観ることはなく、それらすべての創造の現れの側面を他のすべてとの関連において融合させます。理解を得ている者に差別や裁きはありません。法則の誤用に対する修正と理解を目的とする分析が永劫に存在するだけです。

【解説】

誤りを犯し易い私達に対して著者は宇宙にはピンからキリまでの幅広いレベルの存在があり、人間は所詮過ちを犯し易いのだと諭しています。こうした中、自ら過ちに気付いたらそれがどのようにして生じたか分析することだと説いているのです。

低次元の自分のエゴと同質の他人からの想念・印象とは容易に同調出来る一方、宇宙から来る目に見えない瞬時のヒラメキである印象を正しく解釈することは、それほど容易ではないということです。

また本項は私達の誤りの特徴として差別感を挙げています。善悪、優劣は私達の心の特徴であるからです。逆に言えばそのような印象を持つ場合は、そこには宇宙的要素はなく、人間の心から出たものか自身の心による解釈と判断した方が良いでしょう。それ程に印象の中には実に幅広いレベルの差があるので

そうした多様性の中で自分はそもそもどのような印象・インスピレーションを求めるかは明確にして置いた方が良いでしょう。求める所に授けられるというのが宇宙の法則と思うからです。

203 One can be fairly sure of being right in what is received through consciousness providing the mind does not indulge in wild imagination or judgment. Even though the impressions may not be understood at the moment, for oftentimes patience is required. But the fact that there is a revelation should give you the assurance that it will fit in someplace when the time is right.

203 人は心が乱れた想像や裁きに耽らないならば、意識を通じて受け取るものについては十分正しいものと確信して良いでしょう。その印象が例えその時理解できなくてもです。多くの場合、忍耐が必要なのです。しかし、啓示というものがあるという事実は、貴方にそれがいつか時が正しい時に何処かで当てはまるという確信をもたらすことでしょう。

【解説】

多くの場合、宇宙源泉から授けられる印象はささやかでまた直後は理解し難いものが多いようです。それは受け取る私達の日常と合わないものや未だ現実化していない未来の事象を垣間見るものであるからです。

限られた私の体験からも現実化する10数年以上も前に夢に見た印象深いものがありました。当時は全く想像できない程、現実と異なるものでした。しかし実はその後、10数年を経て、当時見た夢と同様な光景を体験することとなり、驚いたものです。

このように私達に授けられる印象は、心が当座受け入れ難いものでも大切に受け取らねばなりません。後々現実になるものが多いからです。その際重要なのは、感受した印象を心が要・不要と即断せず、忍耐強くその意味を考え、大切に受け取ることだと考えます。与えられた印象を大切に記憶し、将来役立つ時まで保管し、発信源を信頼することです。

204 Never allow the mind to become emotionally affected to the point where it wants to tell the world what has been revealed to it. For when the time of revelation does come - it will be given calmly and modestly. The tricks that the mind has cultivated and accumulated will appear from time to time and try to show the other fellow how much it knows. This is definitely wrong and should this occur it is time to remember - do unto others as you would have them do unto you. The mind has been dwelling in untruthful things for ages and when the real truth is brought to it, it does not like to accept for it built its foundation on mistakes and does not like to have them disturbed. And as said before, this does not mean that mistakes are of no value, for they show us the right way to act. But one mistake is not to be covered up with other mistakes. It is to be corrected immediately.

204 決して心に明かされたことを世間に告げようというところまで心が感情に動かされるのを許してはなりません。何故なら啓示がやって来る時、それは静かにそして控えめに与えられるからです。長年心が培い蓄積して来たたくらみが時折現れて、同僚に如何に自分が知っているかを示そうとします。これは絶対によくないことであり、万一起こった時は、次のことを思い出して下さい。汝が他人にしてもらいたいと思うことを他人に為せです。心は長い年月、嘘で固めた中で生きて来ているので、実際の真理がやって来た時、過ちの上に基礎を置いており、混乱されたくない為にそれを受け入れたくないと思うのです。しかし、以前申し上げたように、その過ちは価値が無いとしているではありません。何故なら、それは行動すべき正しい道を私達に示してくれるからです。しかし、ひとつの過ちは他の過ちによって包み隠されてはなりません。直ちに直されねばならないのです。

【解説】

うぬぼれ、高慢こそ私達が最も注意深く排除しなければならない要素です。それは同乗記その他の中で伝えられている進化した惑星人の言動からも彼らには一切そのような要素が無いことが分かります。もし地球人が同じ立場なら、地球より低レベルの星の人々に対して、いわば軽蔑的に”このようなことも知らないのか”と言い出す場面もある筈です。しかし彼ら進化した惑星人は実に暖かく地球人に接しています。それは真理を知り、真実に生きる者の特徴であり、決して他を見下すことはありません。

一方、少しでも他人より知識があれば、それをあげつらい自己顕示するのが私達の心の特徴です。本来そのような者に創造主の印象を同期する能力は無いのですが、偶然何かの機会印象を得たとしても、それを不用意に明らかにすれば、その後、それらの未来に起こるべき事象は本来の軌道を離れて実現出来なくなることも大いに考えられます。もし自分の願いに叶った印象であるなら、それは自分の中にそっと保存し、その後の実現を待つというのが、正しい対処法かと考えます。

重要な点は自らに授けられた印象を拠り所として次にどのように行動するかであり、決して得た印象を他人に伝え、自分がインスピレーションを得たことを無分別に喋ることは益になることではないのです。

205 If you are not sure whether a mistake has been made or not, make a careful analysis of the effect. If you feel that you have, the way to make the correction will be shown. And if the action is against another human being, become that person, and you will know what is to be done without loss of time. For every mistake cuts one off from cosmic impressions and creates a condition like a vacuum or gap between two points. It is no different than being disconnected while talking on the telephone. If this is caused by a break in the line, and the one making the call is unaware of the break, he continues to talk but the receiver is not getting the impressions. And he will not until the correction is made. So the intervening conversation is lost to the receiver, and the gap is filled with confusion and wondering what was to have been said. And in this way, what would have been received is distorted.

205 もし貴方が過ちをしたかどうか不確かな場合は、結果について注意深い分析をすることです。もし過ちを犯したとを感じるなら、修正を行う方法が示されるでしょう。そしてその行為が他の人間に対するものなら、その人間になって見なさい。そうすれば時間の無駄なく何を為すべきかが分かるでしょう。何故なら、あらゆる過ちは宇宙的印象類から本人を切り離してしまい、2点間に真空或いはすき間のような状況を造り上げます。それは電話で話をしている間に電話を切られた時の状態と違いはありません。もしこの状態が通話中に起り、電話を掛けている一方がその断絶に気がつかない場合は、彼は話しを続けませんが、受信者はその印象を受取っていません。線の復旧が行われるまで彼は受信できないままです。その為、受信者にとってその間の会話内容が失われ、そのすき間は混乱とその間に何が話されたかについての好奇心で埋められることとなります。そしてこのように、受信された筈の事柄が歪められるのです。

【解説】

ここで注目すべきは、印象・インスピレーションは確かに受信の際は瞬時に来るものですが、実際にはその後も印象の経路は続いているということでしょう。丁度、印象が流れる道筋が出来たように、想念・印象の送り手と受け手の間に印象のチャンネルが形成されるということのようです。

即ち、ひとたび創造主あるいは高次の人物からの想念・印象を感受出来れば、以後は比較的容易に印象は流れ込んで来るという訳です。

しかし、本文にあるように受け手の側に取り扱いを誤る事態があれば、その印象の流れが滞り、不都合が生じることとなります。意思が通わなくなる訳です。またこのことから分かるようにひとたび高尚な印象を感受することが出来たとすれば、その時、私達はその印象の発信者とのチャンネルが出来たことになり、大変貴重な機会を得たこととなります。出来るだけその状況を記憶し、その後も継続的に繋がるような心境を保つべきでしょう。印象を大切にす根拠はこの点にもあるのです。

206 In the case of an uncorrected mistake against another, a mystery is created that may never be solved. And if it is done after a lapse of time the feeling will never be the same again. So there is a loss through the neglect of correction. And yet the correction even under these conditions is very important in order to carry on. For somewhere along the line the lost words or impressions will repeat themselves, even if for another reason, and he who has the knowledge can use these words to fill in the gap. It is no different than a window pane that will fit into a number of places.

206 ひとつの修正されない過ちに対して更に修正されない過ちが起る場合には、決して解決しない神秘が作り出されてしまいます。そしてもし、時間経過の後に為される場合には、その感じはもはや同じにはなりません。ですから修正を無視したことで損失が生まれるのです。しかもこれらの状況の中であっても修正はめげずに続けて行く為にはとても重要です。何故なら、その線に沿った何処かでその失った言葉や印象類は、他の理由からであっても再現するでしょうし、その知識をもつ者はそのすき間を埋める為これらの言葉を用いることができるからです。それは数多くの場所に当てはまる窓ガラスと何ら変わるものではありません。

【解説】

本文を読んでいて、何故著者は窓ガラスを私達に求められる修正の象徴として表現しているのかを考えてしまいます。

本文では具体的な記述はありません。しかし、その参考とすべき好例として、私は今日パソコンをお使いの方はご存知のようにWindows10の開始画面における窓から光が差し込む状況をご紹介したいと思います。パソコン画面では暗闇の部屋に窓から外の光が差し込んでいるという光景です。いわばその窓が自分自身の暗闇を外の光で照らし、迷いを取り除くような機能として描かれているように思うのです。

私達は暗闇の中で多くの過ちや苦悩にもがいていました。それらは所詮、私達の誤りや迷いに由来するのですが、その解決策として窓を設けることで、外の光溢れる世界と繋がるのが可能となる訳です。一つ一つの誤りに対して素直に改めて行けば、暗い心の部屋に外部の光が通り、もはや迷うことがないよう、窓が付けられると表現されているように思うのです。

207 One must not be overly cautious in avoiding mistakes. For then he would be doing nothing - this has no value. The important thing is to realize and correct mistakes as soon as possible. For when one misses something that was meant for him, either by word or association, it sometimes takes years or even centuries to find it. I have known people who were searching for something all of their present life time. Sometimes they know what they are looking for and sometimes they don't. But they do know when they find it for the uncertain nervous feeling vanishes and they emanate a warm pleasant feeling and seem to enjoy everything that they do. They are not concerned with the future and seem content and happy to live from day to day. But they have a hunger to learn all that they can, and seek association with those whom they feel have what they want. This is usually a good indication that they are filling a gap - a something lost somewhere in life.

207 人は過ちを避ける為に過度に用心深くなつてはなりません。何故なら、そうすることで彼は何もしなくなるからです、これでは価値がありません。重要なことはできる限り速く過ちを自覚し修正することです。何故なら、人はその者にとって意味のある何かを失った場合、それが言葉によってか、あるいは人間関係によってかを問わず、それを見つけ出すには何年も、場合によっては何世紀もかかるからです。私はある人々が彼等の生涯の全てにおいて何かを探し続けているのを知っています。ある時は彼等は自分達が何を探しているかを知っていますが、わからないでいる場合もあります。しかし、彼等はそれを見つけるや否やそれがわかります。不安定で神経質な感じが消え失せ、暖かな楽しい感じが発せられますし、彼等が為すことすべてを楽しんでいるように見えるからです。彼等は未来には関心がなく、日々生きていることに幸せを感じています。しかし、彼等は学べるもの全てに渴望しており、彼等が求めるものを持っていると感じる者との繋がりを求めています。これは通常、彼等が人生の何処かで無くした何らかのすき間を埋めている良い兆候なのです。

【解説】

私達は多かれ少なかれ何かをしたいという願いがあるものと思います。具体的なイメージが無い場合も多いのですが、何か自分の目的を探して暮らしている人も多いのかも知れません。出会いを求めるという訳です。

実はそうした背景には、その人の過去の学習体験、とりわけ学習の過程で見失った要素が関係していると本項は説いているのです。自分に必要であった要素を当時、見失ったために今生においてそれとの再会を願うのだということです。

実はそれ程に私達の生活の中での学習体験は重要だということでしょう。各自の成長に必要な要素は死後の転生先にも引き継がれる訳で、自分自身その理由は分からなくても自分が必要な要素を提供して呉れる者や言葉（教え）との出会いを求めるものだとしています。更にその出会いが出来た時、幸福感が湧き、更に学びたいという欲求が起こるとしています。

これらが本来のカルマというものでしょう。日々行動する中でその出会いのチャンスが生まれます。

208 Yet some individuals after finding this go astray. And there are millions of such. But when this happens more than one gap is made and sometimes these are almost impossible to fill as the human mind in many cases is lazy and seeks the highway of least resistance. Thus it creates many gaps through its span of life. And this majority never know true happiness, peace and contentment. And the indications are that they are off the beam of life which is of cosmic nature. For they are easily irritated, hard to satisfy, fault finding and display very poor sportsmanship. They constantly seek new friends which are not stable, but of the same nature.

208 それでも人によってはこれを見出した後も、道に迷う者もいます。しかもこのような例は何百万もあるのです。しかし、これが起った後は、出来るすき間は一箇所に留まらず、時として埋めることがほとんど困難になってしまいます。何故なら人間の心は多くの場合、怠け者であり、最小限の抵抗という常道を求めるからです。このようにして心はその生涯を通じて数多くのすき間を造り出すのです。そしてこの多数派は真実の幸福や平和、満足を知ることはありません。そしてその兆候は彼等が宇宙的性質である生命の光線とは離れていることを示しています。何故なら、彼等は容易にイライラして、満ち足りることが無く、あら探しをし、とても貧しいスポーツマン精神を表わすからです。彼等は常に新しい友人を求めますが、それらは不安定であり、また同類の者達です。

【解説】

人間にとって何が一番大切かについて、本項は私達に説いているように思います。即ち、誠実さ、素直さがそれであると私は思うのです。

本項で説かれているのは、過ち事態は人間である以上、よくあることで、いずれその修正をすべき時が来るとしています。しかし、修正する機会が訪れてもそれを実行せず何らかの言い訳を作って求めることを実行しないことが問題だとしているのです。怠け者であるのは人間の傾向ですが、実行せずにいると次の機会にはその巡り合う事象の意義さえ見失い、自分の周囲のもの全てを批判し束の間の心の欲望のみに走り、進歩から遠ざかってしまうと警告しています。

本文ではその修正されないで残っている状況をギャップ、即ち道路の亀裂に例えています。やがて進む方向のあらゆる所に亀裂が出来れば、本人にとっては前に進むのも嫌になり、自暴自棄に陥ることでしょう。

それに対し、与えられた印象に素直であり、誠実に対応しようとするれば、それは修正の機会となり、道は修復されスムーズに進化して行けることとなります。

209 These people are like a man lost in a heavily wooded forest where the congested growth hides the sun and the vision of heaven that could lead him in the right direction. The timbers could be likened to personal opinions that blocks the vision of light that could show the way. A person may even die in this state and never know the true purpose of life. We have people who have everything that the world has to offer, even security beyond their needs, but they are very unhappy within themselves. They have searched all of their lives for something they did not understand. They sought wealth and fame for security but after having this, the happiness they longed for was not there because they had never left the timber land of self opinions. And their values of life are out of line with the cosmos.

209 これらの人々は生い茂った木々の成長が正しい方向を示してくれる太陽と天の視界を隠しているうっそうと茂った森の中で道に迷った人間のようなものです。木々は道を示すことができる光の視覚を遮る個人的な意見に似ていると言えるでしょう。人によってはこの状況の中で亡くなり、人生の真実の目的を知ることはありません。私達はこの世が提供できるあらゆるもの、そして自分が必要とする以上の安全さえも手に入れ、それでも自分自身の内面ではとても不幸である人々を知っています。彼らは自分の生涯の全てを自分ではわからない何物かを求めて来ているのです。彼らは安心のために富や名声を追い求めて来ましたが、それを得た後は、願っていた幸せはそこには無かったのです。何故なら彼らは自己の意見という森林を離れることはなかったからです。そして彼らの人生の価値というものは、宇宙の方向からは外れています。

【解説】

私達が自ら進むべき方向、本来の自分が為すべき事柄が分からず、迷っている状況を日の光が差し込まない薄暗い森林の中で道に迷った者と本文は表現しています。

実は私達は生きて行く過程で多くの過ちを犯しますが、その度に本来の解決策でなく、自らの言い訳を造り上げ必要な修正を行わないで過ごしがちです。その度に自分自身に自らの視界を遮る大木を植えてしまう訳です。そして遂には自らの進路をも暗くする森を造り上げ、その自我の茂みから抜け出せずに一生を終わる者も多いと警告しています。

本来は宇宙から降り注がれる導きの印象に従えることが出来れば良いのですが、それらを遮る自我が問題で、そのような状況の中でじっとしている怠惰な状況は、早晩私達自身を滅ぼすことになるのです。

210 Little did they know that what they were searching for was the other half of themselves which was not to be found in the darkness of their own opinions. For this is found in the light of consciousness which they never did enjoy. Yet it was always there, for every now and then the light would penetrate the darkness of the wooded country, but they failed to see and understand it. There are those who have followed the light of consciousness and found the way out and felt and enjoyed the freedom of the open country. And thus they experienced a lasting security that was never known before. Yet others not realizing what they had found, returned back into the darkened land only to be lost again. And they continue to create forests of darkness through which it will be harder to find the way as time goes on.

210 彼等は自分達が求めているものが自己の意見という暗闇の中では見出せない自分自身の半身であることが少しも分からないのです。何故なら、これは彼等が決して享受したことのない意識の光の中において発見されるものだからです。それでも、それはそこにいつもあります。何故なら時として光は木々に覆われた土地を貫くことがあります。彼等はそれを見落とし、理解し損じるからです。また、意識の光に従って外に通じる道を見出し、広がった大地の自由さを感じ、楽しむ者もいます。そしてこのように彼等はこれまで経験したことのない永続する安心感を体験するのです。それでも他の者達は自分達が何を発見したのかを自覚せず、再び暗い土地に戻って行き、ただ再び道に迷います。そして彼等は時間が経つにつれ見出すのをますます困難にさせる暗黒の力を造り続けるのです。

【解説】

永年探し求めていたのは、自分のもう一方の半身であるとは、至言というべき言葉です。私達は既に各自の細胞を造り上げている分子原子が知性を有していることや記憶を保持することを本講座から学んでいます。しかし、これらに気が付くことのないまま、外部に導き手を求めているという訳です。

従ってその実状を照らす光を受けるだけで良く、その明るさの中で真実が見えるようになるということでしょう。宇宙哲学の本の表紙に描かれている松明（タイマツ）のイメージはこうした人々の周囲の暗闇を照らすという象徴であるのです。

しかし、残念なことにはたとえ光が差し込んでも自分は暗がりの方が良いとして、引きこもってしまう者も居るという訳です。素直に祝福を受け、それによって自分に何が出来るようになったかを見極めて、進んで恩恵を受けるように受容的態度が必要です。

211 This recalls an incident which happened to my wife Mary, who has since passed away, when she became lost at night fall in a jungle of high wild lilac which covered only a half acre of land. She became frightened and called for help, even though she was only about 500 yards from home. This is used only as an example to show how easily one can become lost in a jungle of self opinions which are contrary to cosmic purpose.

211 このことはずっと前に亡くなった私の妻メアリーに起こったある出来事を思い出させます。それは彼女がわずか半エーカーの土地を覆っていた野生の背の高いライラックのジャングルに夕暮れ、道に迷った時に起こりました。彼女は恐ろしくなって助けを呼んだのです。家からわずか500ヤード足らずの所に居たにもかかわらずにです。この事例は宇宙的目的に正反対な個人的意見というジャングルで人は如何に簡単に道に迷ってしまうかを示す例として用いているにすぎません。

【解説】

薄紫色の花をつけるライラックは日本では札幌等が有名ですが、おそらく著者の自宅の近くにそのような花園があったものと思われます。ちなみに「半エーカー」とは日本式に言えば「約600坪」の大きさです。（1エーカーは63m×63m）。

そのような場所でも中に迷い込み出口に通じる経路を見失うことがある訳ですが、心が不安になると実際にはどんなに出口に近くてもパニックに陥り易いということでしょう。後から考えれば滑稽に見えることが実は多いように思えます。

私達はこうした場合、自分の不安になる心を鎮め、その理由が何処にあるのかを論し、かつても類似した経験を思い出して、再考させる必要があるように思っています。心が不安としている原因や理由を突き詰め、自分自身の弱さと対峙する必要があるのです。

212 It is unfortunate that 99% of the human kind are living in this kind of a jungle of the mind. When they could enjoy the consciousness, the other part of themselves that has everything that the human will ever need. For they could enjoy a life free from fear, with which the mind is shackled. There is one thing we can say for the noble space people, their minds follow the consciousness of the cosmos. And even though they are not perfect in its execution, they will be in time for they follow the guidance of consciousness.

212 残念なことに人類の99%が心のこの種のジャングルの中に生きています。彼らが人間が欲するあらゆるものを持っている意識すなわち、自身のもう一方の半身を享受することが出来るのにもかかわらずです。何故なら心が鎖で繋がれた恐怖から自由になれば生命を楽しめるようになるからです。高貴な宇宙人達について一つ言えることがあります。彼らの心は宇宙の意識に従うということです。そして彼らはその実行において例え完全ではなくても、彼らはいずれそうなるでしょう。彼らは意識の導きに従っているからです。

【解説】

先ずは私達が不安に駆られている自らの心に支配され、本来自らに授けられている全能の知識からの声、即ち宇宙の意識に気付かないでいることを、よくよく自覚する必要があるという訳です。

私達は長年、心の意見に従った生活を送って来た為に、身の回りの真実の姿に気付くことが無くなっているのです。その証拠に、たとえ同じ風景を見ても、或る人はその美しさに感動する一方、多くの人々はその価値に気付くことなく、自らの別の関心事に頭はいっぱいになり、通り過ぎてしまうことも多いものです。

これらの状況をどのように改善したらよいかは難題ですが、やはり先ずは自分自身の内面の動き、即ち時々刻々受け入れる想念を観察し、その実態に直面することから始めるべきかと思います。せつかくの目の前の花や虫たちの喜々とした活動の手本から、宇宙本来の指導の価値を学び取り、自らの心の迷いの闇を取り去ることを実行出来るのは、自分しかいないのです。

213 In the next lesson I will explain the importance of newness in order to maintain a youthful body.
213 次の課では若さあふれる身体を維持する為に新しさの重要性について説明しましょう。

【解説】

意識を知るといふ私達の心の訓練は容易ではありませんが、価値ある訓練であり、修行です。問題は各自それぞれが自ら取り組む必要がある訳で、その歩みは自分で進めるしか方法は無いのです。

私達が学習の対象とするものは、目に見えない領域、インスピレーションの源泉とも言うべきものであり、当面は具体的に他人に示せるほどの理解は難しいかも知れませんが、各自の体験を積み重ねる中で、意識への信頼も増して来るものと思われまふ。

実はこれら作業の中で唯一の敵は自分自身であり、この意識の対極にあるのが私達の自我の心のように思われまふ。こうした取り組みを進める上で大切な要素として、次章で説かれる新鮮さがあるよう思ひまふ。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON SIX

Newness, The Rejuvenator Of The Mind

214 In lesson five we showed you how the mind can get lost in the jungle of opinions.

生命の科学—学習コース

第6課

新しさ、すなわち心の若返りの推進役

214 第5課では私達は皆さんに心が意見というジャングルの中で如何にして道に迷ってしまうかを示しました。

【解説】

第6課を始めるに当たって、著者は第5課の最後の部分で示した心が様々な意見の中で迷ってしまうことを改めて述べています。

いわゆる”迷い”の状態である私達の真実の姿がこのように形容されることについては、私達は単に読み飛ばすことなく、それがどのような状況だと著者が説いているのかを分析する必要があります。

もちろんこの中には他人の意見もあることでしょう。今日のように右から左までの多数の論者、評論家の意見がマスコミ等で垂れ流される中で、私達はどれが真実なのか、進むべき方向に迷うことはある意味、当然のことなのです。おそらくそれと同様により深く根底に及ぶ想念・印象の取扱いについても、既存の宗教は様々な主張を繰り返している為、却って私達自身が素直に現実を観て学ぶことを妨げているとも言えるのかも知れません。

つまりは自身で展望の効いたすっきりした世界観が認識出来れば、以後の迷いは消滅すると思われまじし、その為にとどのような心境、心構えを維持すべきか、本課で学ぶことが出来るものと考えます。

215 You see the body is on one hand independent of the mind, yet on the other hand there are certain cell groups that are related to the mind and obedient to it. This is the cause of the conflict that a human finds himself in daily. The mind is inclined to be habitual and lazy. It would rather travel the road of least resistance than the road of progress that calls for steps yet unknown. This is why we are plagued with tradition and conventions of ancient times that no longer fit into our present way of life. But despite this, the mind must accept things from time to time whether it likes it or not.

215 おわかりのように肉体は一方では心からは独立していますが、他方では心と関係を持ち、心に従順な或る細胞群もあります。これが人間が日常、自分自身に葛藤を感じる原因です。心は習慣的で怠惰になる傾向があります。それは未知なる階段を必要とする進歩の道よりも最小限の抵抗しか無い道を歩むことを常としていました。これが私達が今日的生活方法にはもはや当てはまらない古来の伝統や因習に患っている理由です。しかし、これにも拘わらず、心は時としてその好き嫌いによらず物事を受け入れなければならないのです。

【解説】

随意筋・不随意筋という仕分けがありますが、心の指示による部位も私達の身体の中には多いように思われます。一方で心とは関係せず身体を支える活動をしている部分があり、私達はその恩恵により生きている訳です。

このように私達自身の身体の中にも心に従順な細胞と意識に従順な細胞とに分かれているということでしょうし、両者が異なる方向を志向することで体内に混乱が生じることになります。

とりわけ、何か重要な局面に私達が立った時、かつての経験にしか基づくものがなく、新しいこと未知なる体験を嫌がる心の傾向と相矛盾する事態も起こり得ることでしょう。その心に支配されている部分はやがて歳を重ねるにつれ勢力を拡大し、文字通り頑なな肉体となって老人化することでしょう。

従って、多少の不安はあっても、どしどし新しい事柄にチャレンジすることで、これらの細胞を再教育し、柔軟さを取り戻すことが重要です。

216 We can be thankful for the small minority of people in the world that are constantly looking for something new, not satisfied to live the doctrines of the old. It is this class of people that keep agitating the majority of the minds towards the better way of life without violence but with an understanding. The masses move very slowly and if it were not for this class of people that make them listen to the new phases, they would have been extinct long ago. Decayed by the law of monotony. But the newness that the few bring to the attention of the masses keeps them going. Slowly but surely.

216 私達は昔からの教義に満足せず常に何か新しいことを探し求めている少数の人々に感謝すべきかも知れませんが、暴力によらず共感をもって大半の人々の心をより良い生活の方向に進むよう促し続けるのはこの部類の人々です。大衆はとてもゆっくり動くものですし、もし新しい側面について耳を傾けるよう促すこの部類の人々がいなかったら、彼等はとうの昔に消滅していたであらうでしょう。退屈の法則によって朽ち果ててです。しかし、大衆の注目を引き付ける新しいものは、彼等を歩み続けさせます。ゆっくりですが、確実にです。

【解説】

医学の進歩や映像機器から携帯電話まで様々な技術の進歩が今日の私達を支えています。そのお蔭で人々の寿命も伸びている訳ですが、一方では高齢化社会と称されるように老化問題もより顕著になっています。

端的に言えば、他惑星人は何百年もの寿命がある中で、現在の地球の高齢者と比較すれば、同じ年齢でも格段に若々し肉体を持っていることが想像されます。本来的には私達は更に寿命を伸ばすべきなのですが、何故それが出来ないで居たかの方が問題なのです。

日常的な心の葛藤やストレスその他で私達は自分の肉体を痛め続けている一方、心は習慣の中に埋没しがちです。そうした中で次第に新鮮さや感動というものが薄れ、老化が急速に進行するものと考えます。

一方、自然の中では不思議と老朽化した姿を目にすることがありません。おそらく老いたものはすぐに他のものの餌食になるか、直ぐに朽ち果てて表舞台から退場するからかも知れません。しかし、それ以上に重要だと思うのは、自然界には宇宙本源から生命を刺激する印象が絶えず降り注いでおり、常に新鮮な想念が行き交い、万物はそれらに呼応して行動しているということでしょう。

若さはこれら新鮮な想念を取り込み、呼応して活動する結果として保たれるという訳です。

217 Newness is youth as well as progress. And there is some evidence today of the effect that newness has on society. For we can observe increasingly large numbers of people who do not show their age as they did in the past because in these days of scientific discovery something new is brought to their attention almost daily. Whether they understand or not the effects are there. Since man is nothing but a thought in action, any new thought, especially of cosmic nature, will have an effect upon his body.

217 新しさは若さであり、進歩でもあります。そして今日では新しさが社会にもたらしている効果についていくつかの証拠があります。何故なら私達は今日の科学の発見の時代にはほとんど毎日のように何か新しいものが注目される為、かつてのように年令を思わせない多数の人々がだんだん増えているのを見ることができるからです。彼等が理解しているかいないかは別としてその効果はそこに出ているのです。人は行動する想念以外の何物でもない為に、如何なる新しい想念であれ、とりわけ宇宙的性質を帯びたものは、その肉体に効果をもたらすことでしょう。

【解説】

私達が日々どのような想念を抱き、受け入れているかがその人を形作って行くと言えます。幼子が毎日充実した一日を送れるのも、新しい体験を楽しみ、好奇心に満ちた時間を過ごしているからとも思いません。

一方、それに引き替え、歳を重ねるにつれ毎日の暮らしに感動も新鮮さも失いがちになってしまいます。しかし、それこそが注意すべき点です。新しい事柄や知識から私達が学び続ける中で私達は若さを保つことが出来ると著者は説いているのです。

そういう意味では、他惑星人は学習の一環として宇宙旅行を多くすると同乗記に記されていました。自分が知らない土地や場所を見ることや他の人々と交流すること、他の文化に触れることも大いなる学習と言えるものです。

基本的に宇宙空間には活発な想念・印象が湧き出ている訳で、私達はただそれに対し受容的な心境を保てば良く、そうすれば自ずと生命力溢れる想念を取り入れることが出来る筈です。また更に言えば、こうした状況を多くの人に気付いてもらうことが社会全体を向上させることにもなる訳です。

ご連絡 [2017-08-01]

いつもご覧戴き、有難うございます。
都合により、明日の更新はお休みします。

2017年8月1日

竹島 正

218 Let me clear the point of man being a thought. To create a form like that of man or any other, whatever is responsible for creating the form had to have a thought pattern of the form before it could be created. Man is a thinking being, for if he did not think he would not be what he is as thought is the motivating force of his being. He has to think before he can walk or eat and no matter what he does he has to have a thought as a director. And these thoughts come to him either as a combination of past experiences, associations with others, or as cosmic impressions.

218 人が想念であるという要点について明確にして置きましょう。人あるいは他のどのような物でも形を造り出す為には何者がその責務を担っているにせよ、それが創造される前にその形についての想念パターンを持たねばなりません。人は考える存在です。何故なら想念がその存在の原動力である故に、もし考えることをしなければ、人は自分が自分であることがなくなることでしょう。人は歩くにせよ、食べるにせよ、その前に考えなければなりませんし、如何なることをするにしても想念を指揮者にしなければなりません。そしてこれらの諸想念は過去の体験や他との結合として、あるいは宇宙的印象類としてその者のところにやって来ます。

【解説】

繰り返しになりますが、人間を形作るのは想念だということです。私達が受精卵から今日の身体まで形成されたのも、各々の形成の過程で適切な想念が与えられ、分子原子がそれらに従って細胞を造り上げて来たからに他なりません。

同様に誕生以後も日々取り込む想念によって、人それぞれの性格も形作られて行く訳です。それ故にどのような想念と同調するかは大切な問題なのです。良質な想念に対し常に素直で受容的な態度で受け入れ、そうでないものを自身に取り入れらないよう常に監視して置く必要もあるのです。

物質・物体に先行して想念・印象がある訳で、その想念・印象がその後の物質・物体を左右していることに気付く必要があるのです。当然好ましい想念・印象は好ましい結果をもたらすでしょうし、私達の未来も今日抱く私達の想念・印象が作用することになります。

219 Now let us observe how different types of thoughts manifest. If an angry thought enters the mind the facial expression changes to represent the anger. And if a happy thought is present it expresses, etc., etc. It is no different than a sculptor who molds out of clay a thought that he has in mind. So a thought whatever it may represent is like the sculptor for it molds the facial expression to represent itself. So we as intelligent beings desiring youthful, healthy, well proportioned bodies should always have that type of thought for it will mold the body according to its pattern. And a thought of newness especially along cosmic lines is important if the body is to maintain youthfulness.

219 それでは如何に様々な想念が体現するかを観察することにしましょう。もし怒りの想念が心に入り込むと、顔の表情は怒りを表わす為に変化します。また、楽しい想念が居合わせた場合にはそれはそれこれの表情を表わします。それは彫刻家が心の中で抱く想念を土からかたどるのと違いはありません。ですから想念がどのようなものを表わすにせよ、彫刻家のようなものです。それ自身を表現する顔の表情をかたどるからです。ですから若く、健康で良く調和した肉体を望む知性的存在である私達は常にその種の想念を持つ必要があります。何故なら想念はその想念パターンに従って肉体をかたどるからです。そして特に宇宙的分野に沿っての新規性ある想念は肉体が若さを保つ為には重要です。

【解説】

結局はその人の人生を長寿にさせるか、短命なものとするかは基本的には本人の取り込む想念次第であり、本人の責任と言えるでしょう。私達は理由はどうあれ、心の不安定を抱えており、些細な事柄にも自身の意にそぐわないと不機嫌になりますし、怒りさえ引き起こします。その一つ一つの想念は自身の怒りの表情を即座に作り出すと同時に身体内部にも大きなストレスを与えることとなります。

こうした状況を長年続ける中で、私達の肉体はやがてそれに耐えられず、急速に劣化の一途を辿ることでしょう。

一方、これに対し、どのような場面でも調和ある心境を保ち、創造主から託された任務を全うしたいとする心境を保つことが出来れば、肉体は創造の時から状態を保つことが出来ます。

古くから「怒りは敵と思え」という言葉が伝わっていますが、心の抱く想念への警戒を説いたものと言えるでしょう。

220 The masters of the ages taught one cosmic principle - As A Man Thinketh So Is He. We can now see how the people on planet Venus maintain a long and useful life. For they are constantly thinking in terms of newness. And a form 500 years old, of our time, looks youthful and in the prime of life. While here on earth we look older at 40 than they do at 700 years. But we are thinking in terms of age and are governed by habits that are thousands of years old. And you cannot feel young by wearing an old cloak for it will have an influence upon you. An old dress or suit, even though made of very good material, will make you feel old everytime you put it on. So will the old thoughts. We know that new clothing makes us feel younger, and so will new thoughts when we have them continuously.

220 各時代の指導者達は皆、一つの宇宙原理を教えました。人は思った通りの者になるのです。私達は今や金星の人々はどのようにして長く有意義な人生を保っているのかを知ることができます。何故なら彼らは常に新しさの視点で物事を考えているからです。その結果、私達の時間で言う500才の肉体も若々しく生命の全盛期にあるように見えます。一方、ここ地球では私達は40才ですら、彼らが700才で見せる以上に年老いて見えるのです。それでも私達は年令で物事を考え、何千年も古い習慣に支配されています。ですからあなたは古い外套を着ていては若さを感じることはできません。それがあなたに影響を与えるからです。とても良い材質で出来ていたとしても、古いドレスや服はそれを着る度にあなたに古い感じを起こさせることでしょう。ですから、古い想念も同様です。私達は新しい衣服があなたを若々しく感じさせることを知っていますし、新しい想念も私達が常に保つならばそれと同様となります。

【解説】

地球人から見れば超人的と思えるほど他惑星人はごく普通に数百年の寿命を持つとされています。両者の近いは何処にあるのか、私達の授業はどうして短いのかの根本的原因が本項で説かれています。

たとえ生まれ変わりがあっても、長く生きた方が知識・経験の蓄積を直接活かせるという意味からも有益であることは確かです。今日「高齢化社会」と騒がれていますが、本来寿命が伸びることは喜ばしい状況と言えるでしょう。

そうした中、著者は私達地球人の問題として、私達が日常「身に付ける」想念に新鮮さが失われている為に、それが肉体に影響して衰えさせるのだと警告しています。普段身に付ける私達の想念が宇宙的で生命活動に沿ったものであれば、老化は発生しないということでしょう。

ジェームズ・アレンの著書の中に"As a man thinketh"という本文と同名の本がありますが、アダムスキー氏も同書を暗に引用しているように思います。

221 But if the new thoughts are going to have the results that we desire they must be given top priority and not mixed with opposite thoughts. For this creates a conflict in the body and the results are anything but good. It is not going to be easy to maintain such thoughts at first, but determination will accomplish the desired results.

221 しかし、もし新しい想念が私達が望む結果を得るといふ為には、それらの新しい想念は最大限の優先順位を与えられ、対立する想念と混ぜられることがあってはなりません。何故なら、こうすることは体内に葛藤を造り出し、その結果は良いものとは決してならないからです。最初の内はこのように想念を保つことは簡単ではありませんが、決意は望ましい結果を達成することでしょう。

【解説】

私達は誰でも時として優れた想念・印象に出逢うことでしょう。より大切なことは、それを知覚した後、どのように受け入れるかだという訳です。これら新しいアイデアに対し、私達の習慣的心は対立し、結局は受け入れることなくやがて放棄してしまうことも多いでしょうし、葛藤のままで終わるかも知れません。

そうした状況は身体に害をもたらずばかりでなく、自身をより頑なにさせてしまうことでしょう。

私達はこのような新しい想念・印象を得るといふ機会に対しては最大限の優先度を与えなければなりません。具体的にはインスピレーションを感じた時には、何はさておきそのアイデアを手帳に記すとか、心を鎮めてそのアイデアの意味を思考し、自分に贈られた宝物として取り扱うことです。更にその想念・印象の源泉が何を自分に指し示そうとしているかを継続して受信できるよう、心全体をその源泉に向けることです。多くの創作活動もこれに類似したことを行っていることでしょう。私達にとって数少ないチャンスを大切にすることが肝要です。

222 In the first part of the lessons we mentioned group cells that are related to the mind and take orders from the mind. 90% of the other cells take orders from the consciousness. Yet they can all be made to take orders from the consciousness, which they must do eventually if the ego is to survive.

222 教科の最初の部分で私達は心と関係を持ち、心の指令を取り入れる細胞群について述べました。しかし、90%のその他の細胞は意識からの指令を取り入れています。それでも細胞にすべて意識からの指令を取り入れさせることは可能ですし、それはエゴが生きながらえる為に、最終的にしなければならないことです。

【解説】

私達の課題である習慣的な細胞、心の支配の下にある細胞も全体の割合としては1割に留まると本項は伝えています。実は問題はこのわずか1割の細胞が引き起こしているということです。

従って私達自身の大部分は宇宙的であり、意識と繋がって生存している訳で、基本は優れた創造物と言える筈です。

このように考えれば、残りの1割の細胞を矯正し、本来の道に戻すことが私達に課せられた課題であることが分かりますし、残り1割に対してどのように対処すべきかが私達の工夫が必要な所となります。しかし、これら1割の細胞も放置しておけば、癌細胞のようにやがては各臓器に拡がり、身体そのものを破壊させることとなります。努めて毎日、新しい想念・印象を身体に取り入れ、各細胞をそれら新鮮な感動で潤し、細胞を宇宙的なものへ志向させることが肝要です。

223 Here is an example of grouped cells. First we will use the ones associated with the mind. The mind is alerted to take on food due to past habits for the body needs fuel. But as stated before, the mind does not know what is to be done with the food when it enters the body. But there is a group that does know, and while the mind is entertaining itself with something else this group goes on with its work. I have used this example for years in lectures and class work, but it illustrates very well, so I will use it again. Once the food enters your body the intelligence independent of the mind goes to work on it. We will class these workers in four groups, each working in behalf of the other.

223 ここで群れになった諸細胞の例をお話しましょう。最初は心に関係した細胞群を取り上げたいと思います。心は過去の習慣の結果、食物を摂取するよう絶えず注意を払っています。肉体が燃料を必要とするからです。しかし、以前述べたように心は食物が肉体に入った後、その食物に何が起るかについては知っていないのです。それでも知る集団が居て、心が何か他のことで楽しんでいる間に、この集団がその仕事に従事します。私はこの例えを講演や教室での講義で何年も使って来ましたが、それでもこの一例は大変よく問題を表わしている為、再び用いることにします。ひとたび食物があなたの体内に入るや、心から独立した知性がその食物に対して働きます。私達はこれらの働き手を各々が他の為に働らく4つの集団に分類することになります。

【解説】

本項では心に支配された細胞の例として、私達が食事をする際関係する内容が説かれています。これについては以前、勤務していた職場の上司（保健所長）がある時、肥満防止に関連して、「ここ（口）からここ（喉）までの問題なんだ」と言われたことを思い出します。つまり私達が食事を摂る際に関与する口から喉までの細胞が私達が食事を摂る際の指導的な役割を果たしているという訳です。

食物が味覚によって心地よいものでなければ私達は呑み込みはしませんし、食べる気にもなりません。また逆に、味覚が賛同する調味料を混ぜれば、それと同じものでも喜んで食べるものです。事実、〇〇の素（グルタミン酸ソーダ）は世界で大量に使用され、現地の飲食産業にとって無くてはならないものとなっています。

実はこの味覚を司る細胞こそが私達の食物摂取行動を支配しているということでしょう。しかし、実際の食物の価値は味覚で決まる訳ではなく、身体に取り込まれた後は心とは別に働く細胞群によって適切に分解、仕分けされることになるのです。以前海外であったコンタクト事例の中に、飛来した宇宙船から出てきた宇宙人から水を貰ったお礼にパンケーキを貰ったがそれが味もない段ボールのようなものであったという報道がありました。宇宙人は不要な調味料を使って味覚を楽しませる食事習慣はないのかも知れません。

224 The first group starts the fermentation. The second group makes a perfect blend of the chemicals extracted. The next group eliminates the gases that are produced during the fermentation. Finally the scavengers throw off the waste matter that is left. If this process functions naturally you will never know a sick day. But if the cells related to the mind interfere with the cells that are doing the work, by the mind becoming angry, we know what the uncomfortable results will be.

224 最初の集団は発酵を開始します。二番目は抽出された化学物質の完全な混合を造り上げます。次の集団は発酵の間に生成されたガスを排出します。そして最後は、掃除人達が残った廃棄物を捨て去るのです。もし、このプロセスが自然に機能するなら、あなたは決して具合の悪い日を経験することはないでしょう。しかし、もし心が怒ったりすることによって心に関係している細胞達がこの仕事をしている細胞達の邪魔をすれば、どのような不愉快な結果になるか私達には分かります。

【解説】

体内に入ってから、食物がどのように消化吸収され、同時に廃棄物が排出されて行くのか、本項は具体的に表現しています。炭水化物がいわゆる"解糖系"によって発酵分解されることや、その過程で生じた炭酸ガス等を体外に排出する等の現象を示しており、これらが身体内の細胞が各々の役割を果たす中で進行するプロセスだと説明しています。

食物を呑み込んだ後に進んで行くこのプロセスこそが食物を摂る意味なのですが、私達の心はそれらを理解することなく、味覚だけの判断で食物を選択し、また呑み込んだ以降に起こっている事柄を知ろうともしない訳です。

そればかりか、心の動揺や極端な感情から、これら正常な働きを妨害し、体調不良を引き起こすことさえあるのです。この事実を考えただけでも、如何に私達は自身の身体の中で働く優れた細胞群にいつも助けられているのかが分かります。

225 This shows that the cosmic plan is orderly, but the mental is not stable and needs guidance.

225 これは宇宙の計画は整然としているが、心は安定せず、導きを必要としていることを示しています。

【解説】

"迷える民"とは私達地球人を最も適切に表現する言葉でしょう。その迷える民に対して様々な救いの言葉や手が差し伸べられて来ました。しかし、依然として私達は不安定な情緒の中で暮らしていますし、社会は互いに信用ならない相手として神経を使い、また一方では自己の欲望の奴隷と成り果てており、肉体細胞はこれらの状況を反映したものとなっています。

短い本文の言葉ですが、"宇宙の計画は整然としている"という表現は重要です。よく言う例に原子の周期律表がありますが、宇宙に存在するすべての原始をあのように整然と整理出来ること、またそれらの表の中で性質を分類できる糖については、本来宇宙に存在するものは皆、このように整理されるものかと思う次第です。

しかし一方の私達人間はまだ迷いの中に居るということでしょう。昔読んだ岩下壮一の生涯を記した「人間の分際」というその本のタイトルは何か本文による「導きを必要としている」人間を自覚した著者（小坂井澄）から湧き出た言葉のように思われます。

226 As stated before, the body is made of trillions of cells, grouped for perfect maintenance and operation. No different than the structure of the cosmos, and the body has all of the cosmic force supporting it. And when the human mind is working in behalf of the cosmic plan, instead of self, it never knows any unpleasant effects. For then it is free from discrimination, judgements, and likes and dislikes.

226 以前に述べたように、肉体は何兆もの細胞から成り立っており、それら細胞は完璧なる維持管理の為にグループ化されています。それらは宇宙の構造と何ら違う所は無く、肉体はそれを支える宇宙の力の全てを持っています。そして人間の心が自身の為でなく、宇宙の計画の為に働いている時は、不愉快な結果を決して経験することはありません。何故なら、その時、人は差別や裁き、好き嫌いから離れているからです。

【解説】

私達が日常保つべき心境として、自身の肉体には膨大な数の細胞があり、それらは互いに連携し、その肉体の存続、向上に貢献する活動を行っていることを認識することです。本項ではその状況を宇宙と同じであると説いています。自身の中に宇宙と同様な仕組みが働き、多くの星々と同様、細胞群が活躍して呉れているという訳です。

もちろん宇宙空間には調和があるのと同様に、本来の私達の身体にも類似した姿が体現されており、唯一私達の心がその調和をかき乱す存在だということでしょう。

私達が真に宇宙的存在になれるかどうかは、私達が自身をこのように宇宙的なものとして自覚し、その探究を通じて自らの心を鍛錬し本来の純粋で素直な存在に改質するかどうかにかかっています。その為に特に費用や労力を必要とする訳ではなく、自身の内側、与えられた身体の価値に改めて気づくことにあるのです。

227 The cells in the toe are different from those in the finger but each group is working with the others to make the body a perfect manifestation. And the same power and guidance lends itself to all alike. This is no different than the cosmic expression in the earth's cell structure. For from the lowest expression in the mineral kingdom and through the millions of nature's manifestations the same power and intelligence is expressing in varying degrees. This law is constant and does not change to favor one form, or a planet, above another.

227 足指の細胞は手の指のそれとは異なりますが、それでも互いのグループは人体を完全な創造の現れにする為、共に働いています。そしてそれと同じ力と導きが万物に等しく授けられています。このことは地球の細胞構造における宇宙の表現と違うものではありません。何故なら、鉱物王国における最低位の表現から、そして何百万もの自然の創造の現れを通じてこれと同じ力と知性が様々な度合で表現しているからです。この法則は不変であり、ある一つの形あるものや惑星の便宜を図る為に他に優って対応を変えることはありません。

【解説】

本項では宇宙も地球も私達の身体の細胞と同じだと説いています。全体として私達の身体が望ましい機能を果たす為に、各部位各細胞、各分子原子が他と協力してその機能を実現しているという訳です。それは宇宙を貫く法則、創造主の意思であり、その恩恵には対象の区別はありません。善人でも悪人でも等しくその恩恵にあずかることが出来るのです。

このような抱擁的な環境の中で私達は暮らしていますが、実はそうでなかったら、私達地球人はどうの昔に滅び去っていたことでしょうか。幼稚な心、自己中心な者は他と争うことはあっても、調和して生き方を求める者は少ないからです。

しかし、長い年月の間に起こる進化の過程は、多くの生物に穏やかさと洗練された美しさを持たせるように思われます。生物の進化の過程は化石からも容易に知り得る訳ですが、どう考えても恐竜時代の生きものに比較して現代の生きものの方が穏やかな雰囲気を持っています。生物の進化の過程はゆっくりですが着実に進んで行くということでしょうか。一方、その進化のスピードは私達自身がこれら宇宙の法則を理解すれば格段に速めることが出来ることは、他の惑星の人々を見れば明らかです。日々の生活の中で少しずつでも継続することが成果をもたらすからです。

228 The only difference between man and nature is - nature has no will of its own for as stated before, it is under the will of the All Inclusive Intelligence. Man as the highest expression was endowed with a free will mind, and it is here that he has his trouble. For the mind as an effect guides itself by other effects instead of lending its will to the will of the Cosmos. The reason that man was given a free will mind was that he might learn from The Supreme Intelligence the way and purpose of life. And he is endowed with the potential of becoming like his creator and say as Jesus did, I and the Father are One, and when you look at me you see the Father. The Venusians and other planetarians endeavor to express this daily by willing their minds unto conscious guidance. And we must do this if we are to fulfill our purpose.

228 人と自然の間の唯一の違いは、以前述べたように自然は自身の意志を持たないということであり、それは全てを包む知性の意志の下にあることです。最高位の表現物である人は自由意志の心を与えられており、そのことが人が問題を抱える所となっています。何故なら一つの結果物である心は宇宙の意志に自らの意志を貸し与える代わりに他の結果物で自らを導いているからです。人が自由意志を与えられているのには人は最高位の知性から人生の歩むべき道と目的を習うだろうと期待されているという訳があります。そして人は創造主のようになり得る能力を授けられていますし、イエスが私と父とは一つである、あなたが私を見る時、あなたは父を見ているのだと言ったようにです。金星人達や他の惑星人達は彼らの心を意識の導きに喜んで従わせることによってこのことを表現しようと毎日努力しています。そして私達も自分達の目的を達成するつもりなら、同じことをしなければなりません。

【解説】

ここで重要なポイントは、人間とその他の生きもの達との違いです。本講座においてもよく言われることですが、人間は自由意志を持つが故に創造主から離れ、自ら迷いの中に救いを求めている事実があります。これに対して他の生きものはその意志を持たない故に、意識の指導そのものに従い生きて行く中で、苦悩も悩みもなく、穏やかな暮らしを送り、自らに託された機能を果たしているという訳です。

ここまでは、本講座の学習者であれば、極自然に容認できるものと考えます。しかし重要なのは、何故、人間には自由意志が与えられているかという点にあると考えます。つまり、他の生きもの達は、与えられた指導的印象に従って行動している訳ですが、彼らは自然や宇宙の全容、創造主の威光の全体像を理解する存在ではないように思うからです。

創造主の意向を理解する為に、一つ一つの現象を観察し、自ら学び知識を蓄積して行く上で、自由意志が必要なのではないのでしょうか。つまり他人の意志に自身を委ねるような催眠術が有害であることや、盲信的な傾向も良くないという訳です。

一つ一つの現実を自ら観察し、その中に含まれる教訓、即ち真理を学び記憶する中で初めて創造主を理解することになると思うのです。

229 After thousands of years of living as we have, becoming habitual individuals, we have created habitual cells in relation to the mind. And habits do become hungry for their own food. i.e. An alcoholic's mind knows that it is not good for the body to go to extremes, but the habit is the master of the mind. The mind lost the strength of its will and the power of determination to oppose the habit so it continues as a slave to the habit. And this is true of all habits, for most of them operate in extremes. This does not mean that you cannot take a drink or do similar things, for all things are good in moderation. But it does mean that one should be determined to be the master of his life rather than have the habits master him.

229 私達は何千年もの間、このように生き、習慣的な個体となった結果、その心に関連した習慣的な細胞を造り上げてしまいました。そして諸習慣はそれら自身の食物を求めて腹を空かせるようにさえなるのです。即ち、アルコール依存の心はそれが程を越して極端になれば肉体に良くないことを知っていますが、それでも習慣がその心の支配人になっています。心はその習慣に反抗する意志と決心の力を失った為、その習慣の奴隷となり続けるのです。しかもこれは全ての習慣について言えることです。何故なら、それらのほとんどが極端に作用するからです。このことはあなたが一杯飲んだり、類似した事柄を行ったりしてはならないと言うことではありません。何故なら、全ての物事は適度であれば良いことだからです。しかし、人は諸習慣が自分を支配するのではなく、自分が自身の人生の支配人になることを決心すべきことは確かです。

【解説】

様々な依存症は、私達の身体内部に既にその習慣に支配された細胞群が支配者になっていることを示しています。私達の長年の習慣が私達自身を支配し、その果ては苦痛をもたらす状況に行き着くだけです。

それに対し、本項で著者は何事においても自身の人生を自分で決断し、習慣に流されるな、と説いています。これら習慣的な細胞に自身を支配させるなと警告しているのです。

そこには常に気分一新、新鮮な想念、新しい世界に対して関心を抱き、多様な生命の世界や広大な宇宙を探求しようとする心境が重要です。少年と老人との唯一の違いはその心境にあると考えます。新しい世界に関心を持ち、生命を探求する心境が若々しい心を造り上げ、また宇宙を流れる基本的な波動に沿うものとなる筈です。時は夏、蒸し暑い中ですが、青葉茂る木々の間を通り過ぎる中、セミ達の声に耳を傾け、その合唱に声援を送る気持ちも必要です。

230 And this can only be done by allowing the consciousness with its unlimited power and knowledge to put the house in order.

230 そしてこれは無限の力と知識を持つ意識にこの家の中を整頓させることによってのみ、なされ得るのです。

【解説】

何事も整理することが基本のようです。とかく習慣に流される私達は何ら整理を行わないまま、ただ様々なものを貯め込みがちですが、結局は未整理の山の中で暮らしているという訳です。

悩みも同じで、自分が何に悩んでいるかすら整理出来ていないまま、無為な時間を過ごし易いようにも思われます。

これに対し、仏教では僧侶はものを持たず、その日の暮らしを毎朝の托鉢で得た糧で過ごすべきとされています。世俗的見地からは不安定な生活に思われるかも知れませんが、僧侶の生活は「仏」を中心に据えるもので、こうした目に見えない指導的想念を据える中で、心の中から煩惱は消え去り、すっきりした状況になるものと思われます。

今はやりの「断捨離」もこうした整理を実行し、自分にとって真に必要なものだけを取り出す、整理の過程かと考えます。自らの想念を観察することや自然界の営みを観察する中で、その中に流れる宇宙的印象を感じ取ることもこれに類似した整理を示唆しています。

231 Once the mind realizes its weakness that has caused much unpleasantness during its life, it should then be determined, even though it is painful at the beginning, to lend itself to conscious guidance. These obstacles could arise when it tries to do this ; A thought of fear of losing its identity and authority that it has had during its domination even though it encountered many mistakes and uncertainties on its path of self-will. For lacking knowledge, it followed effects with no more knowledge than it had as it repeated mistakes, and alibied for them with a hope of bettering its position instead of correcting the mistakes.

231 ひとたび心がその生涯の間に多くの不愉快な体験をもたらした心の弱さを自覚したならば、心ははじめは苦痛と覚えることがあっても、それ自身を意識の導きに委ねることを決心すべきなのです。これを為そうとする時にはこのような障害が発生することがあり得ます。つまり、例えその自己の意志の道筋において数多くの過ちや不安定状態に遭遇したとしてもその支配の間に得ていた心の独自性と権威を失うことへの不安感です。何故なら心は知識が不足している為に、それ自身と変わらぬ知識しかもたない諸結果物に追従し、過ちを繰り返しており、それら過ちを修正することに代えて自分の地位をより良くしたいと思ってアリバイ作りを行って来たからです。

【解説】

人知れず自分に向き合う時、人は自分の弱さを実感することでしょう。何よりも将来の不確実さや、自らの健康、家族の行く末等々、数えればきりが無い程、私達は不安な要素を抱えています。

しかし、本項で著者はこれらは心の弱さであり、自尊心を捨てて意識の指導の下に生きて行くようにと諭しているのです。

ではどのような心境を起こせば、それに沿った暮らしが出来るかが問題です。宇宙的意識が全能であり、自身もそれによって生かされていることは、知識としては理解している訳ですが、それをどのように実感し、認識しているかが問われているのです。つまり、具体的にはどのような心境を維持すべきかという訳です。

これについては、私自身、印象・インスピレーションを大事にする、それらに従うことだと考えております。宇宙意識からの指導は常に印象・想念としてもたらされます。その精妙なヒラメキを受け止め、その持つ意義の重大さを自覚することが、第一歩のように思います。その為に、先ずはそれらの高レベルの想念波動を自ら受け入れる態勢にすることが肝要となります。

232 This is no different than a mother who refuses to believe that her child can do anything wrong, and will not correct it. Eventually the child suffers with the parent because the parent failed to strengthen the weakness that was showing up in the child. This was caused by the mother's fear of recognizing the weakness in the child. And she added weakness to weakness instead of correcting it. Finally the mother had to face the truth, she could no longer avoid it and it was far more difficult than it would have been in the earlier stages.

232 これは自分の子供が何ら誤ったことをする筈がないと信じて、子供を正そうとしない母親と変わりありません。しかし、最後は子供がその両親に苦しむこととなります。何故なら両親はその子供の中の弱さに対して強くすることに失敗したからです。これはその母親が子供の中にある弱さを認めることを恐れていることによってもたらされたのです。そして母親はその弱さを正す代わりに弱さの上に弱さを付け足して来ました。遂には母親はその真実に直面せざるを得ず、もはや避けることは出来ず、それは早期の段階に比べてはるかに困難なことになってしまったのです。

【解説】

本項は私達が自分自身を見詰める時、どのような態度をとるべきかを示しています。

とかく私達は何か不都合な状況の原因をそれを招いた自分自身に置くのではなく、他の者のせいにするし、何事によらず、自身の落ち度を認めようとはしません。言い訳や言い繕いには長けているという訳です。

しかし、やがてはその問題に向き合わざるを得ない状況になる訳ですが、その時点では支払う代償も大きなものとなっています。

これに対し、日常から自身の問題点を自覚し、これを是正することが重要な訳です。特に本項で言う「自分の弱さ」について、具体的にそれが何を示しているのかを、各自考える必要があるのです。

「将来に対する不安」や「健康上の問題」、「経済上の課題」等々、現代の私達を取り巻く問題の多くは、私達自身の心が拠り所とすべき存在を持たない為に生じています。どうも周囲を見てもそれらの状況に陥っているのは人間だけのようです。その違いは何処にあるのかを考え、私達自身の心が真理に対する知識が無いことに原因があることに気付く必要があります。基本的な心構えを得る為にも、自分の何処に問題があるのかを学ぶ必要があり、それを先延ばししてはいけないということです。

233 Did not Jesus say, he who is trying to save his life shall lose it? Isn't this what the ego is afraid of by giving up its will to consciousness? This is also a lack of faith in the Creator whom we call God. For Jesus also said, he who gives up his life shall find life eternal. Meaning, he who gives the will of the ego unto the will of consciousness shall partake of life eternal. For consciousness is eternal and proceeds all forms. And without it there would be no forms, for an unconscious form is a dead form.

233 イエスは自分の命を救おうとする者はそれを失うとは言わなかったのでしょうか？これはエゴがその意志を意識に差し出すことで恐れていることを指すのではないのでしょうか？これはまた、私達が神と呼ぶ創造主に対する私達の信頼の不足でもあります。何故なら、イエスはまた、自分の命を捨てる者は永遠の生命を見出すとも言いました。それはエゴの意志を意識の意志に譲り渡す者は永遠の生命を共にすることになるという意味です。何故なら、意識は永遠であり、万物を先んじているからです。そして意識無しには如何なる形有るものも存在しません。意識の無いものは死んでいるものだからです。

【解説】

重要な点は、本講座で繰り返し説かれている「意識」なる存在が物質即ち「結果」の世界を導いているということです。つまりはこれから現実に起こる事柄は全て意識の上に先立って進行しており、その示唆を印象や想念という形で私達に示しているということです。

文字通り、万物を動かしている衝動作用が意識であるということです。また、自ら進んで意識を受け入れることで、私達は進化の道を歩むことが出来るという訳です。

しかし、これらの事柄を実行に移すことは容易ではありません。まずはこれまで自身の主人公であった自我をその座から退かせ、代わって意識にその座を委ねる必要があります。即ちこれまでの経験や前例から自我が類推していたことから、全てを自身が感受した印象へと舵を転換することが必要となります。また、自分の進路を意識に委ねる訳で、その為には私達はいわば「意識」に帰依することが必要となるからです。意識への信頼、従順さが無ければ、それと繋がる径路も得られないことになるのです。私達が永遠なる道を歩む為には、これまでのような自我中心の生き方を「意識」の僕（しもべ）に転換する必要もあるのです。

234 The happiness which man feels within his heart and for which he searches can never be realized until he blends his will with the will of consciousness. Any more than the drop of water, remaining by itself can know the vastness of the ocean. When man realizes this he will know his true identity for the first time. And will no longer live in the shadow of his reality, influenced by every wind that blows. And there will be rejoicing in heaven when the prodigal man returns to the household. But this will take a profound determination on the part of each human, with an unshakable faith. For he will have to give up his egotistical pride and face whatever is presented to him.

234 人が自分の胸の中で感じ、探し求めている幸福は、自分の意志を意識の意志に融合させない限り、決して実感することはできません。孤独であり続けた水の一滴が大洋の広大さを知ることと大差はありません。人がこのことを悟ったなら、その者は初めて真実の主体性を知るでしょう。そして吹きすさぶもろものの風に影響され、自身の真実の姿の陰に生きることはしなくなります。そして放蕩息子が家に戻った時には天国では祝賀があることでしょう。しかし、これには個々の人間の側に不動な信頼感を持った上で心からの決心を必要とします。何故なら、如何なるものが現れているかに関わらず自己中心的な自分のプライドとメンツを諦めなければならないからです。

【解説】

最も基本的な事は、本文冒頭に記されているように、"真の安らぎ"というものは私達が意識と融合しない限り達成されないという真理です。もちろんこれは、様々な自我の意志に従ってこれまで暮らした結果、多くの辛い体験や苦痛を経験し、疲れ果てて終わる私達の実体験に照らして、何故そうなるのかの問いかけにいち早く直面しなければなりません。多くの不快な体験を経る中で、私達はいち早くこのことを認識することが必要です。

イエスの時代から、"放蕩息子"の話が伝えられていますが、実はその息子が家に戻った時、両親が息子を暖かく迎え入れるところが重要です。つまり意識はその下に帰る者一人一人を暖かく受け入れ、喜んで呉れるという訳です。

私達は、この暖かく腕を広げて待ち受けて呉れる意識の下に戻るべきなのですが、それを阻んでいるのが私達自身のプライド、自尊心です。"何事にも謙虚であること"の必要性は、ここにもあるのです。たまたま幸運にも何かの事業に成功して、その自我が驕り高ぶったとしても、その将来は不安定です。それに引き換え、意識という生命躍動の本源と通じた者は、これら世俗の浮き沈みに関係ない安寧な進化の道を歩むことが出来るのです。

235 The story of the Prodigal Son in the Bible gives us a good insight as to what must take place. The mind of the prodigal son is a portrayal of all minds. For he, after deciding to return, had to humble himself and cast aside all of his pride, willing to face whatever might come. Knowing full well that some of the household would point fingers at him and remind him of his bad deeds. Yet he knew that their life was not his life. And they had not had the experiences he had gone through, even though they may have had similar ones. Knowing all of this he was still determined to conquer the will of his mind and return to the will of his real self - the consciousness - the Father of all forms.

235 聖書の中の放蕩息子の物語は私達に何が為されるかについて良い洞察力を与えています。放蕩息子の心はあらゆる心を表わす肖像画です。彼が家に戻ることを決心した後は、如何なる事態が来ようとも喜んでそれに直面し、自分を謙虚にし、自分のプライドをことごとく脇に捨てなければならないからです。家の中のある者は彼を指差して彼の悪事を彼に思い出させることも十分知っていたことです。しかし、それでも彼はその者達の人生は彼のとは異なっていたことは分っています。そしてその者達が彼と類似した人生であったとしても彼が通った体験はしなかったであろうこともです。これらの全てを知った上で、彼はそれでも自己の心の意志を克服し、彼の真の自己、意識、万物の父の意志に戻ることを決心したのです。

【解説】

この放蕩息子の寓話は私達人間全てが通るべき道程を示しているのではないのでしょうか。自由意志の下、様々な経験をする中で、私達はその実体験から自分の心の限界や欠点を思い知るのです。そういう意味では、様々な痛い経験を積んだ上の原点への回帰には大いなる価値があるという訳です。

その体験の価値は、今後迷える他者、同胞を光に導く際に足元を照らす例証になるでしょうし、自らもそのような道を歩んで来たことで得た教訓を他者には励みになることでしょう。

そういう意味では地球に来ている他惑星人は私達地球人社会の実情を知り、私達地球人の限界を学ぶことで母国では経験し得ないさまざまな事柄を学ぶことにもなるのです。またそのような経験を積むことで、知識の幅も広げることが出来る訳です。

一方、その渦中に暮らす私達は、本来、私達人間に託された機能を果たし、他の諸々の生きもの達と調和した暮らしが出来るよう、回帰する家族、創造主を父、大地を母とする一大家族として地球が存在することを認識する心境を持つ必要があります。

236 Upon his arrival home his ego received a surprise. For his father had a banquet prepared for his wandering son and welcomed him with open arms as though nothing had ever happened. For when an ego conquers itself there is no greater victory and rewards for the efforts are unlimited. And the individual is endowed with all of the needs of life, wanting for nothing.

236 彼が家に着いてみると、彼のエゴは驚きを受けました。何故なら、彼の父親は放浪していた自分の息子の為に祝宴を用意しており、まるで何事も無かったかのように彼を両腕に抱いたからです。それはエゴが自分自身を乗り越えた時、それにまさる勝利は無く、それに至る諸々の努力への報いは限り無いものだからです。そして、各自は生活の必需物の全てを授けられ、何も不足することは無くなります。

【解説】

放蕩息子である私達はその本来の家庭に戻る時、如何に暖かく迎え入れられるかと本項で著者は説いています。長年、自分勝手な生き方を続けていた私達はその過ちを認め、意を決して父の家に戻るには、もちろん大きな決断、自分への叱責も覚悟の上でしたが、実際にはこれら過去の過ちは問われることなく暖かく受け入れられるという訳です。

それでは何故、長年の放蕩を責められることなく、かくも歓迎されるのでしょうか。自分の意志で創造の源泉に戻ることを決心し、実行に移したことは、父である創造主にとっては何ものにも勝る祝い事であるからです。おそらく人がエデンの園から追われて以来、いくつもの生を重ねる中で、学び気付いた結果、生まれ故郷に帰って来た訳ですから、これを喜ばない親は居ないということでしょう。

実はそれ程に私達が自分の本質を見定め、自分を生かして呉れている父母の存在、即ち意識と自然界の働きに回帰しなければと決意し、自らの意志をそれらに委ねるべきことを悟り、実行することはかくも重要な出来事であるということです。

237 In the prodigal son there was still one small part that accused itself of wrong doing which was symbolized by the son who had never left the household. For in every individual the original spark remains. That is the only hope for the straying one to be drawn back to his original place. So the small original spark reminded the prodigal son of his deeds. But this was soon overcome by Cosmic Consciousness for it knows no judgment or discrimination. But it takes a great determination to accomplish this victory and lose the self as an ego in the COSMIC SEA OF CONSCIOUSNESS.

237 放蕩息子の内部には家を出たことのない息子として象徴され、誤った行動を叱責した小さな部分が依然として存在します。各個人の中には原始のきらめきが残っているのです。道に迷った者にとってはそれが自分の起源に戻される為の唯一の希望でもあります。ですから小さな原始のきらめきがその放蕩息子に自分の行動を思い出させるのです。しかし、これは宇宙意識によって直ぐにも征服されてしまいます。何故なら宇宙意識は如何なる裁きも差別も知らないからです。しかし、意識の宇宙的大海の中でこの勝利を得て、エゴとしての自己を捨てる事が出来る為には一大決心を必要としています。

【解説】

振り返ってこれまでの人生を考えると、多くの失敗や挫折を経験していることに気付きます。また、冷静にその事を指摘されると気落ちするものです。実際、私達の生涯の多くは思い通りにならないことの方が多いいということでしょう。

年齢を重ね長く生きて来た者ほど、その痛みは増えるように思います。それ程に私達自身は様々な要素に影響され易く、意志も弱いものだということでしょう。

これら自我の抱える問題の一方で、確かなことは一つだけあるのです。ご自身の身体と周囲を取り囲む大自然はこれらの悩みや問題に関わり無く本来の生存の姿を保っており、常に美しく輝いていることです。独り、自我だけが自分の思い通りに進まなかった過去を引きずっているのです。

私達はこの恵まれた環境、即ちご自身の身体と私達が暮らす地球の自然環境の美しさにいち早く気付いて、これまでの自我の過ちや至らなかった要素を補い、本来の自分の表現に邁進する必要があるということです。真昼の暑さの中、文句も言わず働き続ける蟻達を見ると、自らの命も顧みず群れの為に一心不乱に働く彼らに学ぶところは多いようです。

238 This is re-newing the mind and born again, as Jesus said. For one really dies as an ego pride will only to be born in the Will and the Glory of the Cosmos. Like the drop of water that finally becomes the ocean of water by uniting with it, no longer just a drop.

238 これはイエスが言った心の再生であり、生まれ変わります。何故なら、人は実際には一つの自我のプライドとして死ぬと宇宙の意志と栄光の中に生まれ変わることになるからです。ひと粒の水の一滴が大洋と結びつくことによって遂には大洋になり、もはや一滴の水では無くなるのと同様です。

【解説】

一滴の水が自らの存在を放棄して大洋の中に身を投じる時、一方から見れば水滴という個人我が失われたように思われますが、実際には、その水滴を構成していた水分子が無くなる訳ではなく、やがては大洋の水塊と融合し、膨大な領域にまで拡張するという訳です。

1個人であった者が、創造物全ての領域にまで自身を融合拡張することを本項で説いている訳で、イエスはこのことを放蕩息子の帰還のたとえで諭していたのです。

もし、水滴が水中で自身の殻を死守し、広大な海との融合を拒絶したら、それは一滴のままでいずれは見失われてしまいます。私達は積極的に大自然と融合し、宇宙の生命波動と共鳴、調和する必要があります。その為にその1滴は自身を捨てて、それら本体の宇宙の波動と調和し融合できるだけの基本振動を持つ必要があるという訳です。

同乗記には他惑星人が仕事の際に一心不乱に集中した仕事ぶりであったと描写されていますが、流れ来る宇宙的な波動に調和することは、それ程に高い振動数、活発な行動が要求されるということでしょう。

239 And it makes no difference how many books you read, or how many religions you embrace, or how many courses you may take and teachers you may have, not any of these will bring this reality to you unless you do as the prodigal son did. Die in the pride of the will and the ego and be reborn in humility and the WILL OF CONSCIOUSNESS.

239 そして貴方が如何に多くの本を読んだかとか、如何に多くの宗教を奉じたか、如何に多くの教科を受講し教師を得たかといった事柄は貴方がその放蕩息子がしたように行わない限り、そのどれひとつもこの現実を貴方にもたらずものではありません。自分の意志のプライドと自我を葬り、謙虚と意識の意志の中に生まれ変わることです。

【解説】

結局、私達が精進する上での最大のポイントが、この放蕩息子の帰還に言い尽くされているということです。父・創造主に従うことを決心しない限り、また自らの意志で父の家の一員に復帰することを決断し、行動しない限り、私達の目的は達せられないということでしょう。

哲学書や宗教経典は異なる角度からであっても、皆同様な事柄を説いているように思います。つまり、その根底は同じであり、いたずらに様々な枝葉の知識を増やすことに時間を費やすべきではないということでしょう。

問題は本項で著者が具体的に何を行えと諭しているかにあります。私達は自分自身に責任があり、今後どのように生きたいのか、結論を出す責任を有しています。その私達が日々の生活の中に何を最優先に取り組むべきか、どのような心境を維持するべきかを突き詰めなければなりません。

その分析と決意無くしては実りは無いということでしょう。百の教えを聞いたとしても、一つの実践に勝るものではありません。一つ一つの実行によって新たに体験や知識が得られる中で、一段ずつステップアップを図ることが出来るという訳です。単に読むだけの知識レベルに留まっている限り、いつまで経っても初心者コースに留まる他ないからです。

240 And you do not have to give up anything that you enjoy in life now, but replace the extremes that are indulged in with moderation. And permit your mind to see God manifesting in all forms of life and in every cell that makes up the form. For the life of any form and that of a cell is the life of God expressing in varying degrees through the many forms.

240 そして貴方は現在の生活で楽しんでいるどのようなものも諦める必要は無く、ただ欲しいままにしている極端さを適度さに置き換えるべきなのです。そして貴方の心をして、あらゆる生命の形あるものの中、そしてその形を作り上げている一つ一つの細胞の中に神の現れを見させることです。何故なら如何なる形あるものの命、細胞一つの命も皆、様々な形あるものを通じて多様に表現される神の生命であるからです。

【解説】

どのように過ごすことが求められているのかについて、著者は当面は、私達に従来通りの生活を続けてよいこと、また重要な行動のポイントとして、適度に行うことを勧めています。いわゆる「中庸」の必要性を説いているのです。

つまり、苦行をして覚醒を求めるといような手段でなく、世の中のありのままを観察し、その働きの中に創造主の現われを見るということです。これは仏陀が苦行の末にそのような訓練の限界を知り、スジャータから寄進されたお粥を食する中で、悟りへの道を拓いたとされることとも一致します。極端な苦行は無用だと仏陀が悟ったことも、本項と同じ主旨かと思われます。

しかし、それでは今までと何ら変わらないと懸念される方も居られるのかも知れません。重要な点は、全ての自分の行動や抱く想念の基礎をプライドにまみれた自我に置くのではなく、宇宙的に拡がりを持つ創造主の意思、目に見えないが万物を支えている創造主の生命波動に置くところが大きな転換点であるのです。

241 Then you will begin to live as the Venusians and others do and discrimination will no longer be a part of your life. When you are able to do this and every one is, your mind shall witness things of far greater beauty and peace than you have ever known. And your body will manifest the evidence of the perfection to be.

241 そうすれば、貴方は金星人達や他の人達のように生活し始めることでしょう。そして、はや差別は貴方の生活の一部になることはないでしょう。貴方がこのことを成し遂げられる時、また誰でもそうですが、これまで知らなかった遥かに偉大な美しさと平安さを目撃することになります。そして貴方の肉体はその完璧さの証しを体現するようになるでしょう。

【解説】

それではどのようにになったら自分が本来の進化の道を進んでいることが分かるのでしょうか。本項はその点について示唆するものとなっています。人口に他惑星人のように生活出来ると言っても、その格差は大きく私達には想像することも難しいものです。しかし本文に記されているように「差別感」が消滅することや、あらゆる美しさに鋭敏になることが、その指標であるのです。

たとえ同じものを見ても、その細部の美しさに気付くこと、また感動することは人によって異なります。多くの方は同じ情景を肉眼で把握していても、人によってはその真の美しさに気付くこともあります。それはおそらく肉眼では認識出来ない別の波動に身体が気付くことではないかと考えられます。

真の美しさはこうした想念・印象の径路を通じて認識される訳で、美しさに気付く回数が増えることは、それ程想念・印象への感性が高まったことを意味するように思われるのです。

当たり前前の自然、身の回りの草むらは従来の私達には何の価値も見出せないありふれた場所ですが、もしその中に美しい自然の営みを発見出来るようになれば、疑いなくその人は進化の道を歩んでいると言えます。

242 And all of this is present within you now, like the feeling of how you would like to be treated by others, so just return the same to all forms of life. But do not give up because you do not succeed on the first, second or third try. Just become more determined to master the situation. And the more determined you are the better the results will be.

242 そしてこの全ては、丁度、他の者にそう扱われたいと思う気持ちのように現在の貴方の中に存在しますので、ただ生命のあらゆる形あるものと同じことを返せば良いのです。しかし、貴方が一度や二度、三度の試みでうまく行かなかったからといって諦めてはいけません。その状況に熟達するにはより深く決意すれば良いだけです。そしてより深く決意すればする程、より良い結果が付いて来ることでしょう。

【解説】

私達が自分自身にも生命の美しさが表現されていることを知り、自身が父の家で暖かく受け入れられていることが分かった後、私達が為すべきことは何かということが問われています。

それは、私達自身が真の家族の一員となる為には、私達自身、その一員に相応しい態度、行動をとるべきなのです。それはイエスの言った言葉、「他人から自分にしてもらいたいと思うような行為を人に対してせよ」ということです。

本項は、その事は何度も試みなければならない程、実は難しいことだと諭しています。長年の自己中心な生き方を転換するのは容易なことではありません。しかし、決意を持って何度もチャレンジすることによって、そのような行動が自然と出来るようになるということでしょう。

かつて他惑星人は「同乗記」の中で、自分の命を犠牲にしても他人を助けることを極当たり前のこととして語っていましたが、それ程に彼ら他惑星人は他者に対する包容力、寛容力は大きいのです。仏教では他者の為に祈り、行動することを”菩提心”としています。菩薩の心の有り様はこれであり、厳しい中にも暖かく見守る姿 私達が基本となる父の家に戻った後、私達自身何をすべきかを本項は説いています。

もちろん、人それぞれに異なる役割や才能が割り当てられているのですが、それらの任務を果たす為には各人の努力が必要となります。

単に夢想するだけでは現実化しません。自らの才能も自ら見出す必要もあるのです。しかし本項はそれを地道な努力によって達成出来ると励ましています。そもそも私達自身、当初は歩くことすらままならない幼児の時を過ごしたことも覚えていますし、当初不可能と心が危ぶんだことも、その後は難なく達成できていることも多いのです。

宇宙の仕組み、生命の役割について多少なりとも知ることが出来た以上は、その者の抱く想念は現実には作用する力が強くなり、これまで以上に現実化が早まるに相違ありません。その強くなった想念・印象の力を私達は慎重に吟味し、現実化に向かうべきものを選び出し、その実現に向けて掘り進めるべきなのです。として建立されている菩薩像が私達を惹きつける魅力はそこに由来しています。

243 At first it will seem like an impossible task, but everything at one time looked impossible, even learning to walk. But constant diligence brings success. Seldom does man find gold on the surface and so it is with this. Man must dig deep to see reality.

243 最初はそれは不可能な任務のように見えるでしょうが、歩くことを学ぶ時でさえそうであったように何事もかつては不可能に見えたものです。しかし、変わらぬ勤勉さは成功をもたらします。金はめったに地表に見つけることはなく、このことも同様です。人は現実を見る為には深く掘り進めなければなりません。

【解説】

私達が基本となる父の家に戻った後、私達自身何をすべきかを本項は説いています。

もちろん、人それぞれに異なる役割や才能が割り当てられているのですが、それらの任務を果たす為には各人の努力が必要となります。

単に夢想するだけでは現実化しません。自らの才能も自ら見出す必要もあるのです。しかし本項はそれを地道な努力によって達成出来ると励ましています。そもそも私達自身、当初は歩くことすらままならない幼児の時を過ごしたことも覚えていますが、当初不可能と心が危ぶんだことも、その後は難なく達成できていることも多いのです。

宇宙の仕組み、生命の役割について多少なりとも知ることが出来た以上は、その者の抱く想念は現実には作用する力が強くなり、これまで以上に現実化が早まるに相違ありません。その強くなった想念・印象の力を私達は慎重に吟味し、現実化に向かうべきものを選び出し、その実現に向けて掘り進めるべきなのです。

244 Of what value is a talent if you do not use it? Suppose you have the talent of a great artist and know it, but all you do is to think and dream about it. And never bring it forth into reality which takes action to accomplish, so you never profit from it. You do not even prove to yourself that you could manifest your dreams and make them a reality. So all of your dreams and prayers regarding your talent are still unknown and remain in the dream state. And this will continue until you decide to express your latent ability. For then and then only will you prove to yourself that it is real and livable. And so it is with self development - the potential of all that we have spoken of is within you, but it will not do you or anyone any good as long as you do not bring it forth.

244 もし貴方がその才能を使わないとするなら、才能に何の価値があるでしょう？ 貴方には偉大な芸術家としての才能があったとし、貴方がそれを知っているけれども、貴方はそのことを考え、夢見ているだけの状況を考えて見て下さい。そしてそれを達成するには行動を必要とする現実世界にそれをもたらすことが無かったとすれば、貴方はそれから何らの利益を得ることは有りません。貴方は自分の夢を形に表わし、それらを現実に行けるということを自分自身にさえ証明していません。ですから、貴方の才能に関する貴方の夢や祈りの全ては未だ知られることなく、夢の状態に留まっています。そしてこのことは貴方が自分の潜在する能力を表現しようと決意するまで続きます。時として、貴方はそれが本当であり、生きたものであることを自分自身に証明することしかないのです。ですから、それは私達がこれまで話して来た貴方の内部にある全ての可能性である自己発達とも同期していますが、それは貴方が現実化させない限り、貴方や誰に対しても良いことをもたらすものではありません。

【解説】

私達が潜在的に有する才能も、ただその存在を自覚するのでは意味はなく、体現し自らその表現を実証し、現実の結果の世界に出現させなければ意味は無いと著者は説いています。

もちろん、想念・印象は重要なのですが、その感受したイメージを実現させるところに私達各人の価値があるということでしょう。何事も行動しなければ、その実現過程での体験を得ることは出来ず、結果（成果）も得られないという訳です。

即ち、仮に自身にとって素晴らしいアイデア（想念）を感受したとしても、そのままで放置して行動に移さなければ、結局は本人にとって何らの意味を持たないと忠告しているのです。小さな事柄でも一つ一つ行動し、体験する中で私達は進歩して行けるのです。

245 You must re-create your ability by manifesting it in your daily life. And then you will prove to yourself that you can live that which you have been consciously aware of. Thereby it will not only serve you, but others also by your example.

245 貴方はそれを日常の生活の中で体現させることによって貴方の能力を再創出させなければいけません。そうすれば、貴方自身に貴方がこれまで意識的に気付いていたことを生き通せることを証明することになるでしょう。そのことによって、貴方に役立つばかりでなく、貴方の事例によって他の者にも役立つことになるでしょう。

【解説】

毎日自分がどのように生きるかが重要なところです。人生は日々の積み重ねであり、私達の1分1秒、呼吸する想念と自らが採る行動がやがてはその人を造り上げるということでしょう。

とりわけ重要な点は、前項で触れられたように、自分が出来そうだと感じた内容を実現させる行動だとしています。つまり、”出来そうだ”と思ったことは、私達はその想念を感受したことを意味し、次なるステップはそのビジョンを現実化させることです。この現実化させることこそが、私達人間の大きな役割であり、期待されているところなのです。また、その成果を祝うという役得もあるでしょう。

実現に至る過程は様々で、思いのほか容易に進む場合も多いのですが、うまく行かないこともあることでしょう。その努力や工夫の過程を通じて、私達は次の機会に生かせる貴重な体験を積むことが出来るのです。

246 Examples have been used in many ways. i.e. If a dictator wants to dominate his people, he destroys those who, oppose him, as an example to others. If examples can be used in this way, why can't we set a fine example for the world to follow? We can with action and not just words and dreams. And this can be done only by living the things that we know. We must be honest and truthful to our better self before we can be honest and truthful to others. We must trust our consciousness if we expect other conscious entities to trust us.

246 例示というのは様々な方面で用いられて来ました。即ち、独裁者がその人民を支配しようと思うなら、反抗する者を他の者への見せしめとして滅ぼします。仮に例示というものがこのように用いられ得るとすれば、何故私達は世界が従うような素晴らしい例示を打ち立てようとしないのでしょうか。私達は単なる言葉や夢でなく、行動によってそれが出来るのです。そしてこれは私達が知っている事柄を生きることによってのみ、行い得るのです。私達は他の者に対して正直で誠実である前に私達のより良い自己に対して正直で誠実であらねばなりません。他の意識ある存在が私達を信じてくれることを望むなら、私達は私達自身の意識を信頼しなければなりません。

【解説】

とかく私達は自分自身の問題点のみに注目するか、或いは全く問題点がないと感じるかの両極端に向かいがちです。しかし本項で著者は、私達が本当に進化を遂げて行くためには、今までの知識を単に知識として終わらせるのではなく、自ら実践し行動することで他の者の模範になれと諭しています。

そこで重要なのは、その際に自分の中にある「より良い自分better self」を信頼して実行せよと述べていることです。つまり、私達は様々な問題がある訳ですが、それでも肉体は所定の機能を保っていますし、自分自身の中にも邪（よこしま）な心以外に、“良心”と称されるものも充分残っているのです。この自分に残る良い要素を信じて伸ばすこと、行動による体験を積むことで、他者への影響も与えられ自らも進化することが出来るという訳です。

この自分にある「より良い自分」という表現は、何処か釈迦の教えにも似た雰囲気を持っています。単なる苦行ではその肝心の良心を発現させることは出来ないように思いますし、衆生救済も衆生一人一人に備わる「より良い自分」を希望の光として育成することを求めて行くことが菩薩の道であると思うからです。

247 Yet to live this new kind of life among the many who do not, one must have unshakable faith and patience in order to endure. For everyone will not grasp the idea immediately, humanity is very slow to change. But change it must if it is to survive. And pioneers in any field must be strong and determined if good results are to be realized.

247 しかし、この新たな生活を送る為には、そうではない多くの人達の中であって、人は耐える為に揺るぎない信頼と忍耐を持たねばなりません。何故なら、誰でもその概念を直ちに掴み取る訳ではなく、人間性とは変化するのに大変遅いからです。しかし、生き延びる為には変化しなければなりません。そして先駆者はどの分野にせよ、良い成果が実現される為には、強く決意しなければなりません。

【解説】

この自分の中にある「より良い自分」に耳を傾け、その助言を受け入れることは実は容易ではないと本項では説かれています。つまり、周囲の影響を受けやすく、また世の中全体の動きのある中で暮らす私達は、社会の流れの中に漂いがちです。しかし、そこには未来は無く、滅びに至る道であると警告しているのです。

戦後生まれの私には分かりませんが、戦前の世の中もひたすら戦争に突入せざるを得ない時代の流れがあったのではないかと思います。しかし、そうした中であっても時代の流れに流されることなく、真実の有りようを人々に示した方々もあったことと思われまます。

アダムスキー氏が1952年、デザートセンターでオーソンと会見した時代は、実は新たな地球の危機、核実験を頻発させていた時代であり、これら私達の行く末を案じた上の他惑星社会の計画であったと観るべきでしょう。

私達はいかなる時代にあっても、この真理に足を置いて、あるべき姿を人々に見せ続け時代の流れを変える努力を惜しむべきではありません。

248 We must build on a rock foundation and not on shifting sand. So that when diversity and opposition cause a storm in our life we can stand firm and not be swept away because of a weak foundation.

248 私達は転じやすい砂の上では無く、磐石の土台の上に建物を建てなければなりません。それは、多様な変化や反対が私達の生活に嵐をもたらす時、私達が弱い基礎のせいで流される代わりにしっかり建てられる為です。

【解説】

もちろん私達は地球という長年月、混乱と栄枯盛衰の歴史を繰り返して来た社会の中で暮らしています。その中で多くは不本意な影響を蒙ることも時としてあるのです。最近では、惑星自体の気象も乱れが強まっており、大雨も頻発しています。文字通り嵐が家の土台を崩壊させることも起きています。

こうした中、私達は自分が確実に理解し、確信していることを改めて確認し、揺るぎない生き方の土台を固める必要があるのです。いつも誰か師となる者がそばに居て、助言をして呉れる状況にはなく、独りで人生を生き抜く必要がある訳で、どのような状況にあっても自分の拠り所となるもの、自分がこれだけは確かだと思えるポイントをしっかり身体に留めて置く必要があります。つまりは家の基礎と同じく、表層の理解ではダメで、より深い所まで自分の理解や思考を掘り下げて置けということです。

未来に多くの試練が待ち構えていたとしても、揺るぎない信念、信仰を持って前進すべきだと著者は説いているのです。

249 The goal we seek to attain should be all that matters and no obstacle should prevent us from attaining it
249 私達が到達しようとしているゴールは大事なことの全てであるべきであり、如何なる障害も私達がそれを達成することを妨げることがあってはなりません。

【解説】

私達に達成出来ないものは無く、如何なる障害もそれを阻むことはないと言第6課の最終項で著者は私達を励ましています。

とかく私達は移ろい易く、他からの少しの影響でも揺らぐような状況になりがちですが、著者は私達学習者に自らの基盤を確立した上で、問題に当たれば解決に至る筈だと説いています。

一歩前進すれば、また新たな展望が開け、私達は少しずつ目標に近づくことが出来るということでしょう。本課は奇しくも「新しさ」が重要だという点から進められて来ましたが、少しずつでも行動することを通じて新しい要素がやって来て、いつも新鮮で居られるということでもあります。この宇宙の基本的流れを摂り入れ、同期することが進歩を早め、ゴールを近づけることになります。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON SEVEN

Cosmic Memory

250 As man is not a man without a memory, then his memory is essential for the continuance of life. And the reason that most people do not remember their past experiences through various lives is because the mind never learned to memorize the important values gained. It has depended upon effects which are momentary and they come and go, especially the ones that we call unimportant that the ego feels are of little value.

生命の科学—学習コース

第7課

宇宙的記憶

250 人は記憶無くして人ではない以上は、彼の記憶こそ生涯の連続にとってかけがえのないものです。そして、ほとんどの人々が彼らの過去の諸経験を思い出せないのは、心がこれまで一度として獲得した重要な価値を記憶することを学んで来なかった為です。心は時にやって来て、また過ぎ去る諸結果に頼っていて、特にエゴが感じる事柄は私達はほとんど価値がないものと言うことができます。

【解説】

各自の人生にとって何が一番大切かと言えば、「記憶」であると本項は説明しています。折角苦勞の末に得た経験も、もし失うこと、その記憶が喪失されることになったら大変です。得られた知識も失われることになる訳です。

しかし、これらの事柄は私達が死を迎え、次の人生に引き継がれるべき記憶については、残念ながらほとんど継承されているとは言えないのではないのでしょうか。折角得た知識も技能もその人生の終わりとともに失われるというのが地球の現状かと思われまます。わずかに幼くして天才とも称せられるような才能を發揮させる者が出ますが、おそらくは彼らは自らの前の人生で得た記憶を保持し活用出来た者と言えるでしょう。

記憶、とりわけ宇宙的記憶は最も重要なもので、私達が自らの力だけで生命の神秘を探究せよとするのは、そうでなければその肝心の記憶が本人に残らないからです。また、記憶は各分子原子に蓄えられるとされており、やがては子孫を含め後世の者にも影響を与えることにもなる筈です。即ち、自らが優れた記憶を持つことは後世の者達にも役立つことになるのです。

南アジアでは釈迦は悟りを得るまでに10回の生涯を送ったと伝えられています。実はそれほどに今日私達が取り組んでいる課題は壮大なものであり、それゆえに各生涯の記憶というものを如何に次の人生に引き継ぐかについて私達は真剣に考えなければなりません。

251 Ordinary routine becomes habitual and governs the ego, but this cannot be called a memory. And unless man cultivates Cosmic memory he becomes nothing.

251 通常の日常仕事は習慣となりエゴを支配しますが、これは記憶とは呼べるものではありません。そして人は宇宙的記憶を養わない限り、無になってしまうのです。

【解説】

私達が習慣的に行っていることは記憶に残るものではないと本項は警告しています。いつものような決まりきった事柄は私達の暮らしの中で多くの割合を占めていますが、それは宇宙的記憶という観点では何の足しにもならないということです。

それらいわば、惰性的な日常仕事は一方で社会を支えている訳ですが、それだけでは私達の宇宙的記憶は開拓されようがないことも確かなのです。

どうすればこの宇宙的記憶を育むことが出来るかはやがて本講座で学ぶことが出来る訳ですが、一つのヒントは私達の幼年期の記憶状況にあるように思います。ある年齢を越え高齢者と呼ばれるあたりから、人は日々の記憶は薄れがちになります。昨日何をしたか等々、直ぐには思い出せない訳です。しかし、各自が幼年の頃体験した事柄は、高齢となった時でも鮮やかに記憶が甦るものです。つまり毎日が目新しく、新鮮であった頃には記憶活動が活発であったということでしょう。しかし、日々の暮らしに新鮮味を感じられなくなると記憶に刻まれることなく歳月が過ぎて行くという訳です。

本項にあるように、宇宙的記憶は"cultivate (耕す、育成する、培養する、育む)"ものであることが、理解のポイントと思われまじ、私達は自分自身の宇宙的記憶力を育むことに努めなければなりません。

252 To illustrate this let us use a man who has lost the memory of who he is. We have read of these cases. Some are well to do, hold good positions and have a family. Yet when this man loses the memory of his identity he re-establishes life in another part of the country, marries, has a family and works as a common laborer. If recognized by a former acquaintance he denies that he is the party for he remembers nothing pertaining to his previous life. This means that the first personality is dead to the mind while the body still maintains the identity.

252 このことを例示する為、自身が誰であるかという記憶を失った人を用いることにしましょう。私達はこのような事例を読んだことがあります。ある人は物事がうまく行って、良い地位を得て、家族も持っていました。しかし、この人が自身の正体の記憶を失った後は、他の地方で生活を再建し、結婚して家族を持ち、通常の労働者として働きます。以前の知人に発見されても、彼自身、以前の生活に関することを何も思い出せない為、いっしょにいたことを否定します。このことは心にとって最初の人格性は死んでいる一方、その肉体は依然としてその正体を保持していることを意味します。

【解説】

記憶喪失については、ドラマ等で演じられることはありますが、私自身はその実態をよく知りません。しかし、記憶を失くすことがどのような事態をもたらすかは本項にもあるように、その後の本人の人生に大きな影響をもたらすこととなります。

このようなケースは一見、稀のように思えますが、こと宇宙的記憶、転生に引き継がれるべき記憶となると誰にでも起こっている一般的な現象ということになるのです。

本来、私達は前生涯で培った知識や技能を何ら生かせず全てを忘れたまま、本生の人生を再び一からやり直しているという訳です。つまりは自らが本来保持すべき記憶を十分に留める努力をしない限り、折角の体験が生かされないことになる訳です。

また本項で著者は私達に考えるヒントとも言える言葉を残しています。"the body still maintains the identity (肉体は依然としてその正体を保持している)"。肉体は従来のままなのだが、それ以外のもの、即ち私達の心にとっての前の人格は死んでいるとも述べています。つまり心が参照すべき人格が失われているということです。言い方を替えれば、人格が無くなっても肉体は維持される訳ですが、それはそもそも何の為に肉体があるのかということにも及びます。私としては、人格が一番重要な要素であり、仮に肉体が同じでも人格が異なれば別の人物とも言えるからです。

このように人格と記憶は一体のものと言えるのです。

253 This is a common occurrence to millions of people when it comes to cosmic and ego identity. And is the reason why so few people are aware of their past lives. This shows that in the past as in the present there was a separation of the conscious real self and the personality or ego mind. For as we have stated before, consciousness is the only real eternal part of you. And it is in this consciousness that all activity is registered. Unless a man's mind blends with this consciousness he does lose his identity.

253 これは何百万人の人々にとって問題が宇宙的正体やエゴの正体になれば、一般的出来事となります。またそれは、如何にわずかの人々しか自分の過去生に気付いていないかの理由です。これは過去において今日と同様、意識の真実の自我と個性あるいはエゴの心とが分離していたことを示すものです。何故なら、以前にも述べたように、意識は貴方の唯一の真の永続する部分であるからです。そして全ての活動が登録されるのは、この意識の中になのです。人間の心がこの意識に融合しない限り、人間は自分の正体を失うのです。

【解説】

確かに私達は生きている間、ある程度の記憶は保って居られます。また得られた知識を覚えていることでその体験を活用することも出来ます。しかし転生の区切りとなるとそれらの記憶が承継されないとはどのような状況を意味しているのでしょうか。

本項はそれに関し明確な回答を与えています。即ち、転生後にも残るような記憶は宇宙的な真の自我に記憶されなければ転生先に伝えられないということです。実は私達のエゴの自我には仮に記憶しても肉体が死を迎える時、見失ってしまうものと思われれます。

つまりは私達が記憶を培うのは自分自身の中にある真の自我、自らの宇宙意識に記憶を留める必要があるという訳です。その為にも本文で述べられているように私達は真の自我、宇宙意識により親しむ必要があるということです。言い換えれば、生命の本質部分に親しみ、そこを拠点としない限り、永続する記憶は得られないということです。

254 Yet another person who has alined himself with cosmic consciousness can locate the identity of an individual whose identity is lost to his present ego mind.

254 しかし自身を宇宙意識に従わせた別の人物はそのエゴの心に見失われている自己の正体を指し示すことができます。

【解説】

これまでの学習内容から考えられることは、記憶というものは基本的には分子・原子に蓄えられるということであったと思いますし、本来的には強弱はあるものの、それらの中に全て蓄えられているということでしょう。

私達が記憶を失くすのは、それが何処にあるのか探り出せない為であるのです。つまり、自我が物事の関係性や経緯を思い出せない為にその糸口をつかむことが出来ないことが想定されます。

これに対して、私達が宇宙意識とお関係性を築いておけば、転生等によって再び生を受けたとしても、その普遍なる存在に自らの正体を求めて行けば良く、容易に自分が何であるかを理解出来る訳です。つまり不安定な地上や自我に記憶を蓄えようとするのではなく、宇宙意識の中に記憶を蓄積することが重要と言えます。「自分の宝は天に蓄えなさい」（マタイ）という聖書の言葉はこのことを示唆しているように思われます。

255 I have had a number of such experiences with others. But it is sometimes difficult to convey to the present individual ego mind its past experiences and relationships. That is unless the mind of the individual blends with the consciousness of his own being, the all inclusive. This is not easy to do for most people dwell in the field of effects which they call concrete facts. Yet we know that behind each effect is the cause which is not as apparent as the effect.

255 私は他の人々についての数多くの同様な体験事例を持っています。しかし時として現状の各自のエゴの心にその過去の体験やつながりを伝えることは難しいものです。それは各自の心が全ての内包者である自分自身の意識と融合しなければ為し得ないからです。これは確固たる事実と称する結果の分野に居住する大多数の人々にとっては容易なことではありません。しかし、それでも私達は個々の結果の背景にはその結果物のように明らかなとなっていない因なるものがあることを知っています。

【解説】

結局私達の自我の心は、普段、様々な意見を出し、私達の行動を支配しようとはしますが、その実、記憶力となると容易に覚えて居られない程、能力が低いということでしょう。確かに年老いて来ると今さっき体験した筈のことを簡単に忘れ、場合によっては肉親の顔も覚えていない状況も起こり得る訳です。これらは医学的にはアルツハイマー症等、脳の疾病と診断されますが、その基本的要素は私達自我の本質をより顕著に表した状況と考えています。

この状況を回避し、高齢になっても記憶を保つ為には、本文に述べられているようにrelationships（つながり、関連性）を理解することが大切だと考えます。一つの結果、結果物だけを取り出して記憶するのではなく、それが生じた背景や経緯等、それらを生じさせた「原因」についてよく考え、関連性を理解するという事です。

このように物事を生み出す原因について正しく理解し、洞察することで私達は記憶の根を因の領域にまで広げることが出来るのではないかと考えます。

256 So you can see that if the mind does not blend with the consciousness it can be lost in the sea of life. That is why great teachers such as Jesus have stressed, fear not that man that slays the body but the man who slays the soul.

256 ですから貴方には、心が意識と融合しなければ心は人生の海の中で迷子になり得ることが分かるでしょう。それがイエスのような偉大な教師が強調したこと、肉を切る者を恐れるな魂を切る者を恐れよの理由です。

【解説】

記憶に関して述べている本項の中で、注目すべき表現は"lost（見失う）"という言葉でしょう。私達が記憶をたぐり寄せようとする時、つまり思い出そうとする際に重要なのは、その記憶事象と自分との繋がり、絆、関連性ということかと考えています。

様々な要因との繋がりについて良く学んでいけば、その記憶をたぐり寄せることも容易ですが、一方で何もつかかりが無い状況では、私達はただ広大な空間の中で手がかりの無いまま、途方に暮れるしかありません。つまり記憶とはそれらに関連する事物との繋がりの中で呼び起こすことが出来ると考えます。

しかし、イエスの言うように魂から関連する繋がりを切ってしまう者が居るとすれば、それは肉体に危害を与える者以上に警戒しなければなりません。怠惰を助長させ、盲目的な快樂に陥れる者を近づけてはならないのです。

257 Let us consider the meaning of this. Man has two souls, the soul of the sense mind, and the soul of consciousness. It is the sense mind that can be slain by lack of memory caused by adhering only to the so-called concrete effects. We can now see that memory is essential in order to have life eternal.

257 この持つ意味を考えて見ましょう。人には二つの魂があります。感覚の心の魂と意識のそれです。いわゆる具体的な結果にのみ追従することで記憶の喪失により滅ぼされ得るのはその感覚の心です。私達は今や記憶が生活を永遠に保つ為に不可欠であることは分っています。

【解説】

本項が私達に教えることは、私達自身には魂と言えるものは2つあるということです。その内、感覚心と呼ばれるものは日常の私達の行動を支配していますが、それが結果物を拠り所としている為、ひとたびそれを失うと記憶をたぐり寄せることが出来なくなり、事実上、滅んでしまうということです。

その結果、人は次なる人生を歩む際に、以前の記憶を失っており、再び混とんの中からその人生を始めなければなりません。それでは人生は永続するとは言えず、かつての経験も活かすことは出来ません。

一方、本来の記憶は分子・原子に蓄えられており、それらはもう一つの魂である意識の中に蓄えられるとも言えるべきでしょう。それらは私達の想念・印象を吸収し、保持する機能があるものと思われます。その結果、意識の中には万物創生以降の知識がふんだんに存在し、各自の過去生の記憶もその中に保持されていることでしょう。それらとどのように一体化するかが問われているのです。

258 Jesus blended His sense mind with consciousness and thus He was able to say, I am in the world but not of it, and many other statements that He made in reference to His past. And He could not have maintained these memories had He not blended with consciousness which carries the memories and contains the book of records.

258 イエスは自らの感覚の心を意識と融合させました。それ故にイエスは、私はこの世に居るがこの世の者ではないと言ったり、自身の過去に関連して他の多くの声明を述べる事が出来たのです。そしてイエスは記憶を持ち運び、記録の書を内包する意識に融合しなかったら、これらの記憶を維持することは出来なかったでしょう。

【解説】

私達が学ぼうとしている意識との融合の究極の姿は、イエスが身を持って示したご自身の姿でもあります。宇宙的記憶を養うことが如何に重要であるか、実はイエスは様々な機会を通じて私達に教えていたのです。

私達が自分の成り立ちを知り、体験を生かす為には、これから生きる上で記憶をより明確にとりまとめ、要点・教訓をしっかりと自身に染み込ませ、記憶するよう努力することかと思われま

す。以前に何処かで述べたかと思いますが、例えば他惑星の宇宙船を目撃する機会を得た時、自分がどのような心境であったか、またその出現はどのような意義があったのか等、その貴重な体験を記憶する上で必要な手掛かりを明確にして置くべきと思っております。

毎日を充実した活動で送れることは、大変幸せなことですし、それらの体験を通じて得た事柄はその人の宝物になる訳で、私達はその奉仕の過程で、既に十分なる報酬を受けているのです。

259 To do this one must make the sense mind trust consciousness like trusting God. And this in turn calls for faith, oftentimes called blind faith. To clarify blind faith a little further, we have eyes with which to see but they do not see any more than a window pane can see what is seen through it. It is you who sees through the window, so it is the consciousness of you that sees through the eyes. For when you become unconscious the sense of sight is still there but you no longer can see. The other senses follow the same pattern. So one should realize the importance of conscious seeing, or sense mind cooperation with consciousness if he is to have a cosmic memory of life. For then he can recognize himself through eternity from the pages of memory. This is an important phase if individual life if life eternal is to be earned. And that is what Jesus meant when He said, he who loses his life shall find life eternal.

259 これを成す為には、人は感覚の心を、神を信頼するように、意識を信頼させなければなりません。そしてこのことは次には信頼、即ち、しばしば盲目的信頼と呼ばれるものを必要とします。盲目的信頼というものを少しより明確にする為に見るのに用いる目について述べますが、目は自分が見ているものは窓枠がそれ自身を通じて見ている以上のものを見ている訳ではないのです。窓を通して見ているのは貴方であり、それ故、目を通じて見ているのは貴方の意識なのです。何故なら、貴方が無意識になってしまえば、視覚感覚はそこに未だあっても、貴方はもはや見ることはできません。他の感覚も同じパターンを辿ります。ですから、もし人生における宇宙的記憶を持つようとするなら、人は意識的に見ること、感覚の心が意識と協力することの重要性を理解すべきなのです。何故なら、そうすることで人は記憶のページの中から永遠を通じて自分自身を思い出すことが出来るからです。これは各自の人生が永遠の生命を得ようとするなら、重要な段階となります。また、これはイエスが自分の命を失うものは永遠の命を見い出すだろうと言った時にイエスが意味していたことです。

【解説】

本項はより詳しく私達が日常気を付けなければならない本講座の学習のポイントを記しています。とりわけ重要だと覆われるのは、部屋に設けられたガラス窓の表現です。この場合、ガラス窓は部屋、即ち肉体の一部なのですが、大事なのはガラス窓は外界からの光景を部屋の内部に投影するもので、その景色を理解し観察するものではないということでしょう。カメラのレンズと同様にそれ自身が見て理解する機能はないのです。

本文にあるように私達の中にある”意識体”がその光景を理解する訳で、肉体（部屋）の内部に”意識”と称される私達の本体があるという訳です。

従って先ずはその存在を自覚し、それを信じ、信頼することから私達は学習をしなければならないのです。もちろん、この意識なるものは身体全体の働きを支えている存在ですし、私達自身がその存在に気付き感謝することを喜ぶものです。そういう意味でも私達のこれまでの尊大な自我を戒めて、より静かに全てを見守っている意識と繋がるのが、この学習のポイントと言えるのです。

260 We must train the mind to daily recognize a certain amount of cosmic life and this can be done through two phases. One, by someone who is very good at reading Cosmic Records. And the other, by allowing your consciousness to give the revelation to your own sense mind. But to do this your mind must have trust in consciousness. You will know when you have blended the two, for then you will be living in full awareness of cosmic cause and the related effects. i.e. Since I have had the experiences with the Brothers I have been living in two phases of life. One, as I used to live performing my daily duties in a normal manner, but enjoying life more than I did before. While at the same time consciously aware of my experiences and of the individuals that I have met from other worlds. The experiences are as indelible upon my memory as my daily activities.

260 私達は毎日、心を宇宙的生活を幾分でも知覚するように訓練しなければなりませんし、これは2つの面から成すことができます。一つは宇宙的記録を読み取ることがとても上手い人物による方法。他は貴方の意識に貴方自身の感覚の心に啓示を与えることを許すことです。しかし、これを行うには貴方の心が意識を信頼しなければなりません。貴方はその2者が何時融合したかは分かるでしょう。何故ならその時、貴方は宇宙の因とそれに関連した結果の完全な知覚の元に生きているからです。即ち、宇宙の兄弟達との体験を持ってからは、私は二つの生命の面で生きています。一つは私がこれまで生きて来たもので普段通りに私の日常の義務を行い、しかも以前より以上に生活を楽しんでいます。一方、同時に、私自身の体験や私が会った他の世界から来た人物達について意識的に気付いているというものです。その体験は私の日常活動と同様、私の記憶に消えることはありません。

【解説】

宇宙的記憶をどうしたら培うことが出来るのか、本項では2つの方法を提示しています。

一つは優れた師と交わることで直接その記憶との交流の仕方を学ぶことだとしています。これには他惑星人との交流から私達が多くの事柄を学ぶ目的でもあります。アダムスキー氏自身も砂漠のコンタクト以来、彼らの実生活を見て、あるべき暮らしぶりを学んだものと思われま。

一方でそのような機会に恵まれない大多数の私達はどのようにすれば良いかということですが、それも手本は既に示されている訳で、素直に毎日自分を自分の中で意識に親しんで生活するべきなのです。基本的に全て必要な要素は私達自身の内側に供えられており、活用が待たれている訳で、私達が新たに用意しなければならないものはありません。ただ私達の内側、意識と仲良く暮らすこと、その示唆する印象を大切に扱う中で次第に宇宙的記憶とのパイプを広げることが出来るという訳です。

261 In order to obtain a cosmic concept of life all that is necessary is an expansion of the mental conscious awareness. And in this way you become more alert to your actions in both fields. It could be compared to being in a plane or on a high building, for then you become aware of things below as well as above you. You are using the same sense mind, only your field of awareness has expanded. When you are able to do this regardless of where you may be there is no limit to how far you can go in connecting with conscious memories that could reveal many past experiences. And in this way find your true self and live in the sea of eternity.

261 生命の宇宙的概念を得る為に必要となるもの全ては心による意識的な知覚の拡大です。そしてこの方法によって貴方は両者（訳注：因と結果）の分野における貴方の行動についてより多く気付くようになります。それは平原や高い建物の上に居る場合と対比することができます。何故ならその時、貴方は貴方の上空でのものと同時に眼下の物事をも気付くようになるからです。貴方は只、貴方の知覚範囲が広がっただけで、同じ感覚心を用いているのです。貴方がこのことをどこに居るかに関わらず出来るようになれば、多くの過去の体験を呼び起こすことができる意識的記憶に接続する為、如何に遠くに貴方が行こうとも制限はなくなります。そしてこのようにして、貴方の真の自己を見つけて、永遠の海の中で生きて欲しいのです。

【解説】

どのような心境を開拓すれば良いかについて、本項はより具体的に私達に説いています。そのヒントは”平原や高い建物の上に居る”という表現にあります。つまり、自分も含めより広範囲な状況を理解し、把握していることを意味します。

単に自分の目の前の状況ばかりを把握するのではなく、周囲あるいは更に広範囲な状況も併せて理解している状況です。本講座で盛んに”意識”という表現を用いているのは、この心境が”意識”という言葉に最も近いからだと思われます。

とにかく私達各自は心の他にもう一つの存在である意識があり、その意識を拡大、浸透させてより広範囲を自分の知覚領域としなければならないのです。

先日も滞在先の東南アジアのホテルで、夜部屋の電燈を付けた所、大きな虫がその光に驚いたのか、壁に立ち尽くしていました。夜は彼らのテリトリーなのでしょう。盛んに長い触覚を動かしながら警戒を続けています。実は彼ら昆虫達は生きる上で警戒は欠かせません。危険がいっぱいの環境の中でもたくましく生きている彼らはこの分野では私達を遙かに上回るレベルを生きているのかと思った次第です。

262

This particular phase of life is a major part to be learned and it should not be very hard when the sense mind begins to live with the consciousness instead of acting on its own as it has been doing. And results will be outstanding when the two live as one. This may seem to be a repetition of what has been said before, but repetition becomes a memory.

262 特にこの段階の生活は学習する上での主要な部分であり、感覚の心がこれまでして来たように自分自身が確保しているものを前提として行動する代わりに、意識と共に生き始める時には、過度に行うべきではありません。そしてその両者（訳注：意識と心）が一体となって生活する時、効果は傑出したものになるでしょう。このことはこれまで述べられたことの繰り返しのように見えるかも知れませんが、繰り返すことが記憶になるのです。

【解説】

私のわずかな体験からも、自らの行動を内部から湧き起るインスピレーションに従って行うことは大きな成果をもたらすことが分かります。つまり、湧き起る印象をヒントとして行動することが、意識の指導に従って私達の心が成長する唯一の道だという訳です。

各自によって状況は異なるかも知れませんが、この「印象に従う」ことは誰でもが出来ることであり、それらを繰り返すことで私達も次第に自分の中にある「意識」の存在を知覚出来るようになるものと思われま

す。また本項ではこのように繰り返すことで、それらがやがて本来の宇宙的記憶になると説明しています。どれほど密接に自身の意識と交流し、融合的になれたかが問われることになるのです。このことから本講座をただ読むだけでは価値がなく、各自の実生活の中で日々どのような心境、境地で意識に耳を傾け、印象に従った行動をとっているかが重要となります。

263 A good example of this can be found in two people who decide to join together for life. Each is an individual with habits in his or her way of life, yet after years of life together they not only take on each others habits but they start to look alike. All because they have become aware of one another as though they were one. Even pets, such as dogs and cats etc., oftentimes take on the personality of the master. So we can see that a constant reminder or association becomes an automatic manifestation of the other, where effort is no longer required for the form operates on memory pattern. The most important thing to realize is that the pattern remodeled the personality of the form in likeness of itself. It could be said that the original person is no more as he was, but another has taken his place. For one has absorbed the other and the two become as one.

263 この良い例は生活を共にしようと決意した二人に見ることが出来ます。二人は各々自分の生活の習慣を持った人物でしたが、何年も生活を共にした後、彼らは互いの習慣を身につけるばかりでなく、似始めるのです。彼らが互いを一体のものとして意識していたからに他なりません。犬や猫等のペットでさえ、しばしば飼い主の個性を身につけます。ですから、私達は、絶えざる思い出や交際はやがて（訳注：自分自身へ）自動的に他者を現出させることになるのです。形有るものは記憶パターンによって働くため、もはや努力は必要とされないのです。私達が認識すべき最も重要なことはパターンが自身の似姿に沿って人格を再形成させたということです。それは、元々の人間はもはやかつての者でなく、他の者がその位置をとって代わったということも出来るでしょう。一方が他を吸収して両者が一体となったからです。

【解説】

夫婦が互いに似てくることや、ペットも主人に近い性格になる等、本項で説かれていることは、私達の実生活における互いの影響力を良く物語っています。私達は良くも悪くも互いに影響を及ぼし合っているのです。それと同様に、私達自身、自分の内部にある意識と共に生きて行く場合には、私達は次第に意識に似た要素を帯びることになります。常に親しむ対象に私達は同化して行くのです。また、その結果は本文では私達の性格さえ変質させるとしており、如何に普段交わる者が重要であるかが分かります。そういう面から言えば、一たび私達が自身の内側の意識、宇宙に繋がる存在を信頼し、時々には与えられるヒントを受け入れて、日々の行動に生かせられれば、やがては私達自身、内部の意識を表現する者となれるでしょう。「キリストに倣いて」という著名な修養書がありますが、「見倣う」ことには、このように重要な意味が含まれているのです。

264 While we have used two individuals in close association with each other, this can take place where many are represented by one when using the same pattern. This shows that the consciousness whom we call God, is the all inclusive. And as two people are able to become as one through association and even resemble each other, just so, an individual can become one with, and resemble God, when he thinks in terms of God instead of the ego. Yet he retains his individuality, the difference is that his sense mind has blended with conscious consciousness that we call God. The sense mind is able to perform its normal duty as it did in the past but it is aware of the consciousness that gives it power and intelligence to act wisely in the world of effects. The mind will then feel as Jesus felt when He said, I of Myself do nothing, but the Father that worketh through Me does all of the work. This is cosmic consciousness.

264 私達は互いに親密な二人を例にしていましたが、このことは多人数が同じパターンを使用する場合についても一人に代表されるところに起り得ます。これは私達が神と呼ぶ意識は全てを包含することを意味しています。そして二人の人間が交際を通じて一体となり、互いに似て来るまでになるように、丁度そのように各自も自我への代わりに神について考えていけば神と一体になり、神に似て来るのです。しかしそれでもなお、自分の個性を保持しており、違いは自分の感覚心が私達が神と呼ぶ意識的な意識と融合しているということです。感覚心はこれまで同様、通常の任務を実行できますが、その者に結果の世界で賢く行動する為のパワーと知性を与える意識について気付いています。心はその後イエスがこう言った時のように感じることでしょう。私自身は何も成していない、父が私を通じて全ての仕事を成したもうのだ。これが意識的な意識です。

【解説】

ここに哲学の基本、精進のエッセンスが記されているように思います。私達は各自、各々の人生を生きて来ましたが、それも各自の人格を高め、他者への貢献、自身の才能の表現、自然の美しさへの目覚め等々を目標として努力して来たものです。一見それらは多様な側面に見えますが、実際には本文で記されているように、私達が自身の内部の「意識」と交わることで、その性質を学び取り、自身の行動に役立てることにより、成果を得て行くということでしょう。自身の内側に既にあらゆる知識と知性が備わっており、私達はただそのヒントに従い、行動することで良質な人生を歩めるということであり、何とも恵まれた存在ということなのです。

265 Consciousness is the father and the mother of all form creation which conceives and gives birth to the various forms. And within it is the blue print or memory which is ever present that can be reviewed for conformation at any time when the need may arise. But the sense mind cannot do this alone, there must be the combination of the two. For as we know, the sense mind learns from effects and now it must understand the cause producing the effect. The effect is the fulfillment of a cause and the sense mind might not execute it exactly as the cause mind intended it to be, so through misinterpretation a mistake could take place. And this is where the Law Of Grace enters and through this law the sense mind has a chance to realize and correct its mistake. And corrected it must be before progress can be made. And it must be made in behalf of consciousness and not the sense mind. In this way the sense mind is made to do what the better self wants it to do. If this is not done a slight memory might remain but it will be distorted.

265 意識は受胎し様々な形有るものに誕生を授ける全ての形有るものの創造の父であり母です。そしてその中には必要が生じた時に何時でも一致するか吟味できるよう常に出して置かれる青写真もしくは記憶が入っています。しかし、感覚心はこれを一人では出来ません。二者の組合せが必要なのです。何故なら、ご存知のように感覚心は結果から学ぶ者ですが、今や、その結果をつくり出している因を理解しなければならぬからです。結果は一つの因の成就です。感覚心は因の心が意図したようには実行しないかも知れません。そこに誤った解釈を通じて間違いが生じるのです。そしてそこに恩寵の法則が入り、この法則を通じて感覚心はその誤りに気付いて改める機会を得るのです。そして進化を遂げるにはその修正を終えていなければなりません。また、その修正は意識の為に行われなければならない、感覚心の為に成されるべきではありません。このようにして感覚心はそのより良い自己が願うことを為すように仕向けられるのです。これがなされなければ、わずかな記憶が残ったにしてもいずれは歪められて行くことでしょう。

【解説】

私達の人体を含めあらゆる創造物の由来は「意識」にあると、本項では大変重要な事項を述べています。つまり、私達自身の行動を含めて全ての活動は意識の持つイメージや青写真を表現したものであるということです。

その「意識」が私達内部に常に宿っているとすることは、重要なポイントだと言えるでしょう。私達はその意識から来るインスピレーションを表現する任務と役割を持っているという訳です。実はその過程で私達は意識の持つ記憶を参照し、知識を得ることが出来るという訳です。

もちろんインスピレーションや印象の感受において未熟な私達は多くの場合、その本来の内容を表現し切れませんが、その際にそれが誤っていると指摘し、修正を支援して呉れるのも意識の働きだという訳です。

宇宙に関する全ての知性が私達各人に本来備わっていることを考えれば、畏れ多いという言葉に尽きません。

266 One should not be in a hurry to cultivate cosmic memory, for impatience will cause a misapplication of the law. Always remember that consciousness is eternal. Therefore it is not going anywhere, so it is not in a hurry, for in itself it is all inclusive. And by remembering this one will avoid many mistakes.

266 人は宇宙的記憶を培うのに急いではいけません。何故なら、短気は法則の誤用をもたらすからです。常に意識は永遠であることを思い出して下さい。ですから、それは何処に行ってしまうことはなく、急いではいけません。何故なら、それ自身の中に全てが含まれているからです。そしてこのことを覚えていることによって、人は多くの過ちを避けることができます。

【解説】

成果を得ようと焦ってはならない。本項はこの学習の注意点を私達に伝えています。この分野の学習は自分自身の知覚力を養い、印象への感受性を高めるもので、その成果は少しずつしか現れません。また他でもない自分自身と向き合う訳ですから自分で言い訳を作って先延ばしにしたり、そもそもこの分野を放棄することさえ可能です。

そこで著者は私達に時間は無限にあり、目指す相手である「意識」は永続するので先ずは急がず、一步一步進むよう促しています。急いで成果が上がらないからと言って、学習それ自体を放棄するなと戒めているのです。

私達が現在の肉体のまま生存している間も、私達の自覚に関わらず、私達の内側には意識が居て膨大な数の細胞に指示を与え常に新鮮活発な人体を支えている訳で、決して自分の手より遠くに行くことはないので。私達が生きている限り、私達にとって最高の師は常に私達と共にあるという訳です。

267 To cultivate eternal memory and become the likeness of God or The Supreme Consciousness, one will have to live it and with it as he does with his life mate or partner. Not thinking of self alone but the other as well, thus blending the two to create a harmonious union. For this is what must be done to blend the sense mind with consciousness. And when it is done the individual will represent God as he was meant to do, in the first place. As a man and wife represent each other, and the memory of their first meeting and all acts from there on are quite permanent and they enjoy life together.

267 永遠の記憶を培い、そして神、即ち至上なる意識の似姿になる為には、人は生涯の友人やパートナーに対するようにそのことを生き、それと共に生きなければなりません。自分のことのみを考えるのではなく、もう一つの存在を考え、この2者を融合して調和的な融合体を造り上げることです。何故なら、これは感覚心を意識に融合させる為に成さねばならないことだからです。そしてこれが成された時には、各人ははじめに意図されたように、神を表現するようになるでしょう。男と妻が互いを表わすように、また彼らの最初の出会いとそれからの全ての行動の記憶が完全に永遠となり、二人が生活をいっしょに楽しむのです。

【解説】

私達がどのような心境で意識と向き合えば良いかについて、本項は夫婦に例えて私達に説いています。私達が宇宙的記憶を培うには、宇宙的存在と交わり、それとの共同作業の体験を積む必要があります。その為にはどうしても自分の中のもう一つの存在である意識に気づき、融合する必要があります。この場合、夫婦が長年生活を共にすると互いに性質が似て来るのと同様に、私達も意識の存在を気にかけて、与えられる印象を大切に取扱い、行動に移す過程で次第に私達は意識と親しい間柄になれるものと思われま

す。私達が意識を自分の伴侶、自分の師として親しみ、交わることで私達は次第に精華され、より良い人格になれるものと思われま

268 The marriage of the sense mind and consciousness has been referred to as The Lion and The Lamb lying down together. And when this takes place one is on the way to Eternity, and the Book of Remembrance will be opened unto you as promised in Revelations.

268 感覚心と意識の結婚は共に横たわるライオンと小羊の関係として引用されてきました。そしてこのことが起る時、人は永遠へと続く道の上であり、ヨハネの黙示録に約束されているように記憶の書が貴方に明かされることでしょう。

【解説】

キリスト教会にはライオンと子羊が互いに仲良く描かれている絵があり、ライオンは全能の神を子羊は罪なく殺された生贄を示すとされています。また、同時にこの2つは共にイエス・キリストを表現するものとされているようです。また同時に万能であり、最大最強の創造主に迷える子羊が頼っているという姿も示唆するものと思われます。

本講座の中ではこの姿こそ私達の内側の状況を意味しているという訳です。子羊は私達の心であり、ライオンが意識ということになります。つまりはライオンの比護の下、私達子羊は少しずつ成長して行くということです。

269 THE EYES OF GOD, OR CONSCIOUSNESS

We have been taught in our religious faiths that God sees all acts, yet we know that the sense mind does not see the invisible cause back of every effect. This means that we see less than half of what is to be seen. But we as an effect of God have the potential of seeing what God sees. The reason that we do not see as He does is because we do not understand life.

269 神の目、即ち意識

私達は宗教の教義の中で、神は全ての行為を見ておられると教えられて来ましたし、私達は感覚心はあらゆる結果の背後にある見えざる因を見ていないことを知っています。このことは、私達が見るべきものの半分も見えていないことを意味します。しかし、神のひとつの結果である私達は、神が見ていることを見る潜在力を有しています。私達が神が見ておられるように見ない理由は、私達が生命を理解していないからです。

【解説】

事実、目の前に自分の手があるのですが、私達の肉眼はその内側に血液が流れ、各細胞が活発に活動するような姿に気付くことはありません。普段は当たり前存在として特に気にかけてもいないのです。

しかし、私達にとってこれら自分の身体こそ学習教材として最も適したものと言えるのです。自分の行動や自分が発信・同調した想念・印象が如何に身体細胞に影響を及ぼしているか、或いは自分の身体各部が如何に調和し、生命を表現しているか等々を観察し、自覚するのに最適の教材なのです。

これら深遠な世界を探訪するには私達のもう一つの自分である意識の力に頼る他ありません。自分の内側にある意識との融合を進める中で、私達は少しずつ目には見えない世界に気付いて行くのです。

270 Jesus made the statement, ye have eyes yet see not, and also, the blind lead the blind. Yes, we do have eyes, as your home has windows. And the windows would say if they could speak, through me the forest is pictured. And if I became a mirror I would reflect the forest, but not its life.

270 イエスは、汝は目を持っているが見ていない、また盲人が盲人を導くようなものだと発言（訳注：マタイ15:14）しています。確かに、私達は皆さんの家に窓があるように目を持っています。そして、その窓がもし話すことができたとしたら、私を通してその森が見えるのだと言うことでしょうか。そして、もし、私が鏡になったとすれば、私はその森を映すでしょうか、その生命までは映すことはありません。

【解説】

「悟り」という言葉は仏教用語ですが、同時に本項でイエスが説いた事柄と同質の内容を表現しているように思われます。肉眼で物の外観や形を見る一方、いわゆる心眼でその背景やその対象物が発する想念・印象を同時に観ることで、その対象を深く理解することを「悟り」と思うからです。

しかし、進化を遂げた者にとって、私達のような未だ十分に本質を理解していない者は何とも危なげな存在に映ることでしょう。ましてその中で他の者を導く立場の者には盲人が盲人を導くように思えた筈です。

こうした中、私達はこれまで時々の様々な教えに従い歩んで来ましたが、それでも本当のゴールに到達出来た人は少ないのかも知れません。何よりも先導者自身の理解が十分でないからです。

そういう意味では、私達は改めて他惑星社会から贈られた本講座の中身を注意深く学び、実践を通して各自実績を積み重ねて理解を深めることが肝要です。本講座はテキスト本文であり、実践編は各自で作る必要があるのです。

ご連絡 [2017-10-17]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、明日の更新はお休み致します。

2017年10月17日

竹島正

271 The sense of sight is reflecting the effects, but not the life of the effects. It is like the window or mirror. But to have a reflection there must be a cause. So in a way we are half dead, or living only half a life. And Jesus said, let the dead bury the dead. Meaning that the pallbearers bearing the corpse are as dead the corpse. The form within the coffin lies unconscious of life and the ones carrying it are equally unconscious of life in full, or cosmic life. For the corpse lived a mental life as the ones who bear it do and once the consciousness withdraws, the mental is silenced. For it never knew itself as the real part which is the consciousness.

271 視覚は結果物を反映していますが、その結果物の持つ生命は反映していません。それは窓や鏡のようなものです。しかし、映像を得るには因がなくてはなりません。ですからある意味、私達は半分死んでいる、或いは生命の内、半分しか生きていないと言えます。また、イエスはこう言いました。死者をして死者を葬らせよと。死体を担いでいる者も死体と同様に死んでいるという意味です。棺の中の肉体は生命の意識は無くなり横たわっていますし、それを運んでいる者達も等しく満ちた生命、宇宙の生命について意識していません。何故なら、その死体はそれを担ぐ者達同様に心による生活を送って来ましたので、ひとたびその意識が退くと、その心は沈黙させられます。何故なら、心は意識である真実の部分に関する自分自身について知らないで来てしまったからです。

【解説】

「死者をして死者を葬らせよ」というイエスの言葉の意味は、死者を埋葬する者も、実際は死者と同様に自分の半身に気付いておらず、半ば死んだようなものだということです。即ち、現在生きている者も自分の半身に気付かなければ、肉体の死とともに消滅することを示唆しています。

私達は常に結果のみに着目し、すがっていましたが、大切なのは物質・物体ではありません。それを生み出した知性・生命力とそれに呼応して活動する生命の息吹なのです。確かに私達の肉体も例外なく、日々の消耗の中で衰えて行きますが、その内側にある精神麵は若さを保つことが出来ます。移り行く物質世界の中ですが、常に変わることなく降り注いでいる生命力にこそ私達は同化・同調すべきです。

私達がやがては死すことは明らかなのですが、その際に少しでも真実・真理を理解し、再び再生出来る心であるよう、毎日を探究する人生でありたいものです。

272 Some may feel I use the word consciousness too often, yet it is this consciousness that is the real you. It is also back of all creation - the primal force - the most important part in a mental life. For the sense mind must remember its experiences if life is to continue, as consciousness is the recorder of all actions in life. If the sense mind does not associate itself with the consciousness its memory is short for it is not eternal. But as we have said before, it can become eternal by blending with consciousness.

272 中には私が意識という言葉をおよそ多く用いていると感じている人もあるかも知れませんが、真実の貴方はこの意識なのです。それはまた全ての創造の背後にあるもの、原動力であり、精神生活において最も重要な部分です。何故なら、感覚心は生命を継続するつもりならその体験を記憶して置かねばなりません。意識は生命の全ての行動の記録者なのです。もし、感覚心が意識と仲良くならなければ、その記憶は永続しない為、短いものとなるでしょう。しかし、私達がこれまで申し上げたように、心は意識と混じりあうことで永遠のものになり得るのです。

【解説】

自分の半身である意識について、著者はその重要性を繰り返し述べていますが、それほどに私達が重視しなければならないのがこの意識なる存在です。しかし、私達は長年この意識について教わっておらず、もう一方の半身である心の支配を受けて来たという訳です。

イエスが”父とともにある”という言葉を残し、弘法大師が”同行二人”という表現を伝えていますが、いずれもこの意識について覚醒した導師ならではの言葉と言えるでしょう。

この意識の中に全ての記憶が蓄えられ、想念が記録される訳ですから、この意識から助言を受ける中で、意識との信頼関係を構築出来るものと思われれます。私達の半身である意識は実は自身の肉体の範囲に制限されるものでなく、宇宙にも広がっている存在であり、空間という制限を越えている存在だと考えられます。

273 You may say here, but I am conscious. That is partially true for if you were not you would not be alive. But are you conscious of cosmic consciousness as the Creator whom we call God is ? For this conscious intelligence is aware not only of the cosmos but all the created effects. In other words its records consist of cause and effects. And if we are to fulfill the purpose of our creation we must cultivate the other half of our life which is cosmic consciousness. For this in turn brings life eternal with all of its records.

273 貴方は自分には意識があると言うかも知れません。それは部分的には真実です。何故なら意識が無ければ生きてはいないからです。しかし、私達が神と呼ぶ創造主が意識している程に宇宙意識を意識していますか？何故ならこの意識の知性は宇宙のみならず全ての創造された結果物を知覚しているからです。別の言葉で言えば、その諸記録は因と結果物を含んでいるのです。そしてもし私達が創造された目的を満たそうとするなら、宇宙意識である私達のもう一方の半身を育まねばなりません。こうすることがひいてはそのすべての記録を携えた永遠の生命をもたらすことになるのです。

【解説】

もちろん、本講座で言う「意識」は、私達が救急救命の現場で有無を問う場合の「意識」を含んでいます。そう言う意味では私達は意識を有しているのですが、その把握する範囲は極限られたものに留まっているのです。

意識は本項で述べられているようにはるかに広範囲に広がっており、原因や結果を記録しているのです。この膨大な記録と知性とのつながりが「意識」と表現されているということでしょう。私達は各自、先ずは自らの半身である「意識」の存在に気付く必要がある訳です。

しかし、それを実行に移し、成果を挙げるのは本人でしか出来ないことです。他人が代わってそれを行うことは出来ません。唯一支援出来るとすれば、各自これまでの体験から学び取った事柄を共有することで、他者が得た経験を教材とすることでしょう。本シリーズもそのような観点から続けています。

274 And how is this done? It is no different than memorizing things while in school or elsewhere, and is done with repetition until you are sure that it is well impressed upon the sense mind. When this is done you will never forget. But this should be done in the Cosmic Allness, and can be done by seeing with Cosmic Sight or God's eyes.

274 そしてこれはどのようにして成されるのでしょうか？それは物事を学校かその他で覚えるのと何ら変わるものではなく、貴方が感覚心に十分印象づけたと確信するまで繰り返すことで果たされます。これが実行された後、貴方は決して忘れることはないでしょう。しかし、これは宇宙的調和の中で成されるべきであり、宇宙の目、神の目で見ることによって成され得るのです。

【解説】

私達が如何にしたら、自分の半身である意識を自覚し、宇宙的記憶を蓄えることが出来るか、本項で著者は私達に、それは学校での学習と同様、繰り返し学ぶことで自分の心にしっかり記憶させることだと説いています。

私達は学校で言葉や単語を学ぶことから始まり、やがては高次な事柄も学んで行きますが、小学生がいきなり高校や大学の授業を受けるのは無理であるように、私達は少しずつ自分のレベルに応じて自分の道を進まなければなりません。

そこで初心者に必要なことは、先ずは自分の現在の学習段階を自覚して必要な次のステップに進むということでしょう。つまり先月、昨日に比較して、どう成長したかを自分で考え、成果が認められれば、自分の歩む道が正しいことが分かる筈です。その際、重要なのは、私達各自は独りでなく、常に自身にはもう一つの半身・意識があり、その支援を喜んで受けながら、今までの肉体の目でなく、宇宙的な目で世界を観るということでしょう。チベットやネパールの寺院には目のシンボルが描かれていると聞きますが、私達は肉体の目でなく、宇宙的な目で物事を理解することが肝要です。

275 Do not become too absorbed with labels as they may confuse you. Do not expect the same kind of reaction as you have been accustomed to from the mental side. For when you become aware of the life of a flower you will also be aware of the intelligence that produced the effect. The flower will not speak to you in sounds you are accustomed to but it will react to you as intelligence speaking to intelligence. And all forms can be addressed in the same manner, for you will not be recognizing the form alone, but the intelligence manifesting through the form.

275 レッテルにはあまり没頭しないようにして下さい。それらは貴方を混乱させるかも知れないからです。また、感覚心からの反応に馴れて来たのと同じ種類の反応を期待してはいけません。何故なら貴方が一つの花の生命に気付く時、貴方はまた、その結果（訳注：花）を造り出した知性について気付くようになるからです。その花は貴方に貴方が馴れ親しんだ音で話し掛けることはないでしょうが、知性が知性に話し掛けるように貴方に反応することでしょう。そしてすべての形有るものはこれと同様なやり方で呼び掛けることができます。何故なら貴方は形のみを認識しているのではなく、その形を通して具現している知性を認識しているからです。

【解説】

私達が外界を見る時、多くはこれまでの分類に従い、生物と無生物、植物と動物、更には各種属へと細かい分類名として認識しますが、本項で著者はこれからはこれら既存のレッテルにあまり左右されないようにと注意しています。

元来、宇宙的生命活動の上からはいわゆる生物も無生物も、植物も動物も大きな差違はありません。分子・原子のレベルでは共に想念・印象を記憶し発信する実体なのです。

そういう意味から私達はそれらを見る際、努めて印象でのやり取りを進める必要があります。植物の成長を願って水をやり、土を耕して実りを夢見ることはそのまま彼らに伝わりますし、彼ら植物もそれに印象で応えるに違ひありません。

重要な点は自然界のあらゆる存在は私達と同等であり、同胞であるという意識です。また、こうした交流を通じて私達はこれまで以上に植物や動物達、またいわゆる無生物と称されて来たもの達から、印象を通じて多くを学ぶことが出来るのです。

276 We have used the flower for everyone loves beautiful flowers. And if the love for it is equal to the love that one has for himself and he acknowledges its intelligence as firmly as he would of another person, with the same feeling, the flower will respond. And this can be observed if it is asked to turn its face from one side to the other. For it will follow your instructions as it follows the Sun. But you must remember at all times that you are consciously talking to an intelligent form.

276 私達は花を誰もが美しい花を愛することから用いて来ました。そしてもし、花に対する愛情が自分自身への愛情と等しければ、そして花の知性を他の人物に抱く感じと同じくらい確信し認めるなら、その花は応答することでしょう。そしてこのことは、片側からもう一方へ花の向きを変えるように求められれば、そのように観察されるでしょう。その花はそれが太陽に従うように貴方の指図に従うようになるからです。しかし、常に憶えておかなければならないのは、貴方は意識を用いて知性ある形に話し掛けているということです。

【解説】

植物が私達の発する想念に反応することは、植物にウソ発見器を取り付けたバクスターの実験その他でも証明されていますし、ルーサー・バーバンクのトゲ無しサボテンその他の育種結果によっても知られているところです。

本項では更に深く植物に私達と同等の知性を私達自身が認識出来れば、植物とも交流が出来ると説いています。つまり、私達の半身である意識を通じてあらゆるものの意識と融合し、互いに意思を通わせることが出来るという訳です。

草花に毎日水をやり、肥料（栄養）を与えることでも植物は育ちますが、遠く離れていても意識を通わせることで、その植物は元気を取り戻すことが出来るのです。愛情が必要なのは人間ばかりではないということです。

「星の王子様」にあるように、周囲のあらゆるものに対して、その存在の中に自分と同等の知性を知覚し、それらと交流すること以上に素晴らしいことはありません。

277 Once you have accomplished this, you are not only blending your sense mind with consciousness, but also cultivating a memory. And from here you keep on expanding and include all forms of life by recognizing the cosmic consciousness in each. And you will experience the other half of life which you have not known until this time. As every act is recorded in the cosmic library you will have access to it at any time you will have need for it, the same as the Creator has. This awakened part of you has always been and always will be. The mysteries of life will be replaced by knowledge of life.

277 いったん貴方がこれを達成すれば、貴方は貴方の感覚心を意識に融合させているのみならず、記憶をも育てていることになるのです。そしてここからは貴方は広がり続け、各々に宇宙意識を認識することによって全ての生き物をも包括するようになります。そしてこれまで知らなかったもう半分の生活を体験することでしょう。あらゆる行為が宇宙の図書館に記録されており、貴方は創造主がなさると同様に、必要な時に何時でもそれを利用することができることでしょう。貴方のこの覚醒した部分はこれまでいつも、そしてこれからも常にそうあることでしょう。生命の神秘はこうして生命の知識に置き換えられるのです。

【解説】

私達が触れようとしている「意識」には、あらゆる想念の記憶が蓄えられているという訳です。その潜在する意義はとて大きく、私達が意識を広げるにつれて、より遠くまで私達を導くことでしょう。意識を知覚するということは、そこから授かる多くの知識や情報に接するということであり、私達はこれまでにない上質な人生を歩むことになります。

この気付き（悟り）を得ようと古来より、多くの修行が行われましたが、本講座ではそのような苦行でなく、日常的で理性的な姿勢の下で自らを開拓しようとしています。

以前、誰かが生前、アダムスキー氏の自宅には辞書1冊しかなかったと言っていたことを思い出します。氏の多くの知識はこの意識の中から導き出されたのかも知れません。大切なことを記憶することも、また氏の過去生での経験も活用されたものと思うのです。この意識との交流があれば、まさに身一つで十分、私達は暮らして行けますし、日々の体験を積み上げることで成長して行けるのです。

278 Your acts should be, regardless of the type of form, as definite as when you are dealing with man. And no doubt should be present in your feeling or act. Feeling in the form of revelations should be definite for feeling is a conscious state of alertness.

278 その際の貴方の行動は、対象の形有るもののタイプに関わらず、貴方が他の人間に対する時と同様に明確なものである必要があります。そして如何なる疑いも貴方の印象感覚や行動に在ってはいけません。印象感覚は警戒の意識状態であるが故に啓示における印象感覚は明確なものでなければならないのです。

【解説】

人間以外のものに対しても私達は人と接するのと同様に、相手に対して意思を示すことが必要です。また、そのものからの印象を感受する時も、自らのフィーリング（印象感覚）を全面的に信頼しなければなりません。

本項では、私達が動植物その他のものと交流する際の心構えを示したものと言えます。丁度、イエスが信仰は山をも動かすと述べていますが、それも本項と同様、対象である山と印象を通して通じ合うことを示唆しているものと思います。

重要な点は、この印象に鋭敏となる私達の意識状態であり、全ての解決への道はこの心境から生まれるということです。

279 We know that animals do not talk our language, yet the one who trains them to do the things that they do must have full confidence in himself as well as the animal. The trainer knows that the animal will do what he commands and this is done through a feeling of his expression. In other words they feel each other. And what can be done by a trainer with an animal can be done by you with any form, providing you have the same feeling that the trainer has towards the animals. Once you develop this part of you, you can be sure that you are making the blend with cosmic consciousness, without limitations or divisions of any nature for you are dealing in the Cosmic Sea Of Life. Intelligently you are the master over the elements. This is your birthright for the Bible says that man was given dominion over all things including death, for then man is born into a new life. But you cannot have these things without practice, and practice means living them daily as much as you can.

279 私達は動物達が私達の言語を話さないことは知っていますが、それでも動物をすべきことをするように訓練する者はその動物にと同様に自分自身にも最大限の確信を持たねばなりません。訓練士は自分が命じる事柄をその動物が行うようになることを知っていますし、これは訓練士の表現する際の印象を通じて行われます。言い換えれば、彼らは互いに感じ合えるのです。そして動物に対する訓練士によって為され得ることは、貴方が訓練士が動物達に抱くのと同一印象を持つならば、貴方は如何なる形在るものに対しても全く同じことができるのです。一度、貴方が貴方のこの部分を発達させれば、貴方は何らの制限や何らの仕切りも無く宇宙意識と融合し始めていることを確信できるでしょう。何故なら貴方は宇宙の生命の海の中を取扱っているからです。知性的に貴方は各元素に対する主人です。これは貴方の生まれながらの権利です。何故なら聖書は人は死をも含む全ての物事に対する支配権を与えられていると述べているからですし、そうなれば人は新しい人生に生まれることとなります。しかし、貴方はこれらの事を練習無くしては得ることは出来ませんし、練習とは貴方が力の限りそれらを毎日の生活に活かすことを意味しています。

【解説】

人間と動物との間の意思疎通は、イルカやその他の動物の調教の場面に表現されていますが、その訓練の場面では調教師は対象の動物とどのように向き合っているのかを本項は解説しています。

また、それと同様に私達人間はその他の対象物に対しても自らの意思を印象レベルの意識と融合させることで、相手に伝え、また相手と意思疎通を果たしながら協力を得られるということです。人間にはそのような能力が与えられているということです。

もちろん、それらの能力は本来の目的に沿って発揮されるべきもので、そうする中で人間は万物の最上位に位置を占めることが出来る訳です。

また、これらのいわば支配力 (dominion) は更に高次の領域にまで広がっており、肉体の死をも超越するものであることを本文で示唆しています。日々の精進・訓練を通じて私達は本来の能力を発揮し、天賦の地位を占めることが出来ると本項は説いています。

280 So one could begin to practice on the flower first, but do not be disappointed on the first tries, just be more determined to master the art. Remember the old habits will be in your way until you absorb them into better ones. Wherever you go and whatever you see or do make sure that your mind is aware of the cosmic life and intelligence that is back of all creation. And nothing is free of that life and intelligence any more than you are. For the smallest molecule in the cosmos is just as intelligent and alive as any other form and it serves its purpose. Yet your physical sight does not see the molecule, but your conscious sight can. And once you have made this a part of your life, ills that you may have had, of any nature, will vanish when you correct your mental life.

280 そこで最初は花で練習を始めても良いでしょう。しかし、最初の試みでがっかりせず、只、その技能をマスターすることをより深く決心して下さい。古い習慣は貴方がそれらをより良いものに吸収するまでは進路に居続けることを憶えておいて下さい。貴方が何処に行こうとも、貴方が何を見て、何を為そうとも、貴方の心は全ての創造物の背後にある宇宙の生命と知性に気付いていることを確認することです。そして貴方がそうでないように、如何なるものもその生命と知性から離れていないのです。何故なら宇宙の最小の分子でさえ、他のどのような形有るものと同様に知性があり生きていて、その目的に奉仕しているからです。しかしそれでも貴方の肉体の視覚はその分子を見ることはありません。しかし、貴方の意識の視覚はそれが出来ます。そして一度、貴方が貴方の生活でこの部分を達成すれば、貴方が持っていたかも知れない病気というものは、どのような性質のものであれ、貴方の精神生活を修正する時、消滅することでしょう。

【解説】

ここでは花との会話を通じて身の回りにある万物との向き合い方が説かれています。

基本となるのは私達の心境です。私達は肉眼で観察することも大切ですが、それ以上に対象を私達同様に生きる実体として位置づけ、そのものと親しく交流することが肝要かと思っています。実はその中で私達は相手から発せられる印象や地中深く広がった根の状況も含めて、対象の状況に気付くことが出来るということでしょう。

その際、実際に活用されるのは意識の側の知覚力であり、肉眼ではないという訳です。その奥にあるのは、それぞれを形作る分子・原子の振動の中に想念が記録され、それと同期することで、その時の心境が再現されるのではないかと思う次第です。

いずれにしても、そのような試行段階に達した段階では、自身の肉体はそれら分子・原子の基本的で宇宙的な振動と一体化する訳で、肉体の不具合は直ちに解消することになります。

281 Remember it was not the mind that created itself, cosmic consciousness was its creator and what it created it can correct and have it function perfectly when the sense mind blends with it. Even old age can be wiped away for that is a concept of the sense mind. We could say that as age came by man, so must youth come by man. The Bible states that as death came by man so, must life come by man, the sense mind. And this can be done when he becomes one with cosmic consciousness for it knows no age, nor time or place. It is always in the prime state of life and all inclusive.

281 覚えておいて欲しいのは自分自身を創ったのは心ではなく、宇宙意識がその創造主だということ、そして創造し生み出したものは正すことが出来、感覚心がそれ（訳注：宇宙意識）と混ざり合う時にはそれ（訳注：自分自身）を完全に機能させることが出来ることです。老化でさえ吹き飛ばすことが出来ます。何故ならそれは感覚心の一つの概念だからです。私達は老齡が人によってもたらされた以上は、若さも人間によってもたらされる筈だと言えるでしょう。聖書は人によつて死がもたらされたからには、命も人即ち感覚心によつてもたらされる筈だと述べています。そしてこのことは人が宇宙意識とひとつになる時になされ得るのです。何故なら宇宙意識は年令を知らず、時間も場所も知らないからです。それは命とすべてを含む中であつてその原始の状態にあり続けているのです。

【解説】

ここで留意すべきポイントは、私達自身、自分の心も含めて宇宙の生命の本源によつて創られたということでしょう。私達は自分で自分を作り上げたのではないのです。被創造物であることを常に頭に入れて置くべきということです。

赤ん坊で生まれて以来、学習を続ける内にいつの間にか知識も技（わざ）も得る中で私達は全て自分が作り上げて来たと思うようになり、全てを支配下に置こうとして来ました。しかしその結果、不要な軋轢を生み、ストレスを抱える中で、多くは病や老いの中、生命の深遠な分野を学ばないまま人生を閉じようとしているのです。

私達の内側の支配者となっている私達の心自体、自分が創造されたものであると気付くことは、そもそも創造主の期待やビジョンに基づいて創られたことを自覚することでもあります。またその目的を探究し、期待に応える中で生命本来の永続する若さ、生命力を表現する者に私達自身も変貌を遂げることが出来るという訳です。

282 Here I will endeavor to give a short experience that I had on my Saturn trip. And you can see how well you can place yourself in consciousness with me, and in this way you can see if the trip is as real to you as it was to me when I made it.

282 ここに私は私の土星旅行の際に得た短い体験を伝えようと努力したいと思います。そうすれば貴方は私といっしょに貴方自身を意識の中に上手く置けるかどうか分かるでしょうし、このようにして貴方はその旅行が私がそれを実行した時、私にそうであったように貴方にとっても実際のことであるかが分かることでしょう。

【解説】

アダムスキー氏にとって、この土星旅行は大きな意義があったものと思われます。何よりも氏の説いていた教えが実際に100%生かされている惑星の見聞であり、宇宙人側にとってその後の氏の活動を支える実践の場を見聞し、体験することであったからです。

この土星旅行記が発表された当時、そのあまりの高速移動の為、当時の氏の協力者達からは疑問の声が上がったとされています。しかし、氏の協力者であった故エマ・マーチネリ女史から直接私が伺った話では、氏は土星旅行に髭剃り用のカミソリを持って行ったと女史に話したとのことでした。実際の肉体での旅行でない限り、そのようなものを持参する必要はなく、アダムスキー氏は確かに肉体のまま土星に行ったのだと女史は私に語ってくれたものです。

さて、詳しくは「土星旅行記」をご覧戴きたいのですが、本項ではその氏の体験を私達が自らの意識を当時のアダムスキー氏の意識・記憶と融合することで、私達も氏と同じ内容を追体験して欲しいと述べられています。意識を活用することは、それに関連した想念と再び同調することも可能であることを示唆しています。

283 When leaving California I walked into a small scout ship. It took me to a mother ship that was a different type from any I had been in before. There were many things to distract my mind from the purpose of the trip and I was interested, from the mental side of my nature, in all the strange looking instruments. But soon I realized my distraction and organized my faculties, remembering the purpose. This was not easy to do, for the mind is very selfish and wants to eat more than it can digest and by so doing it scatters itself in various directions. But my consciousness told me that on the return trip I would have time to observe all of these things and in the meantime I was to place my mind in unison with my consciousness that I might absorb the important lessons that were to be given.

283 私はカリフォルニアを離れるに際して、1機のスカウトシップに乗り込みました。それで母船まで行ったのですが、その母船はそれまで乗ったものとは異なるタイプのものでした。その旅行の目的から私の気をそらす多くの事物があり、私の心の側からすれば興味がある奇妙な形をした装置類がありました。しかし、直ぐに私は自分が気を散らしていることに気付き、旅行の目的を思い出しながら私の果たすべき機能について整理しました。これは容易なことではありませんでした。何故なら、心は大変自己中心的で消化できる以上のものを食べようとしますし、そうすることによって様々な方向に自分自身を分散させてしまうからです。しかし、私の意識は私に帰還の際にこれらすべての物事を観察する時間があることを教え、そうする内に私はこれから私に与えられる筈のその重要な教科を吸収出来る様、私の意識と調和させることとなったのです。

【解説】

本文からこの土星旅行はアダムスキー氏にとって大変重要なレッスンの場であったことが分かります。既に多くの協力者やフォロアーから慕われていた氏にとって、更に深遠な事柄を教える為に、氏にはより深い体験とより広い実践事例を授ける必要があったということでしょう。

ちなみに土星は仏陀の惑星と伝えられていますが、仏陀の理路整然とした教えは宇宙の法則そのものを説いたものであり、アジアを中心に多くの人々に影響を残しました。その教えの真髄は土星社会に息づき、実践されていることでしょう。

本文から分かるように、私達はとかくものめずらしいものに関心を寄せがちであり、不思議な事象に惹かれますが、それよりはるかに大事なことがらがあることに留意しなければなりません。本項の場合は氏の為に設けられた宇宙的教育プログラムでしたが、今日の私達にとっては、自らの意識の存在に気付くこと、またこれまでの心を小さくして、その意識を尊重し、湧き来る印象を大切にすることこそが最も重要です。

284 At this point my feelings were mixed between mental curiosity and the cosmic purpose of the trip. So it was my duty as a mentalist to control myself and know that I meant nothing but what I was about to learn meant everything. In other words I had to lend myself to my better self which was the conscious teacher, knowing that my personal toys would be there when I needed them.

284 この時点で私の印象は心の好奇心とその旅行の宇宙的目的との間に融合されました。そこでは心主義者として私の為すべきことは自分自身を制御し、私は何らの意味はなく、私がこれから学ぼうとすることが全てであることを知ることだったのです。言い換えれば、私は意識の教師であるより良い自分自身に自分を委ねなければならなかったのであり、必要になった時、私の個人的なおもちゃ（訳注：個人的な興味の対象物）は現れることを知っていたからです。

【解説】

本項で説かれていることは私達の日常生活にも当てはまります。従来、私達はその時必要な事柄よりは、目先の珍しい対象に目が移ってしまい、本筋のテーマを逃すことが多いからです。

まして昨今は多くの娯楽が提供されていますし、私達は意図的に仕組まれた流れの中に漂っているように思うのです。

本件、土星旅行記については別途ご参照戴くこととして、アダムスキー氏には様々な生命の真相が伝えられたものと思われまます。その高尚なテーマを吸収するためには氏の心の中を落ち着かせ、与えられる知識を吸収できるよう整える必要があった訳です。

実は私達の日々も同様に意識を通じてもたらされるヒントを十分に感受するためには、心を含めて印象に素直に従う体制を私達の内側に整えなければなりません。禅宗の座禅も心を落ち着ける訓練でしょうし、水垢離等の荒行も肉体への刺激を通じて心を覚醒させる訓練ではないかと考えています。日常生活の動作全てにこのような要素を取り込むことが大事かと思う次第です。

285 When I succeeded in doing this my mind felt that a vast door has been opened to an unlimited vision. And I experienced a full comprehension of things that my mind had never heard before. It was a feeling of no limitation, and everyone, including the ship, seemed to be a part of me. The ship seemed to become a living thing and for the first time I understood how a Captain of an ocean liner feels when his ship is sinking. In many cases he sends the crew away but he stays with the ship. And should he leave the ship he keeps looking back until it is seen no more, and he feels that a part of him went down with the ship. And a part of him did go down with it which he can never forget, for its impressions were so intense. You see the ship's life was also the captain's life as they had lived together so much that they became like two persons, each sharing the others feelings. One was the intelligence of the captain, the ship was the servant, and through this they became as one.

285 私がこのことに成功した時、私の心は何か巨大な扉が無限に続く視野へと開かれているように感じました。そして私はかつて私の心が聞いたことのない、ある完全な物事の理解というものを経験したのです。それは無限の感じであり、誰もが、その宇宙船も含めて私の一部のように思えました。宇宙船は生きているもののように見えましたし、はじめて私は大洋を渡る客船の船長がその船が沈む時にどのように感じるかを理解しました。多くの場合、船長はその船員を退避させますが、彼は船に留まります。また彼が船から退去するにしても、彼は見えなくなるまでその船を振り返って見ていることでしょう。そして、自分の一部が船といっしょに沈んだと感じます。そして彼の一部は実際、それと共に沈んで行き、彼はそれを忘れることは出来ません。その印象がそれほど強烈だったからです。お分かりのように、その船の生命はまたその船長の命でもありました。両者はそれほど長い間共に暮らした為、二人の人物のようになり、互いに他が抱く印象を分かち合っていたからです。その二人とは一人は船長の知性であり、船はその召し使いでした。そしてこれを通じて二人は一体になっていたのです。

【解説】

土星旅行記の中には、"乗員と宇宙船が一体化した"という記述があったように記憶しています。つまり、他惑星の宇宙船の中には私達の考えが及ばない高次な機能が装備され、私達に意識と宇宙船が融合していたということでしょう。また、宇宙を高速で移動する上でも、そのような状態が必要であったという訳です。

私達が現在取り扱っている「意識」はこのようにあらゆるものと"融合"し、協調することを可能とし、対象を構成する分子・原子と印象を通じて交流することを可能とするものです。おそらくその状況になれば、万物は輝き、神々しいまでに光を放つほど、高揚し、一体化することでしょう。自も他もない世界です。

そうした中では私達が望むことは、直ちに万物が呼応し、そのイメージを具現化するために働くことでしょう。かつての仏陀やイエスが成した奇跡はこうした作用から生まれたものと思われます。

そこで重要な所は、この意識を万物の下に広く解放し、あらゆるものと融和・融合させて、意思（印象）を交流することです。私達が取り組んできた課題はこのように地球にも影響を与える大きな意義を持っているのです。

286 This is comparable to all form life in relationship to conscious intelligence once man lives the oneness of life. And this is the way that I felt when I was on the ship.

286 これは一度、人が生命の一体性を生きようになれば全ての形有るものの生命と意識の知性との関係は同様になります。そしてこれが私がその宇宙船にいた時に感じた状況です。

【解説】

私達が目指す心境は、こうした万物との一体感であると著者は自らの土星旅行の体験を振り返って、述べています。

分子・原子のもつ膨大な記憶と融合し、それらがことごとく万物に備わっていることを実感できれば、私達は万物と理解し合え、それらと一体感を持って行動することが出来ます。その先にあるものはもはや生死の隔たりはなく、永続する生命活動があるだけです。

私達各自が生まれて来た目的もまた、それらの心境に達し、万物をその本来の輝き、崇高な使命を発現させ、自らはそれらの一助、礎の一角となることです。自らの内側に意識を見出し、与えられるインスピレーションの表現者、実践者となることが求められています。

287

In the next lesson we will explain this more thoroughly.

287 次の課ではこのことを更に徹底的に説明しましょう。

【解説】

第7課では私達は心と意識について、宇宙的に永続する記憶の観点その他から学んで来ました。意識が潜在的に有する能力・機能は膨大であり、私達自身の限られた心の世界とは全く違う存在であり、心の想像すら及ばない大きさと力量を持っています。

その意識を如何に自分で探求し、その存在を確かめるかが私達にとって一大課題であり、そうした心境に到達することが出来れば、私達の学習の先ず第一段階は達成出来たと言える筈です。

その為には、印象・インスピレーションをより多く感受出来るよう、心を鎮めておき、その静かな水面を通過する微細なさざ波にも気付く状態を保つ必要があります。もちろん、私達は自ら求める印象分野を明確にすべきであり、進化に役立つ高次・深遠な波動を求める姿勢を絶やしてはなりません。世の中には多くの邪悪な勢力もある中で、私達は注意深く精進の道を歩むことが求められています。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON EIGHT

Cosmic Oneness

By GEORGE ADAMSKI

288 In lesson seven we spoke of my experience in the Saturn space ship. And as stated, when I first entered the big ship my mind was attracted to the instruments. But I had to quiet this interest in order to place myself in the realization of conscious awareness that I might be worthy of the primary purpose of this trip. The mind was like a child that wants to ask a lot of questions without listening to the answers. So the sense mind was quieted to listen and not be curious. This was of value for I was ready to listen through the sessions of the Council. But even then the sense mind had questions which I ignored, giving them no expression. So at the end of the Council my mind had no questions, all had been answered.

生命の科学－学習コース

第8課

宇宙的一体

ジョージアダムスキー著

288 第7課では土星の宇宙船での私の体験についてお話ししました。既に述べたように、私が初めてその大型宇宙船に乗り込んだ時、私の心はその装置群に興味を引き付けられてしまいました。しかし、私はこの旅行の大事な目的に値するよう、宇宙意識の実感に身を置く為、この興味を鎮めねばなりませんでした。心は答えに耳を貸さずに多くの質問をしたがる子供のようでした。ですから、感覚心を静め耳を傾けさせて、好奇心を持たせないようにしました。これは価値があり、私がその評議会の会議を通して聞く準備が出来ました。しかし、それでも感覚心は問い掛けて来ましたが、私は無視して、それらに何らの解説を与えませんでした。その為、評議会の終わりには、私の心は何らの質問を起こしませんでした。全ては回答されていたからです。

【解説】

アダムスキー氏が参加した土星会議は、この太陽系の変化に対するものであり、今後の私達全員に影響を与える変動に関するものであったとされています。しかし、本項で氏は宇宙船に乗り込んだ直後は自分の好奇心が起ころ心を騒がしくしたので、これを鎮めたと正直に述べています。地球にその情報をもたらす重要な意味からすれば、宇宙船内の個別の機器への興味は捨て置くべきものであったのです。

第7課では宇宙的記憶という観点から、説かれた内容でしたが、本課ではそれに至る上での基本的な心境である宇宙的な一体性、一体感について説かれるものとなっています。何よりも実践、自分で体験して初めて理解し、記憶できる訳で、私達は各自で自分の意識がどのようなものか、それと一体化するにはどのような心境を維持すべきなのか、各々工夫して日常生活を送る必要があるのです。

289 On the return trip I became interested in the instruments as before. But then the mind was patient and ready to receive the explanation given it by the consciousness. It was not filled with the original curiosity, but a desire for knowledge. Like a child in a classroom who understands without questioning.

289 帰還の旅で私は前と同じようにその装置類に興味を持ちました。しかし、今度は心は忍耐強く意識によって与えられる説明を受け入れる用意が出来ていました。心は当初の好奇心によってではなく、知識を得たいとする願望によって満たされていたのです。勝手な疑問を差し挟むことなく理解する教室の子供のようになります。

【解説】

土星での会議を終えて地球に戻る際のアダムスキー氏自身の心境が語られています。ここでは、宇宙人側が個別の機器についてアダムスキー氏に何らの説明が無かったことは注意したいところです。当時の土星訪問の目的は土星会議の内容であり、土星製の宇宙船についての事項は、本来の目的ではなかったからです。

とかく私達は目に見えるもの、形あるものに関心を向けがちです。製品の良し悪しについては声高に論評しますが、その他形の無いものについては関心は無いのです。この場合、もし私達が宇宙船内部を見ることが出来たとすれば、大部分の関心はそれらに向かうことは確かです。他惑星人の生き方等々、その文明を支える目に見えない事柄への興味は忘れてしまうかも知れません。

それら物と通じて私達が真の目的を学ぶ為には、本文に記されているように、努めて意識から与えられる印象を通して学ぶ他ありません。

290 In that frame of mind I became fully aware of the intricate parts of the instruments and their purpose. And I had the feeling of being a part of each part, and felt my purpose of being in cooperation with others. This was so clear, but I cannot find words to illustrate my feeling. It was so definitely impressed upon me that I cannot forget the experience. Even as I speak of it I enjoy the feeling once again.

290 この心持ちの中で、私はその装置類の入り組んだ部品やそれらの目的を完全に分かるようになりました。そして私は個々の一部であるかの気持になり、他と協力するという私の目的を感じました。それはとても明瞭なものでしたが、その時の私の感じを表現する言葉が見当たりません。それは私にそれほどにはっきりと印象付けられましたので、私はその体験を忘れることはできません。そのことを話す時でさえ、再びその感じを味わうほどです。

【解説】

誰もが少なからず体験されたことであろうかと思います。いわゆる至福感とも呼べる心境について本項は説明しています。

著者が述べるように、そのような状況は容易に言葉で表現することが出来ないということでしょう。一つ一つの物体と心を通わせるということがどういうことなのか、私達も真摯に受け止めて自らの心境をそのような状況に引き上げる努力をしたいものです。

これまで多くの聖人がその状況を祝福されると表現して来たように思います。そしてその実態は私達の意識が対象物の意識と融合する中で生まれるとも言えるでしょう。

291 This is only one of the experiences I remember from the trip, for the association with all that were on the ship was also a feeling of oneness, never to be forgotten. And this union of sense mind and consciousness included the ship which was carrying us. For the molecules, the conscious entities of my form, became one with the conscious molecules of the ship's form. Yet the geometrical pattern of each form was different, and for a different purpose in the field of effects. But the cause was the same, for each form was serving a cosmic purpose.

291 これはその旅行から思い出す体験の一つに過ぎませんし、その船にいる全てとのつながりは、また、決して忘れることのない一体感でもあったからです。そして感覚心と意識との結合は私達を輸送するその船も含むものでした。何故なら、私の体の意識的実体である分子達は船体の意識ある分子達と一つになったからです。各々の体の幾何学上のパターンは異なり、結果の世界において異なる目的のものではありません。しかし、その因は同一です。各々の体は宇宙的目的に奉仕しているからです。

【解説】

本項から分かることは、私達が意識的に一体となる時、それは原子・分子レベルにおける一体感を意味するということです。つまり、私達自身の肉体の原子・分子が対象物の原子・分子と波動を共有するということでしょう。真の一体化はそのような状態であり、もはや自他の区別は無く、一体を構成するという訳です。

もしこの種の心境を作り出すことが出来れば、それは万物を意のままに制御することにも繋がることでしょうし、イエスや他の聖人達が人々に奇跡を見せたのも、この心境・境地に由来するものと思われる。

もちろん、私達はこれらの奇跡を起こす為に学習を積んでいるわけではありません。生命に関する真理を学び、自らの進化に生かす為に学んでいる訳ですが、その進化の過程でこれらの断片を体験することになるものと思われます。

また、幸運にもそれらの心境を得ることが出来たら、努めてその心境を覚えて置くことです。自分が体験したそれらの状況を再現し、それがどのような状況であるかを探求することも必要だと考えるからです。

292 In other words, I became the part that I wished to understand consciously, by realizing that the part was made by consciousness. For molecules and cells in any form are endowed with consciousness which is the life of the thing. There is not a particle in existence that is not supported by life - or it would not be in existence.

292 言い換えれば、私は私が意識的に理解したいと思う物に対して、その物が意識によって作られていることを実感することで、その一部になったのです。何故なら、如何なる形有るものも分子や細胞にその物の生命である意識が授けられているからです。生命によって支えられていないものは、みじんも無いからです。そうでなければ、それは存在しないでしょう。

【解説】

一体感についての具体的な説明として、本項で著者は"自分がその一部になった"と感ずることだとしています。そのような状態が互いに離れた対象物の間で、どうして成立するのかについて、考えて見る必要もあるでしょう。

その理由は、私達が意識と融合した状態になっていることと関係します。つまり、万物の共通要素であり、宇宙に遍満している意識を介することで、私達は初めて一体になれる訳です。それ故に私達はこの一体感を生じた心境・境地を重要視しなければならないのです。ある時、そのような祝福の心境を得たならば、それらを記憶し、自身の大切な宝物とすることです。自らが整えたそのような心の状態を再現させ、発展させる必要があるからです。

アダムスキー氏は様々な講演の中でも、この意識について繰り返し語っています。聴衆の側ではその意味について充分には理解されてはいませんでしたが、この講座によって系統的にそのポイントが語られています。私達各人はこのテキストから多くの宝物を掘り出すべきです。

ちなみに、最近、ダライ・ラマの「実践の書」という著書を読んでいます。その説く仏教の真髄は、実に本講座で説く内容と類似しています。真理は一つであることを教えて呉れる、現在、私のサブテキストになっています。

293 Just as you are able to put yourself in another persons shoes and feel exactly as he feels, so you can with all forms. And this procedure is good to practice. It could eliminate many misunderstandings and heartaches. For there is nothing in existence that one cannot be associated with through consciousness. But the sense mind must be willing to be taught by consciousness, for it is the knower and all forms live within the sea of it. And in this sea all phases are blended into one for the perfect manifestation of the Cosmic Whole.

293 丁度、貴方が他人の靴に足を入れてその者が感じるのと全く同様な感じを持つと同じように、貴方は全ての形有るものに対して同様なことを行うことができます。そしてこの過程は練習するのに良いものです。それによって多くの誤解や心痛を取り除くことができるでしょう。何故なら、意識を通して寄り添えないものは何も無いからです。しかし、感覚心は意識によって喜んで教えられなければなりません。意識は知る者であり、全ての形有るものは意識の海の中で生きているからです。そしてこの海の中に全宇宙の完全なる創造の為、全ての段階が融合されています。

【解説】

互いに理解し合う為には、意識レベルでの融和が必要です。

本項では他人の靴を履いた時に得る何か普段と異なる感覚の中に、その靴の持ち主の意識の一部が宿っており、それが何らか普段とは異なる印象を履いた本人に与えるとしています。

日常、私達はこの微妙なる印象の世界に気付きにくいものですが、このような印象の世界にまで踏み込まなければ、理解は広がらないという訳です。

また、相手とその想念レベル、意識レベルまで融合することは互いを理解し、融和することに繋がります。争いの仲介者、カウンセラーその他、多くの人々はその長年の経験の中で、相手の中に入り込んで融合するような包容的な心境、融和的境地を持つことの大切さを知っている筈です。そうした状況の中で、初めて互いの主張を理解し、解決策に到達出来ると思うからです。

その基本となるものが意識であり、その意識を通して私達は自他の境目の無い万物融和の世界に辿り着きます。

294 All forms are stages of intelligence. This may not be easy to accept at first for 90% of form life does not have the type of mind that humans have. But they do possess consciousness - the life force of the form, and serve the purpose for which they were created. So once the human mind acknowledges this phase as it does associations with other sense minds, the blend is made.

294 全ての形有るものは知性の諸段階にあります。これは最初、受け入れることは容易ではないかも知れませんが、何故なら形有るものの生命体の90%は人間が持つようなタイプの心を持っていないからです。しかし、彼らは意識、即ち形有るものの生命力を所有しているものであり、それらが創造された目的に奉仕しているのです。ですから、一旦人間の心が他の感覚心との交流と同様に、この段階を認知すれば、融合が起こります。

【解説】

私達が目にするすべてのものに知性が宿っていることを、先ずは認識せよと本項は説いています。

もちろん、すべてのものに私達のような心がある訳ではないのですが、意識については全く私達と変わるものではないということです。つまり、意識レベルでは何ら私達と変わらない存在であるという訳です。

即ち、この意識という径路を通じることで、私達は何らの隔たりなく万物との一体感を得られることとなります。これは森羅万象ことごとく自らの同胞（はらから）という神道の精神とも一致するものですが、ただ単に”一体だ”と済ませるのではなく、その径路にある”意識”の存在にこそ、私達が重きを置く必要があるのです。

自らの身体から宇宙に至るまで、膨大な創造物をすべて生かしている生命力として意識を認識すべきであり、その存在こそが生命探求の源であり、私達の学習の目的地でもあるのです。

295 In lesson seven we illustrated how two people after a period of association began to look and act alike. This harmonious union can also be cultivated with all life.

295 第7課では如何にして二人の人間がある期間、一緒に過ごすことで外見も行動も似て来ることを説明しました。この調和した和合はまた、全ての生命との間にも培うことができます。

【解説】

夫婦が長年の暮らしの中で、互いに似てくるように、私達は"意識"の存在を常に心に感じ取り、親しみ、共に暮らす心境でなければなりません。それが"神の似姿"として創られた人間の自然な生き方であり、本来のあるべき姿なのです。

その為には日常的に意識を知覚し、心を鎮めてそこから湧き起こる想念・印象に鋭敏になることが必要です。また、時々体験から意識は私達を常に支えていることが分かりますし、その積み重ねによっても私達の理解は深まることでしょう。

"類は類を呼ぶ"とは著者がよく用いる表現ですが、私達が意識に心を寄せる時、私達は次第に意識に近づき、その体現者になって行くこととなります。

296 May I present this in a different way for the purpose of understanding. Recently I was asked, "but what is God like?" It is not easy to describe God, for if a person feels what God is like he cannot find words to express it. But we can study His creation since all manifestations were born out of His consciousness and lives within His consciousness.

296 ここに理解を進める目的から、違った道筋をご提案しましょう。最近、私は「ところで、神とはどのようなものだろうか」と尋ねられました。神を描写するのは容易ではありません。もし、ある人が神がどのようなものかを感じたとしても、それを表現する言葉を見つけることは出来ないからです。しかし、全ての創造物が神の意識から生まれ出て、神の意識の内側で生きている為に、私達は神の創造を学ぶことは出来るのです。

【解説】

創造主を知ろうとすることは、私達の重要な姿勢であると考えています。人間は知識を持つにつれ、傲慢になり易いのですが、創造主を理解したい、知りたいという心境は人を本来の謙虚さに保つものです。

実際、私達自身を教材に創造主の働きを学ぶことは、実り多いものがあります。各自の生きる目的をより具体化させ、その道を拓くのも各自の内側からの働きであり、創造的作用によるもので、私達が創造主の似姿をして機能を果たす中での作用の一つであるからです。

それからもう一つ、本項におけるポイントとしては、創造物は現在でも創造主の意識の中に生きているということです。とかく私達は各々の誕生をもって"創造"としていますが、実際には誕生後もその創造物は創造主の中で生きているのです。つまり、私達は全て常に創造主の中に生きている、生かされているのです。

このことを忘れて正しい道を歩むことは出来ません。私達の自我を学ばせ、本来の道を歩ませる為に、常に創造主を思い起こしその意向を表現し実現する役割を果たすことが重要です。

297 There is one thing that is misrepresented, The Creator is not an old man. For consciousness is always in the prime of life, knowing no beginning or ending as far as we are able to detect. And as we know, the space people live this knowledge and enjoy a youthful long life.

297 誤って描かれていることが一つあります。創造主は老人ではありません。何故なら意識は常に生命の全盛期にあり、私達が探る限り、始まりも終わりも無いからです。そして私達が知っているように、宇宙人達はこの知識を生活の中で実行し、若々しい長い生涯を享受しているのです。

【解説】

同乗記には母船に創造主を描いた絵画が飾られており、その創造主像は若々しかったと記されています。私達がイメージする創造主と他惑星の人々が持つ創造主のイメージとは大きく異なっているようです。

しかし、生命活動を観察する時、私達はその活発さからそれを生み出す創造主は力強く若々しいことを知らねばなりません。作品が作者を表すように、創造物から私達は創造主をおもんばかる必要があるのです。

一方、私達自身は当初の幼児期を過ぎると活発な意欲や探究心は衰えがちです。しかし、本来の若さを保つのであれば、先ずは内側、即ち私達の抱く想念の質を本来の相応しいものに変えなければなりません。肉体の衰えは私達の内側、精神活動の衰えを反映していると思うからです。ちなみに、先月、出張先の地で美しい菩薩を描いている絵に出会い、思わず買い求めた次第で、毎日額に入れたその絵を眺めています。宗教によっては偶像を禁ずる教えもありますが、本来の創造主に心を寄せる意味から、こうした絵画の意義は大きいように思われます。

298 When we speak of nature, or nature's laws, there are two phases. One, the forms which nature produces in which we see ageing. And what we call ageing could be a fulfillment of the form's purpose that it may be replaced by a new form. But the law of life, or nature, is the same today as it always has been - in the primal stage. Replacing new forms for the old for continuous service, each for a finer quality of expression as nature is progressive. Always going forward, never retrograding. So here we are witnessing the Creator's Consciousness in action. And since only newness comes out of this consciousness, and not age, then we are shown that the Creator lives in the primal stage all of the time. And all that is created by this consciousness is a manifestation of primal cause.

298 私達が自然或いは自然の諸法則について話す時は、二つの面があります。一つは自然が作り出す形あるものであり、そこには私達は老いを見ます。そして私達が老いと呼ぶものはその形あるものの目的の成就とも言えるものかも知れませんし、それは新しい形と置き換えられるかも知れません。しかし、生命の法則、あるいは自然というものはこれまでずっと今日と同じに、原始の段階であり続けているのです。継続的な奉仕の為にこれら古いものを新しい形に、自然は進化する為、一つ一つをより精緻な資質に置き換えています。常に前進し、決して退化することはありません。ですから、ここに私達は、創造主の意識が行動する様を目撃しているのです。そしてこの意識からは新しさだけしか来ず、老化はありません。そうして私達は創造主は如何なる時も原始の段階で生きていることを知らされるのです。そしてこの意識によって創造されたものは全て原始の因の現れなのです。

【解説】

四季の変化がはっきりしているわが国では、季節の移ろいによる自然の変化が良く分かります。晩秋の現在、枯れたススキの穂が朝日に輝いていますが、それも少し前の夏の盛りには遅く葉を繁らせていた訳ですし、その前は若葉を前年の枯れた茎の間から若葉をすくすく伸ばしていました。

植物の中にはその一生を1年間で成就するものも多いですし、虫達もまた同様です。それにつけて思うのは、以前夏に尾瀬に出かけた時、山では夏が短い為、虫達は毎日を生きるに忙しく、人が近づいても逃げようとせず、花の蜜を吸うのに一生懸命であったことです。それ程に生命を全うするのに一心不乱ということだったのでしょ。

少し長い目で見れば人間も同様で、人の一生の時間というものも限られたものとなります。その中で、如何に自分らしい生き方を全うするか、また、期待された使命を果たすかが求められているということでしょう。

しかし、この現実社会では必ずしも十分な条件が整わず、或いは様々な影響から望むところを達成できずに終わるかも知れません。しかし、それでもその意思があれば、次の生命にそれは受け継がれ、遂には所定の目的に到達することでしょう。本項で記されている意識の意向は次なる生命や転生先にも引き継がれる為、意識の中には「老い」という要素は一切無いのです。

299 Man's law of discrimination and judgment is non-existent in creation. We are told that the sun shines on the just and unjust alike. And while differences are many in the human mind - in the Creator's consciousness all are necessary parts that make up the Cosmos. And without each part the Cosmos would not be complete. The principle difference between man and his creator is that the Creator understands the purpose of creation and finds no fault with it, while the sense man not understanding consciousness, the real part of himself, lives the mental side of life. Thus he finds fault with the Creator's creation and brings about unpleasant conditions for himself. But when man makes the blend and lives the whole life he will know the purpose of creation, no longer using the law of discrimination which caused the unpleasant conditions.

299 人間の差別と裁きのならわしは創造の中には非存在のものです。私達は太陽は正しい者にも不正な者にも等しく輝くと教えられて来ました。また、人間の心にとっては多くの相違が見えるのですが、創造主の意識の中では全てが宇宙を造り上げる上で必要な部品なのです。そして、これらの部品無しには、宇宙は完全なものとはならないでしょう。人と創造主の間の最も重要な違いは創造主は創造の目的を理解し、それに何らの誤りを見い出さない一方、感覚人は自分自身の真の部分である意識を理解せず、生命の内の心の側を生きているのです。こうして彼は創造主の創造作用にけちを見つけ出し、自分自身に不愉快な状態をもたらしています。しかし、人が融合を達成し全ての生命を生きようになる時、彼はもはやその不愉快な状況をもたらした差別のならわしを用いることをせず、創造の目的を知るようになるでしょう。

【解説】

本項は私達の最大の問題である差別と裁きについて説いています。しかし、私達自身、この問題について著者が何を説いているか十分には理解出来ていないように思います。

少しこの講座を学んだ人にとって、差別や裁きは改められるべきであり、良くない点であることは十分承知していることでしょう。日常生活においても、好き嫌いや怒りを避けることの重要性は十分心得ている筈です。

しかし、それでもなお私達には日常の不安や不満は残っていることが多いものです。自分の意図した物事がうまく進まなかったり、或いは健康面その他、家族に関する問題等々、私達の日常生活にはそれを十分に楽しめない、即ち生命を享受出来ない要素も多いものです。

一方、よく見るとそれらの一つ一つには実は良否の差別や裁きの要素が残っており、それらが問題を引き起こしていることが分かります。つまりは善悪共々そのまま受け入れ、その中で問題を解決して行くことが必要になると思われるのです。その問題に対する入口で悩んでいるのが私達であり、先ずは現状を全て創造主の計らいと受け入れ、その中で自分らしい生き方を追及すべきかと思うものです。

おそらく振り返って見ると、人生は短く思えるのかも知れません。その限られた時間の中で何とかこの課題を解消し、次に進みたいものです。

300 So if we are to be a perfect manifestation of the Creator we should study nature more than we have, as it is the conscious expression of God. And we should observe and adopt its laws of oneness in the same manner that we adopt each other's habits and even look alike.

300 ですから、私達が創造主の完全なる現れとなるには、これまで以上に自然を研究することです。何故ならそれは神の意識の表現であるからです。そして私達は互いの習慣を取り入れ、姿も似て来るのと同様に、観察し、その一体化の諸法則を取り入れることです。

【解説】

自然から学ぶという姿勢の中には私達が私達自身を創った創造主を学ぶという意味があることが分かります。そしてその学ぶ姿勢も私達がそれらの創造物達と一体になれるような親密感が生まれる程、親しいものである必要があるのです。

そうする中で私達は創造物や創造主と近しくすることが出来、やがては創造主とも一体感が持てるようになるという訳です。

そういう為には、私達は目の前の世界、自然界の中に創造主の意図を感じ取らなければなりません。自然観察、絵画の制作、写真の撮影等は皆、これら自然の中に息づく生命力の輝きを記録したい、学びたいという意図から来るものです。

301 If you cannot do this from nature's point of view, we have another method by which we can do better than we have in the past. As we are supposed to be Christians -let us use the teachings of Jesus and make them a part of our daily life. Or which ever Messiah you are following - practice their teachings so that they become habitual with you. Just as your associate's habits become a part of you. If you will do this you will be amazed at the changes in your life as the many unpleasant things are replaced by understanding. But you must make your sense mind determined to follow the guidance of The All-knowing Consciousness. Then you can say - "I the sense mind do nothing, but the consciousness does all things through me." If we can accomplish this, which we must do, the newness of life will manifest through us. And old age will be replaced by youth. And sickness will be replaced by health. And we will be on the way in making the Earth a Heaven.

301 もし貴方が自然に対する見解の違いからこのことが出来ない時は、これまで行って来た以上に良く出来るもう一つの方法があります。私達はクリスチャンと想定した場合、イエスの教えを用いて私達の日々の生活の一部にするのです。或いは如何なる救世主に貴方が従っているかを問わず、彼ら救世主の教えをそれらが貴方の習慣となる程に実践することです。貴方の仲間の癖が貴方の一部となるようにです。もし貴方がこのことを行うなら、貴方は自分の生活に起る変化に驚くことでしょう。多くの不愉快な事柄が理解に置き換わるからです。しかし、貴方は貴方の感覚心をその全智の意識の導きに従うことを決意させなければなりません。そうすれば、貴方はこう言うことができます。「私、感覚心が何をするのではない。意識が私を通じて全てのことを為さるのだ」と。もし、私達がこれを達成できれば、またそうすべきなのですが、生命の新しさは私達を通じて現れることでしょう。そして老齢は若さに置き換わることでしょう。そして病は健康に置き換わります。そして私達はこの地球を一つの天国に作り上げる道筋にあることでしょう。

【解説】

何事も実践が大切だということです。本項で著者は読者にもし、前項のように自然観察的手法に親近感が湧かないなら、キリスト教等、様々な聖人の教えに親しめと説いています。

聖人達の教えを実践し、少しでも彼らの生き方を見習うことが出来れば、人生は一新すると断言しています。つまりはそれらの実践を通じて万物を貫く宇宙普遍の意識に近づくことが重要であるという訳です。その結果として、各自がこれまでの各自の心でなく、宇宙的意識に従った生き方を出来るようになるとしています。

習い事もそうですが、最初は教師の手本を真似て自ら試すことから始まります。そういう意味では幸いにも地球には過去何万年から聖人達が絶えず訪れ、地球人を導いて来た歴史がある訳で、私達はこれらの教えを自分達で十分消化吸収することが出来る環境にありますし、多くの教えが一つの真理を伝えていることを学ぶことになると思われます。

302 Reading these lessons will not do it, but living them will. And when you have done this you will have mastered yourself. And the elements that are here will serve you. For man is the only form that has the potentials of the Father. But he must first recognize consciousness as the Father, and return back from whence he came if he is to fulfill the purpose for which he was created.

302 これらの教科を読むことではそれを達成しません。それらを生きることが達成させるのです。そして貴方がこのことを達成する時、貴方はご自身を支配したことになるのです。そしてここに存在する元素類は貴方に仕えることでしょう。人間が父の可能性を持つ唯一の形有るものだからです。しかし、人は最初に父として意識を認めなければなりませんし、もし自分が創造された目的を成就するのなら、自分が来た所に戻らなければなりません。

【解説】

何よりも実践が大事ということです。ただ読むだけでは効果は上がりません。この生命の科学学習講座は単に読んで分かるというものではなく、自ら試し実践する過程で具体的な成果が出て来る訳ですし、理解も進むということでしょう。

とりわけ私達が取り組むべきことは、著者が繰り返し説いている宇宙意識を如何にして知覚し、自身の生活に活かすかということです。私達には日常、音声や文字に囚われがちですが、目を閉じて耳を澄ます中で、自分の意識を水平に拡張するような状態にしていた時、私達は無言の印象体である意識に到達するように思っています。

ひとたび意識という無言の生命力を知覚出来た後は、日常的にそれらに親しみながら、そこからもたらされる印象に従って行動する中で進化がもたらされ、自分の周囲の環境も整えられるような気がしています。

303 Man cannot forever serve his mind - for himself. Or other minds for other men and expect to realize and enjoy a heavenly state of life.

303 人は自分自身の為にも、自分の心に永遠に仕えることはできません。他人の為、他の心に仕えることも同様で、そうすることで悟りを得、天国のような生活を享受することを望むことはできません。

【解説】

私達は自分自身も含め、不安定で身勝手な心に従ってはいけないということです。

これまでの様々な経験から私達は自分の心がある時は不安から、またある時は怒りや悲しみから大変不安定な状況に陥ることを学んでいます。そして、その指示に従って行動することが如何に無益でまた害を及ぼすかを身に染みて知っています。

自分であれ他人であれ、所詮、心に従うことには大きな問題があるのです。そうすることを避ける為に私達は冷静に心を観察し、統制する一方、心ではなく無言の意識を重んじる必要があるのです。

迷いの心に従うのではなく、私達の生命を真に支える意識の存在を受け入れ結果に頼らない生き方に一大転換する必要があるということです。同乗記にも他惑星人は相手に対面する時、相手の中に創造主を観ると語られています。私達各自に内在する創造主の意識を観ているということでしょう。相手の自我でなく、その奥深く内在する創造主の要素を観て、その創造主に語りかけるものと思われま

私達も各自が内在する意識を開拓すればするほど、自我は縮小することになり、やがては意識を表す存在になれるという訳です。

304 We are all conscious beings and the still small voice which is consciousness keeps impressing us that there is a better way than the mind has promoted. It is not some teacher or preacher, here and there, that can tell us how, but the consciousness that is within each, as it is within him. For it is THIS that has made man aware of a better life for centuries, and it will continue to do so until man's sense mind gives its dominion over to consciousness. And when this happens man will know, for he will never again sense any divisions or feel himself separated from the Creator.

304 私達は皆意識的な存在ですし、意識である小さくかすかな声が私達に心が押し進めているよりも良い方法があると印象づけ続けています。私達にそれがどのようにしてと教えられるのはここその教師や説教者ではありません。それは各自の内側にある意識であり、意識が人の内側にあるからです。何故なら、何世紀にわたって人により良い生活について気付かせて来たのはまさにこれなのです。そして意識は人間の感覚心が意識にその支配権を譲り渡すまで、その援助を続けることでしょう。そしてこのことが起る時、人は理解するのです。何故なら人はそれ以降、決して如何なる分け隔てを感じることは無く、創造主から自身を分離した存在として感じることもないからです。

【解説】

常に私達の傍らに居る意識の声こそ、私達が最も頼りにしなければならない存在です。普段私達はその存在に気付くことなく暮らしていますが、少しでも耳を澄ませばあるいは気持ちを落ち着かせれば、私達はこれら無言の支援の中に生きていくことが分かります。

多くな病になったり、困難にぶつかった時、私達はその存在に気付く訳ですが、それは即ち、それまでの私達の心の指示ではうまく行かなかった時に心の限界を思い知る時に他なりません。

そういう意味では各自の困難の際には、この意識、宇宙的な生命力を学ぶ良い機会なのかれ知れませぬ。もちろんより望ましくは、この無言の生命力や宇宙的生き方について他者の理解が進むよう、考え努力することがはるかに重要なことは言うまでもありません。自ら学び取ったエッセンスを分かち合う姿勢が大切だということです。

305 The space people live this understanding of life, but they also have a long way to go to attain it. However they have set their foot upon the right path and eventually will accomplish what they have set out to do. While we have promoted various highways and by-ways that have proven to lead everywhere except to the household of the Creator. We can be thankful to the Brothers for giving us the key of consciousness that unites all creation as one with the Creator.

305 宇宙人達は生命に関するこの理解を生活の中で実行していますが、彼らにもまたそれを達成する為の長い道があるのです。しかしながら、彼らは既に正しい道筋に足を乗せており、やがてはその提示したなすべきものを達成することでしょう。一方の私達は（戻るべき）創造主の家庭以外のあらゆる場所に導くものであることが明らかとなった様々な大道や脇道を奨励して来てしまっています。私達は宇宙兄弟達にすべての創造物を創造主と一体化する意識のカギを与えてくれたことに感謝してもよいでしょう。

【解説】

この講座の真の目的は本項に良く示されています。これまで多くの教えがある中で、この講座は進化した他惑星人が自ら歩んだ道程を私達に示して呉れたもので、決して単なる著作物ではないという所が重要なポイントです。

つまり本講座の内容は私達がその内容を日々実践する中で、はじめて実感・体験できる訳で、単に呼んで内容を覚えるといったものではありません。

とりわけ、私達が想念・印象に鋭敏になることが最初のポイントです。また、日常の自分の行動を観察する中で自らの心の問題や意識の存在について知覚することも重要です。

この二つを実践することでも実生活は豊かになるものと思いますし、その本来の発現を私達自身を通じて出来れば、日々の生活も充実したものとなる筈です。大事なことは、私達は本講座を授けてくれた他惑星人社会に感謝すると同時に、自己をその生命の表現者とすることで価値ある人生とすることです。

306 And speaking of the by-ways - as consciousness is the sea of life everything is living within it. And as the Cosmos knows no beginning or ending, we are living in the embrace of a vast structure which has many interesting things in it, and our attention of interest will shift from one thing to another. This could be likened to standing on the top of a very high tower. While facing east things will be seen that are in that direction, and to the west, the same, etc., etc. So when the sense mind is interested in conscious perception it will want to see everything within the household of consciousness. This could become a hazard, for this hunger for knowledge could promote impatience, and confusion would be the result. So the mind must learn self control. And remember it has eternity in which to learn. With this awareness it will gain knowledge step by step in the sequence of events. And there will be no gaps or divisions that cause divisions and mysteries. The interest of the mind should be of such a nature that time is not involved, only learning what each step has to offer. Then when it is time for the next step to be taken the blend will be there without any foreign element that could come from the mind.

306 脇道について言えば、意識は生命の海であり、あらゆるものがその内側にあります。宇宙には始まりも終わりもありませんので、私達はその内側に多くの興味深い物事を持つ広大な構造物に抱かれて生きておりますが、私達の興味は一つのことから他のものに移り変わるものです。これは一つのとても高い塔の頂上に立っていることになぞらえるでしょう。東を向けばその方向にあるものが見えますし、西を向けば、また同様等々です。そのように感覚心が意識的知覚力に関心を持つようになると、心は意識の家庭の中にあるすべてを見たがることでしょう。しかし、これは危険要素に成り得るのです。何故ならこの知識への渴望は性急さを助長し、結果として混乱が生じるだろうからです。ですから心は自制を学ばなければなりません。そして学ぶべきものには永遠があるということを覚えていて下さい。この自覚を持てば、出来事の一連の流れの中で一步一步知識を得て行くことでしょう。そしてそこには分裂や神秘を引き起こす如何なる割れ目や仕切りはないことでしょう。心の興味は時間には巻き込まれず、只一つ一つの段階が授けるべきものを学ぶという性質のものであるべきなのです。そうすれば、次なる段階の時期になった時、心から来る無関係の要素が入り込むことなく、融合が起ることでしょう。

【解説】

日常、如何に私達は様々なものに気を取られ、現在直面すべき課題に向き合っていないかは、良く分かります。多くの広告があり、様々な商品の宣伝もある訳です。こうする中で私達は次々に脇道に誘導され、本来の生命探求の道を見失ってしまうのかも知れません。

こうした中、陣の自分、課題を抱えている自我と向き合う為には、各自それぞれの工夫をし、努力するしか方法はありません。座禅や瞑想等は当座の心を鎮め、自我と向き合う時間を作り出しますし、そうする中で心の限界や意識の存在を知覚するものと言えるでしょう。

しかし、より効果的なのは、日常の生活や仕事を行いながらも、意識の指導に従う、即ち印象に従って行動をとることでしょう。その間、湧き出す新たなヒラメキやアイデアはその日常生活に応用できるからです。

307 One should not question what the consciousness has to reveal before the full revelation comes. And you should fear nothing - for that could cause you to lose the sequence of the lesson. For as we know the mind has been accustomed to fear that which it does not understand, and reject that which is unpleasant, due to the wrong teachings it has been subjected to. But we know that every manifestation fits into every other one, it must be so in order for the Cosmos to be complete. And when this is understood by the mind a beautiful unfoldment will come, each part of the puzzle falling into place to make a complete picture. And it will not reject anything.

307 完全な啓示が来る前に意識が明らかにしようとしていることに疑問を差し挟まないようにしなければなりません。また何物も恐れてはなりません。レッスンの一連の流れを失うことになるからです。私達がよく知っているように、心はこれまで服従させられて来た過った教えのせいで、理解しないものを恐れ、不愉快なものを拒絶することに馴れさせられて来ました。しかし、私達はあらゆる現れが他のもの一つ一つと調和することを知っていますので、それもまた宇宙にとって完全なものになる為には必要であるに違いないのです。そしてこのことを心が理解するや、美しい展開が明らかにされ、ジグソーパズルの各々の一片は完全な絵を作り上げる為の場所に収まることでしょう。そしてそれは何物をも拒絶することはないのです。

【解説】

本項は、私達がこれから直面する事柄、或いは感受する印象について素直に受け入れ、決して恐れたり或いは先回りしてより多くを知ろうとしてはならないこと、全体像が判明するまで辛抱強く見守ることの大切さを説いています。

多くの私達は先々の物事に不安を、また過去の失敗を悔やむことによって、生きている現在に関心を払うことがありません。実は時々刻々新たな印象・アイデアが注ぎ込まれ、私達の肉体西郷はそれに呼応しているのですが、肝心の心は無頓着な状況です。

しかし、これでは生命本来の活動は活かされません。現在どのような印象が湧き起こっているかに鋭敏になり、それらが示唆するイメージを把握するよう、観察力、理解力を高める必要があるのです。また、今を生きると一口に言っても、それは心主体で勝手な生き方で良いとする訳ではなく、いわば創造主を源泉として湧き起こるインスピレーションに私達を完全同期させ、その表現者として生きることが求められているのです。

308 Should you become aware of an interference from the sense mind, either through impatience or egotistical effort, discipline it as you would a child. This must be done immediately, for if you don't, something will be missing from the picture which could result in confusion.

308 もしも貴方がせっかち或いは自己中心的な活動から感覚心を通じた干渉を察知した場合は、その心を子供に対する様に躰けることです。これは直ちに行われなければなりません。何故なら、もし貴方がそうしなければ、その全体像から何かが欠落し、その結果、混乱を生じさせ得るからです。

【解説】

自分の心の動きに鋭敏になる必要があるということでしょう。私達自身が進化する為には、先ずは自分の心の傾向を把握し、時々に応じて指導する必要があるという訳です。

とりわけ、意識からの印象類を感受しはじめた時は、心が勝手な解釈や未知なるものへの不安等を引き起こして、その本来の印象の流れを妨げることがあってはなりません。せっかくの新しいアイデアが生まれつつある好機に、それらを台無しにする行動は各人にとって大変なマイナスとなるからです。

本文ではそれ故、そのようなことが判明したら、直ちに改めるよう私達に注意しているのです。また、言い方を変えれば、その時こそ真の進化を遂げる好機であり、その状況を大切、丁寧に扱うことが大事です。

309 This portion of the lessons should be firmly adhered to, for in the forthcoming lessons we will venture into the Cosmic Sea of Consciousness. This will bring many revelations according to the individual, and the mind may have a tendency to dislike what it views. i.e. You may see yourself in a million different expressions in past existences, and the mind may tend to discriminate between the scenes, as some will not be flattering according to the mind. In other words, the mind must learn to face reality. For life is not made of just the sweet, as the sour is also in the plan. Yet by putting the sweet and the sour together we get a pleasant combination. It must be this way if man's form and mind are to progress and develop into something finer. Nothing can be omitted if one is to have full knowledge.

309 教科の内、この部分はしっかり固守されなければなりません。何故なら次に来る教科において私達は意識の宇宙的海の中に踏み入れることになるからです。これは個人によっては様々な啓示をもたらすことでしょうし、また心は見たものについて嫌悪を感じる傾向があるかも知れません。即ち、貴方は過去生における何百万もの異なった自分自身を見るかも知れませんが、心は場合によっては自らを楽しませるものではない為、それらの光景を分け隔てる傾向になるかも知れないからです。言い換えれば、心は真実に直面することを学ばねばなりません。生命は単に甘いだけのものから出来ているのではなく、酸っぱいものもその計画には含まれているのです。しかし、甘いものと同時に酸っぱいものを合わせることによって心地よい組み合わせを得るのです。もし、人の身体と心がより繊細なものに進歩し発達するにはこの道でなければならないのです。人が完全なる知識を得るには、何物をも除外出来ないのです。

【解説】

今後、私達が学習を進めるに当たって最も重要になるのは、各自のこれまでの歩みを理解し現在の自分を知ることでしょう。実はそれほどに自分の過去の生き様を知る段階に達するには随分と学習を進めなければならないという訳です。

各人の個性、性格がどのように形成されて来たかについては、それなりの歴史がある筈です。自分自身を理解する為にはそれら過去の人生にも直面する必要があり、それらの記憶は学習を続けるにつれてよみがえって来るものと思われまます。

各細胞、各分子原子が保持する記憶を再びよみがえらせることで、それらが可能となるでしょうが、一方で著者はその際、様々な過去の体験を良否の判断なくそのまま受け入れよと説いています。つまり過去は一定の役割を果たしたものであり、過去を悔いたり恨んだりしてはならないということでしょう。こうした過去の体験の上に今日の自分があるということです。

310 Let me remind you here again, before we proceed with conscious exploration by the mind, that the sense mind is limited and consciousness is unlimited. And it is the sense mind that will be doing the exploring. The ego or personality, the second part of man, or the effect of consciousness. And as you know, the consciousness is the real you which produces the effect known as the personality which has the potentials and the image of the cosmic man.

310 心による意識的探検に進む前に、ここで再び念を押したいのが、感覚心には制限がありますが、意識には際限が無いということです。そしてその探検を行うのは感覚心であるということです。それはエゴ或いは人格、人の第二の部分、意識の結果物とも言い換えることができます。そして貴方が知っているように、意識とは宇宙的人間の可能性と似姿を持っている人格として知られる、結果物を作り上げる真実の貴方なのです。

【解説】

私達が学習を進めるとともに私達自身様々な感性が鋭敏になり、意識が与える印象類にも気付くようになることでしょう。その際、自分が何をしているのかを理解するよう、著者は前もって私達にその根本を説いているのです。

宇宙意識に従えば、私達は時空の制限を越えて様々な事物を知ることができるようになる筈です。多くは自分自身の過去生に関わるものかと思いますが、いずれにしてもその探求の過程で私達が様々なことを追体験するようになるかも知れません。

その際、如何に愉快、不愉快な体験をしたとしても、私達はそれをありのまま受け取り、自我の学習の糧にする必要がありますし、何よりも確固たる意志で自分本来の進む道を歩むことが重要です。私達は決して脇道に外れることなく、王道を歩む必要があります。また、意識は敵に私達を目的地に通じるこの王道を指し示して呉れています。

311 A cosmic man is all inclusive, he does not go anywhere for he is everywhere. And your cosmic counterpart will take you on a journey through the household, from room to room, act to act, so that you may understand your inheritance and thereby become one with the whole.

311 宇宙的人間は全てを包含しています。彼は何処にも行くことはありません。何故なら彼は何処にもいるからです。そして貴方の中の宇宙側の相棒は貴方を部屋から部屋に、行動から行動へとその家庭の中を連れ歩くことでしょう。そのようにすることで貴方は自身が受け継いでいるものを理解し、それによって全体と一つになるのです。

【解説】

私達が親しもうとしている「意識」とは宇宙全域に本来、広がっているもので、それ故にそれに従った私達はあらゆる場所に瞬時に移動し、距離は意味を成さないということです。土星旅行記に記述されている土星の宇宙船はその原理を用いた高度な推進力を備えたものであり、既に他惑星社会はこうした高次の進化段階にあるということでしょう。

一方の私達は本項で著者が語る内容もおぼつかないような段階で、まだまだ前途は遠いと言わなければなりません。しかし、日々の積み重ねが重要であることに変わりなく、無限の時間を前に毎日少しずつでも前進することが重要です。

さて本項に述べられているように、私達が親しくしていきたい「意識」は、そうした宇宙全体とも直結、一体となっていることを覚えて置く必要がある訳で、その意識を知覚することは即ち、私達が宇宙的になることを意味しています。

312 All faiths and religions were originally founded on what we call the occult or supernatural. For the supernatural is nothing more than the cause back of all creation - The consciousness that we call God. And while mystery has been created through lack of understanding, in reality there is no mystery. For that which can be known ceases to be a mystery. And the space brothers know that it can be known by using the right approach. They have proven this to some degree.

312 全ての信仰や宗教は元々はいわゆるオカルト（訳注：神秘的なもの）或いは超自然的なものに基礎を置いて来ました。しかし、そこでの超自然的なものとは全ての創造の背後にある因、私達が神と呼ぶ意識であることに過ぎません。そして理解の不足に起因して神秘が造り上げられる一方で、現実にはどこにも神秘はありません。何故なら、理解し得るものは神秘では無くなるからです。そして宇宙兄弟達は正しい取組によってそれが理解するようになることを知っています。彼らはこのことを自身で幾分か立証して来たからです。

【解説】

宗教の始まりは一般の人々が奇跡と思われる事象に由来すると著者は説いています。つまり通常人では分からない遠隔地の出来事を知覚したり、未来を予見し、また相手の将来を見せたりすることで、人々はその人物に注目するということでしょう。その人物が神秘的な源泉と繋がっていると考え、その人物を信奉するというものです。

しかし、これらはいずれも意識の働きを理解し実践力が身に付ければ、誰でも実現可能な能力とも言える訳で、私達はこの基本原理を学び、自分自身を開拓することが出来るのです。

そういう面では、これらいわゆる超常現象と称されるものも、ごく普通の現象と理解し、意識の働きの中で理解することが重要です。神秘として追いやっては永久に神秘のままになってしまいます。私達は無言の知性とも言える宇宙意識から多くを学ぶ必要があり、その為にも自分自身の内側にある意識の存在に親しむ必要があるのです。

313 We do not want anyone to associate what is to be given with the type of mysticism or occultism that they may have learned to know. For these have divisions and deal with two different ends. One material, the other spiritual, and they have been widely separated by fears and lack of understanding. While we are dealing with reality, as there must be a cause for every effect.

313 私達は誰一人として神秘主義や超自然主義の類いから学ぶかも知れないようなものに関わって欲しくはありません。何故なら、それらは分裂を有し、二つの異なる対極を取扱うからです。一つは物質的なもの、他は精神なものです。両者は恐怖心と理解の不足から大きく引き離されてきました。一方、私達は現実を取扱っています。個々の結果には全て因があるに違いないからです。

【解説】

このように人間の生き方の基本となるべき宗教が神秘を基調としていることに、本項で著者が注意を促しているように思います。とかく精神面を重視する者は物質を軽視し、切り離して生活しようとしがちです。とりわけ神秘主義者は物質を軽視したまま、ひたすら自ら造り上げた精神世界の中で日常を過ごしがちです。

しかし、著者はこれは誤りであると説いているのです。本講座が生命の科学の学習講座と称していることがそれを裏付けています。精神と物質とのつながりの中、融合の中で生命を科学知識として理解し、応用することを目指しているものと言えます。

既に私達は様々な要因、原因があって結果が生まれることを知っており、その両方を等しく観ることの重要性を学んでいます。例えば物質である肉体細胞を構成する分子・原子の中に記憶（想念）が蓄えられること、即ち私達の精神活動が物質にも蓄えられることを学んでおり、想念の領域では精神と物質の区分はあまり意味の無い程、互いに融合しているのです。

そういう意味からも私達は古い神秘主義から脱却して宇宙時代に相応しい生命探求の道を歩むことが求められているのです。

314 Once you expand your mind into the womb of consciousness you will be witnessing some of the things of which you may have read or heard pertaining to the mystical fields. But if you have learned your lessons well you will understand what is back of this. And what causes the different effects that are oftentimes produced through the various branches of mystics, or religions. And you will not participate in the confusion in which they find themselves.

314 ひとたび貴方が貴方の心を意識の子宮にまで広げるなら、貴方はこれまで読んだり聞いて来た神秘の領域に属するような物事のいくつかを目撃することでしょう。しかし、もし貴方は自分の教科を良く学んでいれば、この背景にあることを理解することでしょう。そして様々な神秘学派や宗教を通じて何がしばしば異なる結果をもたらしているのかも理解することでしょう。そして貴方は彼らが見る混乱に関与することはありません。

【解説】

本項では私達が意識と親しむ中で様々ないわゆる"神秘的"な体験をすることがあると説いています。かつてない明瞭な印象や光景等を見ることかと思われれます。重要な点は私達が学習を進める中でそれは整然とした理解の中で整理され、決して神秘として片付けられることは無いとしている所です。

感性が鋭敏になる中では一時的に私達が戸惑う現象も体験するかも知れませんが、それも正しい原理の理解を経て次のステップに進める体験の一つとなるということでしょう。

神秘を神秘のままに放置してはいけません。私達はその奥にある創造主の意図にこそ、思いを致し、想念・印象の持つ大きな潜在能力に気付かなければなりません。

315 Do not be mystified by the different feelings you may experience, for until now millions of cells in the body and brain have had nothing to do. They have been dormant, waiting to be used. Your mental interest in the cosmic self will give them an opportunity to act. And as they go into action you will notice a difference of feeling, a conscious alertness that you did not have in the past. You may even feel a strange, faint pulsation in your head as you put some idle brain cells to work. But in a short time they will blend with others and you will not be aware of their activity. And this will occur from time to time as the need arises for extra cells to go to work. For until now less than half of the cells of the brain have been active.

315 貴方は違った感覚を体験したとしてもまごつかないで下さい。今や身体や頭の中の何百万もの細胞が今迄何もすることがなかったからです。彼らは使われるのを待って休眠していたのです。宇宙的自己への貴方の心の関心が彼らに活動の機会を与えるのです。そして彼らが活動に入る時、貴方は異なる感覚、これまで経験したことのない意識的な警戒状態に気付くことになるでしょう。貴方は何か怠惰な脳細胞を働かせようとする時には頭の中である奇妙でかすかな脈動さえ感じるかも知れません。しかし間もなく彼らは他と融合し、貴方は彼らの活動に気付かなくなることでしょう。そしてこのことは追加の細胞が働くようになる必要性が起る場合に時として起ることでしょう。何故なら、これまで頭脳の細胞の半分以下しか活動していなかったからです。

【解説】

本項では本来の細胞の半数以下しか、私の脳の細胞は使われていないと記されています。つまりは私達は本来の能力の半分も使っていないということです。それらを起動し、活動させることが本講座の目標でもあるのです。

一方、これらいわば休眠中の細胞を覚醒させる過程で、私達には何らかの変化を感じ取るものだとも説かれています。それらの現象は一時的なもので次第に馴れるとも説かれています。おそらくは筆者自身の体験に基づくものと思われます。

事前にこれらの現象を知って置くことで今後、そのような現象が出た時、それと分かるというものです。以前にもアダムスキー氏は地球人はその能力の数%しか用いていないと何処かで述べていたと記憶しています。本来の人間の能力を高めるという意味も本講座にはあるという訳です。

316 I speak of this that you may not think something is wrong and seek help. It is only an expansion of your sense mind activity towards the expression of a full man. Instead of only the effective half as before.

316 私がこのことを話すのは貴方が何か問題が出来たと考えたり、助けを求めたりしないようにする為です。それは完全なる人の体現に向けた貴方の感覚心の活動の拡張作用に過ぎないからです。以前の実質わずか半分であったことから代わってです。

【解説】

実際に私達が進化の道を進むにつれて、肉体細胞も変化を遂げて行くものと思われます。また、その際には私達自身、自分の肉体について何らかの違和感や従来とは異なる感じを持つものだと著者は解説しています。これらの教えは弟子達にやがて起こる変化について事前に知識を授ける導師の姿を思い起こさせます。せつかくの進化の歩みを当初の違和感から横道にそれることのないように導師が弟子達に注意しているのです。

一方の私達は必ずしもそれらの変化が生じるほど、学習の程度が進んでいるとは限りませんが、少なくともご自身の肉体又は心の動きについてはより鋭敏に観察できるようになっているものと思います。そのことは今後の私達の基本的生き方だと思ひますし、ご自身を精化、精進することに繋がるものです。またその過程を通じて心身の問題箇所気付、これを是正して行ければ私達はその進歩を強固なものとする事が出来るのです。

317 Some people call this pulsation a knocking in the head. Others say it is a code system like dots and dashes, but it is neither. In mystic fields this is considered as messages from the dead, or other planets or planes because they do not know what is taking place and give credit to mysterious forces. When in reality the pulsation is caused by the expansion of the mind cells in a broader field of interest.

317 人々の中にはこの脈動を頭の中のノック音と呼んでいます。他のものはそれを（訳注：無線の）トン・ツーのようなコードシステムだと言いますが、いずれも違います。神秘主義の分野ではこれを死者か、他の惑星或いは他の次元から来るメッセージだと考えられていますが、それは彼らが何が起っているかが分からずに、それを神秘的な力のお蔭としているのです。しかし、実際にはその時、その脈動はより広がった関心の分野に向けて心の細胞が広がることによって引き起こされているのです。

【解説】

今のところ私自身は本項に記されているような脳の違和感を感じておりませんが、何らかの進展が生じる際には、身体細胞とりわけ脳細胞については大きな変化が生じるものと思われま

す。一方、ここで注目したいのは本項で著者が"the mind cells"（心の細胞群）と表現している部分です。とりわけ脳細胞は各感覚器官と直結している部分があり、心の本体を構成している細胞が多く位置していると言えるからです。おそらくは目にしても耳にしても私達が網膜や鼓膜で感応した情報がこれらを担当する脳細胞に伝達され、そこで解釈、判断される訳ですから、これら直接関与する細胞こそ、私達の心の本体細胞と言えると思うからです。

私達が心を訓練し、心がこれまでにない宇宙的な方向に拡張する際に、これら脳細胞も大きな変化を遂げるものと思われま

318 Many mystics have employed stimulants of various kinds to promote the knowledge of the unknown. But this is temporary, and many times only a hallucination or a reflection of their desires. This of course is unnatural and does not lead to beneficial knowledge of oneself. And only by knowing and following the natural laws can lasting knowledge be obtained. That is why the words of wisdom, "man know thyself and you shall know all things," have come down through the ages. And are just as true today as when spoken. And if we live these lessons, instead of stumbling in the dark as so many have done, we can go direct to the library of the Cosmos, the house of knowledge, directed by consciousness.

318 多くの神秘主義者は未知の知識を増進しようと様々な興奮剤を採用して来ました。しかし、これは一時的であり、多くの場合は幻覚体験、もしくは彼らの願いの反射でしかありません。これはもちろん、不自然であり、自身の有益な知識に導くものではありません。そして自然の諸法則を知り、従うことによってのみ、永続する知識が得られるのです。それが「人は汝自身を知る、そうすれば全ての物事が分かるはずだ」という知恵の言葉が何世代も通じて伝えられて来た理由です。そしてそれは、その言葉が話された時と全く同様に今日でも真実なのです。そして多くの者がそうであるように暗闇の中でつまづく代わりに、私達がこれらの教科に沿って生きていけば、私達は意識によって指揮された宇宙図書館、知識の家に直接行くことが出来るのです。

【解説】

この分野の進展具合については、随分と大きな個人差があり、私達は自分の進歩について他人と比較することは有益ではありません。その人の前世からのつながりや今世における環境、その人の素質等により大きく異なると思うからです。

本項では無理に神秘的知識・技能を得ようとする事への警鐘を鳴らしています。即ち、“超能力者”が常にその能力を発現する為や、他人の注目を集める為に本来の道を外れて薬剤その他を用いることを固く戒めているのです。

一方、私達は自身が宇宙から愛され生かされていることは、毎日のご自身の身体を見れば明らかです。し、本講座ではご自身の肉体細胞の中に宇宙的知性が宿っていることが説かれています。毎日その真の自分と対話しながら、少しずつ学んで行くことがはるかに重要であることを説いているのです。

319 Any logical person can see the advantage of going directly to the source of knowledge, the rightful inheritance of each individual. For it is the cosmic household from whence we came. Our space brothers have shown us the importance of a more direct approach to this realization. Now it is up to us to make this a part of our life. Endeavoring to express the real of our self and thus continue through eternity, in many different steps of understanding, in the many forms through which we will everlastingly learn or progress. This is no different than when we build a home here and live and learn in it only to eventually leave it for a still better home. As we progress in knowledge there must be forms to fit this knowledge. Once we learn this the sting of death will be removed. And we will continue to always be the children of the Divine Father, until we become as he is. One consciousness - not the many. Manifesting in varying degrees for various purposes, completing the Cosmic Melody through each form.

319 論理的な人なら誰でも直接、知識の源、各自の正当な相続の恵みの所に行くことが好都合であることが分かります。何故なら、それは私達が生まれ出た宇宙の家庭であるからです。私達の宇宙兄弟達は私達にこの悟りに更に直接的に近づくことの重要性を示して来ました。これからは、このことを私達の生活の一部にすることは私達次第になっています。永遠を通じてのこれらの継続、多くの異なる理解の段階の中、私達がそれを通じて永遠に学び進歩する多くの形有るものの中に私達自身の真実な部分を表現するよう尽力するという事です。これは私達がここに家を建て、そこに住み、その中で学び、遂にはより良い家を求めてそこを去ることと大差はありません。私達が知識に於いて進歩するに連れ、この知識にふさわしい形有るものがある筈です。一度、私達がこれを学べば死の苦しみは取り去られるでしょう。そして私達は常に聖なる父の子供であり続けるでしょう、私達が父になるまではです。多くではなく、一つの意識にです。それは各々の形有るものを通じて宇宙のメロディーを完成させる為、様々な目ので様々な程度に現出することです。

【解説】

私達が考え事を巡らす時、実は私達は自分の内側の世界に答えを求めてさまよっているように思われます。自分の中にある知識の源泉を目指す中で、答えを得ようとしているのです。本項ではこのことを更に進めて、その道が宇宙の創造主に繋がる道だと説いているように思います。

即ち、私達が創造された究極の本質にその道はつながっており、そこをつながることで私達は惜しみない知識の恵みを受けるものと思われます。

先日、辻井伸行氏のコンサート活動を伝えるテレビ番組を拝見しました。目が見えなくても縦横無尽にピアノの鍵盤を弾く彼の姿は人間が宇宙の源泉に触れた際には、既存の感覚器官など無に等しい程の潜在能力を発揮することが分かりますし、何よりも"楽しく"自他の区別なく音楽の流れを表現されている姿に感動されました。

同様のことは同乗記において他惑星人パイロットが驚くほどのスピードで宇宙船の操縦に携わっていたと記されていることに気付きました。目に見えない宇宙の知性の流れが人体を通じて表現される姿がそこにありました。

ご連絡 [2017-12-28]

本日、今年最後の更新になります。

新年は1月5日から再開の予定です。
この一年、ご覧いただきありがとうございました。

皆さま、良いお年をお迎え下さい。

12月28日
竹島正

320 But to have this great reward we must remodel our present house and admit the Father of us all into it. Then we as His children obey Him. Knowing He is all knowledge - our consciousness through eternity. For nothing, not even this present house we call our body, or the many planets in the cosmic system, belong to the sense man. He may claim them for the time being through his ignorance and separation from his Father, yet all of these things can be taken away from him and man cannot prevent this from happening. This proves that man owns nothing. He only fools himself when he claims ownership, and satisfies his ego for the moment.

320 しかし、この大きな報酬を得るには、私達は現在の家を改装し、その中に私達全員の父が入るのを認めなければなりません。その後は私達は父の子供達として父に従うだけです。父が全ての知識であり、永遠を通じて私達の意識であることを知っているからです。何故なら、私達が何一つ、自分達の身体と呼ぶ現在の家ですら、また宇宙世界の多くの惑星であっても、感覚人に属するものではありません。感覚人はその無知と自らの父から分離している為に、つかの間、自分のものだと主張するかも知れませんが、これらの全てはその者から取り上げられ、人はこれが起るのを妨げることは出来ません。このことは人は何一つ所有していないことを証明しています。彼は自分が所有権を主張する時、自分自身を騙し、つかの間自分のエゴを満足させているに過ぎないのです。

【解説】

結局、私達自身が所有するものは何も無く、全ては授けられたもの、私達に供し与えられたものであることが分かります。つまり、私達が生きている間は自由に使って良いとされている訳で、私達自身の命もそれに含まれると言えるのかも知れません。

これまで私達は自分の好き勝手に周囲の物質や仲間までも支配しようとして来ましたが、それもその生命が危ぶまれる状況になると改めてその限界に気付くと言えるでしょう。私達は自身の生涯をどのように過ごすのか、その環境を授けた創造主の意向に沿った生き方をしているのか、最終的に人生をお返しする際には、厳密に問われることになるのではないのでしょうか。

本項ではまず、私達自身が自分の肉体をも含めて、創造主から直接与えられたものであり、全ての知識の源泉はその贈り主に由来すると説かれています。自らのエゴから創造主へ生きる支えを転換し、私達の内側に創造主をお迎えしなければならないのです。

321 But there is one thing that God never takes away - the consciousness which the sense mind failed to recognize. For it is the Cosmic Intelligence back of all creation.

321 しかし、神が取り去らないものが一つあります。それは感覚心が存在を認めることが出来なかった「意識」です。何故ならそれは全ての創造物の背後にある宇宙的英知であるからです。

【解説】

この命が尽きることがあっても、私達はその拠り所とすべき存在である"意識"は離れることなく永遠に存在し続けるということです。この世（惑星）が散り散りになっても意識は永続するという訳です。即ち宇宙空間にくまなく充満し、創造主の意向を仲介している存在とも言えるかも知れません。

従って意識の中にはあらゆる出来事、あらゆる知見が記憶されており、その知識は全創造物の活動の全てが収まっている巨大な図書館のようなものかも知れません。その意識と少しでも融合出来れば莫大な知見を得ることも出来ることでしょう。

しかし、一方では意識は人間の心に左右されることはないことも重要な点です。もし左右されることがあれば、その影響は全宇宙に及ぶこととなり、宇宙法則自体が不安定なものになってしまうからです。

私達が意識と融合したいと願う為には、これら意識の基本的な性質をよく理解することが必要で、困った時のお願いでは意識と波長を合わせることは出来ません。より静かで透明な心境の下で、心身を貫く宇宙を理解したいとする気持で接する必要があると考えています。

322 In the forthcoming lessons I will venture out into the Cosmos and give you some idea how one may travel through the cosmos without involving the well known, and practiced laws of mysticism that have been used by those who did not know what they were doing.

322 次に続く諸教科では、私は宇宙に飛び出て、良く知られ実践されてはいても、自らは何を行っているか知ることのなかった者達によって使われて来た神秘主義の諸法則には何ら巻き込まれることなく、如何にして人は宇宙を旅することが出来るかについて貴方に幾分かの概念を授けたいと思います。

【解説】

アダムスキー氏の最初の著書である「宇宙のパイオニア」は氏が意識による宇宙探求の結果からもたらされたもので、その後の他惑星人とのコンタクトでその大半が合っていると確認されたと伝えられています。私達が自分の意識を自由に巡らし、居ながらにして遠隔地を知ることは可能だということです。

しかし、このような遠隔透視は「術」として古来から神秘・心霊家の技術として行われて来ており、本項では同じ遠隔透視でありながら、これらの問題のあるやり方とは異なると注意しています。

いずれにせよ、超能力のみを求めることは誤りであり、危険でさえあるということでしょう。私達自身、十分に原理と現象を理解した上で、各自の能力レベルに合った内容とすべきです。そういう意味では、各自自分或いは家族の身体内部の各部位に自己の意識を巡らすことは比較的容易に行えるでしょうし、それら各部位の細胞達と親しく交われれば、痛みや不具合箇所も直ちに解消するものと思われま。4つの感覚器官では捉えられない自分や家族の肉体各部の状況を、意識を巡らすことで把握し、支障があればそれらの状況を解消する方がはるかに有益と言えらと思ひます。

323 We will study the cell activities, for they not only make up the human form but the cosmic whole. And we will discuss how we can use them in exploring the cosmos.

323 私達は細胞の諸活動を学ぶことになるでしょう。何故なら彼らは人体をだけでなく、全宇宙を構成しているからです。そしてまた私達は如何にすれば宇宙探検にそれらを用いることが出来るかを論じたいと思います。

【解説】

本項で著者は改めて細胞の重要性を説いています。最近のiPS細胞等の研究で明らかになったように、一つ一つの細胞の可能性、潜在力は私達の想像を超えるものがあるようです。一つの細胞が人体あらゆる部位になり得ることが明らかになりつつあるように私には思われます。

その細胞は一つの受精卵から分化して生成されて来たもので、私達自身の創造の由来、源泉が一つ一つの細胞の中に含まれているということであり、細胞が分化する際には、これらの知見（情報）が次々に続く世代に引き継がれて行くということでしょう。

従って、私達が自身の由来、生命の源泉は他の場所に求める必要はなく、自身の身体の中に十二分に備わっているという訳です。一説には身体には60兆個もの細胞から成り立っているとされており、その数量の膨大さは、国家予算を1円玉で積み重ねたらどのくらいになるかを考えれば良く分かります。このように私達は豊富な環境の下に日々暮らしているのであり、それら一つ一つの細胞と親しんで、知識を得るよう、内なる声に耳を傾け、自身から学ぶ姿勢が求められているのです。

324 Recently scientists have finally admitted that the cells of any structure are the intelligence of the structure. They are the foundation that has always been, is, and will be, that are grouped for certain purposes.

324 最近になってようやく科学者達はどのような生物形態でも細胞がその知性であることを認めました。それら細胞達はこれまでも、また現在そして将来も基盤であり、各々特定の目的の為にグループ化されています。

【解説】

私達が目で見える対象は各々の具体的な形や部位、器官であり、それらは本項で言うStructure（構造）と表現することが出来ます。その上で本文では、それらの構造の性質はそれを構成している微細な細胞に由来していると説明しています。

各部位の持つ特徴や性質は、それらを構成している細胞の特徴や性質に由来しているということです。このことは、私達自身についてもその特徴や個性は各自の細胞に由来するという訳です。

従って、私達が学習を続けるということは、私達自身を構成する細胞の一つ一つを教育することでもある訳です。もし正しい方向に進んでいけば、文字通り心身ともに健康になれるでしょうし、その良い手本が老化を克服した他惑星人にある訳で、これらのことは同乗記にも紹介されているところです。

以前、雪の結晶は水分子の形状に由来していると聞いたことがあります。目に見えない微小な構成要素こそ、本体の性状を決定していることに私達は気付く必要があるのです。

ご連絡 [2018-01-12]

いつもご覧戴き、有難うございます。
都合により、次回の更新は1月16日になる予定です。

2018年1月12日
竹島 正

325 May I suggest a scientific experiment which is just as good as any that one may practice. In the June 12, 1964, issue of Life Magazine is an article dealing with color frequency recognized by scientists. It is good for it deals with two phases of development that are quite essential for one's growth. And they are feeling and memory. The experiment is conducted by placing the first three fingers on the different colors while blind-folded. And one is to detect the vibration or frequency emanating from the color, thus being able to name the color. This helps to develop the feeling or touch sensitivity. For frequency or vibration is nothing but a feeling that imposes itself upon the sense mind. One should be very careful about this and once you are able to get the color right endeavor to remember the feeling you get from each color. This will develop a certainty that will stay with you and serve in many fields. And don't forget that a feeling or vibration is actually consciousness alerting the senses.

325 ここで練習するのに丁度良い一つの科学実験をご提案したいと思います。1964年6月12日号の雑誌Lifeに科学者によって存在を認められた色周波数を取扱う記事が出ました。それは人の成長にとって全く不可欠な二つの発達段階を取扱っており、良いものです。なお、その二つとは感じ（訳注：フィーリング）と記憶です。その実験は最初に目隠しをされたまま3本の指をそれぞれ異なる色に置いて行われます。そして色から発せられている振動ないし周波数を探るのです。これは感じや触覚の感受性を発達させるのに役立ちます。何故なら周波数や振動は感覚心にそれ自身の存在を気付かせようとする感じではないからです。これについては人はとても注意して行う必要がありますし、一旦、正しい色を把握できるようになったら、各々から得られた感じを覚えておこうと努力して下さい。これによって以後、貴方にとどまり多くの分野で役立つことでしょう。そして感じや振動とは実際には感覚に警報を発する意識なのだということを忘れないで下さい。

【解説】

本項は指でも色を感じ取ることが出来ることを示しており、私達の身体細胞が幅広い可能性を有していることを説いています。普段、私達は視界を目に頼っていますが、実際には身体細胞のいずれもが同等、類似した機能を有していることとなります。このことは私達自身の発達に大きな意味をもたらす筈です。

つまり、既存の感覚器官に頼ることなく、全身で外界の状況を把握出来るという訳です。また、その機能は細胞に留まらず更に広範囲に拡げることが出来、遠隔地の状況を知るまでに発達させられるように思うものです。

これらの機能の根本は本文最後に著者が示唆しているように、本講座の主眼としている「意識」の作用でもある訳で、もしこれらと同様の体験を持つことが出来たら、その印象を受けることが出来た状況をよく記憶して置き、次回に繋げることが需要です。

326 We will expand on this in the forthcoming lesson.

326 私達はこれを来るべき教科で詳しく述べることにしましょう。

【解説】

この「生命の科学」が従来型の神秘主義やオカルトの類と異なる点は、身体細胞や感覚器官の挙動等に根ざした具体的な取組を導いている点にあります。何処か訳の分からない存在や霊能者に帰依することなく、科学的、実践的な試行を通じて各自の能力や理解を育むものであり、学ぶ者は誰でもその能力を達成出来るとする点が優れているところです。

同じ現象を見てもその解釈が誤っていれば誤った方向に進みがちです。その点、本講座は既に他惑星で十二分に実証され、活用されている点が他と大きく異なる点であり、私達は寄り道をせず、本講座を通じて著者や他惑星の兄弟達が何を伝えようとしているかに注意を払う必要があるのです。

もちろん一度に全てを理解することは不可能ですし、少しずつ進んで行けば良いことで、進む道の先に各自の洋々たる未来が待っているということです。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON NINE

Cosmic And Carnal Cell Activity

By GEORGE ADAMSKI

327 In Lesson Eight we spoke of the scientists acknowledgement on the cells and color. And they now admit that there are living cells in space. I would say, space is an aggregate of living cells from the Brother's point of view.

生命の科学－学習コース

第9課

宇宙的細胞と肉欲的細胞の活動

ジョージアダムスキー著

327 第8課では細胞と色について科学者達が認めたこととお話しました。今や、彼らは宇宙には生きた細胞が居ると認めています。私としては、宇宙兄弟の見解から宇宙は生きた細胞達の塊だと言いたいところです。

【解説】

第9課の冒頭で著者は、この宇宙は生ける細胞の塊だと説いています。それは宇宙空間は原子や分子で満ちていると言うよりも数段踏み込んだものであり、目的を持ち統合的な役目を果たす有機的な単位に満ちていることを意味します。

もちろん私などにはこの真意は十分に掴めませんが、私達の頭上に広がる宇宙には直ぐにも創造作用を担えるような有機的な要素が無尽蔵に存在しているということでしょう。またこのことはアダムスキー氏が宇宙旅行の際に目撃した”宇宙ホタル”等のまるで生きているような光体群とも関係があるのかも知れません。それはまさに天地創造の現場であり、私達が宇宙に出れば目撃し体験できるものかと思う次第です。

この宇宙と地上はそのまま接している訳で、地上における生物はこれら宇宙を源とするものと考えべきかも知れません。そうなれば、宇宙のあらゆる惑星にほぼ同種類の生物が居ることも理解出来ますし、私達が他惑星人と同種であることも理解出来ます。

328 As we stated before, the human body is made of billions of cells, each with a specific mission in life which is carried out in group form. Yet each cell fills its geographic purpose for a structure to be. And remember all of this activity is independent of the sense mind. For it is the cells that bring about the sense mind and sight, hearing, etc., and once the mind realizes this, it looks to the cells for intelligent instructions. And it can communicate with any phase of life here on earth, in space, or on other planets. Even the scientists admit this now.

328 以前にも述べたように、人体は何十億もの細胞から成っており、それぞれの細胞は集合体としての役割を果たすそれぞれ特有の使命を持っています。しかし個々の細胞は構造があるべき姿になる為の地勢上の目的を満たしています。そして、この活動の全ては感覚心とは独立していることを覚えておいて下さい。何故なら、感覚心や視覚、聴覚その他をもたらずのはその細胞達だからですし、心がこのことを悟った後は、心は知性ある教えを求めて細胞に注視するようになります。そうして心はこの地球上や宇宙、或いは他の惑星上の如何なる段階の生命とも意思の交流をすることができるようになります。科学者達でさえ、今やこのことを認めています。

【解説】

私達、即ち心（感覚心）は自覚していませんが、私達がこうしている間にも、人体の各細胞は所定の任務にいそしんでいるのです。血液は体内を巡り、また休み無く呼吸することを通して必要な酸素を血液中に取り込み、また二酸化炭素を排出する等、様々な活動が心の意思に関わることなく安定して遂行されます。その結果として私達は生存することが出来るのです。本文で述べられているように、私達はこれら自らの細胞に教えを請わねばなりません。その為に私達は自らの身体をいつくしみ大切にする必要があるのです。自らを生ける神の宮とする為に、それらを預かる自分を謙虚に保ち、体内60兆もの知性と融合する心境を保つべきです。また、前項（327）で述べられたように、これら「細胞」は各自の身体のみならず宇宙にも普遍遍在していることを考えれば、その姿勢は身体の枠を超えて宇宙にまでコミュニケーションを拡げることが出来るという訳です。先ずはご自身の中にあり、各自に授けられているご自身の身体こそ宇宙の英知が存在することは私達にとって大変有難い環境と言えます。挨拶文にある”ご自愛下さい”という表現は本来、こうした状況を知った者の言葉かも知れません。

329 One who is interested in this, and the student should be, can read the June 1964 issue of Readers Digest, page 195. The scientists say here, supporting my earlier statements, quote; "These traveling enzymes are the voices of other cells calling across intercellular space, swapping information so that the millions of cells gathered to create body parts act in concord in dividing and multiplying, taking their places and assuming special shapes." end quote.
329 これに関心がある人や学生は1964年6月号のリーダーズ・ダイジェスト、195頁を読むべきです。そこに科学者達が私の以前の声明を立証して次のように言っています。「これらの移動する酵素類は何百万もの細胞が集まり、協調して分裂し増殖し、それらの位置を占め、特定の形を造るべく身体の部品を造り上げる為、細胞間の空間を通じて呼び掛け、情報を交換している他の細胞の声なのです。」

【解説】

人体を構成する60兆もの細胞にとって人体は宇宙空間にも等しい広さを持っています。そうした中、一つ一つの細胞が発する声は本文で紹介されているように、様々な酵素の分泌でもあるのです。細胞同士が互いに意思を交換することも協働して細胞を作り続ける場合もこれら酵素が身体を巡りわたって身体全域に協力体制を構築するものと思われま

す。このような有機的な協働関係が有る中で、病気に陥る場合は余程私達自身のこれら細胞活動に問題があったということでしょう。その原因は各自にとって大切な事例として身体と私達の精神活動の関係について調査する必要があります。

病の中にこそ私達自身が学ぶべきものも多いのです。また最も大事なことは私達自身、このような自分の体内で嬉々として働いている細胞達の活動を邪魔するようなことがあってはならず、彼らのやり易いように自由な状況を身体に造り上げることです。

330 This particular phase has produced the mysteries of the world before this became known as it is today. The mystic groups do not know what takes place when the sense mind connects with the cell intelligence, so they have classified what they receive as coming from the dead.

330 この特定の状態は、今日のようにこのことが知られる前は神秘の世界を造り出していました。神秘主義的な集団は感覚心が細胞の知性と繋がる時に何が起っているかを分からない為、彼らは死者からやって来るかのように分類して来たのです。

【解説】

おそらく私達がより鮮明にこれらの細胞群と交流しはじめる時、私達はそれらの情報・印象が何処から来るのか、誰と交信しているのかをいぶかることも想定されます。本文はその際、私達は心霊現象や死者との会話であるとするような誤解に陥らないよう注意しているのです。

それらは実際には自らの細胞や宇宙にまで拡がる他の細胞達との交流の結果、生じたものだからです。

まして昔あった心霊等の神秘にその源を押し付けてはいけません。私達は現在を生きている生命体と交流し、それらに蓄えられた知識を分かち合っているのです。

これらの事柄・現象を事前に知って置くことは有益であり、自分にそのような現象が現れた時、慌てずに対処することが出来るものと思われれます。私達各自は進化の道を進んでおり、その過程で様々な従来にない現象に遭遇することでしょう。それらは進化の証（あかし）でもあるのです。

331 As near as we can tell, each cosmic cell has a master unit with smaller molecules about it. The early scholars not knowing this, contacting this master cell unit, assumed that the information was coming from a highly developed spiritual guide. But in reality they were getting the impressions from within themselves. As the human body is made of billions of cells, there are billions of master cell units within its structure. And trillions of lesser molecules like a Queen bee with hundreds of workers.

331 出来る限り現実に近いように説明すると、各々の宇宙的細胞には周辺に小さい分子を配した一つのマスターユニット（訳注：統制集団、”親機”）があると言うことができます。初期の学者達はこのことを知らないまま、このマスターユニット細胞の1団に接触した際、情報が高度に発達した霊的ガイド（訳注：指導霊）からもたらされたものと考えていました。しかし、現実には彼らは彼ら自身の中から印象類を得ていたのです。人体は何十億もの細胞から成り立っていますので、その構造体には何十億ものマスターユニット細胞があります。そして、女王蜂が何百もの働き蜂と居るように、それは何兆もの下位の分子達とともに居るのです。

【解説】

今日の科学では各細胞にはDNAやRNAと称される遺伝物質があり、それらが細胞の形態や機能を定める基本情報を持つことが分かっています。つまりはこれらの主要な遺伝物質がその細胞の支配ユニットとなって、その後の細胞分化を指示しているという訳です。

本書が記された当時、これら遺伝物質についての知見が少なかったため、著者はこれをMaster Unitと表現したものと思われまます。

いずれにせよ、私達の身体各部の細胞にはそれぞれのマスターユニットがあり、本文で記されているようにミツバチの巣の中の女王バチのように一つ一つの分子を育て、細胞を成育させているということでしょう。

これら無数にある自分のマスターユニットと交流できれば、私達はより深い生命の意義やミクロの驚くべき活発な世界を観ることが出来るのです。

332 The master units are cosmic cells that direct all cosmic activity within the body of every form. They could be called, if we were to name them, The Supreme Intelligence, or Father of all creation.

332 このマスターユニット達はあらゆる形あるものの身体の中で全ての宇宙的活動を指令する宇宙的細胞達です。彼らはもし私達が名付けるとしたら、至上なる英知、あるいは全創造物の御父と呼びたいような者達です。

【解説】

ここで重要な点は私達の身体内部には「マスターユニット」と著者が表現する中枢の宇宙的知性が存在するということです。従来、私達は物質と精神とを区別し、唯物論や精神主義等に対立した概念であった訳で、哲学や宗教を学ぶ者は精神面に重きを置いて来ました。しかし、中には神秘的な世界を追求するあまり、現実の生活を顧みないまでになっている事態もあるのです。

一方、本講座を学んだ人は生命の神秘、生きている精神活動を具体的、科学的見地から理解しようとしています。その一環として、本項では自らの身体の中にある種のコントロールセンターがあり、各細胞には細胞の今後を指示する存在があることを示唆しています。

つまり、私達は自らの生命の神秘を学ぶ為、自らの身体にある知性から学ぶ必要があること、それ故、全ての知識は各自の身体の中に備わっていることを自覚する必要があります。自らを教材とし、神殿として日々学んで行く姿勢が求められます。

333 The lesser workers that form the cells are equal in cosmic principle and are obedient to the direction of the unit instructors. So when the sense mind lends itself to a cosmic impression it is easier for it to receive from the molecules or lesser workers. A scholar of the mysteries not knowing this accepts the impressions as coming from dead entities, for each cell is an entity in its own right. And when impressions are received from master units they are classified as coming from a high, spiritually evolved entity as stated before.

333 細胞群を形作る下位の働き手達は宇宙的原理において平等であり、マスターユニットの教官達に従順です。ですから、感覚心も宇宙的印象に身を委ねるなら、これら分子即ち、下位の働き手達からそれらを受け取ることは容易なのです。神秘学の学者はこのことを知らずに、その印象を死者から来るものと認めて来ました。何故なら個々の細胞はそれ自身の権利を有する存在物であるからです。そしてマスターユニットから印象を受け取った時には、以前述べたようにそれらは高位な、靈的にも進化した存在から来るものとして分類されて来ました。

【解説】

私達の身体が本分で言うマスターユニットの指令に従って着実に各部、所定の機能を果たしている一方で、肝心の私達の心は実は何も出来ていないように思うのです。多くの場合、自らの経験も文字や音声に記録したものを頼りにしなければ、知識を積み重ねることも出来ません。まして老齢化が進むとついさっきまで行っていた記憶さえ、留めることが出来ない有り様です。

しかし、それでも人体は所定の機能を果たして行きます。それは即ち、身体細胞が私達の自我（心）に頼らず、各細胞の生きる拠り所をこのマスターユニットに委ねているからに他なりません。それほど重要な存在に対し、今まで私達の心はその存在に注目して来なかった訳です。

従って、もしこの全身の知性の片鱗にでも近づくことが出来、交わることが出来れば、私達は飛躍的な進化を遂げることが出来ることでしょう。各自、自らの身体細胞から学ぶ姿勢を貫くべきですし、“汝自身を知れ”という表現はそれを的確に表しています。

334 There are cells in the human make up that work in opposition to the cosmic principle. They are habit cells created by the sense mind that are trying to govern themselves by methods of their own.

334 人体の構成の中には宇宙原理に反対して働く細胞群があります。彼らは自分達自身の方法で自らを自立させようとしているもの達で、感覚心によって造り出された習慣的な細胞群です。

【解説】

長年、心の支配下にさらされていた私達の身体にはその心に隷属するような特異な細胞も出来るという訳です。おそらくは私達の感覚器官に直結するような場所に存在するものと思われます。こうした細胞は自らの心の手先となっている訳で、黙々と働く他の宇宙的細胞とは異なる志向性を有しているのです。

私達の心身の中にはこのような2大勢力があるということですが、所詮、心には何らの見識や能力もないことから、これらの者達は様々な局面で心身に混乱を与えることになるのです。

先日、身内に手術する者が居て、その手術に立ち会いました。術後、執刀医が切除した部位を見せて呉れましたが、見た目でも明らかに黒くなった病変が確認出来ました。実はその後、病理検査の結果、悪性のもではなく、ほっとしたのですが、この例からも私達の身体には本来の姿の他に、様々な変異を抱えていることが分かりました。

上記の例は本人はまったく自覚症状がなく、CTで初めて発見されたもので如何に私達の心が自身の体内の異変に気付かないかが分かります。私達は心のみならず、心に関わる体内の動向についても注意を払う必要があります。

335

In the cosmic organization there is no fear, so the fears that all humanity knows come from foreign cells created by the sense mind. There are many foreign cells that cause envy, jealousy, suspicion and etc., that hinder the growth of the individual in becoming one with the cosmic purpose. These are very powerful for they have been given dominion in this world for ages. And they have the sense mind serving them first. But when this is realized and worked with, the chemicals of these cells begin to change in line with the Cosmos.

335 宇宙秩序の中には恐怖は存在しません。それゆえ全人類が知る恐怖の類いは感覚心によって造り上げられたよそものの細胞から来ています。宇宙的な目的と一体になろうとする各個人の成長を妨げる妬みや嫉妬、疑惑等を引き起こす数多くのよそ者細胞が居ます。これらは何世代にわたってこの世界での支配権を与えられて来た為、大変力があります。また、それらには真っ先に仕えるべき存在として感覚心があります。しかし、このことが理解され、努力すれば、これら細胞の化学成分は大宇宙に沿って変化し始めます。

【解説】

本来、私達の身体の大部分を占める宇宙的細胞は恐怖を感じることはないと言っています。宇宙は調和や融合に基づき各々が尊重される世界であり、恐怖などという要素は無いのです。

先日、In the shadow of the moon（日本語名ザ・ムーン）という月面着陸当時の宇宙飛行士達の後日談や当時の心境について語られたビデオを見る機会がありました。その中で複数の宇宙飛行士が宇宙空間では地上とは別の、ある種、創造主と直接接しているような感覚になったことが述べられていました。

私達自身の課題として、限られた心の技量の下で自己保持を模索するあまり、恐怖に支配されていることがあります。この恐怖心は各種保険業の隆盛を見ても分かるように、社会全体の仕組みにまで発達するまでになり、恐怖心をビジネスにするまでに至っています。

しかし、私達はこれら恐怖の源泉が私達の心であり、それらに一部の肉体細胞が従属していることに問題があることを明確にする必要があります。その上で各自が恐怖に向き合い、その本質を直視することが解説の一步になります。以前、ウエイン・ダイヤー氏が”あなたの悩みは何処になるのか”と聴衆に問いかけていたシーンを思い出します。身体各部の大部分の細胞は毎日、喜々として活動しており、独り心だけが悩んでいるという訳です。従って、理解が進めば、全ては宇宙的な状態に復帰でき、調和出来ることになります。圧倒的な宇宙法則の中で、不協和音は存続することはないからです。

336 The foreign cells have been cultivated by the sense mind through fear and other phases of unpleasant thoughts against others. They are no different than the foreign cells known as cancer in the human body. And if allowed to continue they multiply the same as a cancer does. And it is a well known fact that they will eventually take over completely.

336 そのよそ者細胞らは感覚心によって恐怖やその他他の者に対する不快な想念を通じて培養されて来ました。それらは人体のガンとして知られているよそ者細胞と何ら異なるものではありません。ですから、もし許容され続けると、それらはガンがそうなるのと同様に増殖を続けます。そしてそれらは遂には全てを乗っ取ってしまうことは周知の事実です。

【解説】

本来はわずかな細胞しか心に従属するものではなかったのですが、心自体がそれら従属する細胞を増やして自分の勢力を増やして行くという訳です。即ち、幼児は純真無心な心であった訳ですが、次第に心の問題が大きくなり、心の支配力が高まるにつれ、体内にそれに従う細胞が増えてくるということでしょう。

その状況はガン細胞と変わるところはないと著者は説いています。つまりたとえガン細胞にまで至らないにせよ、本来の宇宙的細胞ではなく、心に隷属した肉体細胞に成り下がっているものが増えて行くと警告しているのです。

歳をとるにつれて、それら心に従属する細胞が人体全てを乗っ取ってしまうまでに至るということですから。そうなれば名実ともに心に支配された存在になってしまいます。私達は自分の末路をどう迎えたいかについて良く考える必要がありますし、そのような状況に陥らない為にも、自らの心をよくよく監視すると同時に、より良い方向に導く必要があります。

337 There are records of mystics who have willed themselves to a spiritual guide and lost their individuality. And the supposed guide was nothing more than foreign cells created by the mind desiring a spiritual leader.

337 これまで自分自身をある霊的な指導者に捧げて自分自身の個性を失った神秘主義者の複数の記録があります。しかし、その指導者と思われた者は、霊的指導者になろうと願っている心によって造り上げられたよそ者細胞達以外の何物でもなかったのです。

【解説】

永年にわたり自身の身体の中に自我（心）に従属する細胞を作り上げて来た私達の身体内部は、もはや一様に宇宙的とは言えない状況になっているという訳です。それら心に従属する細胞達はやがて自分達の言うことを聞かせる為、様々な手法で私達自身を先導しようとするということです。

その試みは私達の心に対しても自分達に意を汲んで働かせようと、惑わす印象を送ることさえすると本文で著者は警告しているのです。丁度、キリスト教で言う悪魔のささやきのようなメカニズムかと思われます。

このような場合、私達の敵は私達自身の中のこのような存在であり、自分（心）との戦いが課題の全てとなる訳です。

一方、本文にあるように、このようにいわゆる肉欲細胞に支配され、採取的に自我を失って、路頭に迷う結果は避けなければなりませんし、それらを回診させて、本来の調和的な細胞に改質する過程が、私達の進める精進ということになります。

ご連絡 [2018-02-01]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、次回更新は2月5日（月）になる見込みです。

2018年2月1日
竹島 正

338 You may say, but can a sense mind create ? Yes, for the mind is an effect of a cause and it carries the same potential. All jealousy, hate, etc., are man's creation, for in the Cosmos we find none of these. And both the normal cells and the abnormal cells keep records of all actions to which the sense mind can go for information when the need arises. Normal cells will give the individual correct information, while the abnormal cells will give misleading information based on past experiences. Both live by multiplication. This is the law of survival, so the abnormal ones will strive to multiply and resent any interference, while the normal ones do not resent or resist interference.

338 貴方は感覚心は創造することができるのですかと言うかも知れません。出来るのです。何故なら心は因の一つの結果であり、それは因と同じ潜在力を携えているからです。全ての嫉妬、嫌悪その他は人の創造結果です。何故なら大宇宙にはこれらのいずれも見出すことはできないからです。そして正常な細胞達と異常な細胞達の両者とも感覚心が必要性が起った時に参照しに行ける為の全ての行動の記録を保持しています。正常な細胞は各自に正しい情報を授けますが、異常な細胞は過去の経験に基づいて誤解させる情報を与えます。両者はともに細胞分裂によって生き延びています。これが生存の法則であり、異常細胞は細胞分裂に励んで如何なる邪魔に対しても腹を立てますが、正常な細胞達は腹を立てたり、妨害に抵抗することはありません。

【解説】

よく歳を取ると頑固になるとか、融通が利かなくなる等の表現がありますが、それこそが本文で言う abnormal cells (異常な細胞達) が自身の身体にはびこってしまったことに由来します。

私達は向上するよりも退化や劣化することの方が多いものです。長年の感覚心の横暴は自身の中にそれらに呼応する異常な細胞群を造り上げ、名実ともに自身を支配しているのです。

これに対してどのように対処し、本来の道に戻すかが重要なのですが、それには私達自身がその実状をよく観察し、何処に問題があるのかを突き詰める必要があります。これら地獄のような状況を捨てて、本来の姿に戻る道を探し出す必要があるのです。

しかし一方では、大多数の生きもの達や自然界は本来の宇宙に調和した暮らしを送っておりますので、手本に事欠くことはなく、改心さえ出来れば再び本来の歩みに戻ることが出来るのです。また、その改心には決して手遅れということはなく、仮に死を前にした時でも、意義は高く、次の転生先にも生かせるものと思われれます。”夕べに死すとも可なり”とはこうした心境を述べたものと思われれます。

339 In order to change the abnormal or carnal cells into normal or cosmic cells there must be a chemical change caused by the sense mind accepting the help of the cosmic cells. This is not easily done for the carnal ones through habit do not want to lose their dominion. Sometimes it is necessary for an individual to associate himself with a higher developed person for environment has much to do with development. We can readily see this in the society in which we live, for individuals are molded according to their environment.

339 その異常であり、肉欲的な細胞群を正常即ち宇宙的細胞群に変える為には、宇宙的細胞群の助けを受け入れる感覚心によってもたらされる化学的变化がなければなりません。これは習慣を通じて自らの支配権を失いたくないとする肉欲細胞群にとっては容易なことではありません。時として、高度に発達した人物と接することも必要となります。環境は発達に大きく影響しているからです。私達はこのことを私達が暮らす社会の中で容易に見ることが出来ます。何故なら各自は各々の環境に応じて形成されるからです。

【解説】

本項で述べられているように私達の身体にはびこっている肉欲細胞を本来の姿に改質させるのは容易ではありません。これまで生きて来た方向を改変する為に、著者は心自体が化学変化を起こす必要があると指摘しています。具体的には心が改心する過程で配下の細胞に化学変化を及ぼす程の影響を与えることが必要なのです。

しかしそのような変化を遂げることは容易ではないとも指摘しています。今までの環境が私達の心身ともに形作って来たからで、私達は習慣の中で生きているからです。

こうした中、師に出逢い、教えを直接受けることは大きな力になると著者は指摘しています。直接、師と交流することは私達にとって生きた手本と同調・融合することで生きる糧を身に付け、自身の一大転機を図ることが出来るという訳です。

かつてイエスと一緒に行動した使徒達、釈迦に従っていた弟子たち各々がそれぞれの師の死後、師の言葉を記した経典をまとめ、指針とし、その後お世界に大きな影響を与えた訳ですが、それも直接、師と交流して得た体験が元となっているのです。

アダムスキー氏も同様に、氏の周囲には多くのコーワーカー達が氏を支えるとともに、氏との交流を通じて各々貴重な体験を持ち、その後の人生に影響を与えました。私もかつてそれらの方々にお会いしてお話を伺う機会を授かりました。年月を経た今、それらの方々皆、お亡くなりになりましたが、それらの方々と会って直接伺ったお話は現在も私の生きる糧となっています。いずれ何かの機会に公表出来ればと思っていますところ。師と出会うことはそれ程、貴重であり各々の進化にとって、大切な機会と言えるのです。

340 Scientists now reveal that DNA directs all normal cell activity. And the cells are never silent as they travel from one to the other delivering their instructions.

340 科学者達は今やDNAが全ての正常な細胞活動を指導していることを明らかにしています。そして細胞達はそれらの指令を次々に他の者に配達する為、移動するので決して沈黙する存在ではありません。

【解説】

本書が執筆された当時、最先端の科学知見であった細胞内の遺伝物質（DNA）について、著者は既にその本質を指摘しており、生命活動の原理についての的確な知見を持っていたことが分かります。むしろ今日の我々の遺伝物質に関する知識は他惑星からの支援によってもたらされた可能性も高いものと思われれます。

本文で言う"移動する細胞達"とは白血球その他の血液細胞かと思われれますが、その他についても、例えばガンの転移とかが象徴するように、実際に個々の細胞も体内を移動することも想定されます。

ここで重要だと思うことは、私達自身の身体も含めて自然界はある一定の法則の下、整然と秩序ある活動が行われるということです。そしてそれを実現する為に、例えば細胞レベルの活動で言えば、ある遺伝物質（DNA）を原典として、各々の細胞がそれに従って行動するという仕組みです。そこには善悪の差別はなく、厳密な1対1の関係、つまり原因と結果の関係が法則として存在するという事です。

341 The cosmic cells are always ready to help the carnal ones but this must be done by the insistence of the sense mind. And the process is no different than training a vicious animal to honor and obey. For through this kind of act the tendencies of viciousness are changed to kindness through chemical changes. The modern tranquilizer drugs do this, but only temporarily. To have a permanent lasting effect the sense mind must submit itself to such a change. During the change there naturally will be a conflict for the carnal cells will not be too willing to change. But the individual must stand firm, paying little attention to the unpleasantness that he will go through during this period, if he is to live a cosmic life instead of a personal existence.

341 宇宙的細胞は常に肉欲細胞を助けようとしています。これは感覚心の強い意志が無ければなりません。そしてその過程は凶暴な動物を貞節と従順にする訓練と変わるところはありません。何故ならこの種の行動を通じて、凶暴な傾向は化学的変化を経て優しさに変化するためです。現代の精神安定剤はこの働きをしますが、それは一時的です。永遠に続く効果を得るには、感覚心は自分をこうした変化に委ねなければなりません。その変化の間には当然、葛藤もあるでしょう。肉欲細胞らは変化することを余り好まないだろうからです。しかし、各自は、個人の存続の代わりに宇宙的生命を生きようとするなら、この期間で体験する不愉快さに少しの関心を払うことなく、しっかりそこに立ち向かわねばなりません。

【解説】

自分との闘いの真意が本項に良く表現されています。私達にとって最大の課題は自分自身にあり、それらの諸課題を解決する為に私達は自分自身に向き合い、自分の欠点を人知れず克服するよう努力しなければなりません。

多くの場合、自分自身の問題（欠点）は自分では認識しにくいものですが、問題が見えたら少しずつでもその解消に向けて独り努力する必要があります。

丁度、運動選手（アスリート）が課題にぶつかった時、フォームを改造したり、様々な努力を行っている訳ですが、それも自身の欠陥を無くすという目標を達成する決意に基づくトレーニングによって達成されるという訳です。

私達についても攻撃的な自我を調和融合的な宇宙的存在に改質する為に、自己改造を行う必要があります、それらの成果は身体の細胞の化学変化を伴う具体的なものになると説かれています。

342 Once this is accomplished freedom will be known. For then the individual can travel the Cosmos, using his body for the transmission of knowledge to those who have not yet learned to travel in this way. This is comparable to our radio, television and wireless that serves mankind today. For the sense mind acts as a receiver and transmitter of knowledge. This is true psychic development, but this phase of what is called (psychic) has never been understood until now.

342 一旦、これが成し遂げられると自由というものが自覚されるでしょう。何故なら、各自は自分の体を使いながら、そのような方法で旅することを学んでいない人達に知識を伝達する為、宇宙を旅することが出来るようになるからです。これは今日、人類に役立っている私達のラジオやテレビ、無線通信に例えることが出来ます。何故なら感覚心は知識の受信器や送信器として働くからです。これが真の心霊的発達なのですが、(心霊)と呼ばれるもののこの段階はこれまで全く理解されて来ませんでした。

【解説】

私達の身体細胞から頑なさが抜けて本来の宇宙的細胞に立ち直ることが出来た段階では、私達は真に自由な心境になれるとしています。そして私達の細胞は宇宙からの想念・印象をより多く受けるようになり、そのことはまさに肉体のまま宇宙を旅することに等しいとも表現されているのです。

それは丁度、私達がテレビを見て遠く離れた土地の様子を居ながらにして知るように、私達は宇宙的印象を感受することで遠く宇宙で起こっていることを居ながらにして体験できる訳です。

アダムスキー氏の初期の著作に「宇宙のパイオニア」がありますが、その本は氏がデザートセンターでコンタクトする以前に月や金星への宇宙旅行にういて執筆したのですが、それは以前からアダムスキー氏にはこのような能力(遠隔透視)を有していたことに由来します。催眠術などというものでなく、覚醒したまま宇宙を旅するとでも言うべき心境かと思われます。

343 As you can see this true phase depends upon nothing but yourself. And the old interpretations of guides etc., are not involved. And as we stressed throughout the lessons, until now you have been living almost entirely within the realms of the sense mind with half of yourself searching for the other half. In other words longing for the cosmic part known as consciousness. For it is the cosmic one that makes the sense man feel that there is something more to be known. And man will not rest or be content until he finds that other half of himself.

343 お分かりになるように、この本物の局面は貴方自身以外何物も頼りにするものではありません。ですから指導霊等の古い解釈等は含まれていません。また、私達がこれら教科を通じて強調したように、皆さんはこれまでほとんどすべてもう一方の自分を探しながらも、その感覚心の領域内にのみ生きて来たのです。言い換えれば、意識として知られる宇宙的部分を切望しながらです。何故なら、感覚人に何か更に知らねばならないものがあると感じさせるのはこの宇宙的半身であるからです。そして人は自分がその自分自身のもう一つの半身を見つけるまでは、落ち着いたり満ち足りることはないでしょう。

【解説】

自分との向き合い方が全ての本質的課題であるということです。それを避けていては物事は前に進むことはありません。私達各自の内省こそ、全ての問題解決のカギということでしょう。

私達は自身の問題を解決する為、或る人は宗教の門を叩き、またある人は古今の哲学書を探索して来たかも知れません。大自然の中であって、独り人間だけが問題を抱えて生きているように思います。

しかし、その答えや私達自身に適した最良の導師は私達の内側にあり、いわば自分の手指より近い所にいつもいらっしゃり、私達に助言を与えようとしている存在があるのです。身体内にある宇宙的細胞は私達の肉欲細胞に融和と改質を求め、促しています。

それらの教えに素直に従うこと、エゴのプライドやこれまでの習慣を脱して、新しく清々しい体質に一日も早く改質する必要があります。私達の改心によって私達自身の身体も精化されるという訳です。

344 We read in the Bible; As it is in Heaven so it is on Earth. Or, as it is in consciousness so it must be in the sense mind.

344 聖書にはこのように書いてあります。天に行われるごとく地にも行われますようにと。それはまた、意識に行われるごとく感覚心にも行われますようにとも言えます。

【解説】

本文を見て思うことは、天国とは何処にあるかということです。長らく私達は天国とは文字通り、宇宙空間にあると思って来ましたが、本項で述べられているようにそれは何処かの場所を示すのでなく、意識の中にあると著者は説いていることが分かります。

即ち、私達自身の中に既に天国の要素が組み込まれており、自分の心をその意識の働きと調和同調させれば、私達自身、天国で暮らすことが出来るという訳です。

実はそれほどに私達内部には充実した仕組みが備わっており、私達が努力すべきことは自分の中にある意識から発せられる助言に従い行動することです。自身の心の中を意識と同期した内容にすることが大切だと聖書の時代も教えられていたということです。

345 All normal cells operate as consciousness impressing the sense mind with its potentials. And as the cosmic cells are not a respecter of persons they lend themselves to the sense man even though the man makes a mistake. For he can learn from the lesson and seek the corrective way of executing his impressions. All cells use the language known as telepathy - the language of impressions that come in silence.

345 意識が感覚心にその（訳注：感覚心の）可能性を印象づけるように全ての正常な細胞は動作します。また宇宙的細胞群は個人を尊重する者では無い為、それらは自らを例えその者が過ちを犯すことになっても、感覚心に委ねるのです。何故ならその者はレッスンから学び、自分の得た印象類を実行に移す上での修正方法を探ることができるからです。全ての細胞はテレパシー、即ち沈黙の内にやって来る印象の言葉として知られる言語を使用しています。

【解説】

本項からは実際、私達は自身の中にある正常な細胞群から絶えず支援を受けていることが良く分かります。体内に散らばっている正常な細胞達が私達の感覚心やその意を汲む肉欲細胞達に絶えず働き掛け、私達はその内のわずかな部分を摂り入れることによって恩恵を受けているということです。

これらの正常細胞は、自らを私達の為に精一杯尽くしてくれていますが、それは私達自身に従っているからではなく、より高次の宇宙の法則に従っており、その役目として奉仕しているからにほかなりません。本文で言う"個人を尊重する者ではない"という所もポイントです。

従って、私達の生命が尽きるや否や、これら残された細胞は今度は速やかに自身を分解し再び自然界に戻すことになることでしょう。

これら細胞間はテレパシーで意思疎通を行うとも述べられておりますし、細胞同士が印象のやりとりが出来ることもポイントとすべきです。

346 There are two avenues of impressions. Those from abnormal or carnal cells created by the mind of distorted nature so well known in this world, and those that come from the normal cells of cosmic nature that give a constant feeling of elevation. The doors to both are open for manifestation and they permeate all space like the television and radio waves do. We live in the sea of them and it is up to the individual to make the choice of which ones he wants. If we want a war picture depicting misery we can tune into that type and live in that environment. Or we can choose a program of beautiful melodies or a performance of kind deed and enjoy that environment. One is of noble life and the other is of abnormal life. And we must remember that all of this is taking place in the sea of life. And we have been given a free will to choose which environment we wish to live in. I do not mean that we should ignore the abnormal actions of any phase. For if we are to know life from its lowest expression to its highest potential we must observe all actions. Then we will understand the cause back of them, observing the law of action and reaction - cause and effect. But we do not have to become the actors. We can watch a prize fight and not become a fighter but we can see how the human mind operates. When we can do this we are better equipped with knowledge and aware of the type of impressions that come upon us which could take over. This is where wisdom begins.

346 印象の経路には二つの道があります。この世の中ではあまりに良く知られているねじれた性質の異常細胞群、即ち肉欲細胞群から来る経路（訳注：複数）と常に高揚する気分にする宇宙的性質の正常細胞群からくる経路（訳注：複数）です。現出に向けての扉（訳注：複数）は両者ともに開いており、それらの印象はテレビやラジオの波のように全ての空間を通過しています。私達はそれら（訳注：印象）の海に生きており、自分がどれを望むのかを選択するのは各自に委ねられています。もし私達が悲惨さを描く戦争の映像を求めるなら、私達はそのタイプのものに同調出来ますし、その環境に生きることが可能です。あるいはまた、私達は美しいメロディーの番組か親切な行為のふるまいを伝える番組を選択し、その環境を楽しむことも出来ます。一方は高貴な生涯であり、他方は異常な生涯です。そして私達が覚えていなければならないのは、この全てが生命の海の中で起っているということです。また、私達はどちらの環境で生きたいかを選ぶ自由意志が与えられています。私は如何なる側面の異常な行為であっても無視すべきと言っているのではありません。私達が生命をその最低の表現から最高の可能性まで理解しようとするなら、私達は全ての行為を観察しなければならないからです。そうすれば、私達は作用と反作用、原因と結果の法則を観察することによって、それらの背後にある因を理解することになるでしょう。しかし、私達はその行為者になる必要はありません。私達は懸賞試合を観戦することが出来ますが、選手にはなれません。しかし、人間の心がどのように働くかを見ることは出来ます。これが出来れば、私達は私達にやって来て自分を支配しかねない印象のタイプに関する十分な知識を身に付け気付くことが出来るようになります。これが知恵の始まりです。

【解説】

私達は生命の海に生きています。そしてその中には私達自身が作り出したものも含めてありとあらゆるレベルのものが存在し、それぞれの因果応報の道を辿っているということでしょう。もちろん私達はそれら様々な渦中にある訳で、おそらくはその中で翻弄されて生涯を閉じる人生を送っているのではないのでしょうか。

これらに対し、本文では明確に私達がとるべき態度を示しています。それが「私達は全ての行為を観察しなければならない」と、「しかし、私達はその行為者になる必要はない」というところがその要点了。

あたかも舞台上で様々な演劇が演じられるように、私達は身の周りを含めあらゆる状況をありのままに観察し、その内容を学習して自身の知恵にしなければなりません。その観察を通じて学んだ想念や心の作用についての事柄を自身の生き方に活かすことが重要です。それら経験を積むことが知恵を蓄えることに繋がるという訳です。

347 We are told that Jesus went to a prison and talked to the prisoners. But he was not affected by the environment or impressions that came from the prisoners.

347 イエスは牢獄に行き、囚人達に話をしたとされています。しかし、彼はその環境や囚人達から来る印象類に影響を受けませんでした。

【解説】

本項はイエスが罪に問われ牢獄に連れて行かれた時の模様を記しているものと思われます。囚人達の中でイエスは彼らに道を説く一方、それら劣悪な環境からも囚人達からもいささかの影響も受けることは無かったことが述べられています。

このように著者アダムスキー氏はイエスについて実に細かく描写し、当時の状況を記していますが、それはかつてアダムスキー氏が使徒ヨハネであったとアダムスキー関係者の間で伝えられていたことに繋がります。映画「ベン・ハー」の中で当時の牢獄の場面が出て来ますが、そのような中でイエスは囚人達に道を説いたものと思われます。

この牢獄の例から、私達は例え如何なる場面にあっても、その環境に流れる印象から影響を受けることなく、本来の宇宙的印象に軸足を保つことが出来ることが分かります。

348 We can use this illustration; A man on a tall building can observe all that is taking place below him. He sees the confusion but is not affected by it nor does he become a part of it. This is what you can do when you observe the actions of sense minds through your consciousness.

348 このような例を用いることが出来ます。高い建物の上にいる者は下で起っていることの全てを観察することが出来ます。彼は混乱を見ますが、それに影響を受けたり、その一部になることはありません。これが感覚心の行動を貴方の意識を通じて観察する際、貴方がなし得る内容です。

【解説】

私達が劣っている点は見聞きする現象に直ちに同調してしまうことです。もちろん、良質なものを見聞きする場合は良いのですが、この世の中では悪質なものが多くあり、私達は少なからずそれらの影響を受けています。

新聞やテレビその他の広告媒体を通じて私達はそれら悪質な情報にさらされており、次第にそれらの誘導にはまっているとも言えるでしょう。

従って、現代に生きる私達にとって本項で説かれる冷静な観察眼こそ、重要な要点と言えるのです。世の中を観察する一方、それらの傾向に染まらない視点です。

本来、私達自身は良い影響を世の中に供給する泉にならなければならない筈で、世の中から影響を受ける立場に甘んじてはいけないのです。

349 I stated at the beginning of this lesson that space is permeated with cosmic cells. All cells are conscious entities that make up the mind and all forms known and yet to be known. Our scientists recognize this now and our astronauts are being taught how to receive impressions from the living cells in space. These cells do not lend themselves to personal opinions of sense minds. But there is not a moment in life that the sense mind does not receive impressions from the cosmic source. The mind may not be alerted to them because it is preoccupied with its own abnormal conditions, but the impressions are there just the same. The only time that the sense mind becomes aware of them is when it loses its interest in itself. Sometimes this is called meditation or silence, for it is then that thoughts or impressions move before the sense mind at terrific speeds.

349 この教課の冒頭（訳注：327）で宇宙は宇宙的細胞で染み渡っていると述べました。全ての細胞は心や知られている、またまだ知られていないあらゆる形有るものを造り上げる意識的存在なのです。地球の科学者達は今やこのことを認め、宇宙飛行士達は宇宙空間において生きている細胞達から如何にして印象を受けるかを教わっています。これらの細胞達は感覚心達の個人的意見に自らを委ねることはしません。そのかわり、感覚心がその宇宙的源泉から印象類を受信しないことは片時もないのです。心はそれ自身の異常な状況に夢中になっている為、それらに警戒できないのですが、その印象類は全く同様のままそこにあるのです。感覚心がそれらに気付く唯一の時とは、感覚心が自分自身への関心を無くす時です。ある場合にはこれは、瞑想あるいは沈黙と呼ばれます。想念或いは印象が感覚心の前を猛烈なスピードで移動するのはそのような時だからです。

【解説】

本項で著者は、宇宙的細胞は宇宙空間にpermeated（行き渡る、浸透している）と表現しています。文字通りに解釈すれば、"宇宙的細胞は宇宙空間に満ちている"という訳です。

このことの解釈として"宇宙空間に細胞が存在している"とは不可解だと言う読者が居るかも知れません。しかし、「同乗記」でアダムスキー氏が語っているように、まるで生きているかのように活動する光体の存在、更には他惑星人の存在からも宇宙的性質を持った細胞が多数、宇宙空間に存在することは確かです。

また、これら宇宙的細胞から印象類が発せられるという点も重要なところですが、何も無い所から生じるのではなく、想念を発するには発信源に生命がなければならないということでしょう。それらの印象に同期できるかどうか、今度は受け取る側の細胞の問題もある訳です。

私達は日々、このような宇宙的細胞により助けられているという訳です。

350 Here also one must be careful which ones he will give recognition to for abnormal impressions created by cells of that type join and move with the normal ones, just as fast. Like riley water mixing with clear water.

350 ここでもまた、人はどちらに承認を与えるかについて注意しなければなりません。その種の異常細胞で造り上げられた異常な印象類は正常なものに取り付き、一緒になって素早く動くからです。それは、清らかな水に混じる濁り水に似ています。

【解説】

私達の身体にある異常細胞は実に巧みに私達を惑わし、邪悪な想念を瞬間瞬間の想念の流れの中に忍び込ませようとしています。このことについて私達は十二分に監視し、それらを排除しなければなりません。

これら異常細胞は、私達の一瞬のスキを突いて私達の心に入り込もうとしている訳です。これに対しては、私達は自らの心の中を通過させる想念を観察し、監視する中でそれらの立入を防ぐ必要があるのです。

私達の身体が本来あるべき清らかな状況の中にそれら異常な想念を紛れ込ませることを避けよと著者は説いています。少しずつでもこれらの現象に気付くことが出来れば、私達は次第に心身共に清らかな存在になれるということでしょう。

351 If the sense mind pays close attention without self opinions it can differentiate between the two. For one will have a personal tinge to it, while the other remains cosmic, like the shades between the riley water and the clear water. And the sense mind with its free will can choose one or the other. The astronauts will have to learn this in order to differentiate between the wishful thinking of the sense mind and cosmic reality.

351 もし感覚心が利己的な意見を持たず注意深い配慮を払えば、その二つを識別することができます。何故なら丁度濁り水と清水との間に陰影が違うように、一方には個人的な色合いがあるでしょうが、他方は宇宙的なままであるからです。そして感覚心は自由意志を持つ為、そのどちらか一方を選ぶことができます。宇宙飛行士達は感覚心の希望的考えと宇宙的現実とを識別する為、このことを学ぶ必要があるでしょう。

【解説】

立花隆の「宇宙からの帰還」(1983年)にも示唆されているように、宇宙空間では宇宙飛行士達に及ぼすこれら宇宙細胞の活動がより活発になっているものと思われます。完全な沈黙の世界、暗黒で広大な空間の中ではこれら宇宙細胞からの印象がより力強く響き渡っているものと思われます。

しかしそうする中であっても、それらの印象に紛れて旧来の異常細胞を母体とするものが邪悪な要素を巧みに入れ込み、妨害活動を行っているということでしょう。

私達はハトのように穏やかにまた、ヘビのように賢明であらねばならないということです。これら宇宙的想念活動を体内に取り込み、同期することがその後の私達の進化に直結しているからです。

352 As said before, there will never be a time that the sense mind will not be receiving impressions from cosmic consciousness. As it is the knower and creator it cares for its creation, especially the sense mind through which it can express its totality. And the Law Of Grace is used, giving the sense mind an opportunity to unite with it and become one manifestation. We are given this opportunity through re-birth.

352 以前に申し上げたように、感覚心が宇宙意識から印象を受けていない時は一瞬たりとも無いでしょう。宇宙意識が知る者であり創造主である為に、それはその創造物、とりわけ感覚心については感覚心を通じて宇宙意識の完全性を表現できるが故に加護するのです。そして恩寵の法則が用いられ、感覚心に宇宙意識と一体化した現れになる一つの機会が与えられます。私達は生まれ変わりを通じてこの機会を与えられています。

【解説】

親が子供を四六時中見守るように、宇宙意識は私達の心を絶えず見守り、人知れず支援の想念を送っています。創造主はその創造の後もその創造物の行く末を見守っているという訳です。

とりわけ不肖の息子である私達感覚心については、その親として特別な配慮が成されているということでしょう。

私達はこの恩恵をよく理解して、本来の道に戻る努力をしなければなりません。その為にはこれまでの諸々の行為を省みこれら創造主の恩寵に応えねばなりません。その転機を本文では生まれ変わりと表現しているのです。ニコデモが"再び母体に戻るのですか?"とイエスに問うたと伝えられていますが、イエスが語った生まれ変わりの意味は、この感覚心の一大転換を示すものであったのです。

353 Some may ask, what if there is no improvement over a period of time ! It seems under these conditions the sense mind returns to the original state, but it has lost its identity. The normal cells unite with other cosmic cells and the carnal cells are gradually absorbed by the cosmic ones. There will never be a time, once a man learns the other half of himself that he cannot view the Cosmos at will. For then he will be the cosmic self.

353 ある期間経っても進歩が無い場合はどうなるのかとお尋ねになる人もいるでしょう。それは感覚心がもとの状態に戻りますが、感覚心のアイデンティティ（訳注：自分が自分であること、正体）は失われてしまう状況のように思われます。正常な細胞群が他の宇宙的細胞群と団結し、肉欲的細胞群は徐々に宇宙的細胞群に吸収されて行きます。一旦、人が自分自身のもう半分を学べば、意のままに宇宙を見られないようなことは一時も無いでしょう。何故なら、その時、彼は宇宙的自我になっているからです。

【解説】

最近流行った映画「君の名は」をはじめ、多くのアニメ映画に、自分の名前の持つ意義について示唆する作品が多いように思われます。それら映画の中で描かれているのは本項で言う"identity（自己識別性）"であるように思えてなりません。映画の中ではひたすら名前を覚えておくことの大切さを描いていますが、それはとりもなおさず、本文で言うidentityの大切さを述べているものと思われます。

もちろん、このidentity自体に問題がある訳で、ある一定期間の間で宇宙的レベルに到達しなければ私達の感覚心はその大切な自我を失い再び原点に戻るということになるという訳です。

人間が死を迎える時、このidentityを次なる転生先に引き継ぐことが出来るかは、当面の私達地球人の大きな課題となっています。これら作品の作家がどこまで洞察しているか知るすべはありませんが、これまでのせっかくの学習や体験が次なる人生に活かせるかどうか、また自身のidentityを繋げられるのかは、変動期に向かう私達にとって大きなテーマとなっています。

354 The earth and space are of cosmic nature, thus man is not forbidden to view any part, or all, while living here. I am sure the astronauts will have that experience, once they venture into space, providing they are well schooled in receiving impressions. They will have the opportunity to live in two states of life-one the sense mind educated in the world's environment, the other-conscious awareness of living space. They could receive impressions of cosmic space while at the same time their sense minds could be wondering what was transpiring down on earth. They will have a remarkable opportunity to compare earth's knowledge and conscious knowledge. And will be in a position to blend the two into one. For they will be viewing that which cannot be seen with sense sight and that which can be seen with sense sight. And they will know the difference between that which is real and that which is not for the cells of the cosmos will communicate with them through impressions. And the sense mind will transform the information into sound when the astronauts speak to others.

354 地球も宇宙空間ともに宇宙的性質のものであり、人はここに生きている間、その如何なる部分も全体も見ることを禁じられてはおりません。私は宇宙飛行士達がひとたび宇宙に踏み出すや、印象類を感受することを十分訓練されていれば、その体験をするだろうと確信しています。彼らは生命の二つの状況の中で生きるという好機を得ることでしょう。一つは世の中の環境の中で教育されて来た感覚心、もう一つは生きている宇宙空間の意識的気付きです。彼らは宇宙的空間の印象類を受けることができますが、一方では彼らの感覚心は眼下の地球で何が起っているのか知りたいと思うことでしょう。彼らは地球の知識と意識の知識とを比較するという注目すべき好機を得ることになります。そしてこれらの二つを一つに融合する立場に立つことになるでしょう。何故なら、彼らは感覚心では見られないものと感覚心で見られるものを見ることになるからです。そして彼らは真実のものと真実でないものの違いを知ることでしょう。何故なら宇宙の細胞達が印象類を通じて彼らに伝達するからです。そして宇宙飛行士達が他の者に話す時、感覚心はその情報を音声に変換することになります。

【解説】

本項は私達が宇宙に出ることが如何に大切であるかを説いています。実際に私達が宇宙に出る際、私達は宇宙空間から様々な印象、地球では味わえない高いレベルの想念と接することになります。その結果として、私達は従来の感覚心からの印象とは違う、本来の宇宙的な想念・印象の世界を知ることになる訳です。

このような体験は多くの宇宙飛行士達が報告している所ですが、誰もそのメカニズムについて解説することはありませんでした。本講座が唯一、これらの特徴的な事象を解説しているのです。

本件に関連して、宇宙飛行士達の体験談やその後の特徴的な人生の歩みについては、立花隆の「宇宙からの帰還」(1983年)の他、映画「In the Shadow of the Moon」他で描かれているところです。

一方、当分の間、宇宙旅行は望めない私達が留意すべきことは、宇宙空間には私達に宇宙的な印象を与えてくれる宇宙的細胞その他があり、私達を導いてくれることです。たとえ地上にあってそれら宇宙空間と絶えず密接なつながりを維持して置くということです。私達の出目の源泉は上空の宇宙であり、"私はこの世の者でない"という訳です。

355 But will the men of the world accept their knowledge when they return? For those who have developed to this stage without being an astronaut are faced with this same doubt.

355 しかし、この世の中の人達は彼らが帰還した時、彼らの知識を受け入れるでしょうか？何故なら宇宙飛行士になることなくこの段階まで発達させて来た者達もこれと同じ疑いに直面するからです。

【解説】

宇宙空間を体験した者が得たこの心境を帰還後、地上の者に伝えることは容易ではありません。また地上の私達もともすればこのような宇宙飛行士達の体験を容易に信じることは出来ないという訳です。

しかし、アポロの飛行士達のその後の生き方から、私達は本項で指摘されている多くの事柄、即ち宇宙空間において飛行士達が感受した宇宙的印象がその後の飛行士達に大きな影響を与えたことを知ることが出来ます。彼ら宇宙飛行士は間近に創造主を感じる事が出来たからです。

一方、同様のことはアダムスキー氏自身、他の惑星の宇宙船に乗船した体験についても言えることであり、その体験から如何に多くを学ぶかは私達自身に委ねられているのです。

いずれにしても、私達はこれからも宇宙について学ぶ事柄は多く、宇宙空間にこそ私達の想像を超える世界があるということになります。

356 Unless man has faith in his fellow-man and the men of experience have the interest of humanity at heart and a desire to have others share their knowledge and experience, people as a whole will not benefit from their knowledge. Not any more than the masses are benefiting from the Space Brothers' knowledge.

356 人が自分の仲間への信頼が無く、体験を有する人達が心中から人類愛に対する関心と自分達の知識と経験を他の者達と分かち合いたいとの願いが無ければ、人々は全体として彼らの知識から恩恵を受けることはないでしょう。宇宙兄弟達の知識から大衆が恩恵を受けることと同じです。

【解説】

本項はアダムスキー氏自身の心情をも吐露しているように思われます。

1952年11月20日のデザートセンターでのコンタクト以来、氏は亡くなるその日まで終始自らの体験や宇宙における他惑星文明について人々に説いて来た訳です。その根底の心情が本項によく表現されています。

その要旨は本文に記されているように、氏自身が氏に従う者達に信を置き、自らも私達を導くことの意義を理解していたからに他なりません。

以前、私がマデリン・ロドファーさんから伺ったところでは、アダムスキー氏は死の直前まで、"まだやり残した仕事がある"としてワシントンで活動していたとのこと。そして遂にはこの世を去るのですが、その生涯は終始一貫して人々の手助けに役立つ知識を惜しみなく授けていたように思います。今日この講座等を通じて他惑星人の持つ知識に触れることが出来るのは、実にアダムスキー氏のお蔭と言えるのです。

357 Faith is the most important factor in life, for all men are not out for themselves and many are interested in the betterment of humanity. Each man must believe in someone and he might just as well believe in the ones who are interested in the betterment of his being, especially in the cosmic field. And he should learn to obey his conscious feelings that constantly remind him of his potentials. We have mentioned cosmic cells and carnal cells and that the cosmic ones are the primal force of all creation. And by multiplying they bring forth the secondary cells which are the offsprings of themselves with all the potentials of the original. This is where the two enter, the carnal man and the cosmic man, for the carnal one is the offspring of the original. And from here man begins to multiply his own ideas and by doing so he loses his cosmic identity in his creation of what we call foreign cells.

357 信頼は生きることに於いて最も重要な要素です。何故なら全ての人が自ら外宇宙に出ることはなく、多くが人類の向上に関心を持っているからです。個々の人間は誰かを信じていることに違いなく、その者はまた、自分の存在の向上、とりわけ宇宙的分野に関心を持つ者を信じています。また、その者は常に自身の可能性を思い出させる自分の意識的フィーリングに従うことを学ばねばなりません。私達はこれまで宇宙的細胞群と肉欲的細胞群について述べて来ましたが、宇宙的細胞群は全ての創造の主要な力であることを述べました。そしてそれらが増殖することによって、それらは元の全ての能力を有するそれら自身の子孫である第二段階の細胞群をもたらします。ここが肉欲的人間と宇宙的人間が入り込む場所となります。肉欲的細胞は原始細胞の子孫であるからです。そしてここから人は自分のアイデアを増殖させ始め、そうすることによってここで私達が言うよその細胞なるものを自ら造り出す中で、自らの宇宙的正体を失ってしまうのです。

【解説】

人間誰しも潜在的には"良き人間"なのだと言者は述べています。そしてその問題の発端は私達自身がその持つ創造力の要素をよいことに勝手に自身の意見を膨張させ、その子分である肉欲細胞を造り出すことにある訳です。

しかし、希望は常にあると言者は強調しています。私達には宇宙の創造主と繋がっていることへの信仰（信頼、faith）があり、皆、より良い社会を求めているからです。

この信仰無くしては生きては行けないということでしょう。自ら蒔いた種から成果を収穫し、次なる世代に引き継ぐことが私達の任務であるからです。

358 This is why people feel a division between themselves and the Creator with a great distance between the two, when in reality there is none. This effect known as the carnal man or ego promotes foreign cells through his aggression and they in time cause his body to be anything but healthy and perfect. Thus many types of diseases are brought about by his many unpleasant expressions as we mentioned before. For as we know, as a man thinketh so is he.

358 これが何故人々が自分自身と創造主とがとても大きな距離、離れていると感じる理由です。しかし、実際にはその距離は無いのです。肉欲的人間、或いはエゴとして知られるこの結果物は、その攻撃性を通じてよそ者細胞群を増殖させ、それらはやがてその肉体に健康でも完全無欠とは程遠い状態をもたらします。こうして、多くの病が以前述べたように、その者の多くの不愉快は表現によってもたらされるのです。何故なら、私達が知っているように人は考える通りの者になるからです。

【解説】

私達の最も身近な存在である私達自身の身体の中には、かくも宇宙的な細胞が働いているというのに、何故私達はそれらと離れた存在になってしまったのか、本項はそのメカニズムを説いています。

私達が長年抱いていた私達自身のイメージは私達の心（自我）が作り出して来たもので、あたかもそれは私達自身を占めるまでに増大してしまったという訳です。実は私達自身、年月を費やして自分を自分の思い通りに作り上げて来たという訳です。良くも悪くも人生、自分の思い通りになるという訳です。

そのことが古来から言霊（ことだま）をはじめとして日々私達が発する想念の力として人々が認めて来たところでもあるのです。

従って、その問題の解決は、私達が辿った道を今度は自分の意志の力で原点に立ち戻る他ないのです。私達の持つ力を私達が原点復帰に向けて発揮させる必要があるということです。

359 All that a person has to do is to look at the thoughts expressed by man today to see how foreign they are to cosmic principle. And we know how hard it is for a man to accept cosmic principles, showing the vast difference between the two manifestations. This is why he feels that he needs perfection, for the mild conscious feeling is still present as a perfect manifestation. Even though he became foreign to it he feels that there is perfection some where. And this feeling pulls him towards its accomplishment. But man will never reach this state by taking the highways of least resistance. This has been proven through the ages. Only here and there an individual has traveled on the right path, through self will and not yielding to opposition from the masses.

359 人が為さねばならないことの全ては、今日人間によって表わされた想念類が如何に宇宙的原理に縁遠いかを見ることです。そうすれば私達はそれら2つの現れの間にある途方も無い距離が見える等、人間にとって宇宙的原理を受け入れることが如何に困難であるかが分かります。しかし、これが人が完徳を必要とすると感じる理由です。何故なら穏やかな意識の感覚が完全なる現れとしてそこに存在するからです。人がそれに対して異質な存在になったとしても、人は何処かに完徳が存在すると感じているのです。そしてこの感じがその者をして成就に向けて引き寄せます。しかし、人は抵抗の無い道を通ってはこの状態に到達できません。このことは世代を通して証明されています。わずかにあちこちに個人が自己の意志を貫き、大衆からの反感に屈せず、正しい道を旅しているだけです。

【解説】

私達地球人の抱く想念が如何に宇宙的原理から離反してしまったのか、その事実を知るのに労苦は不要です。何より自分自身や身の回りを少しでも見渡せばその材料は無尽蔵に広がっているからです。

また、その解決法についても私達自身を実験対象として、取り組むべきことは言うまでもありません。何より自分自身がその状況を一番良く知っており、またその成果を最も良く享受出来る存在であるからです。

その目指す過程は先ずは私達自身の心の動きをありのままに観察し、その隠された動機をも洞察する一方、それがあべき宇宙的性質のものか否かを冷静に評価することでしょう。その上で、私達が目指すべき心境に到達出来るよう、心を尽くして創造主に向き合うことです。

ひたむきな意志はやがては私の心の殻を融かし、自身を宇宙に解放出来る日をもたらすものと思われまふ。その為に私達は宇宙の中の真理を探究する心と創造主の作品である宇宙を観察する必要があるのです。

360 As soon as a man places his foot upon the right path the chemical composition of his cells begin to change towards the goal. The pains and diseases he has had begin to disappear for he is beginning to use his full life force instead of just half of it as he did before. And all the cells of his body begin to take on new life. And the doors of knowledge begin to open wider and wider. And for the first time since he strayed away he will feel the closeness of his Creator.

360 人はその足を正しい道に乗せると直ぐに、自身の細胞群の化学的組成が目的地に向かって変化し始めます。その者が持っていた痛みや病は消えて行きます。何故なら彼は以前のように只半分の生命力を用いることから完全なる生命力を用い始めているからです。そして自身の身体の全ての細胞群は新しい命を身につけ始めるのです。知識の全ての扉がますます広く開き放たれるようになります。そしてその者は自分が道はずれて以来、初めて自分の創造主を身近に感じることでしょう。

【解説】

はじめは困難な道に思えるこの回帰の道程も実際に進むにつれて、その歩みは加速することになります。何より体内にある宇宙的細胞達が活発になり、私達を支援出来るようになるからです。好循環の始まりです。

従って最も大事なことは、惰性の法則に流されがちな状況の下、その最初の一步を踏み出す勇気であり、決意ということになります。

小さな一步でも良き方向に向かって進めることが如何に大事かは本項に良くその理由が示されていることとなります。誰もが等しくチャンスを与えられており、それを活用するか否か、一步を踏み出す勇気があるか否かはひとえに各自に懸かっているのです。

361 Remember that each one of us is but a single cell in Cosmic Consciousness and once we become united with this consciousness there will be no limits to the knowledge that we can have. This is what the Brothers are striving for and they are well on the way. They too had to struggle to get started and we have hardly started. But with determination, and using the knowledge they have given to us in the recent years we have the opportunity to travel right behind them. It is up to the individual, what he wants and how well he will use the knowledge at hand.

361 私達一人ひとは宇宙意識の中の一つの細胞に過ぎず、ひとたび私達がこの意識と一体になれば、私達が持つ知識に限りはないことを覚えていて下さい。これは宇宙兄弟達が努力して目指していることであり、彼らはその道筋をしっかりと歩んでいます。彼らもまた、始動には苦闘も必要でしたが、一方の私達は開始すらしていません。しかし、心を決め、彼らが近年私達に授けてくれたこの知識を用いることで、私達には彼らの後について正しい旅をする機会が出来ました。自分が何を望み、如何に手元にあるその知識を用いるかは、個人に委ねられています。

【解説】

第9課のまとめとして、著者は私達に私達が宇宙意識との関係をよくわきまえるように諭しています。著者は私達は宇宙意識の中ではたった一つの細胞に過ぎないと説いています。人体にたとえば、60兆個もの細胞の一つという訳です。

宇宙意識を前にした時、私達は改めて宇宙に豊富に存在する知識を一つ一つ学んで行く大切さを自覚することでしょう。これら一つ一つの知識は私達に次なる視界をもたらし、また新しい展望を授けるに違いありません。

重要な点は、この道程を既に他惑星人達は歩んでおり、その大いなる恩恵を受けているということです。私達は彼らに学び、自らは宇宙意識に親しめるよう訓練する必要があります。これらの学習の先にある宇宙的な展望こそ、私達が求めなければならない目標となっています。

362 There is nothing in the Cosmos that we cannot be a part of or know something about.

362 宇宙には私達はその一部になれないものや、それについて知ることが出来ないものは何もありません。

【解説】

このわずか2行の本文が私達が宇宙意識を捉える際の基本姿勢を表現しています。そもそも私達が他のあらゆる存在と融合、一体化することでその存在の持つ知識即ち帯びている波動と同調し、その経験を共有できるということです。

宇宙に存在するあらゆるものと融合でき、その経験と知識を受け取ることが出来れば、私達の進化のスピードは計り知れません。それを可能とする為には、私達は自らの知覚範囲、関心の領域を拡げて、印象のアンテナを鋭敏にしなければなりません。

私達が自身の中の排他的な要素を駆逐し、あらゆる存在に対し受容的になるにつれて、より多くの想念波動を知覚出来るようになる筈です。繊細さと寛容さが求められる所以はこの点にあると思われま

363 In lesson ten I will try to illustrate how you can become aware of the things in the cosmic house. And that is the reason I explained entity worship at the beginning of this lesson. Which involves the present uninformed phases of psychism and the true meaning in relation to oneself. So that when the tenth lesson is given you will know the difference in your experiences. And know how to proceed without being involved in mystery, such as present psychics experience.

363 第10課では貴方がどのようにして宇宙の家の中の物達に気付くことが出来るようになるか説明しようと思います。またそれは、この教科（訳注：第9課）のはじめに神聖なる実体への崇拜（訳注：「宇宙的細胞」と表現されているものを指すと考えられます）を説明した理由でもあります。それは今日の知識の無い神秘主義の段階と自分自身に関連した真の意味との両方を含むものです。ですから、第10課が与えられれば、貴方は自分の体験の中の違いを知ることになるでしょう。そして今日の心霊的体験のような神秘に巻き添えになることなく、どのようにして前進して行くかを知ることになるのです。

【解説】

この分野の学習で難しいのは目に見えず、耳に聞こえない世界を対象としていることにあります。こうして第9課まで一步一步私達は学んで来ましたが、まだ踏み込めていない分野も多いのです。

著者亡き後、独り学習する者にとって、大事だと思ふことは、各人が納得しながら少しずつ進むことだと考えています。長い年月の間にあつて、単に知識を鵜呑みにするだけでは理解は拡がりません。今後の長い道程を前に、今まで自分は何処まで解決して来たか、理解は深まって来たかを振り返って、当面の課題を考察すべきなのです。こうすることで私達は神秘に翻弄されることなく、精進を進めることが出来る訳です。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON TEN

Conscious Traveling

By GEORGE

ADAMSKI

364 In lesson Nine I told you that I was going to illustrate how one can travel consciously to any part of Cosmic Space and learn what is there. And yet not employ any mysticism that is so well known in this world, or give oneself over to some mystical guide that we hear of people doing in the mystic circles. No person dead or alive has a right to enslave you for his or her purpose. The only one you have a right to acknowledge and will yourself to work with is the other half of yourself which is the image and likeness of the Creator or God.

生命の科学—学習コース

第10課

意識による旅行

ジョージアダムスキー著

364 第9課では私はどのようにして宇宙の如何なる部分にも意識的に旅行出来るようになるか、そしてそこにある物を学ぶことが出来るようになるかを解説しようとして述べました。しかし、それはこの分野で良く知られているような如何なる神秘主義も導入するものでなく、人々が神秘主義グループで行われるような心霊ガイドに自分自身を委ねることも行いません。如何なる者も、それが死者であれ生者であれ、その者の目的の為に貴方を奴隷にする権利など無いのです。只一つ、貴方は悟りを得て創造主、言い替えれば神の似姿である貴方自身のもう一つの半身を認知し、その半身とともに自分自身を精進させる権利があるのです。

【解説】

私達がやがていわゆる意識により自由に宇宙を巡る旅をすることが出来ることについて、本課は解説して呉れるものです。

しかし、私を含めて多くの読者にとって、本課の内容は随分と現状の理解を超えているのではないかと懸念します。全12課の4分の3を終えた段階としては、この分野についての理解が必要だということでしょう。まずは私達の理解出来る範囲で一つ一つ学んで行くことをお勧めするものです。

そういう意味では本項に記されている事柄の中で私達が頼りにすべきは他人や他の霊的存在その他などではなく、自分自身の半身だということが最も重要です。私達のもう一つの宇宙的半身こそ、私達に最も近い存在であり、この肉体の存続もその半身に依存しています。いつも一緒にいるこの存在と如何に親しむか、その半身から如何に学ぶかがいつの時代にも問われることです。「同行二人」がそのキーワードです。

365 The Great Book states, "Have no false gods before Me." For the likeness and image is pure consciousness which is identical with the Cosmic One. It is the One that created the body and the sense mind. And the sense mind must make an effort to find its parent if it is going to fulfill the purpose for which it was created, or have life eternal as the parent does. For this is the only way that man can get back to the household of the eternal state and become one with it. Then and then only will he feel unity with all life and not the separation that he does today. The feeling of distance between himself and that which is eternal will vanish.

365 聖書は「わたくしの前に偽りの神を置いてはならない」と述べています。何故なら似姿や像というものは宇宙的存在と同一の純粋な意識であるからです。それは、この肉体や感覚心を造り上げた存在なのです。ですから感覚心は創造された目的、あるいはその両親と同様に永遠の生命を得る目的を成就する為にはその両親を探そうとする努力をしなければなりません。何故なら、このことが人が永遠に続く家庭に戻り、それと一体になる為に戻れる唯一の道だからです。そうすれば時として、人は全生命との一体感を感じ、今日までの疎外感を感じなくなるでしょう。自分と永遠なるものとの間の距離感は消え去るのです。

【解説】

私自身の問題も、またその解決策を授ける存在もそれぞれの私達自身の半身であることは、全て自分自身の問題であり、解決策であることが分かります。言い換えれば、自身のほかに何らの偽りの神は不要であり、霊能者その他は必要としないという訳です。

このように全ての問題と全ての解決策が私達自身の内側にあることは重要です。必要なことは日常、私達自身の感覚心の動向を監視するとともに、問題の解決策をもう一方の宇宙的半身から授かるのを見逃さないよう警戒を続けることです。

こうした基本姿勢の下に日々を送ることでインスピレーション力が高まり、不要なトラブルを避けることが出来るようになります。また、自身をより宇宙的な波動を保てるようになれば、世の中の真善美についても鑑賞眼が深まり、日々の感動も質が高いものとなる筈です。他の存在に神を設定したりすることは自らの内にあるこれら大切な二つの要素に目を向けないことになる訳で、聖書はそれを禁じているということです。

366 As you have already learned in previous lessons, there is a constant chemical change going on, and the identity of one stage is absorbed by the identity of the next stage. So if one is to retain his individual identity through eternity he must lend himself constantly to the changes that are taking place. For personal ego has no place in the cosmic plan but individual identity has. For the individuals make up the cosmos. And by the personal ego allowing itself to be absorbed by the individual, which is sometimes referred to as saving oneself and earning eternal life, it becomes like the drop of water that allowed itself to be absorbed by the ocean of water. It becomes the ocean of water yet it retains its individual identity through its molecular structure. Referring again to the jigsaw puzzle, the piece that could be called personal has now been placed among others that eventually will make the picture. Thereby it loses its personal feeling of separation and takes on the feeling of the whole picture yet an individual part of it.

366 以前の教課で既に学んで来たように、絶えまない化学変化が起っており、一つの段階の正体は次の段階の正体に吸収されて行きます。ですからもし自分の個としての正体を永遠の中で保持したいとするなら、自らを生じている諸変化に委ねなければなりません。何故なら各自のエゴは宇宙の計画の中に占める場所無く、各自の正体だけが場所を有しています。個々が宇宙を造り上げているからです。そして個人のエゴ自身をその個体に吸収させることを許すこと、時に自分を助けだして永遠の命を得ると呼ばれることを行うことで、自身を大洋に吸収させることを許した一滴の水のようになります。それは大洋になりますが、引き続きその分子構造からその個人の正体を保持しています。再びジグソーパズルを引用すれば、個人と呼ばれる一片は今や最終的に絵画を作り上げる他のものの中に配置されています。こうして個人の疎外感を失う代わりに個人はその一部を保持したまま全体の絵画の感じを抱くようになります。

【解説】

本項の説くところの"stage 段階"とは、死のことを示唆しているように思われます。これまでの私達は死に際して従来自分（エゴ、自我）がそこで消滅するとして来ましたが、本項を良く読むと実は実質上そのようになっていることが分かりますが、私達が目指すべきはその先に自分のIdentity（正体）をつなげて行くことです。

私達が克服すべきエゴの状態は著者が別のところで述べていたように泥団子に過ぎません。自己の一滴の水分の力を借りて物質を集め、独自性、独立性を誇ったところで、日差しの前にそれらの泥団子は長続きせず、再び元の塵に戻って行くのです。自分が他とは違うとする自我はいち早く大海と融合しない限り、永続することは出来ない訳です。

そういう意味でも私達は自身を宇宙の一部とするよう、日頃から努力することが大切です。宇宙と融合した生活を送ることが出来れば、死後に迎える次のstageについても自身の実体（Identity）を保つこと、記憶を保つことが出来るということでしょう。そうなれば死は次なる人生の入口となる訳で、喜ばしい門出と祝うことが出来るという訳です。

367 You as an individual are a unit of many experiences, even in this life. As an individual you have gone through billions of chemical changes with each absorbing the previous one. So the cosmic identity of you, the individual, has been constant with no divisions. Each succeeding stage of your life was the embodiment of previous stages from the time of your birth to the present day. Every pulse of your being from the day of your conception on into a form have been recorded in the Cosmic Records. No pulse or act was left out. Your form may have a record of from 20 to 90 years in your present earthly life, but in eternity it is less than a thousandth part of a second. Yet you figure the seconds in the earthly time of age and every second some form of newness has taken place. And every second absorbing the previous second by the individual that brought you to this stage of life. But the sense mind does not figure this way. But when it does become one with the consciousness it will be able to review all of the changes that have taken place during its years of life. Yet not for one moment did the individual lose his identity. But the sense mind or personality has been lost many times through its lack of awareness of what it is. The personality changes many times during a life time even to the degree that pictures taken at different ages show very little resemblance to the way one looks now. While the individual consciousness remains the same.

367 一個人としての貴方は、この生涯にあっても多くの経験からなる一単位です。一個人としては貴方は各々がそれ以前のを吸収し、何十億回もの化学変化を遂げています。ですから、貴方の宇宙的正体には分断はありません。貴方の生涯の各々の継続するステージは貴方の誕生から今日に至るまで以前のステージの具体化であったのです。貴方が形有るものとなった受胎の日から一つ一つの鼓動は全て宇宙の記録の中に記載されています。いかなる鼓動或いは行為も漏れることはありません。貴方の形は現在の地球上の生涯の中で20から90年の記録を持っているでしょうが、永遠の中にあっては1秒の1000分の1よりも短いものです。それでも貴方は地球上の時間である秒数を数えており、その秒毎に何らかの新しいことが起っています。また秒毎にそれ以前の秒間がその個人により吸収され、貴方を今日のステージにもたらすのです。しかし、感覚心はこのようには描きません。それでも感覚心が意識と一つになる時、それは生涯の間に起ったすべての変化を読み返すことが出来るようになります。それでも一瞬たりとも個人が自分の正体を見失うことはありません。自分が何であるかの知覚が不足している為に、感覚心、或いは人格（訳注：パーソナリティ）は何度も失われるのです。異なる年代で撮られた写真が、今見るのと少しも似ていないように見えるほど、生涯の間には何度となく変化します。一方、個人の意識は同じまま留まります。

【解説】

私達自身、毎秒発する想念や行動によって時々刻々変化しています。そしてこれらすべての体験は宇宙に記憶され、また私達自身を造り上げているという訳です。

人の一生の間で蓄えられた体験はその人を造り上げる訳で、人は生涯を通じて変容を遂げることになります。自分の古い写真を見て、つくづく余裕の無い未熟さを感じますが、それも自分がこれまで歩んで来た中で得たものが外観の変化として現れているということでしょう。

さらに重要なのは、これらは宇宙の上からは僅か1秒の何分の1かの時間に過ぎないことであり、私達はまさに宇宙の時計からすれば一瞬の中に生きているということです。もし私達が宇宙と融合出来ればこれら時間の制約は無くなり、文字通り永遠の生命を生き抜くことが出来ると著者は説いているのです。

368 The effect mind which is the personality, usually follows the law of least resistance and allows itself to be molded into the environment of the world's society. This is why man feels strange to man, even though he is molded into the same type of society. And it is because the ego or sense mind is a stranger to the Cosmic Principle and itself caused through the divisions between individual identity and the ego. The individual acknowledges everything in unison whether visible or invisible to the sense mind, while the sense mind acknowledges only that which it calls concrete form. Yet when questioned the mind admits that there is something behind the concrete manifestations. But it does not like to go on record that there is for fear of what a neighbor or society might think of him. This shows that the individual's identity tried to alert the mind but the mind fears not to go along with society's pattern.

368 結果である心は人格でもありますが、いつも最小の抵抗の法則に従い、自身を世の中の環境の中に鑄込まれることをやむなしとしています。これが人が自分が同じタイプの社会に鑄込まれているにも関わらず、他人に対してよそ者の感じを受ける理由です。そしてそれが、エゴ、即ち感覚心が宇宙原理に対してよそ者であり、それ自身個人の正体とエゴの間の分裂によってもたらされているからです。個人の正体は感覚心に見えているか見えていないかに関わらず全てを調和していることを認知しますが、感覚心は具体的な形を必要とするもののみを認知します。しかも尋ねられると、心は有形の創造の現れの背後に何かがあることを認めます。しかし、心は存在する記録には進んで行きたくありません。何故なら隣人や社会が彼をどのように考えるかを心配するからです。これは個人の正体は心に注意を喚起しようとしませんが、心は社会のパターンに沿って進まないことを恐れていることを示しています。

【解説】

本項で述べられている "mold (鑄込み)" は、私達の自我の実態を良く表しています。即ち本文では私達は私達が置かれている環境の中、社会の中にあらかじめ造り込まれた「型」の中に溶けた鉄が流し込まれて人格（個性）が形成されているということです。

この場合、重要なのはその型は自身の意図によって作られるのではなく、社会や環境が造り上げているという点です。つまりは社会を動かす支配層のコントロールの下、また社会風潮の影響を受けた個性が次々に生まれて来る事態を示唆するものでもあります。

これらの傾向に対して私達は、もっと自分自身を探求し、このような既成の鑄型製品ではなく、自分自身で自分を造り上げる芸術家の作品造りを自分に課す必要があると言えるのです。

369 There are very few people in the world that are individualists. And those who are oftimes have a hard time because they do not go along with society and are considered non-conformists. History shows that all great souls in this world were non-conformists for they were individual and endowed with the deeper meaning of life.

369 世の中には自立主義者は極めて少数しか居りません。そして彼らは社会とうまくやっていない為にしばしば困難に直面し、非同調者と見なされて来ました。歴史はこの世の中の全ての偉大な魂は非同調者でした。彼らは独立した個人であり、彼らには生命のより深い意味が授けられていたからです。

【解説】

以前に故ウェイン・ダイヤー氏が米国マサチューセッツ州コンコードで講演した時のCDを聴いたことがあります。その地はアメリカ独立戦争の口火を切った所として知られており、アメリカ建国の時の人々の精神的支えであったソローやエマソンが暮らした地としても有名です。その特質は正義に反する事柄はたとえ法であっても従わないとする不服従の精神が貫かれているところです。

即ち、本項で説かれているように、周囲に妥協して争いを起こさない生き方ではなく、長年アダムスキー氏が主張して来たように、真実に従った生き方を貫くように私達に問い掛けているのです。

真実に生きることは実は容易ではなく、惰性に流されることの方がはるかに容易なのですが、進歩を目指す私達はたとえ他人から馬鹿にされても、自ら選んだ生き方を貫くことが求められるということです。

370 Before we proceed with the lesson promised I want everyone to recall that the so-called material world is an effect of the so-called spiritual or invisible side of life. Like an idea that is invisible to those around you until you explain it in words or create the idea into a form for them to see. So it is with all that we know - the invisible supporter of that which is visible. Just recently scientists have learned the process of how to draw upon invisible space for certain materials, as today there are more elements known than there were a few years back. And there are now several precious metals that are too costly to produce on a large scale at this time. But the substance for them was taken out of space, which is invisible. This is a proof that out of the invisible comes the visible and back to invisible. And over and over the process goes on. This should give us support for our next step in viewing and traveling in the Cosmos without the mystical application. But with an extension of our sense mind into the conscious sea of life.

370 お約束した教科に進む前に、私は皆さんにいわゆる物質世界は生命の内、いわゆる精神的ないし目に見えない側の結果の一つであることを思い出して欲しいのです。それは貴方がそれを言葉で説明したり、見える形に造り上げない限り、貴方の回りの人々にとって貴方のアイデアが見えないのと同様です。それは私達が知っている全てについても同様です。目に見えるものに対する目に見えない支持者の存在です。丁度最近、科学者達はある物質について目に見えない空間から引き寄せる手法を学び取りました。数年前より、多くの元素が発見されているからです。そして今や、現時点では大きな規模では造り出すのにあまりにも費用がかかる数種の貴重金属が存在します。しかし、それらの物質は目に見えない宇宙から取り出されました。これは目に見えない所から目に見えるものが出現し、再び目に見えない世界に帰って行く証でもあります。そして何度も何度もその過程は継続します。このことは私達に、次の段階として神秘的な応用によらず宇宙を眺め、旅する際に支援を与えて呉れるものです。しかし、それは私達の感覚心を生命の意識の海にまで広げることが前提です。

【解説】

ここで著者が説いている内容全てを理解することは出来ませんが、ポイントとしては物質全ては不可視は世界から生み出されるということです。

私達や私達の惑星全てを含めて私達は宇宙空間から生み出されたものであるという視点です。そしてその万物創造の原理は私達の最先端の科学分野である物質の究明、原子物理学の分野においても同様であり、私達地球の科学者もそれらを応用しているのだということでしょう。おそらくサイクロトロン等と呼ばれる装置を用いて新元素を合成したという事例を著者は示唆しているものと思われます。

私達が自分自身をも含め、生命を探求する上でこの無から有が出現されるという視点、言い換えれば想念や印象が強く作用する不可視な空間における活動が、やがて目に見える段階に反映される仕組みが宇宙に流れていることを自覚することが大切です。

371 And what would be the extension of our mind? A desire for knowledge must be the foundation. I will use a mechanical device as an example. In the early days of astronomy a small optical instrument was constructed to look into space towards the stars. It was a sort of extension of sight through a mechanical device to see and learn more about what was seen as a light. And to try and tell if it was solid, and if so what was on it. As the Moon was the closest large object, it was the first to be observed and mountains and craters were seen on it. The physical sight could not see these, so we could say that this was a mechanical eye which helped to extend knowledge, all because there was a desire to know. For something within man has always told him that there was more to life than this earth. As time passed, progress has been made in an extended view through the instruments. And today the 200 inch telescope on Palomar Mountain is bringing knowledge to man of bodies previously unknown, existing in invisible space. And this is just a beginning for electronic instruments will reveal much more. This is also true through a microscope.

371 そして私達の心の拡張とはどのようなことでしょうか？ 知識に対する願望がその基礎であるに違いありません。一例として機械装置を取り上げようと思います。天文学の初期の頃は、小さな光学装置が星々に向けて宇宙を覗き込む為に組立てられました。それは光体として見られたものについてより大きく見て学ぶ為の機械装置を通じてのある種の視覚の拡張であったのです。また、それが固体であるかどうか、またそうであればその上に何かあるのかについて調べて知らせる為でありました。月は最も近い天体であった為、最初に観測され、月面に山脈やクレーターが観測されました。肉体の視覚はこれらを見ることは出来ませんので、私達はこれを知識を広げるのに役立つ機械的な目と表現することが出来ますし、これら全ては知りたいとする願望があったから出来たことなのです。何故なら人間の内部の何かは常にこの地球以外に生命について更に何かがあると語りかけて来たからです。時が経つにつれ、装置により視界を拡張する為の進歩が為されました。そして今日では、パロマー山の200インチ天体望遠鏡は目に見えない宇宙空間に存在する以前に知られていなかった天体を人類にもたらしています。これは単なる始まりでしかありません。電子装置は更に多くのものをもたらすことになるからです。これはまた、顕微鏡についても同様に真実です。

【解説】

私達に新鮮な気持ちをもたらすのは新しい発見であり、新しい知識です。本項は天体望遠鏡によって如何に私達が宇宙を学び、知見を拡げたか計り知れません。当初、ガリレオが用いた天体望遠鏡は簡素なものでしたが、遂には200インチのパロマー天文台までのものが出来たと著者は説いています。

一度望遠鏡の原理を理解出来れば、その原理は広範囲に応用され、人類全体に広めることが出来、その恩恵を後世に繋げるものにもなる訳です。

これら天体望遠鏡の助けを借りれば、私達が見上げる空には宇宙が広がっており、無数の星が存在し、無数の生命が私達と同じ法則の下、存在していることを自覚できる等、科学技術の進歩は同時に私達の視野を拡大させる大きな役割を果たしています。

もちろん、これらの新しい知識の恩恵にあずかる為には、日頃から新しい発見や知識に関心を持ち、古い習慣を常に見直す必要があります。これら日々伝えられる発見や新しい製品に関心を抱くことは、私達を常に新鮮な気分を保つ大きな効果があると考えます。

372 Could this have all taken place had it not have been for the consciousness of man as his senses were concerned only with themselves? But this consciousness, the invisible part of man, urges the factual man to explore more and more into the cause of form life. As the factual or sense man had disassociated himself from his Cause counterpart the instruments were necessary to bring the invisible back into focus that he might realize that he is only a speck in the Cosmos, but an important one. That his duty is to know about that which is in the Cosmos. And since the consciousness urged the mind to venture into space with instruments man continues to get more and more knowledge about space which has never been known before in this civilization.

372 自分の感覚が自分自身のみに向けられている等、もし人間の意識が作用していなかったとしたら、これらはすべて起っていたでしょうか？ところがこの意識という存在、人間の内の目に見えない部分が現実主義者を形有る生命の因の中、奥深くに探検せよと促しているのです。現実主義者、あるいは感覚人は自分自身を自らの因の相手役から切り離してしまった為、自分が大宇宙の中のしみでしか無く、しかし重要な一つであることを理解するよう目に見えない背景を鮮明にする為に装置が必要になったのです。人間の義務は大宇宙の中に何があるかを知ることです。また意識は装置を携えて心に宇宙を冒険しに出ていくよう促した為、人は宇宙についてより多くの知識を得続けていますが、このことはこの文明以前には無かったことです。

【解説】

宇宙を知ること、自然を学ぶことは私達の存在を賭けた重要事項であり、任務です。それは私達が因なる世界、即ち目に見えない創造の仕組みや創造物の活動の世界を学ぶことです。

自身の身体を含め授けられた贈り物の価値を知ることが受け取り側の勤めであるからに他なりません。その価値を学べば学ぶ程、私達が如何に恵まれた環境にあるかが分かるというものです。

本来はそのような道具を持たなくても、それら創造物の価値は分からなければならないのですが、目に見えるものしか信じない感覚人には、道具が必要になる訳です。私も初めて天体望遠鏡で土星の輪を見た時は感動したものです。今日では更に高性能の望遠鏡にも容易に接することが出来るようになっているようです。宇宙をよりよく知り、物質や生物の活動をより深く学ぶ為にも、様々なスタイルの観察が望まれています。

373 This shows that consciousness does not misguide the human mind if it is allowed to guide it, and impressions are received and accepted without modification to suit itself. For this is the only way that consciousness can prove to the mind that its impressions are correct.

373 このことは意識はそれが人間の心を導くことを是認され、印象が人間の心に合うように修正されずに受信され、受け入れられるならば、人間の心を誤った道に導くことがないことを示しています。何故なら、これは意識が心にその印象が正しいことを証明する唯一の道だからです。

【解説】

私達が意識と接すべき姿勢を本項は良く表現しているように思います。

私達が印象に従う時、その印象がどのような結果を導いたかによって、私達ははじめてその印象が適切なもの、意識が示唆したものであることを知る訳です。しかしその印象の感受から私達が結果に巡り合うまでの時間は様々です。すぐに結果が現れる場合もあれば、長い年月を要する場合もあるように思います。

しかし、私達はそれらの結果とその原動力となった印象とを関連させて学ぶ必要があります。つまり、良質な印象は良質な結果をもたらすことを肝に銘じなければなりません。誤った印象は直ちに排除しなければなりません。

基本的姿勢として保持すべきことは、宇宙意識は私達に絶えず向上に向けた支援の印象を送り続けており、私達はあまりにも自分自身への関心に集中していて、これらの印象に気付かず、過ごしているということです。現状の物質界はこれまでの私達の心像の反映であり、一方でこれら意識的印象は未来を形作るものであるのです。

374 But there will never be an instrument made that will reveal all of the Cosmos to man. Consciousness coupled with man's mind is the only way that man will learn about the cosmic whole. For now the instruments that have been used should cause the mind to have confidence, faith and trust in conscious guidance. The mind should have learned through past observations and experiences that that which at one time seemed nonexistent became a reality. For anything that is revealed by conscious impressions is in existence some where. So now the mind should be willing to be guided by consciousness instead of itself as in the past. And accept the things given by Cosmic Consciousness as a reality. For this is the only way that the sense mind can find its other half and become a part of the whole of the Cosmos. Jesus said, blessed are those who do not see yet believe. For the physical eyes cannot see the distances of the Cosmos, but the conscious eyes can.

374 しかし、大宇宙の全てを人間に明らかにする装置は作られることはないでしょう。人間の心と対になった意識だけが唯一、人間が宇宙全体を学ぶ方法なのです。今やこれまで用いられて来た諸装置は心に自信や意識の導きに対する信仰や信頼を持たせている筈です。心は過去の観察や体験を通じて一時期存在しないように見えたものが、現実のものとなることを学んで来た筈です。何故なら意識の印象によって明かされるものは何処かに存在するからです。ですから、今や心はこれまでの自分自信による代わりに意識に喜んで導かれるべきなのです。そして宇宙意識から与えられた物事を現実のものとして受け入れることです。何故ならこれが感覚心がもう一つの自分を見つけ、宇宙全体の一部になる唯一の方法だからです。イエスは言いました、見ないで信じる者は幸いであると。肉体の目は大宇宙の膨大は広がりを見ることは出来ませんが、意識の目はそれが出来るからです。

【解説】

本講座では繰り返し「意識」の持つ大きな役割について説かれています。やはりこの「意識」を各自がどのように捉え、日常的に接しているかがポイントと言えるのだと思います。

ここで強調したいのは、「意識・意識」と"言葉"で叫んだとしても、各自が何らかの具体的なイメージを掴んでいなければ、単なるお題目に終わってしまいます。私達はここで改めて自分が理解している「意識」について、各自整理して置く必要があるということでしょう。

現時点で私にとって「意識」とは、何か自分が（精神的に）移動出来る空間的広がりであり、自分の関心が向かうところに自由に移動出来る自在な状態のように感じています。実はその心境は遙か宇宙の創造主にも繋がっているものであり、自分の抱く想念も瞬時に創造主に感知されるという、直結的な媒体のように思っています。

即ち、私達の想いはその想念が湧き上がった瞬間にすぐに実現に向けて何処かで準備が始まってしまうことになるのです。

「意識」はこのような心境とも言える訳で、それ故、私達は自身の抱く想念を絶えず浄化すると同時に、良質な想念・印象を感受出来るよう自らを整える必要があるのです。

ご連絡 [2018-03-29]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、明日の更新はお休みします。

次回更新は4月2日（月）午後になる見込みです。

3月29日
竹島正

375 Let us now do with our sense mind what we did with the instrument thus allowing it to see that which has heretofore been invisible, replacing the instrument with consciousness. And as we believed that which we saw through the telescope let us do the same just as firmly with consciousness.

375 私達がこれまで見えなかったものがその装置を用いて感覚心が見えるようにしたように、今度は感覚心に対してその装置を意識に置き換えましょう。そして私達が望遠鏡を通して見たものを信じたように、意識によって見たものについてしっかり同じように信じることです。

【解説】

現在の私達にとって本項で言う意識を用いた遠隔透視の達成は未だ難しいのではないのでしょうか。しかし、基本的な姿勢については各自自分自身で明確にして置く必要があります。

重要な点は私達自身が本来、それを実行出来る能力が備わっていることを確信することかと考えます。現時点では達成出来なくても、それら潜在的能力を発揮して行ける日もやがてはやって来るという訳です。

その為には先ず私達がそれを実現させたいと願い、自らの関心をその実現に向けて置く必要があるということです。たとえ小さなアンテナでも絶えず求める方向に向けて信号の受信を待ち構えていれば、遂には求める印象を感受出来る筈です。また、その時の心境を記憶する中で少しずつ進歩するというものでしょう。

とりわけ他者の抱える問題の解決を人知れず願い、意識からの支援を求めることも有効ですし、その結果として得られた結果（遠隔ヒーリング）は、大いなる人助けにも結びつくものとなります。普段から道を求めていれば、必ずお助けくださるとするのが天の摂理だと考えます。

376 Do not try to see too much at one time. Use the same method as with the instrument by extending your mind into consciousness little by little. Do not force it, let it be natural. For if we get into the eternal sea of life there is plenty of time. It is much better to have a slow growth than to try and grow fast and miss something that could cause confusion later. Let patience be your foundation and the extension of our mind into consciousness gradual.

376 一度に多くを見ようとしないで下さい。貴方の心を意識の中に広げるに当っては装置を用いる時と同様な方法で少しずつ用いなさい。それを強制してはならず、自然のままにしておきなさい。もし私達が生命の永遠なる海に入るなら、そこには豊富な時間があるからです。努力して急いで成長しようとして後になって混乱を生じるような何かを見落とすよりは、ゆっくりした成長を遂げた方がはるかに良いのです。忍耐を貴方の基礎とし、私達の心を意識の中に拡張させることをゆるやかなものとするのです。

【解説】

大切な点は私達自身が"意識"を理解し、少しずつ進化することです。ひとたび私達が結果の世界を生み出す"意識"の存在に目覚めることが出来れば、後は時間をかけてゆっくり理解しながら進めば良い訳です。時間は十二分に存在するからです。

そういう意味では、その入口に到達することが最も重要です。その為に多くの指導者が地球を訪れ人々をその門まで導いて来たということでしょう。その門をくぐれば後は各自で進めば良いというものです。

"重要なのは目に見えない"とは"星の王子さま"のキツネの台詞でしたが、私達はこの意識の存在を自覚出来るようになることが、その門をくぐる最低限の資格ということになるものと思われまます。この世の中にとっては、それは狭き門ですが、その門をくぐった後は豊かな人生が広がっていることは確かです。

377 Remember that consciousness will convey impression to the mind that will seem foreign, like all new things do at first. But let your mind become as a little child listening and observing impressions and pictures that may come without questioning or trying to make a better picture out of the revelations.

377 覚えておいて欲しいのは意識は最初、あらゆる新しいものがそうであるように、心にとってよそものに思えるような印象を運んで来ることです。しかし、貴方は疑問を挟んだり、その啓示からより良い全体像を作り出そうとすること無く、心を幼子のようにして、そのやって来る印象と映像に耳を傾け観察させるのです。

【解説】

"幼子のようにならなければ"とはイエスの言葉でありましたが、その言葉は本来、本項の内容を意図していた訳です。私達にとって大切な条件は意識が私達に授ける印象に対して、素直に受け入れ、学ぶ姿勢です。

とかく私達は感受した想念・印象を自己の都合の良いように改変しがちですが、本項はそれを戒めています。私達に必要なことは、それらの印象をそのまま受け入れ、記憶して、それらが何を示唆しているか、見極めることです。またその為にも、それら印象の源泉を信じるのが大切です。

中にはその内容が判明するまで長年月要する場合もあるでしょうし、数秒の内に明らかになることも多いのですが、まずは焦らず素直に受け入れ、記憶し、行動することが必要だと考えます。

多くの場合、それらの印象は人生の転機にもなる重要な示唆を含んでいることも多く、それらの印象を人生を拓くヒントとすることが求められています。

378 You must remember at all times that only a little of the entire picture will be revealed at a time. Again like the jigsaw puzzle, you cannot look at all of the pieces and know where they fit. For the picture must be put together piece by piece and this takes time. Never try to fill in with some of your mental ideas accumulated in this world for they are of personal nature. Do not question for one minute what you receive for that would be like questioning God. And you should know by now which is accumulated knowledge from this world and which are cosmic impressions. Do not be confused for earthly impressions may come also, as many of these to which the mind is accustomed are of Cosmic Nature and may fit into the picture at a given point but perhaps not at present. Due to earthly experiences these ideas sometimes try to crowd into positions before there is a place for them. It is like an artist who gets an impression of red shading, when yellow should be used, with the red to follow.

378 いつも覚えておいて欲しいことは、一度には全体像のほんの一部しか明かされないということです。再度、ジグソーパズルのように、貴方は断片の全てを見ても何処にそれらが当てはまるのか知るという訳には行きません。何故なら絵は小片を一つずつ繋ぎあわせられなければなりませんし、これには時間がかかるのです。決してこの世界で貯えられた貴方の精神的なアイデアを当てはめようとしてはなりません。何故ならそれらは個人的な性質のものだからです。一瞬たりとも貴方が感受したものに疑問を投げかけてはなりません。神を問いただすようなものだからです。また、貴方は今では、どれがこの世からの蓄積された知識で、どれが宇宙的印象かを識別できる筈です。地球的印象も来るでしょうから、混乱しないようにして下さい。何故なら心が慣れているものの多くが宇宙的性質を帯びており、それらもいつか適当な時期にその全体像に当てはまるかも知れませんが、おそらくその時点ではないと思われるからです。地球上の経験から、これらのアイデア達はそれら本来の場所以外に群がろうとします。それは黄色を用いるべき所に赤い陰を付ける印象を受けた画家のようなもので、本来は黄色の後に赤を用いるべきなのです。

【解説】

注意したい点は、著者は何度となくジグソーパズルのたとえを私達に説いていることです。即ち、多くの場合、宇宙意識からの印象は断片的に私達にやって来るということです。それらを繋ぎ合わせることで、初めてそのメッセージの全体像が明らかになるという訳です。

その具体的なイメージを掴むには、忍耐、献身的な受容態度が必要になり、たとえインスピレーションの発端がやって来ても私達は受容的な心境を維持する必要があるという訳です。

おそらく私達はこれらの印象が持つ知識を一度には理解出来ない為、同一の発信源に対して次なる印象を感受する機会を待つことになるのかも知れません。

その間にも私達の側では従来型の心の動きがあり、それらが混乱を引き起こしかねません。こうした中、私達は与えられた知識の断片を大切に取り扱い、それらの本来の収まる場所に気付き、より大きなビジョンを掴む必要があるということです。このようにしてインスピレーションをご自身の進化・発展に繋げる必要があるのです。

379 Impressions will come in some cases like a still small voice and you will swear that someone is talking to you, but it is your consciousness explaining things in words you are accustomed to. And sometimes with impressions that you cannot find words to express. But when pictures are impressed upon you, especially in color, they are focused by the consciousness on the screen of your mind which is located in your forehead. At least this has been my experience. Perhaps this is the reason for those who do not understand referring to this as the third eye, or all seeing eye. In Buddha statues there is a jewel in the forehead, signifying extended sight, and it forms a triangle between physical sight and itself. Jesus called this, single visioned and single minded. And when he said the renewing of the mind, he meant exactly what we are trying to do here by associating the mind with the consciousness to form a single unit. Where divisions between the two cease to exist. For then man becomes a total man.

379 印象はある場合にはひそかな小さい声としてやって来るでしょうし、貴方は確かに誰かが貴方に話し掛けていていると言うでしょうが、それは貴方の意識が貴方が慣れ親しんだ言葉によって物事を説明しているのです。またある時は貴方が言葉で表せないような印象としてもたらされます。しかし、映像が貴方にもたらされる時、特にそれがカラーである場合は、それらは貴方の額の場所に位置する貴方の心のスクリーンに意識によって投影されているのです。少なくとも、これは私の経験です。おそらく、これは人々が第三の目、或いは全てを見る目として引用することを理解しない理由です。仏像には、額の中に一つの宝石が埋め込まれ、拡張した視覚を象徴しており、それは肉体の視覚とそれ自体で三角形を形成しています。イエスはこれを一つになった目、一つになった心と呼んだのです。そしてイエスが心の復興と言った時、彼はまさしく私達がここで心を意識に親しませ、一つの単位を形成するよう努力していることを意味していたのです。そこでは、両者の間の分裂は消滅します。それ以後、人は完全なる人間になるのです。

【解説】

私達が"意識の指導に従う"と言った時、それが具体的にそのような状況なのかについて、本項は説いています。場合によっては声が聞こえたりすることもあるでしょうが、それらは誰か他の人が話しかけたりするものではなく、意識が私達の心に分かり易い形態で内容を示しているのだと説かれています。また目の前に光景のイメージが見えることもあるかも知れません。

大事なことはこれら有用な印象を大切に扱うことだと考えます。また日常的な動作においても意図することなく身体が勝手に動いて結果として大変良い結末をもたらした経験も読者の方々の中には多いものと思われます。印象に従うことが如何に理にかなっているかの実例は多くの方が各々お持ちのことと思ひます。

私達は学習を進めるにつれて、これらいわゆるインスピレーションに従った行動や生活の役割が高まって行くことになり、それらの割合が増すことで意識による生活が送れるようになる訳です。

380 One must be very careful to avoid wishful thinking which the mind usually likes to promote. Or imagination which the mind likes to promote in its own favor. For the imagination does promote pictures as there are two phases of impressions. The imaginative mind likes to create freaks such as constructing a man's head with two faces. One in the back and one in the front, but nature does not construct a head like this. I mention this for the impressions and pictures that will come through consciousness will be closely related to imagination. And the mind is quite an expert at this for it has copied its action from consciousness. There must be something genuine before there can be a counterfeit and this is the case with the imagination, so one must be careful.

380 人は心がいつも促進しようとする願望的思考を避けるよう注意深くあらねばなりません。或いはまた心が自身への味方を増やそうとする空想についてもです。何故なら、空想は印象には二つの局面があるようなイメージを促進するからです。空想性を持つ心は顔が二つあるような人間の頭を作り出す等、倒錯物を造り出したがります。顔の一つが後側にもう一つが表側にあるようなものをです。しかし、自然はこのような頭を造り出しません。私はこのことを、意識から来る印象類や映像類は空想にとても近い関係にある為、述べているのです。そして、心は意識からその行動を写し取って来ている為、この点において全くの熟達者なのです。偽者が存在する以前に何か本物があるに違いありませんし、これが空想についての実状です。ですから注意深くあらねばならないのです。

【解説】

私達が意識からの印象に従おうとする一方で、それを利用して自らの支配を拡大させようとする感覚心の問題があると著者は警告しています。実に私達にとって手ごわい敵は私達自身の心である訳です。

心は本文に記されているように意識から来る印象を捻じ曲げたり、不要な要素を付け加えたりして本来の意味を自分の都合の良いように変質させるという訳です。何とも救いようのない話ですが、それでも私達は各自の感覚心を制御することによって少しずつ本来の姿に戻さなければなりません。

裁きを無くし、自身のありのままの姿を直視して、素直に意識の助言に従えるかどうかが進歩のカギという訳です。本項で何度となく「幼児のように」と説かれているのはその素直さが重要だからに他なりません。

381 There are not too many people who know the difference between that which is real and the copy. Inventors and artists use this method, and that is how some new inventions that man's imagination thought impossible have come about, for the real is always possible.

381 どちらが本物でどちらが複製物であるかの違いを知る人は多くはありません。発明家や芸術家はこの方法を用いており、それが人間の空想が不可能だと思って来たような新しい発明品が生まれることの次第です。何故なら真実なるものは常に可能なものだからです。

【解説】

いつも思うことは本物の印象と偽者の識別をすることの難しさです。湧き上がる印象を大切にすることになっても、この識別は容易ではありません。私は印象を受ける度に、それが指し示す状況がその後正しいものであったか否かを常に追及しようとしています。つまり、印象を受ける度にその源泉とその示す方向性が正しいか、自分がその印象に本当に従うべきか自身に問い掛けるようにしています。その上で、関心が持てればその印象に従います。もし、その結果が印象通りの結末でなかった場合は、その時の自分の判断が誤りであり、当時の心境を反省するというものです。

人それぞれ取り組まれる内容は異なるかと思いますが、無数の小石が広がる浜辺で貴重な宝石を見つけるのは困難が伴いますが、光輝く宝石は自ずと美しい光を放っており、見る人が見れば容易に探し当てることが出来るものでしょう。先ずは輝く印象を感受することが始まりです。

382 Even though the space people had not come our way, showing that man can travel space, we would have succeeded in doing this sooner or later, accomplished by following the impressions given by consciousness. For man's goal is to blend his mind with consciousness.

382 例え宇宙人が我々の方に来て人間が宇宙を旅行できることを示すことが無かったとしても、私達は意識から与えられる印象類に従うことによって遅かれ早かれこれを為すことが出来たと思われます。人間のゴールはその心を意識に融合させることだからです。

【解説】

1968年に公開された映画「2001年宇宙の旅」を当時観た時、映画の中で描かれている巨大コンピュータの持つ驚異的な知能に驚いたものですが、今日では「顔認証」は「人工頭脳ロボット」、車の自動運転等々のAI技術がまさに映画の示唆したように発展の一途を辿っています。

同時にGPSや放送衛星、気象衛星、偵察衛星等々、宇宙空間に打ち上げられた人工衛星が私達の生活を便利なものにして来ました。

今後は同映画に描かれているように、本格的に宇宙に飛び出す時代になるものと思われます。そして宇宙空間に出ることが私達の心を大きく拡張させ、より根源的な宇宙の本質について考える契機となることでしょう。既に多くの宇宙飛行士達が宇宙に出た後の心境の広がりやより深遠なるものの存在について証言していることは、ご存知の通りです。

それら宇宙への私達の関心を引き上げる為に、彼ら他惑星人の宇宙船が危険を冒しても地球に姿を見せて呉れるのです。

383 At this point your reasoning facilities may enter for one phase of impressions follows the freakish imagination and is destructive, while the other is exhilarating and constructive. So then constructive logic must be employed in order to reach a true evaluation. And this must be independent of personal opinions if you are to know the truth about anything. This is a good policy to follow in living and working with others in every day life.

383 この点において、貴方の推論の才が登場するかも知れません。何故なら、印象類のある段階で尋常で無い空想が後に続き、それは破壊的なのですが、他方では気分を浮き立たせ建設的であるものも続くからです。ですから、その時は真実の評価に到達する為に建設的な論理を用いなければなりません。そしてもし貴方が如何なることにせよ真実を知ろうとするなら、このことが個人的な意見の影響を受けずに行わなければなりません。これは日常生活の中で他人と生活し働く上で従うべき良い方針でもありません。

【解説】

同一の印象でも、それに含まれる様々な要素がある訳ですが、私達の心はそれに対して常に自分の都合の良い側面や破壊的な側面を捉えがちです。

しかし、それは単に自分の心が求めている要素を基に空想しているに過ぎません。本来はもっと建設的な意味合いを含んでおり、心湧き立つ要素を帯びているのだと著者は説明しています。

とにかく私達は空想に浸りがちですが、印象に向かうべき姿勢はこれら個人的な意見を排して建設的な要素を筋道に据えて解釈する必要があります。そうした姿勢での探求によって実生活に生きるヒント、インスピレーションを得ることが出来る訳です。

また、最後に著者はこの姿勢は同時に実生活における他人との関係にも応用できる原理だと説明しています。相手の意見の中の建設的な側面を見ようとする姿勢が大事だということでしょう。

384 So now let us proceed with the first step: First your mind must relax, and this can only be done when the mind loses interest in itself in its own behalf. Like a boy who is interested in baseball, but if he wants to learn and see something else he has to put his first interest completely out of his mind and give full attention to that which he is about to learn or see.

384 それでは今から、その第一段階に進みましょう。最初は貴方の心はリラックスしなければなりませんし、これは心が自分自身の利益に関して自分自身への関心を失う時にのみ起こり得るのです。野球に興味を持っている少年に例えれば、もし彼が何か他のことを学び、理解しようとするならには、その最初の興味（訳注：野球）を完全に心の外に追いやって、自分がこれから学ぼう、あるいは理解しようとすることに對して全力で注視する必要があります。

【解説】

以前聴いたウエイン・ダイヤー氏の講演の中でも、私達は自分の関心事にあまりに集中していることに課題があるのだと指摘されていました。悩みは私達の心の中にあり、身体全体を含めてもその他の部位には無いこと、即ち悩みは私達の心が生み出しているということでした。また、仏教においては心が自由でなく何かに囚われている状態を"執着"と表現しています。本項では私達が行き届く第一歩として、その執着を取り除き、心を解放せよとしているのです。

新しい想念・印象を受け入れる為には、私達の心は開かれた状態でなければなりません。"止水明鏡"という表現がありますが、心の中を通過する、即ち水面をかすかによぎる波動に気付く為には、私達は自らの心を平らに穏やかに保つ必要があるのです。

385 For some this will be difficult with their eyes open, for the attention will be distracted by things that are seen, so it will be best to close the eyes in order to focus the full attention on the impressions or pictures that come. At first this should not be done for more than five or ten minutes at a time. And do not expect too much at the beginning.

385 ある者にとっては眼を開けていてはこれが難しいでしょう。見えるものによって注目がそらされてしまうからです。そこでやって来る印象類や映像類に全注目を集める為、眼を閉じることが最も良いと思われれます。最初はこれを一度に5分ないし10分間以上行われるべきではありません。また、最初から多くを期待してはいけません。

【解説】

私自身、本格的な座禅を知りませんが、本項で著者が説く内容はそれに近いものと思っています。心を落ち着ける為に瞑想すること、またそれが私達の視覚を鎮める為であることが説かれているのです。

また、注目したいのは、このような瞑想は長時間行うべきではないとも指摘していることです。瞑想から直ちに効果が出るというようなものでないことも大事なポイントでしょう。

そもそも私達が自身の心境を静かにかつ鋭敏に保持する為に、これら全ての動作がある訳で、その実行により心身の疲れや惰性が生じるようでは意味が無いということでしょう。私達がやって来る想念・印象に対し如何に受け止め、それらの意図に沿って行動できる態勢を構築することが重要となるのです。

ご連絡 [2018-04-16]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、明日から今週いっぱいお休みを戴きます。
次回の更新は4月23日（月）になる見込みです。

宜しくお願いいたします。

2018年4月16日
竹島正

386 One should never discourage the mind as it proceeds to gain knowledge. So perhaps it would be best to leave the eyes open and focus the attention on the hands. Through this you will begin to realize what the hands mean to you and what an asset they are to your life. After you have received good impressions of the importance of your hands, close your eyes and see what you will get then. If you are operating properly, without your mind guessing, you should see your hands constructed of thousands of molecules all very active, never stopping to rest for a moment. And you should receive the knowledge of the type of molecules that construct the nails, joints, etc. And you should be able to see the structure of your hand and the movement of energy better than any instrument could show. You can do this to any part of your body, if you want to know how your body functions.

386 人は心が知識を得ようと前進する時、決して心を落胆させてはいけません。ですからこの場合、おそらく両目を開けて両手に注意を集中するのが最も良いと思われます。このことを通じて貴方は両手が貴方にとってどのような意味を持つか、またその両手が貴方の生涯にとってどんなに財産になっているかを理解し始めることでしょう。貴方が貴方の手の重要性について十分な印象を受け取った後に、両目を閉じてその後、何が印象として得られるか観察して下さい。もし、心が空想すること無く貴方が適切に行動しているなら、貴方は貴方の両手が何千もの一瞬たりとも休むことなく全て活動的な分子から構成されていることを見ることでしょう。そして貴方は爪や関節等を作り上げている分子達の知識を受け取ることでしょう。また、貴方は貴方の手の構造やエネルギーの動きについて如何なる装置よりも良く見ることができるとでしょう。貴方はもし、貴方の肉体がどのような機能を果たしているかを知りたいと思えば、このことを他のどの部位に対して行うことができます。

【解説】

日本語には"貴方の手足となって"という表現がありますが、まさに手と足は私達が生きて行く上で無くてはならない程の貢献をしています。よく人が死に向かう時、自らの手をじっと見ると言われておりますが、この最も身近な存在こそ、長年その人を支えて来たものだという訳です。

本項では私達の印象への感受性を高めるのに、ご自身の手を教材にせよと説いています。私達は手の存在に如何に助けられているか、その機能はどのように発揮、実現されているかを学んだ後、目を閉じて手の分子・原子が活動する状況、血液が流れ、細胞が動く状況の下、それらが発する印象を感じ取れと説いています。

長年、生命を共にして来た自らの手と印象の交流をする中で、各自の感受性も高められるという訳です。想念・印象は何処かの不可思議な世界から来るものではありません。細胞を構成する分子・原子から発せられるのだと著者は示唆しているのです。

387 This type of study will create confidence in your advancement that you may not have had until now. And you will know that you are working in the right way. For you will be observing that which the physical eyes cannot see and the spoken word cannot express. And you will begin to understand your body and its functions which are independent of the mind, although related to the whole.

387 この種の学習は貴方がこれまで得たことのない貴方自身の進歩への確信を造り出すことでしょう。そして貴方は正しい道を前進していることがわかることでしょう。何故なら貴方は肉体の目では見えず、話し言葉では表現できないものを見ることになるからです。そして貴方は心とは独立しているが、全体とは関連している貴方の肉体とその機能を理解するようになるからです。

【解説】

本項が私達に説いていることは、私達各自の身体こそ、この学習、進化の上で最も適した教材だということ。私達は日々の生活から自分の精神状態、即ち心の状況も、また自身の身体の調子も良く分かる筈です。そうした中でこれまでの目や耳からの情報でなく、直接自身の身体細胞、或いはそれらを構成する分子・原子から来る印象に関心を向けることが大切です。

私達の心に瞬間的に飛び込んでくるこれらの印象・想念は、大変素早い為それらを言葉で解釈することは難しいものだということでしょう。印象を受信した後、改めてその内容をかみ締めてそれが何を示唆しているのかを知る必要があるのです。その為には心は次々に来る印象を先ずは無抵抗に受入れ、後になってそれがどのような部分に当てはまるのかを知ろうとすることになるものと思われ。ヒントを得た後も、そのヒントの全容を掴めないながらも、それを大切に扱うことが必要だと考えるものです。

388 From here we can expand the mind into the awareness of the conscious sea of life, like we did with the telescope. And on into space, the incubator of all forms. And the more interest you have in invisible space, the more the consciousness will be impressing your mind with that which the eyes do not see. For there is far more activity in the space that you thought of as nothingness, than your mind ever imagined possible. Then you will receive impressions or pictures that you never had before. And revelations as you did with your hands in space activity and the forming of events yet to come.

388 ここから私達は丁度、望遠鏡を用いて行ったように、心を生命の意識の海の知覚へと拡張することができます。そして全ての形あるものの孵卵器である宇宙に向かって広がるのです。そして貴方が目には見えない宇宙への関心が高まるにつれ、意識は益々貴方に目が見ていないことを貴方の心に印象づけることでしょう。何故なら、そこには貴方が皆無だと考えていた宇宙には貴方が想像していた以上に遥かに多くの活動があるからです。そうすると貴方はかつてない印象や映像を受け取ることとなるでしょう。そして貴方が自分の手について得たような啓示が宇宙の活動や物事の形成についてもやって来ることでしょう。

【解説】

私達は自分の手を教材として視覚からもたらされる情報の他に、直接、手を構成する細胞の分子・原子達から印象を得るように、私達は更に進んで宇宙に目を向ける必要があると説いています。

これまで私達は宇宙を何も無い空間に過ぎないと認識して来ましたが、実際にはそれは万物創造の極めて充実した活動の場であると著者は説いています。この創造の場こそ、私達の想念がその効果を発揮し易い場であり、また生命本来の創造力が満ちた場所ということになります。

そうした活発な領域を知り、それらと印象の交流を進めることが私達を本来の進化の道に導くことになるのです。

389 I cannot tell you too much of what you might see, for if I did you would be working on what I have told you, instead of getting your own impressions. But after practicing this method for a while you may write me of results. I will then know if you are doing it right or not. You do not need to go outside and look at the sky in order to do this, for you can do it within your room. But do not be discouraged if you do not succeed in the first few tries. For there will be many habitual obstacles that will have to be removed before good results can be obtained.

389 私は貴方がこの後、見るかも知れないことについてあまり多くを語ることは出来ません。もし語れば、貴方は自分自身の印象を得ようとする代わりに、私が話した事柄について努力することになると思うからです。しかし、この方法をしばらく練習した後に、貴方は私に結果について手紙を書くのも良いでしょう。そうすれば、私が貴方が正しい道を進んでいるか、そうでないかを知ることができることになります。貴方はこれを為すのに、外に出て空を見なければならぬということはありません。貴方はそれを貴方の部屋の中でも出来るからです。しかし、最初の数回の試みで成功しなかったとしてもがっかりしてはいけません。良い結果が得られる前には、取り除かなければならぬ多くの習慣的障害があると思われるからです。

【解説】

これからは各自が自ら開拓した分野で探求して行くべきであると、著者は説いています。また自分の置かれている環境に関わらず宇宙に関心を持つべきであり、そこから得るものも多いとしています。

これらは決して何か神秘的な修行をせよということではなく、自らの意志で私達は自分の意識を宇宙にまで拡大し、そこから有益な想念・印象を得ることが出来るということでしょう。初期のアダムスキー氏の著書「宇宙のパイオニア」はこうしたアダムスキー氏のいわゆる”意識による旅行”の過程で得た知見に由来するとされています。

とかく私達は地上に縛り付けられた生活を送りがちですが、一日の終わりにこうした宇宙に自らを解放した後、眠りに就くことも良いのではないのでしょうか。

390 It took me many years to master this for I did not have the knowledge to work with that you have received in these lessons, regarding the consciousness and the mind

390 このことをマスターするのに私は多くの年月を要しました。私は意識と心に関係してあなた方がこれらのレッスンで受け取った指針となる知識を持たなかったからです。

【解説】

本項で著者がこれまで独学で本講座の内容を学んで来たことを述べています。そしてこの講座が他惑星社会の支援を受けて編纂されたとしても、その内容には著者がこれまで独力で身に付け、編み出した奥義のエッセンスが込められているということでしょう。

いわゆるテキストと称されるものは数多くありますが、重要なのは著者自身が辿った過程、進化の道程に沿って説かれていることです。後から進む私達がこうした先達の通った道筋を後から辿ることで、各自追体験しながら、誤りのない道を進むことが出来るからです。

そういう意味では、私達一人一人も同様であり、各自の足跡、歩んだ道程を何らかの形で残し、後続の者の参考とすることも意義あることかと思われます。

391 There is one thing to always remember, the consciousness is the all inclusive power and intelligence. And it is the conceiver and creator of all form life. And the mind was created to execute its instructions. The consciousness knows and sees all while the mind does not, and it should be its student. It must learn to obey conscious instructions when it becomes tired of making mistakes.

391 いつも覚えていて欲しいことが一つあります。意識は全てを包括する力であり知性だということです。そしてそれは全ての形有るものを産むものであり創造主なのです。そして心はその教えを実行する為に創られたのです。意識は全てを知っており、観ているのですが、一方、心はそうではなく、その生徒であるべきなのです。心は過ちを犯すことに飽きたなら、意識の教えに従うことを学ばねばなりません。

【解説】

本講座で私達は何を学び、理解すべきか、本項はその要点を私達に告げています。ここで注目したいことは、万物の創造の源は意識であり、それは全知全能ということです。一方、私達の役割はそれが私達に与える助言、インスピレーションに従って行動し、そのイメージに込められた意図を地上に実現することです。

全ての事柄がこの一言に尽きる訳で、このことから私達が印象に耳を傾け、実践することが如何に大切か、また求められているかが分かります。

これまでの多くの教師が私達のもとを訪れましたが、皆、異口同音にこの真理を説いてきたように思います。それ故、各自の日常の中に如何に印象に殉じた生活を送るかが重要となります。もちろん、私達はこの意識の源から来る純粋な印象に従うべきことは言うまでも無く、汚れた私達自身や同類の者達からの想念に同調するものではありません。

こうして地上に創造主の意図を再現することが私達の役割であり、それを観ることが創造主の喜びであるのです。

392 We have now laid a good foundation for the next lesson which will take us on an exploration of Cosmic space. And we will see how many will be ready for that journey and go along with us to face reality.

392 私達は今や、私達を宇宙空間の冒険の旅に連れ出してくれる次の課の為の十分な基礎を敷き終わりました。それで、私達はどれ程の人数の者がその旅行への準備が出来ており、真実に直面する為、私達と一緒に進めるか見ることにしましょう。

【解説】

著者は私達が自らの意識を使って、その探求の範囲を宇宙にまで広げるべき段階に至っていると説いています。しかし、実際には私自身を含めて多くの方にとって、この課題は高く、その達成は容易ではないと考えています。

重要な点は一気にそのような段階に到達しようと思わなくて良いことだと思います。一度に踏み出す一歩はわずかなものでも良いのです。例えば日常の時間の中で宇宙を意識し自らの知覚力、感知範囲を努めて宇宙に広げて見ることも有用でしょう。そうする中で日の光は太陽、顔に当たる風は宇宙空間、踏みしめる大地は地球という惑星と繋がっていることも感じられるようになりますし、私達が宇宙に生きていることも分かる筈です。

日々の生活の中で如何に宇宙的側面を捉えられるかがその出発点だと思うものです。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON ELEVEN

Exploration of Cosmic Space

By GEORGE ADAMSKI

393 In the last lesson we promised you an expedition into space. So we will take this step and see how well you will perceive this logical procedure.

生命の科学－学習コース

第11課

宇宙空間の探検

ジョージ アダムスキー 著

393 前の教課で私達は貴方に宇宙への探検をお約束しました。そこで私達はこの一歩を進め貴方が如何にこの論理的な手順を良く理解できるか見ることにしましょう。

【解説】

日常の私達は特に宇宙に関心を払うことはありません。多くの世事に手一杯で宇宙のことを考えるゆとりさえ無いように思われます。しかし、その実態はテレビその他の誰かが作り上げた状況に私達が支配されているに過ぎません。私達の思考の範囲は狭められていて無駄な時間を過ごしているのです。

一方、私達が暮らす惑星は宇宙と密接な関わりを持っており、最近の異常気象や地殻変動等も宇宙に密接に繋がっているものと思われます。

かつて中世の矮小化され、既存の宗教教義に支配されていた私達が、再び自らの力で科学的進歩を遂げるようになったのは、ガリレオをはじめとする天体観測が発端であったのではなかったでしょうか。今日、再び宇宙に関心を持つ私達はこれを機にまた新たな時代を切り拓くステージに立っているのです。

394 In the early days the mind felt that space was empty because the physical sight could not see anything in it, yet in recent years with instruments we find that space is active and full of invisible elements out of which forms are created. Consciousness has been trying to convey this to our minds consistently but the mind would not accept it as the sight could not see the invisible manifestations. And only through the instruments has the consciousness been proven right.

394 初期の時代には心は肉眼ではそこに何も見えない故に宇宙空間はからっぽだと感じていましたが、近年では諸装置を用いることによって私達は宇宙空間は活動的であり、形有るものが造り出される目に見えない元素類で満ちあふれていることが分っています。意識はこのことを一貫して私達の心に伝えようと努力して来ましたが、心は目に見えない創造の御わざを見ることが出来ない為にそれを受け入れようとはしなかったのです。そして諸装置を通じることによってのみ、意識が正しかったことが証明されて来ました。

【解説】

過去の聖人達は私達に自分達が知覚した宇宙空間の様々な活動や役割について説いて来ました。しかし、いずれに場合も私達はそれらの真相は学ばず、ただ聖人達の言動を鵜呑みにするだけでした。しかし、科学の進歩により私達は自分の持つ感覚器官の能力を超えて、より遠くをまたより微細な世界を見ることが出来るようになりました。

その結果、私達はようやくかつて地上を訪れた聖人達が知覚した世界観を理解出来る時代になっているという訳です。しかし、私達自らの認識を拓けようとしないうちに、時代の恩恵を受けることは出来ません。

重要な点は、私達が生きるこの地上はことごとく宇宙空間と繋がっており、絶えず相互に影響を与え合っているということでしょう。このところ続く気象の激変も宇宙空間の諸活動を反映したものでしょうし、太陽系の大きな変動期に関連しているものと考えべきでしょう。私達の日常生活は宇宙空間とも密接に繋がっているのです。

395 All planets and form bodies are born from the elements of space invisible to sense sight but not to consciousness.

395 全ての惑星と形有る物体は視覚には見えないが、意識には見える宇宙空間の諸元素から生まれています。

【解説】

全てのものは宇宙空間から生まれるということです。通常私達の目には何も無い空間のように見えますが、実は宇宙空間こそ万物の母であるのです。

実際、地上の大気は1立方メートル当たり、約1キログラムの物質が詰まっている訳ですし、その空気の質量が無ければ飛行機が浮遊することも無いのです。

同時にこれら不可視の空間こそ、万物の生みの親とすれば、私達はこれら創造力に満ちた環境の中に暮らしているということになります。また刻々と呼吸することにも単に酸素と二酸化炭素のガス交換の意味合いだけでない大きな意義もあるということでしょう。目に見えない生命力がある場合には"気"と表現されたり、般若心経で"空"と説かれています。これも本項で言う"宇宙空間"の働きを示唆しているものと思われま

396 Our physical sight is like a window pane through which consciousness sees as spoken of in an earlier lesson, so we will proceed with conscious seeing.

396 私達の肉体の視覚は以前の教課で述べたように、意識がそれを通じて見る窓ガラスのようなものですから、私達は意識的に見ることの学習を進めることにしましょう。

【解説】

これまでの学習から私達の持つ四つの感覚には大きな問題があることを学んで来ました。しかし、それら4感覚の本来の意義は本文に記されているようにその4分野を通して意識が外界を知る窓口である訳です。

つまり書く感覚器官はありのままの状況を意識に提供すべきであり、また意識はその表層の情報から更に深い状況を知るといふ具合です。

その過程で意識は感覚を統合し、表層に現れていない情報も感覚器官の悟らせることでしょう。私達、心はこうして意識と一体化することで多くを学んで行くという訳です。

397 The elements of matter are of various sizes and move through space at terrific speeds similar to a dust storm mixed with layers of gases. From time to time particles unite and when this takes place they gather other particles to themselves through the power of attraction that might be called electromagnetic.

397 その物質の構成要素は様々な大きさを持ち、空気層と混じりあう砂嵐に似た物凄いスピードで宇宙空間を移動します。時としてその粒子群は結合しますが、このことが起るとそれらは電磁気と呼ばれるかも知れない引力によって他の粒子群をそれらに集めます。

【解説】

今の世の中、誰でも手近に地球上の大気の流れを見ることが出来ます。私の知っているサイト (<https://earth.nullschool.net/jp/>) ではリアルタイムの上空の気流の状況が動画として表現されています。それらを見ると実際の私達は地上においても実に激しい大気の流れの中に生きていることが分かります。ダイナミックな宇宙の活動という訳です。

本項は更に宇宙空間でも絶えず同様な激しい気流が存在すること、またその中に新しい天体を造り出す創造的活動が行われていることを私達に説いています。これら気流を起こす原動力について著者は詳しくは説いていませんが、電磁気力に起因することを示唆しています。

宇宙全体がこのような電磁気力によって揺り動かされており、私達はその真っ只中に生きているのです。渦の中に創造的要素が現れているという訳です。

398 In the formation of planets this attraction continues and each added amount calls for a greater compression towards the center. Finally through a combustion within the center of the orb that is to be a planet it is given its own heat or warmth. This heat in turn solidifies the elements, and it also gives birth to the germs or seeds that were dormant in the particles making up the planet. And as a result the plant life, the insects and all form life that we know was borne out of the body of the planet. Our planet earth was born out of space and lives in space and moves through space at the rate of some 1100 miles per hour, so it is logical that all other planets are doing very much the same. Of course they vary in size and some have more of one kind of mineral than others, just as found in different parts of the earth, but they are all made of material found in Cosmic Space.

398 惑星形成過程ではこの引き寄せ作用は続き、各々の積み重なった物体はその中央に向けてより大きな圧縮を呼び起こします。そして遂には惑星となる筈の球体の中心部での燃焼を通じて、惑星自身の熱や暖かみが与えられるのです。この熱は次にその構成要素を固化するとともに、その惑星を作り上げている粒子の中で眠っていた胚や種を発芽させます。そしてその結果、植物や昆虫そして私達が知るあらゆる形有る生命がその惑星の身体から誕生したのです。私達の惑星地球は宇宙から生まれ出て、宇宙の中で生きており、1時間に1100マイル（訳注：時速1770キロ）程の速さで宇宙を移動していますので、他の惑星群も極めて似たように行っているとするのが論理的です。もちろん、それらは大きさは様々で、あるものは地球の異なる部分で見られるように、他に比べてある種の鉱物を多く含んではいますが、それらは全て、宇宙空間で発見される物質から作られているのです。

【解説】

本項は宇宙空間における天体の形成がどのように行われるかを私達に示しています。おそらくは今後、各自が宇宙を探求する際に遭遇するであろう状況を前もって私達に伝えて置こうとする著者の配慮かと思われま

す。注目したいのは現実には天体は宇宙に漂流する粒子や塊というかつて何らかの天体を構成していたものが、再び結合して新たな天体が造られるという点です。おそらくこの地球も天体が崩壊して放出された構成要素を材料として形成されたということでしょう。まさにチリが集まり、固まって大地が出来たという訳です。

この過程で宇宙空間に漂っていた植物の種子や菌の胞子がやがて新たに形成された惑星の表面で芽吹くことになるのです。こうした一連の創造の過程を経て大気の成分が整えられ、次に動物の発生に向かうものと思われま

す。重要なことは、私達が歩くこの惑星大地は限りなく宇宙空間の中でリサイクルされた構成要素から成り立っていることであり、私達はこの惑星のある瞬間に居合わせているに過ぎないことです。

399 Can you now see the process in action and how planets were and are created? And can you see how the matter or elements of space have the potential of making all forms found on a planet, like a tree etc? And if your sense mind can perceive what the consciousness is now revealing you are making progress.

399 もう貴方はその活動過程とどのようにして諸惑星が創り出されて来たか、そして創り出されているかが分かるようになりましたか？ また宇宙の物質、或いは諸元素が惑星上に見られる全ての形有るもの、例えば木々その他を創り出す能力をどのように備えているかお分かりになりましたか？ そしてもち貴方の感覚心が意識が現在、明らかにしようとしていることを感知できるなら、貴方は進歩を為しているのです。

【解説】

あえて極端な言い方をするとすれば、私達の地球もまた、その上に生息する私達の肉体も、本来は本分に記されているように宇宙空間で絶え間なく繰り返されている物質再生の過程の中の一段階に過ぎないということでしょう。いわば私達の肉体は宇宙の長い時間軸の中ではほんの一瞬の作品である訳です。

そうした中で私達各自の心はこれら物質に寄り添って進化の道を歩んでいるということでしょう。むしろその心の旅路こそ本来の進化の道と言うべきでしょう。その進化の道は私達自身が歩まねばならず、誰の助けも借りることは出来ません。ダライ・ラマも「実践の書 How to Practise」で、心の修練は自身でしか出来ず、それには長い年月を要すると説いています。

これら物質の気の遠くなるような破壊と再生の歴史と同様に、私達の心も同程度の修練の歴史を持っていると考えるべきなのかも知れません。

400 Cosmic Space or Consciousness knows no beginning or ending as we have said before, so there are planets and other forms in cosmic space without number. By other forms we mean suns, comets, etc., all just as solid as the earth. Now if the earth has produced out of its own body what we see upon it, it stands to reason that all other planets would be similar to the earth and consciousness conveys this to us. They all may differ according to their age as our planet has aged, for at one time there were less than 3 billion people upon it even though civilizations have come and gone. So the development of the people's minds will vary on the different planets the same as they vary in the different parts of this world, but the geometric pattern is not much different on other planets than we find on earth.

400 宇宙空間、或いは宇宙意識は以前申し上げたように始まりも終わりも知りませんので、宇宙空間には無数の惑星や他の形有るものが存在します。その他の形有るものとは、諸太陽や彗星、その他を意味しますが、全ては地球と同様に固体です。そこでもし地球がそれ自身の天体から私達がその上で見るものを創り出したとするなら、それは全ての他の惑星は地球と類似しているとする理由になりますし、意識もこのことを私達に伝えています。それらは皆、私達の惑星が年齢を重ねるようにそれらの年齢に応じて異なるでしょう、何故なら或る時、その上には数々の文明が興隆、衰亡したにも関わらず一時期は30億ほどの人々がいたからです。それゆえ、人々の心の発達がこの世界の異なる場所で違うように、惑星によって異なります。しかし、幾何学的なパターンは惑星によって私達が地球で見るとより大きな差はありません。

【解説】

古い写真を見ていつも思うことは、昔は緑少ない都市であった所が、わずか数十年で木々に緑葉が茂る落ち着いた街並みに変貌を遂げている事例が多いことです。これには人々が用いる燃料が木材から石油製品、更には電力に移行したことも関係するのかも知れません。いずれにしても〇〇並木や〇〇の名所とされる所のほとんどが実は人間の植樹によって生まれた所であることは注目すべきでしょう。いわばこれらの名園は人間の創造力の潜在的な価値を示すものです。

このことは惑星全体についても言えることで、私達は自身の持つ影響力の大きさをもっと深く自覚しなければなりません。この惑星を上質で創造主本来の息吹が表現されたものとするか、或いは荒廃したゴミの山に捨て置くのかは実に私達にかかっているのです。

過去の文明は結局、多くが滅びてしまった訳ですが、そこには単に自然災害によるというよりは、その文明そのものに問題があったと考えるべきでしょう。宇宙の法則に従う限り、私達は永續性を約束されているからです。自分自身では気付きにくい問題点も誰かが別の文明社会と接触する中でその差異が明らかになるものです。他惑星文明との交流はそうした意味合いにおいて私達がこの惑星文明を維持発展させる上で、欠くことが出来ない貴重なチャンスであることは間違いありません。

401 Before starting our excursion to some of the planets that we know about, let us take the position that is sometimes called day dreaming. When this takes place the mind withdraws its interest from the present surroundings and becomes absorbed in the so-called dream. Conscious consciousness draws the mind's attention to itself to such an extent that any one could pass before the one so absorbed and his presence would not be felt. In other words a sort of telecasting connection is made between the consciousness and the mind and time and distance do not mean anything for the mind is interested in the scenes that the consciousness is bringing to it. Many people while reading Inside The Space Ships lived the experience with me and partook of the same exhilarating feeling that I had while describing the scenery and the words of wisdom given to me. This is the state in which one must place himself - the union of mind and consciousness for both are equally real.

401 私達が知っている惑星のいくつかへの旅行を始める前に、時として白日夢と呼ばれている姿勢に就いて見ましょう。これが起る時、心は現実の環境からその関心を引き上げ、いわゆる夢と呼ばれる中に吸収されるようになります。意識的な意識が心の関心を意識自身へそのように引き寄せる為、その者の前を人が通ってもその存在は気付かれない程です。言い替えば、ある種のテレビ放送の回路が意識と心の中に形成され、時間や距離は意味をなさなくなります。何故なら心は意識がもたらす光景に関心を持つからです。多くの人々が「同乗記」を読んでいる間、私と一緒にその体験を生きていましたし、私がその光景や私に与えられた智恵の言葉を表現する間、私が得た心踊る感覚と同じものを共にしたのです。これは人が自分自身を置かなければならない心と意識の統合の状態です。何故なら両者は等しく実在のものだからです。

【解説】

私自身、本項で説かれているような"意識による旅行"を実行する段階には至っておりませんが、本文で説かれている内容から、頷ける部分も多いように思われます。

つまり、著者が私達に説いているのは私達自身の心の関心の先を自分自身や周囲の環境にではなく、本来の関心事に向けるということです。よく幼児達が絵本を読む中で、その絵本の世界に没入してしまうのですが、そのように私達自身も自らの関心事、知りたいとする対象と一体化すること、融合することが必要だということでしょう。

その為には、私達自身の取り組み姿勢をより純粋に、より謙虚に整えること、またその過程で感受した印象を素直に受け入れる必要があるように思います。その為には、二心あるような状況ではダメで、常に誠実な心境が必要かと思われます。宇宙をご自身の身体の一部と思えるような心境になれば、自分の意識で何処までも探求の旅に出ることが出来ることでしょう。

402 As an experiment let us go to Saturn. We are now on a solid body very little different from the earth except in circumference, for it is about seven times larger than our planet. The first thing that our mind it attracted to is the slightly different sky than we have known on earth. It is more opalescent than blue due to the rings of Saturn that reflect into the sky. It is almost breath taking in beauty and makes one feel he must be in God's presence. As many of the buildings are white they reflect the same opalescence from the sky, and the snow covered mountains do the same. In certain sections of the planet there are large glaciers and they reflect this coloring intensely as a mirror would. The frequencies of the colors seem to penetrate your being and you feel that you are a different individual than you have known yourself to be. You become consciously aware of that which you see and feel that you are in the Creator's household - the heaven for which you have been searching.

402 一つの実験として土星に行って見ましょう。私達は辺りの環境は別として地球とは私達の地球より7倍も大きい為にはほんのわずかの違いしかない固体天体の上に居ます。私達の心を引き付ける最初の事柄はそれが地球で知っているのとはわずかに異なった空です。それは大空の中に反射する土星の輪（訳注：複数）に起因して青色よりも、もっと乳白色をしています。それはあまりの美しさで息も止まる程であり、人をして自分が神の御前に居るに違いないと思わせます。多くの建物は白色である為、それら建物は空からの同じ乳白色を反射しますし、雪を被った山々も同じように乳白色を呈します。土星のある地域では大きな氷河があり、それらは鏡のようにこの色彩を強烈に反射しています。その色彩の波長は貴方の存在を貫くかのように見えますし、貴方は自分自身がこれまで思ってたとは異なる個人であると感じます。貴方は貴方が見るものを意識的に知覚するようになり、貴方がこれまで探して来た天国、即ち創造主の家族の中にいることを感じるようになります。

【解説】

おそらく著者アダムスキー氏にとって本項に示すように土星等の他の惑星に居ながらにして意識を移行させることは容易であったように思われます。事実、"宇宙のパイオニア"では更に生き生きと月や他の惑星の様子が綴られていますし、これらは本項で示す手法により、アダムスキー氏自身が観た光景であったのです。

またその後の"土星旅行記"でアダムスキー氏は惑星間会議が開催されたと述べています。このことから土星という惑星はこの太陽系の中で最も神聖な惑星であることが分かります。本文で記されているように土星の輪の存在が太陽光を乳白色に輝かせる作用がある等、現地に降り立った者でなければ知り得ない知見も私達に説いていることに私達は気付かねばなりません。

私達が最初に意識的に探求すべき場所は、本項で示唆されているように、優れた文明、進化した人達が暮らす惑星であり、それらの他惑星にこそ、自身の意識を探求の旅に出すよう心掛ける必要があります。

403 These are the first impressions that consciousness give to the mind. It is all so beautiful that the mind has a tendency to question if it is real, yet it knows that it is walking on solid ground.

403 これらは意識が心に与える最初の印象類です。それは皆、あまりに美しいので心はそれが現実であるか疑う傾向がありますが、それでも心は堅固な地面を歩いていることは知っているのです。

【解説】

本項で言ういわゆる"意識による旅行"について、とかく私達は何か夢のように不安定でとりとめのない現象かと思いがちですが、本項ではそれを否定しています。即ち、意識がもたらす印象は限りなく現実に近い確固たる経験だとしているのです。

もちろん肉体が移行している訳ではないのですが、それと同様に明確な印象が得られるとしている訳で、単なる白日夢とは訳が異なるということでしょう。

これまで私達はこの講座を学んで来た訳で、その学習経験を踏まえて、そろそろ意識による旅行、遠隔透視についても試して良いとする筆者の示唆が記されているように思われます。

しかし、導師を持たない今日の私達にとって、重要なのは少しずつ確認しながら進めることであり、一度に多くの階段を昇るべきではないでしょう。日々の試行を通じて、成果を確認しながら、進めるべきかと思うものです。

404 And now when we associate with the people a strange thing happens. It seems that everyone is a part of our own being for they seem to see through us and know how we feel and what we are thinking. And we wonder if we are worthy to be here and what they may think about us. But this comes from the habitual mind reaction and soon we feel at ease for we sense that they understand and are accepting us as brothers and sisters and not as strangers. You cannot detect even a trace of jealousy, envy or judgment in them. And when invited to their homes we notice that they share all things equally. This is particularly noticeable among the women for they respect each individual with the same feeling that a mother has for her child. And this is a higher respect than sisters have for each other and their relationship to all is based on the need of the other. The men in turn respect the women with the same feeling that we have on this earth for a Madonna as they are the mothers of men. And the women respect the men equally as high and honor them as the expression of Cosmic Principle-the masculine part of consciousness. And both men and women recognize the consciousness within each form as Cosmic Divinity.

404 そして私達がその人々と交流するや否や、不思議なことが起ります。彼らが私達の内側を見通し、私達がどのように感じ、また何を考えているかを知っているように思えることから、誰もが私達自身の一部のように思えるのです。そして私達は自分達がここに相応しいのか、また彼らが私達をどのように考えているか、疑問に思うものです。しかし、これは習慣的な心の反応から来るものであり、すぐに私達は安らぎを感じます。何故なら私達は彼らは私達を理解し、私達を兄弟姉妹として受け入れており、よそ者とはしていないことを感じ取るからです。貴方は彼らの中に嫉妬や妬みあるいは批判の痕跡も見つけることはできません。そして、彼らの家に招かれる時、私達は彼らが全てのものを等しく分かち合うことに気付きます。これは女性間において特に顕著です。何故なら彼女達は母親が自分の子供に対するのと同じ感じで各個人を尊重しているからです。そしてこれは姉妹が互いを尊重すること以上に高い尊敬の念であり、彼女達の全体への関係は他の者の必要性に基づいているからです。代わって男性は女性達をこの地球で私達が聖母マリアに抱くのと同じ感じを持って尊敬します。彼女達は男性達の母であるからです。そして女性達は男性達を意識の男性部分である宇宙原理の表現者として等しく、高く尊敬し敬意を払います。そして男性も女性も各自の身体の内側に宇宙の神性としての意識の存在を認めているのです。

【解説】

土星の社会はどのようなものか、本項は著者の体験をもとに私達にその一端を伝えています。いわば全ての人達が達人とも言うべき鋭敏な知覚力を有しており、相手のことを瞬時に理解でき、言葉は不要ということでしょう。そしてそれ故に生活振りは理想を現実に実現しているという訳です。

もちろんそこに生きる人々の精神レベルが惑星全体の環境に影響を及ぼす以上、あらゆる環境が至上なる深遠さに満ちているということでしょう。古来より仏陀は土星から来たと伝えられているように、まさに土星は仏国土と表現されることでしょう。

よく天使の頭を取り囲むようにリングが描かれることが多いのですが、まさに土星こそその惑星全体にリングが形成されています。このような高次元惑星から地球を訪れる人々には母国で暮らすよりはるかに多くの誘惑や危険が取り巻いていることでしょう。その中で派遣された本来の任務を実行する彼ら訪問者のご苦勞もまたかみ締めるべきです。仏像に手を合わせる時に思い出したいことからです。

405 In their presence one feels that he has been given a new birth in life. For their homes and surroundings are exquisite, a reflection of their consciousness as is everything on their planet. Planet Saturn is a balancer or tribunal planet for our system.

405 彼らの面前にあっては、人は自分が人生で新たな誕生を授かっただと感ずます。彼らの家庭や周囲の物はこの上なく洗練されたものであり、彼らの惑星上のあらゆるものがそうであるように彼らの意識の反映になっているからでず。惑星土星は私達の太陽系の天秤、いわば法廷なのでず。

【解説】

アダムスキー氏は生前、周囲の人々からある意味異常と思われれる程に、ブラザーズと呼ぶ彼ら他惑星からの人達をかばい、終始支援していたと伝えられています。言い換えれば、他惑星に比べれば、劣悪で過酷な環境での彼らの置かれた環境を理解し、彼らから与えられる助言や指導に忠実に従っていたという訳でず。

実はその背景には本項で述べられているように、彼ら他惑星人の真の価値や人格を知れば、彼らの為には全てを投げ出す気持ちも生まれれる程の人達であったということでしょう。

そうした高次な人達と接することは私達の人生にとって大変貴重な機会であり、読者の皆さまの仲にも必ずや何回かはそうした機会に巡り合うことも出来るものと思われれます。

最近はとみにそれら高次の人達と巡り会える機会を望むようになって来ました。各自の努力の方向性等、今後の進め方に助言を受けたいと思うからでず。もちろん、答えは印象としてもやって来ることでず。しかし、一対一の会話の中で得られる内容は独り独習する中よりもはるかに多くのものを学べるように思われれるのでず。

406 Here I have given you just some of the high spots and not in detail form as you might expect but you can get the details if you succeed in going there consciously. And as I have been taken there physically by space craft I will know if your impressions are correct. And this will indicate how well you are able to travel consciously.

406 ここでは私は貴方に最も重要な部分だけをお話しており、貴方が期待するような詳細には触れておりませんが、貴方はそこに意識的に行くことに成功すればその詳細を得ることが出来ます。また、私はそこには肉体のまま連れて行かれた為、私は貴方の受けた印象類が正しいかが分かるでしょう。そしてこのことは貴方が如何に上手に意識による旅行を出来るようになっているかを示すことでしょう。

【解説】

本項で著者が述べているように、第11課を学ぶ私達は各自、自身で意識による旅行を試行するように求めています。つまり、これまでの学習により、私達はある程度の基礎的知識を得ましたので、今後はその応用例として自身で宇宙を旅して見よと説いている訳です。

その結果についてはもちろん各自によって異なる訳ですが、重要だと思ふことは、これらの知見は実践することが大切だという点です。単に知識として理解するだけでは十分ではありません。実践する中で確認することが体験として記憶され、また新たな心境が生まれるというものです。

そういう意味では、従来の修行のように堂に籠もって沈想に集中することよりは、世間に出て衆生と交わる中で道を説くこと、また体験することが遥かに重要なことのように思われます。

407 Jesus has said that where a man's heart is there he is also. It could be said that where a man's consciousness is there he will be.

407 イエスは言っています。人の心がある所、その者もまた居ると。それはこのようにも言えることでしょう。人の意識のある所、その者もまた居るであろうと。

【解説】

イエスが言ったとされるこの言葉はどのような意味を持つか、よく考える必要があります。即ち、自らの意識が肉体から離れば、肉体は単なる物体にしかなく、やがては朽ち行くだけですし、人が死を迎える際に、本人の本体が引き継がれるのは意識ということになります。その意識こそが自分の本体であり、肉体は仮の衣服に過ぎないということでしょう。

それほどに大事な意識なのですが、私達自身、肉体については様々な健康法をはじめ美容その他について随分と気を使っていますが、肝心の意識については手当をまったくしていないように思います。

私達が意識による宇宙旅行をする際、私達は自らの意識を自身の肉体から一時的に解放して、大自然、大宇宙の中を自在に探求するという本来の研究、進化の道を歩むことになります。

408 Now we will observe Venus and as we do we find a difference here for it is a smaller planet than Saturn and much of the time it is covered with clouds. Although the clouds break here and there and allow the sun to shine through, the air is humid but not oppressive. It is very much like other planets in formation for it has a variety of climates with ice and snow in some parts.

408 今度は私達は金星を観察しましょう。するところでは違いを見い出します。何故なら、それは土星より小さな惑星で、多くの期間、雲に覆われているからです。しかしそれでも、そこここで雲が途切れることで太陽を輝き渡らせませし、大気は湿度を帯びていますが、重苦しくはありません。その構成は他の惑星ととても良く似ています。ある部分には氷や雪もあるような多様性に富んだ気候条件を有しているからです。

【解説】

ご存知のようにアダムスキー氏は生前、他惑星人の宇宙船に乗って金星にも行ったことがあります。その間の出来事は金星旅行記に紹介されているところです。その旅行記を読んで分かることは、土星と同様、金星も地球に比べて遥かに進化発展した惑星社会であることが分かります。

その実体験を踏まえて著者アダムスキー氏は本項で、私達に意識を用いて金星も観察せよと説いているのです。もし、私達が正しく意識を用いているのであれば、本項で記載のあるような金星の状況が察知出来るであろうということでしょう。

土星や金星は私達の地球に対して太古の昔から支援を続け、多くの教師を派遣して来たものと思われます。それら導師の故郷がこの両惑星ということになります。今日私達に残されているのはこれまでのアダムスキー氏の著作であり、講演記録ではありますが、本項では夜空の土星や金星と親しむことで、その文化の片鱗を理解すべしと示唆しているように思われます。

409 Geometrically the people are very much the same as found on earth and other planets but they are interested in a wide scope of things and have very much the same type of environment that we found on Saturn.

409 幾何学的にはその人々は地球や他の惑星で見る人々とほとんど変わる所がありませんが、彼らは物事への幅広い関心を持っていて、土星で見られるのとほとんど変わる所の無い環境を有しています。

【解説】

おそらく環境というものはそこに暮らす人間の放つ想念・印象から大きな影響を受けるものと思われます。仏陀が歩いた跡には花が咲いたというような逸話はその人物の放つ想念に環境が呼応した状況に周囲の者が驚いたことを伝えているのです。

金星については、アダムスキー氏が亡くなった妻メアリーに再会した場面が金星旅行記に記されており、落ち着いた中に各人が各々の豊かな人生を送っている様子が示されています。

その生活には必要なモノは無償で与えられることや各自の才能を伸ばす配慮がなされており、芸術性も重視されているように思われます。地球に比べ何ら束縛の無い生活ですが、その中で自分の役割を見出して社会に奉仕することは、ある面では厳しい自戒を求められる社会でもあります。

現状の私達は決して金星や土星に生まれ変わったとしても大変苦しい生活を送ることになりますし、必ずしも心地よいものではないように思われます。病気というものが一切無い中で、原因はどうあれ、独り苦しむこともありえますし、絶えず他人から認められたいとする気持ちの中、自由放任型の生活の中では、自分を見失うかも知れません。まずは私達としては、将来これらの高次元惑星に転生できた場合に備えて、自分自身、物事の本質を見定める訓練をして置く必要があるというものでしょう。

410 There is just one head of Government with many co-workers who look after the affairs of humanity. And the respect for each other is very much the same as we found on Saturn.

410 そこには人類に関する事柄の世話をする多くの協力者を持つ政府の首長はただ一人存在します。そして互いに尊敬し合うことは土星で見られるのと大変良く似ています。

【解説】

各惑星は一つの家族のように暮らしているということでしょう。その一大家族を見守る為に責任者が必要だという訳です。最終的に決断する人、全体を見渡して判断する人物が必要だということは極自然のことでしょう。

ここで注目して戴きたいのは高度に進化を遂げた惑星社会においては、何事も確立しており、何らの問題も無いように思いがちですが、絶えず変化する宇宙空間の中では、その惑星を守る為、或いは構成員の問題を解決する為、政府機関が必要であり、最終判断を行う首長が必要だということです。

まだ地球では各々の国の中でさえ混乱や争い事が多い訳ですが、将来的には本項に記されているように、地球上の全ての人々が一つの国民となるべきでしょう。国家間の争いを無くす為、国境は取り払う必要がありますが、現状ではそれを妨げる様々な要因があり、英国のEU離脱のように、逆の方向に進んでいるように思われます。

いずれにしても、地球の私達が本来目指すべきは「一大家族」 (One Family)の概念であり、互いに助け合い、調和して暮らすことです。

411 As each planet represents some phase of humanity, Venus represents Cosmic Love that binds all things together as one.

411 各々の惑星はそれぞれ人間性の何らかの側面を表現しており、金星は全てのものを一つに結び付ける宇宙の愛を象徴しています。

【解説】

家庭や会社、その他組織の雰囲気は、原因はとにかく、その構成員の放つ想念・印象の総体に由来していることは確かです。また広く国や惑星全体も構成員の持つ精神波動を集約体現したものになる筈です。

そういう意味では、金星は「愛」を象徴するとされていることから、およそ金星人の想念パターンが「愛」という概念に基本を置いていることが分かります。日本的に言えば、「慈悲」を含めた広い愛情ということでしょう。観音菩薩もそれに近いイメージかと思われます。

おそらく世界各地で「聖母マリア」の奇跡や信仰がありますが、それも金星に由来しているものと思われます。太古から繰り返し支援を送ってくれているのも、金星に由来した方々ではないでしょうか。今度こそ、私達はオーソン他の方々の恩に報いる必要があるのです。

412 Agriculture and the manufacturing of the necessary commodities is all based on production for use. And all individual talents are given an opportunity to develop and express. Every phase of their expression is extremely artistic and elevating to view as they express love in everything that they do.

412 農業や生活必需品の製造は全て使用に基づいています。また、全ての個人の才能はそれを発展させ表現する機会が与えられています。彼らのあらゆる表現の姿は彼らはその行うこと全てに愛を表現する為、極めて芸術的で高揚させるものとなっています。

【解説】

本項のポイントは、金星その他の高次に進化した惑星では必要以上のものを生産しないということでしょう。反面、地球では利益が上がる場合にはその利益を増やし、商売 (business)を拡げようと規模を拡大するのは普通です。しかし、その結果、資源が枯渇し、環境汚染が出現するのです。また自国の余剰産物を他国に輸出して自国の産業を維持しようとする動きも現在の地球では横行しており、途上国の正常な発展を妨げています。

これらの事柄は、資源や環境の浪費・乱用に他なりません。その影響は国境を越えて地球全体にまで広がっているのです。

一方、本項で述べられている "manufacture (製造業)" についても、言葉の持つニュアンスはむしろ "手工業" に近い響きを持っています。即ち、職人が一つ一つ丁寧に品物を作るような状況を示唆しているように私には思えます。一つ一つの製品が工芸品のように芸術性に富んだものではないでしょうか。ご存知のようにスカウトシップ自体、何千年もの間、モデルチェンジが無いような究極の設計であることも、彼ら他惑星人の物作りの思想を反映していると言えるでしょう。

413 I have now given you a foundation and you may fill in what you will consciously observe on Venus.

413 私はこれで貴方には基礎を授けましたし、その後は貴方が金星を意識で観察するものを埋めて行けば良いでしょう。

【解説】

本項の短い文の中に、本講座をこれまで進めて来た著者の思いが良く表現されています。

即ち、これまでの教科によって私達各人が今後生きて行く上での基礎は十分に伝えたということです。今後は日々の実践訓練によって私達各人が各々工夫をし、体験を積み重ねて行くこととなります。

これまで私が見てきた限り、多くの方々が成果を上げ、成功されていますが、それでも思い通りに生きることが出来ない事例も多く見て来ました。実はそれほどに現実の地球社会で生きて行くことは難しいことなのです。しかし、仮に思い通りに進まなかったとしても、落胆することはありません。痛い体験であっても、それはその方の貴重な記憶となり、次なる人生に活かせる筈だからです。

私達は変化する諸条件の中に生きています。その苛酷な状況の中でもどれ程の信念を持って金星や土星の先進世界を拠り所として生きて行くかが問われています。

414 Next we will go to Mars, a planet I have not been on physically. Consciously I find the planet rugged, quite commercial and industrial and very similar to earth. Agriculture is in second place for water is scarce in inhabited areas and most of it is dry farming. The water that they have is channeled from the polar caps and melting ice areas. There is plenty of salt water and in recent years they have been converting it for use as we are doing in some places. There are canals of salt water that carry the ships to inland cities where the water is also converted for use. In the early days they tried mixing salt water with fresh water, about a two to one mixture of fresh and salt, but the amount of fresh water was not adequate and the mixture was not good for agriculture.

414 次に私達は火星に行きます。肉体としては行ったことのない惑星です。意識で見ると私にはそれが荒れて、まったくの商業的、工業的な場所であり、地球に大変良く似ていることが見えます。居住地域には水が少ない為、農業は二次的な地位であり、そのほとんどが乾燥農法です。彼らが用いる水は極冠や融解する結氷地域から水路を引いてもたらされます。塩水は豊富にありますし、近年には私達も幾つかの場所で行っているようにそれを変換しています（訳注：例えば逆浸透膜法等により塩水を淡水化し利用していることを指す）。内陸部の都市に船舶を運ぶ塩水の運河がありますし、そこでもその塩水が転換され利用されます。初期の時代には彼らは塩水と淡水を2対1に混合しようとしたましたが、その淡水量では不適切で、その混合水は農業に向かなかったのです。

【解説】

SF作家Ray Bradbury原作の「火星年代記The Martian Chronicles」をご覧になった方も多いものと思われます。また、「スター・ウォーズ」の映画シリーズも何処か火星に似た乾燥した惑星をベースに物語が描かれています。荒涼とした自然環境の中で高度に商工業が発展した惑星、それが火星ということでしょう。

本文中にはその水不足の問題について、原因は述べられていませんが、海水の淡水化等、今日地球でも行われているように、工業力で飲料水を造水する仕組みが火星で行われているとしています。

おそらく本来は自然豊かな惑星であったにも拘わらず、惑星全体の自然環境が悪化する程、自然を浪費してしまったことに原因があるということかと思われます。そういう意味でも火星は地球の将来の姿を暗示しているのかも知れません。

私達は自然と調和する生き方、今日流に言えば、「持続可能Sustainable」な生き方をすべきことは明らかなのです。

415 Mars also has a population explosion. In another year I have been promised a trip to Mars and when I go I will prove to myself how close my mind has received the impressions given to it by consciousness.

415 火星もまた人口爆発にあっています。別の年に私は火星への旅行を約束されて来ましたので、行った時は私の心が意識によって得られた印象を如何に忠実に受信していたかを自分で確かめようと思っています。

【解説】

結局、アダムスキー氏は火星に行くことなく生涯を終えたのですが、氏の周りには宇宙人による様々な計画が立案されていたものと思われます。その多くは実現しないまま終わってしまったということでしょう。以前にも紹介した通り、アダムスキー氏は死の数週間前まで冬季の北米各地を行き来していたのです。

さて本項で記されている火星の状況ですが、人口爆発という表現で急激な人口増が発生しているとしています。以前、誰かから聞いたことですが、宇宙の様々な惑星に各々転生した人達がかつての過ちを修正する機会として適切な惑星に生まれ変わって来るという話がありました。さすがに広い大宇宙でもその修正の機会に適した惑星は限られており、かつての自分が過ごした惑星がその修正には最適であることは間違いありません。即ち、かつての過ちを修正する為に元の惑星に戻って来ているという訳です。

そういう意味では崩壊に進みつつあるこの太陽系でかつて過ごした人達が以前の自らの行動を修正する為、大挙して元の惑星に転生して来ているのかも知れません。これは地球についても言えることだと考えています。

416 A man can consciously travel the Cosmos as I stated before if his mind can trust what consciousness reveals to him. Some of us not knowing how this is done have traveled the Cosmos many times. In some cases it has been during the sleeping hours when we have had dreams that impressed themselves vividly on our waking mind. Especially of strange places where it would be impossible for the mind to promote the dream.

416 人はもし自身の心が意識がその者に明かすことを信じる事が出来れば、私が以前述べたように、宇宙を意識で旅することが出来ます。私達の幾人かはそれがどのようにして行われるかを知らないまま、何度も宇宙を旅して来ました。ある場合は、それは目覚めた心にそれらの事柄を明瞭に印象付ける夢を見る寝ている間に起っていました。特に、心が夢を進めようなど出来ようのない見知らぬ場所についてはそれに属します。

【解説】

意識による旅行は誰でも出来るし、また各自その一部を体験していると本項は説いています。何か特別な修行や儀式を経ずとも、ある瞬間、私達の心が意識と融合した際にそれが可能となるということでしょう。

本項の示すことでいつも思い出すことは、映画「コンタクト」で主人公が大型の機械の中で体験する遠い宇宙空間の先にある惑星で、亡くなった父親と再会するという場面です。地球の時間ではほんの僅かの間なのですが、主人公はその間、時空を巡っての壮大な旅を体験し、その果てに月が二つある地球に似た惑星に辿り着きます。

上記の体験はまさに時間を超越した宇宙の旅を示唆しているように思えた訳です。直接的に肉体的な宇宙人とのコンタクトのストーリーではありませんが、何か本項の示すイメージに沿ったものではないかと考えています。私達が宇宙意識に従い、同期する際に起こる時空を越えた体験について、示唆している映画ではないでしょうか。

417 We must remember that consciousness is the sea of life within which all forms are living regardless of what they may be. And outside of which there is no life. So when the mind becomes alerted that it is living within that sea and must depend upon the sea of consciousness for its own life then this awareness begins to impress itself upon the mind with new knowledge of various phases of its action and the various types of forms through which it expresses. Like certain fish in the ocean that are alert enough to sense a disturbance, conveyed through the water in which they live.

417 私達は意識はありとあらゆる全ての形有るものがその内側に生きている生命の海であることを覚えていなければなりません。そしてその外側には生命は無いことも。ですから心は自らがその海の内側に生きており、それ自身の命について意識の海に頼らなければならないことに感づくようになると、この気付きは心に対して意識の様々な行動の側面や意識が表現する様々なタイプの生命形態に関する新しい知識を印象により授けようとしはじめます。それは丁度、大洋の中のある魚が自らが住む水を通じて運ばれて来るうねりを感じ取るだけの鋭敏さがあるのと似ています。

【解説】

本項は本講座で言う"意識"とはどのようなものか、そして私達がその中でどのように暮らしているかを良く表しています。エネルギーである想念・印象が伝播する為には媒体が必要であり、それが意識が"生命の海"と表現される由来となっています。

私達は意識という海の中で生きている訳で、その海の中に生きる他の生命も皆、私達の同胞、兄弟姉妹である訳です。また各生命体が発する想念・印象はその海の中を伝播し、停滞することはありません。鋭敏な魚達が海の些細な変化にも敏感であるように、私達は意識を頼りに生きています。

また、海が何処までも繋がっていることも重要なポイントです。膨大な宇宙空間もその隅々にまで意識が浸透しており、想念その他、波動の行き来は容易に行われます。その宇宙の中で起こる出来事や発せられた想念・印象はことごとく意識の中に記憶され、未来永劫残ることになりますし、それによって蓄えられる知識に制限はありません。私達はこのように進化する意識の中に生きています。

418 Man can have this same alertness from the conscious sea of life when his mind is aware of its possibilities of receiving impressions from anywhere in the Cosmos. When this phase is understood and used man can be anywhere he wishes to be, either near or far away. For the Real You remember is the consciousness. The mind and the body are instruments which you use.

418 人はその心が宇宙の何処からの印象でも受け取ることが出来ることに気付いた時、その生命の意識の海からこれと同じ覚醒を得ることが出来ます。この側面が理解され応用されると、人は近くにも遠くにも自分が望むどのような所にも身を置くことが出来ます。何故なら、ここが大事なところですが、真実の貴方という存在は意識なのです。心と肉体は貴方が用いる道具です。

【解説】

これまで私達は「心」と「肉体」そして「意識」について学んで来ました。その中でどれが最も大切なものかは本項が端的に述べている通り、「意識」こそ最重要視しなければなりません。今まで現実主義者或いは広く一般の地球社会では「肉体」を重要視して来ましたし、一方の精神主義者は「心」こそが重要だとして来ました。しかし、このアダムスキー哲学を学ぶ人達の中でも精神性を重視するあまり、現実社会に適応出来ずにいる方々も残念ながら多いのが実情でしょう。

しかし、本項で述べられているように、「肉体」も「心」もこの「意識」の前には単なる道具に過ぎない程のものであることが分かります。それ程に宇宙を貫く「意識」は私達に多くの恵みをもたらす存在であり、この「意識」こそが創造主に直結した力を持っているという訳です。

私達は自らの中にこの「意識」の要素を感じ取り、それらと親しむことによって常に若々しい生命の発露となる必要があります。

419 Many times when I was teaching in the early thirties a student would be sick and would not be at the class, yet on the following week when they returned he would report that he had not missed the class. For I was at the bedside giving the instructions yet I was not missed in the classroom. I was there before the students giving instruction through my mind and body while at the same time my consciousness was at the bedside of the one who was sick. It is like using two speakers with one microphone. Consciously I was conveying to the mind in my body that which was given to the students. In one place I was a solid form and in the other a thought form.

419 1930年代の初期、私が教えていた時に何度となく一人の生徒が病気になりクラスに出席することが出来ないことがありました。しかしそれでも、翌週にある次の授業にはその生徒は決まって自分は授業を受けられなかったことはないと報告するのです。その理由は私は彼のベッドの脇に居て、教えを授けていたからというのですが、私はクラスに出席しなかった訳ではありませんでした。私は当時は生徒達の前で心と肉体を通じて教えを授けておりましたが、同時に私の意識は病気の一人のベッドの脇に身を置いていたのです。それはマイク1つで2つのスピーカーを使っているのに似ています。意識的に私は私の肉体の中にある心に生徒達に教える事柄を伝えておりました。一つの場所では私は固体として形あるものでしたが、他の場所では想念の形態であったのです。

【解説】

アダムスキー氏がUFO問題に関与する以前、ラグナビーチ周辺でThe Royal Oder of Tibetという精神改革活動をしていたことは良く知られているところです。本項はその1930年代に起こった事柄について紹介し、今後の私達の訓練の参考とするべく記載されています。

これら肉体から離れた遠隔地に姿を現すことは、丁度、映画「スター・ウォーズ」に出てくるホログラム投影のように考えられますが、より重要な所は、先ず教師本人がその場に居ない生徒にも同一の教えを授けたいという意志があり、また受け手の生徒の側にも教師の教えを受けたいとする願望があった上での現象という点です。送る側と受ける側の波長が一致する中で、はじめて実現する事柄だということです。

聖書には同様なことが頻繁に起こっており、イエスが多数の場所に出現したという状況も記載されていたと記憶しています。また、現代での聖母マリアの出現等々、多くは奇跡と称されますが、これらも本項に記されている通り、送り手の意識が現象化して現れた姿であると考えられます。

420 And now I will explain what I mean by a thought form. Man is a thought manifestation of consciousness like a shadow is a manifestation of a form. So in the classroom I was manifesting as a solid form and at the bed side I was manifesting as a shadow of that form. A thought form can be sent and felt at any distance while a solid form cannot. This has happened many times even outside of the classroom. When I was lecturing in Pasadena someone would ask my help for a sick friend. I would deliver the lecture on a normal bases and at the same time go to the bedside of the sick person. I did not need to know the person nor the address for consciously I was in both places. When I next met the person that had asked for my help she was happy for the friend had improved immediately and in a short time he was out of bed and well on the road to recovery. My experiences are not limited to sickness alone for I have been able to help out in other types of trouble. These things did not take place during my sleeping hours but when I was active with something else. So this has been my experience with conscious traveling.

420 そしてここで、私が想念の形態と言うことで何を意味したかったかを説明しましょう。影が形あるものの現れであるように、人は意識による想念としての現れです。ですから、その教室の中で私は固体の形態として現れており、ベッドの脇ではその形態の影として現れていたのです。想念の形態は如何なる距離にあっても送られることが出来、感じ取られますが、固体の形態はそれは出来ません。このことは教室の外でも数多く起りました。私がパサデナで教えていた時、誰かが来て病気の友人を助けて欲しいと私に求めて来ました。私は通常の通りのレクチャーを行う一方、同時にその病気の人物のベッドの脇に行ったのです。私にはその人物やその住所知る必要はありません。何故なら意識としては私はその両方の場所に居たからです。次に私の助けを依頼したその人物に会った時、彼女はその友人が直ぐに良くなり、わずかの内にベッドから離れて回復への道程に進むようになったことで喜んでおりました。私の体験は病気に限られてはおりません。他の種類のトラブルから助け出すことが出来たからです。これらの出来事は私の寝ている間には起らず、私が何か他のことで活動している時に起っていました。ですから、これは意識による旅行に関する私の体験であった訳です。

【解説】

本項で記されている内容は、このシリーズにおける究極の学習レベルではないかと思われます。意識を用いた自分自身の投影も最終的には私達に可能となるという訳です。

前項でも述べましたが、古来から聖人達の奇跡として数多くの逸話が伝えられていますが、おそらく一つ一つを本項に照らして精査して見ると、皆、それら聖人達が意識を用いて行った行動であることが分かるのではないのでしょうか。

もちろん、各自にとってその段階まで精進することは大事なのですが、それより遥かに重要なことは、それら聖人達が私達を助けたいと発願し、自らの意識を用いてその姿を具現させ、私達に示して呉れたということです。その意図を受け止めた上で、私達もそれに倣うよう、心して精進する必要があります。

421 But when my interest was taken up with flying saucers these experiences ceased. For as Jesus said, you cannot serve two masters without neglecting one of them. But now as I start to teach again I am returning to my original service.

421 しかし、私の関心が空飛ぶ円盤に奪われた時、これらの体験は無くなりました。何故なら、イエスが言ったように貴方は片方を無視しないで二人の主人に仕えることは出来ないからです。しかし、今や私は教えを再び始めましたので、私は元の奉仕に戻りつつあります。

【解説】

前項でも述べましたように、このような（教師の幻が現れる）現象には、その教師の意思が強く働いていることが分かります。導師が弟子を思って遠方からメッセージ（思念）を伝えようとしない限り、そのような現象は起きないのです。

そういう意味では、アダムスキー氏は常に求めて来る人々に惜しげなくその者に必要となる知識と助言を与え続けていました。私も氏のミーティングテープの中で「私に質問をせよ」と語っている場面を聞いたことがあります。人々の持つ疑問や知りたいことを通じて、人々に必要な知識をタイムリーに与えていたということでしょう。同様の事は同乗記にも、ロスアンジェルスのホテルで宇宙人と初めて会見する前に、氏が教え子と久しぶりで会った時の模様が記されていることはご承知の通りです。

もちろん、このような意識による遠隔地への移動は、私達の目標の一つですが、その実行に当たっての第一の心構えは、本項に記されている通り、他者への支援にあることは明らかなです。遠く離れた地で病の床にある友人を支援することもその一つです。

422 I am only giving my experiences to show that man's innate ability is of his own consciousness and has nothing to do with mysticism. But rather it is an understanding of the law or the other half of oneself - the conscious part. 99% of humanity is living the mental side of life unaware of their conscious ability or conscious consciousness. Consciously you are free to go any place in the Cosmos but mentally you are anchored to one place. As I was anchored to the classroom but consciously I went to where I was needed. And the law is just as real on the conscious side as it is on the mental side. Consciousness is the permanent side while the mental is the changing side of life. Always changing because the mind is learning while consciousness is all knowledge.

422 私は人の生来の能力は自身の意識によるものであり、神秘主義とは一切関係が無いことを示す為に自分の体験を述べているだけです。むしろそれは法則の理解、自身の半身即ち意識の部分の理解と言えます。何故なら99%の人類は自分達の意識上の能力即ち意識的意識について気付かぬまま心の側で生きているからです。意識の上では貴方は宇宙の何処にでも行ける自由がありますが、心の上では貴方は一箇所に錨で繋ぎ止められています。私とその教室に繋ぎ止められていた時でも、意識の上では私は私を必要とする場所に行ったのです。そして法則は心の側でも意識の側でも現実に働きます。意識は永遠の側にありますが、心は人生の変化する側にあるのです。意識は全ての知識である一方、心は学ぶ過程にある為、常に変化しているのです。

【解説】

このような遠隔地への意識の移動能力について、アダムスキー氏は本文で誰にも生来持っている能力だと説いています。その発揮が出来ないのは、普段、私達は意識ではなく、心に依存しているからだとしています。私達の心はこの意識の存在を認めることなく、その限られた体験を通じて学習の途にある一方、意識は生来、全ての知識を有しているという訳です。

おそらく本課は私達にとっては難解な教科なのかも知れません。自由自在に自身を移動させるとは分かり易く表現すれば、"天狗"や"仙人"のような能力であり、私達は究極のレベルとしてそのような能力を開発しようとしているのです。

意識、心、肉体の3要素がある中で、もちろん肉体は物質から構成されていますが、心もまた、もし結果（物質）に左右されているとすれば、それは物質に左右されていることとなります。私達各自が生来、受け継いでいる意識の活用こそ、求められているということです。その意識との融合を通じて私達は文字通り、宇宙を自由に行動することが出来ることとなります。

423 What is meant by entrancement? The accepted idea of this is a misrepresentation of reality in the belief that a master is guiding one as spoken of before. Should such an impression or vision come to you during your development do not be alarmed for your conscious self will have this feeling when viewing other parts of consciousness.

423 忘我とは何を意味するのでしょうか。これについて一般に容認された概念は、以前にも述べたように、師がその者を導くと信じるという現実を誤った表現なのです。貴方の進歩の過程でこのような印象あるいは光景がやって来ることがあったら、怖れないで下さい。何故なら貴方の意識上の自己は意識の他の部分を見るとこのように感じるものだからです。

【解説】

普段、なかなか"忘我"という状況にはなりにくいかも知れません。しかし、それが起こった時に慌てず、事の本質を理解して置くことが必要です。決して何か他の存在に操られるような事ではなく、忘我の状態にある者は、別の側面の意識を見ているのだということを知って置いて欲しいと著者は私達に説いているのです。

おそらくこのような状況は意識による旅行においても生じていることでしょう。即ち何か通常とは思えない意識的体験をしている時に、部外者から見ると本人は忘我の状況に見えるものです。

画家が大作に向かって絵筆を振るっている時や、音楽家が楽器と一体になって楽曲を奏でている時、本人は忘我の状況にあるものと思われれます。時空を超えてその行動に没入している中で、優れた芸術性が生み出されているのです。

424 Remember your mind cannot absorb all inclusive consciousness in a moment so it must come in parts or different phases in the beginning until the mind is firmly developed in relationship to consciousness. i.e. A one inch hose will carry one inch of water but when the water comes out through the nozzle it separates into hundreds of drops of various sizes and shapes and each could be labeled as different according to our specifications. But each drop that falls upon vegetation gives moisture and life giving substance to that which it touches. Yet the essence of the drop of water unites with all the other drops of water as a whole, no different than it was in the hose. And the flow of Cosmic Consciousness is like the water in the hose. And it constantly separates itself for the service to be rendered to the lesser manifestations without which they could not live.

424 貴方の心は一度に全てを内在する意識を吸収することは出来ない為に、意識は心が意識との関係において確実に成長するまでは、最初は部分的或いは異なる種々の側面としてやって来るということ覚えておいて下さい。それは即ち、1インチのホースは1インチの水を運びますが、ノズルを通して水が撒かれる時は水は様々な大きさや形の何百もの水滴に分裂します。その一つ一つは私達の分類によれば各々異なるラベルを貼られるのです。しかし、植物に降り注ぐ一つ一つの水滴はそれに触れるものに潤いと命を与える物質を授けます。しかし、水滴の本質は他の水滴と共に全体として統一されており、ホースの中にあった時と何ら違いはありません。そして宇宙意識の流れもホースの中の水のようなものです。それはそれ無しには生きて行けない、より下等な生命の現れに自らを委ねるといふ奉仕の為に自らを絶えず分ち与えているのです。

【解説】

よく言われる言葉に"私達はパイプのようなものだ"という言い方があります。つまり、私達自身には何ら機能は無く、ただ内部を通じて因から来るものを放出し、表現することだけだというものです。本項で著者が説いているのも、同じ意味合いです。私達は自身を通じて"因"から来る知性を表現する者であるのです。

しかし、人によってパイプの大きさは異なり、表現する規模や影響の大きさに差があることは確かです。それでも精一杯の表現は次の発展に繋がります。こうして一つ一つ私達は体験を積み重ねて成長して行くという訳です。

ここで重要なことは、十分な表現が出来なかったからといって、焦らないことです。たとえパイプの径が小さくても中を流れるものは皆、同じ要素を備えており、完璧なものです。一人一人から表現されるものは、皆一つの源泉から湧き出し、個々の領域に与えられた恵みとして尊ぶ必要があるのです。

425 In other words the Cosmic Mother and the Cosmic Father never wean their creation. When the mind does not understand this process it has a tendency to label the effects as the mystics have done. Let me give you an example of how the mind labels things it does not understand. For this we can use the experience of Jesus on the Mount of Transfiguration. His mind at that time was entranced by consciousness for he had given his mental will over to the will of consciousness as he became a listener and observer. And when he did this his face changed to represent the many individual forms through which his mind and consciousness had expressed before and he was fully aware of what was going on. And the disciples that were watching him observed the many changes of facial expressions and told him that to them he had appeared as Moses, etc. His answer to them was, "My life is the life of the many." In other words he had lived all of those stages of life and the consciousness reviewed the stages on the screen of his mind, thus bringing his mental life up to the present stage while the others observed.

425 別の言葉で言えば、宇宙の母と宇宙の父は自分達の創造物を決して乳離れさせることは無いということです。この過程を心が理解しない時、心は神秘主義者達がこれまでして来たようにその結果に偏見のラベルを貼ろうとする傾向になります。ここで心が自分が理解しない事柄に対して如何にラベルを貼ろうとするかの例をお示ししましょう。この目的の為、変容の丘におけるイエスの体験を例に用いることが出来ます。この時、イエスの心は意識によって忘我の状態にありました。イエス自らの心の意志を意識の意志の上に捧げた為、聴く者、観察する者となった為です。そしてイエスがこのことを行う時、その顔はイエスの心と意識が以前表現した多くの個人の顔かたちを再現しはじめたのですが、イエスは何が起っているのかを完璧に気付いていました。そしてイエスを見守っていた弟子達はイエスの表情が多くの変化を起こすのを観察し、イエスにイエスがモーゼやその他のように見えたと話しました。彼らに対するイエスの答えは「私の生涯は多くの生命からなっている」でした。別の言葉で言えば、彼はこれら全ての生涯の各段階を生きて来ており、意識がイエスの心のスクリーンにこれらの段階を回想させ、今日に至るまでのイエスの心の生涯を引き寄せ、それを他の者が見たということです。

【解説】

本項はイエスの変容として伝えられている場面について述べられています。以前からアダムスキー氏はイエスの時代に地球に来ていて、高弟ヨハネであったと伝えられています。あたかもその場に立ち会った者しか分からないような描写が為されており、その言い伝えを裏付けるものとなっています。

ここでのポイントは、私達の容姿は私達の精神的内面を反映したものであるということです。時が経ち、転生を経たとしても当時の心境を再現出来れば、容姿は当時を再現するものとなるという訳です。私達の肉体は私達の内面の状況をそのまま反映するべく絶えず活動しているのです。

言い換えれば、各自の容姿はこれまでの精神性を反映するものであり、結果物ということになります。それ故、少しでも穏やかで安定した風貌を保ちたいのなら、まずは私達の心境を温和なものに精華させる必要があります。

426 This is no different than if you were to go back to the day of your birth, entrancing your mind or interesting it with your growth to the present day. Your consciousness would bring to mind the various stages of your development and experiences through which you have gone. And with this would come the many changes of facial expressions. And this is what happened to Jesus at that time for he was having the experience of realization while the disciples were just observing.

426 これは貴方が自分の今日までの成長に対して自分の心を忘我にするか、関心を持たせることによって自分の誕生の日に戻る場合と違いはありません。貴方の意識は様々な貴方の発達段階や貴方が乗り越えた体験類を心にもたらずでしょう。そしてこれと共に多くの表情の変化が生じるのです。そしてこのことがその時、イエスに起りました。彼は弟子達がただ見守る間、その具現化体験をしていたのです。

【解説】

私達は時折、各自の人生を振り返る必要もあります。もちろんそれは昔を懐かしむことに意義があるものではありません。これまでの人生の歩みを総括して、自分自身の中の至らない要素を洗い出し、これからの人生にその体験を活かす為ですが、人知れず助けて戴いた人生の師や創造主の慈愛に感謝する為でもあります。

長い人生を生きることは各自貴重なそして時には苦痛を伴う体験を経ることでもあり、それらを乗り越えた今日がある訳です。そういう意味からもこれらの体験で得た知識・知見は貴重なのですが、私達地球人の場合、その多くは高齢期に記憶から失い、更に死後の転生時に継承することも出来ていないようです。その結果、再び同様な体験を繰り返すことになるのだと思われます。事故対策では再発防止が重要であるとされていますが、私達自身の痛い体験こそ、十分その要因や生じた仕組みを解析して再発を防ぐ必要があるのです。

私達各人は生きて行く中で様々な体験・学習を積み重ね、進化して行くものと思われまじ、その過程で私達の容姿もそれを反映したものになっているのです。

427 This is the only true entrancement that there is - a Cosmic principle where the mind and consciousness work together. All other phases of so-called entrancement are either illusions, wishful thinking or self hypnotism, especially when your mind is impressed with guides or highly developed souls. Beware when you get a feeling of a so-called guide for there is only one that you can trust and that is consciousness - the other half of yourself.

427 これが唯一存在する真の忘我であり、それは心と意識が共に働く宇宙原理なのです。その他の忘我と呼ばれる側面は、幻覚であったり、願望の想念や自己催眠であるかのいずれかに過ぎません。特に貴方の心が指導霊や高度に発達した霊と出会ったような印象を受けた時はそうです。貴方がいわゆる指導霊のような感じを持った時は気を付けなさい。何故なら貴方が信じられるものは一つしかなく、それは意識、即ち貴方の半身であるからです。

【解説】

結局のところ、私達に必要なことは、各自自分と向き合うことではないでしょうか。それを避ける為に他に娯楽を求めたり、諸々の神秘に身を投じてはならないのです。

前項ではイエスの変容の場面が紹介され、各自についても自身の歩みを振り返ることが推奨されて来ました。そうする中で私達はこれまで、様々な試練の中にあっても何とか今日まで辿り着いたことが分かることでしょう。そうすることが出来た背景には、私達に与えられた因からの支援が大きく関わっています。いわば不毛の地に湧き出す泉が瀕死の私達を潤し、安らぎや生きる力を授けて来たということでしょう。

この経過を見れば、次に私達のなすべきことは明らかと言えるでしょう。即ち、わずかに潤す泉をより大きく広げ、他者にもその恵みを分かち与えることです。自分自身の本体である泉は汲めども涸れることはありません。その泉の源流は宇宙に繋がっているからです。まずは各自の持つ泉を汚さぬよう大切に扱う心構えが必要です。

428 That is why the Holy Writ says have no false gods before Me. For every form whether it be man or anything else has gone through many experiences and many changes. If we accept life eternal there is just as much eternity in the past as we look forth to in the future. That is why Jesus said, If I was of this world I would fight for it but I am not of this world. If he came to this world is it not logical that we all have come from someplace else? For He made it plain that in the Father's House are many Mansions. But the human mind as an effect cannot know this unless it submits itself to consciousness which is the keeper of the records. And when it does the revelations come.

428 それが聖典が、わたくしをおいて偽りの神があってはならない（訳注：365参照）、と言う理由です。何故なら、あらゆる形有るものはそれが人であれ、何であれ、多くの体験を経ており、多くの変化を遂げて来ているからです。もし、私達が生命を永遠なるものであることを受け入れるなら、私達が未来の中へ前方を見るのと同様に過去にも多くの永遠があることとなります。それがイエスが、もし私がこの世界の者であれがその為に戦うでしょうが、私はこの世界の者ではないのです、と言った理由です。もし、イエスがこの世界に来たとするなら、私達全員もどこからか来たこととするのは論理的ではないでしょうか。イエスはこれを父の家には多くの館があると平易に説明しました。しかし、結果である人間の心はそれら記憶の保持者である意識に自身を委ねない限り、これを知ることはいけません。そしてそれが行われる時、啓示がやって来るのです。

【解説】

次の段階として私達が向き合うべきことは各自の過去生にも遡る経験です。他者に自らの生き方を委ねることなく、自らしっかりと過去生にも遡る人生の歩みを振り返って、自分の歩みを整理し、総括することではないでしょうか。

最近言われるようになった"終活"は各自のこれまでの歩みを整理し、次なる人生に備えるという意味を持っているように思います。部屋に溜まってしまった書類その他の諸物を整理し、真に必要なものとそうでないものを仕分けて身軽になる作業は、私自身現在行っていますが、それを達成した後は心身共に身軽になった気分ですがすがしいものです。

そうした作業を通じて、自分の生まれてから今日までを振り返る中で、人生という時間感覚を掴めたような気がします。人の一生の中で何を学び何を努力して来たのかを明確にして置けば、その記憶は次なる人生に役立つこと間違いありません。

429 This does not include visions and travel only but also what we call telepathy. So you may not only get revelations in the form of visions but the impression of thoughts and what they represent. And remember we have not always been noble characters so some scenes and impressions may not be too pleasant to our present understanding yet they were a part of our development, a part of our life. So they should be accepted as a part of history and not rejected for they are you. How often have we said if I had my life to live over I would do things differently. We grow towards nobility by improving upon our past deeds.

429 この啓示とはイメージや旅行ばかりでなく、私達がテレパシーと呼ぶものも含まれます。ですから貴方はイメージという形式のみでなく、想念やそれらが何を象徴しているかをも含めた啓示を得ることでしょう。そして覚えておいて欲しいのは私達はこれまで常には高潔な性格では無かったので、その光景や印象の中には今日の私達の理解にとって余り心地よいばかりのものではないことも有り得ることで、それらも私達の発達の一部であり、私達の生涯の一部なのです。ですからそれらは履歴の一部として受け入れるべきであり、拒絶すべきではありません。それらは貴方自身であるからです。私達はこれまで何度、もし自分の人生をやり直すことになるなら、物事を違ったやりかたでするだろうと言って来たことでしょう。私達は私達自身の過去の行為に基づき改善することによって高貴な存在に成長するのです。

【解説】

各個人にはそれぞれの歴史があり、はるか昔の過去生からの体験が蓄積されています。しかし、それらの多くは現在の自分よりは劣った想念レベルのものと考えた方が良くも知れません。紆余曲折はあるものの、私達は少なからず進化していると思うからです。

このように各々の過去の記憶は生かされるべきであり、全てを忘れてしまおうとするのはこれまでの人生を無駄に捨てることにも繋がります。私達がこの講座を学ぶことはこれまでの人生の歩みを整理してかつての貴重な体験を今後の人生に活かすことでもあるのです。その過程で、私達はこれら生命、人生を貫く強大なパワー、宇宙意識の存在に気付くことでしょう。私達はその意識の一部であるからです。

長い人生の間には、多くの出会いがあり、真の友人と巡り合うこともあるでしょう。こうした出会いを引き寄せるのも宇宙の導きと言える訳で、人生の歩みには奇跡的な出来事に溢れています。それら素晴らしい出来事も宇宙を流れる高貴な想念・印象に私達が同期することによって実現することになるのです。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

Lesson Twelve

Summation - The Rewards Of Continuous Progress

By GEORGE ADAMSKI

430 In the eleventh lesson we cautioned you not to leave any of your revelations out which were a part of you. The reason for this is very important for life is like a jigsaw puzzle and no part can be left out if you are to have a complete picture. And if you substitute something for the part you do not like the picture will not be as it should be. As we have lived a life of likes and dislikes this tendency will be present and one must overcome this to have a true picture of life. For should you substitute something to replace the things you did not like you would create a mystery and we want truth and reality.

生命の科学—学習コース

第12課

総括—継続する進歩の報い

ジョージ・アダムスキー著

430 第11課では私達は貴方に貴方自身の一部である貴方の如何なる啓示も追いやることの無いようにと警告しました。この理由は大変重要なことです。何故なら人生とはジグソーパズルのようなもので、完全な絵を得ようとするなら、如何なる部分も追いやることは出来ないからです。そしてもし貴方が自分が好まない部分を何か他のもので置き換えてしまったら、最終的な絵は本来あるべきものにはならないでしょう。私達は好き嫌いの人生を生きて来ましたので、この傾向が出るでしょうし、人は人生の真の全体像を得る為にこれを克服しなければなりません。何故ならもし貴方が好きで無い物事を何かで置き換えてしまうなら、貴方は一つの神秘を造り出すことになりませんが、私達は真実と現実を求めているのです。

【解説】

何事も現実に直面すること、自分自身に向き合うことが必要です。そうする中で自分自身の中に劣悪な要素が見えても先ずはそのことを受け入れることが必要です。よく言われることは、問題の解決は問題の本質が見えた時にその解決策も同時にやって来るということです。実はそういう意味からも先ずは自分自身の現実と向き合うことが必要なのです。

本講座も最終の題12課に入りました。本課ではこれまでの総括が説かれるものと思われまふ。その最初の段階で著者は私達に起こる全てを大切に取り扱い、自分の人生像の糧とせよと説いています。

私達を造り上げているのは、これまでの私達が放った想念です。その結果の良し悪しはさて置き、それらの想念・印象が私達自身を造り上げている訳で、自分の人生を他人のせいにする事は出来ません。そういう意味でも私達はこれまでの自分を先ずは肯定した上で、それらの体験を次なる人生に生かすことを学ばねばなりません。

431 Always remember that the things that we call good, bad, or indifferent are only a misapplication of the law through the lack of understanding. Also all of this took place within the Cosmic Kingdom and not outside of it. Compare yourself to the child within the home who makes mistakes, but through them he learns the right way of doing things. If life is to be understood all of its phases must be faced.

431 常に覚えておいて欲しいのは、私達が良い、悪い、或いは良くも悪くもないと呼んでいる物事は理解の不足から来る法則の誤用でしかないことです。また、これら全てが大宇宙王国の中で起っており、その外で起っているのではないことについてもです。貴方自身を家庭の中の過ちを犯す子供にたとえなさい。子供はその過ちを通じて物事の正しいやりかたを学ぶものです。生命というものを理解しようとするなら、その側面の全てを正視する必要があります。

【解説】

各々の人生を振り返る中で重要なのは、仮に不愉快な体験、苦痛が甦る経験のように思えることも私達の成長に役立って来たと言えることです。全ては宇宙の内側、創造主の手の中で起っており、私達がそれらに対して勝手に好き嫌いの判定を下しているに過ぎないのです。

これらの好き嫌いはやがて嫌いなものを排除・無視することにつながり、それが起こった要因を考察する間もなく忘却されてしまうという訳です。その結果は、原因が解消されないため、将来再び同様の痛い経験をすることにもなるのです。

こうして人生を振り返る中で得るものは他にもあります。それは今まで自分が授かっていたものに対しても再び発見することが出来ることです。このところ、私は自宅の片付けを行っていますが、不要なものに混じって、昔大切に保存していて忘れていたものも数多く発見出来ています。整理する過程で役割を終えたものを処分できすっきりすると同時に、貴重なものをも再発見出来るからです。身辺整理は現代の私達に必要な行動であるように思います。

432 As stated earlier in the course you have a right to make analysis for the purpose of understanding, but not with criticism or belittling. This phase seems so close to the line of analysis that sometimes what we say is taken for criticism or judgment. But your motive is your guard against making this mistake. If your motive is noble with the purpose of understanding you need not worry what the other person may say. And if you make a mistake in analysis acknowledge it. This will prove that your purpose was noble.

432 本講座の初期に述べたように、貴方は批判やけなす態度でなく、理解する目的の為に分析する権利を持っています。この側面は私達が批判や判定と見なされる状況と時として大変近い延長上にあるように見えてしまいます。しかし、貴方の動機はこの過ちを犯すことに対する守り手になります。もし貴方の動機が理解する目的という高貴なものであるなら、他人がどのように言おうとも心配する必要はありません。また、貴方が過ちを犯したならば、それを認めることです。これにより貴方の目的が高貴なものであることが証明されることでしょう。

【解説】

私達の周りの全ての現象が私達自身の精神活動によって影響を受けた結果であるならば、私達自身の精神活動を解析し、問題の原因を解明することは必須ということになります。

生来、私達は最高位の創造物として多くの特権を与えられ、大切に育てられて来た筈です。それでも生きる過程の中で心の未熟さから過ちを犯して来たと言えるのです。その問題、即ち事例は各々原因と結果の因果関係がある筈で、その点を自らの痛い体験を通じて学ぶことが重要だとしている訳です。これには相手を非難したり、善悪を決め付けたりするのは全く異なる冷静な分析が必要なのです。

本項を見ても分かるように、本講座は私達の精神活動や宇宙意識という目には見えない根源的な力について説くもので、極めて科学的な取り組み姿勢を特徴としています。その姿勢はどちらかと言うと仏教に近いような雰囲気を持っており、決して何か不可思議な存在を盲信するというのではなく、身の回りから冷静に観察することを求めているのです。

433 After centuries of living as society has, habits have become the masters of men's minds. And this has been strengthened by each generation. So, as said before, it is not easy to get rid of them. But we must keep diligently at the task and replace old habits with new knowledge. This is the way to find and know the other half of yourself.

433 この社会が続けた何世紀もの生活の結果、諸習慣は人の心の主人になってしまいました。そしてこのことは世代を経るごとに強化されています。ですから以前に申し上げたように、それらを取り除くことは容易ではありません。しかし、私達はその仕事に精を出し、古い習慣を新しい知識に置き換えなければならないのです。これは貴方自身のもうひとつの半身を見つけ、知る方法なのです。

【解説】

自然界には慣性の法則があり、一定速度で動くものの上では何ら違和感無く過ごして居られます。そういう意味では地球という惑星も巨大なコマとして宇宙空間を回転しながら高速で移動していますが、その動きをその惑星上で暮らす私達自身が感知することはありません。

このように一面では大切な法則であるのですが、人間の進歩という面では惰性こそ大きな障害になっていると著者は警告しているのです。

何世代にもわたって同じ生活パターン、精神パターンを続けることになれば、新鮮さは失われます。以前、何処かでアダムスキー氏は沼と海の違いについて言及していたと記憶しています。よどんだ沼に対して海には常に活動があり水質の浄化も行われています。それは海が沼と比較して比べようもない程の広がりがあり、その中で自由な諸活動が行われるのに対し、沼は限られている為、やがてはその活動が停滞するのです。

私達一人一人も習慣の中で個々の存在に留まっている限り、やがては没してしまいますが、これらの習慣的想念を打破し、より広い宇宙的分野に身を投じれば、その後の発展は計り知れないものとなる筈です。

434 The first lesson dealt with the analysis of life and the awareness of cause and the importance of being aware of cause and effects at the same time. So continue to increase your awareness whether by mental observation or conscious impressions.

434 最初の課では生命の分析や因を知覚すること、更には因と諸結果を同時に気付くことの重要性について取扱いました。ですから、心による観察によってであれ、意識の印象によってであれ、貴方の知覚力を引き続き増強させることが必要です。

【解説】

本項は第1課の意義についてまとめています。

先ず本講座を始めるに当たって私達には外見だけでなく内部に息づく生命力についても鋭敏に感受出来るよう感性を磨くことの必要性が説かれました。

従来、私達は目に見えるもの、形として手にとって見る事が出来るもののみを拠り所として来ましたが、実はそのような一見不変と思われる結果物こそ変化し易く頼りにならないのです。

最近自宅に諸物を整理しているのですが、当時大切にしまっていたもので、自分の記憶の中では鮮明に残っているものの中には色あせ古びてしまっているものも多いことが分かります。一方で、庭木は元気に葉を伸ばして成長を続けており、生命は永続しても物質は移ろい易く永続しないことを実感しています。仏典にしても聖書にしても開祖の教えや信条は後世に伝わるものの、像その他物質的なものは時代の変遷の中で失われるものも多いのです。

それ故、この講座に入門する私達に第一に求められることは、先ずは永続する存在への感性を向上させることにあるとしています。

435 In lesson two we explained the mind and its component parts. So see to it that your mind is not purely occupied with outside perceptions. And demand that your mind takes equal interest in being aware of the component parts of your body and its purpose. Ever aware of the marvel of its working and that of all other forms.

435 第2課では私達は心とその構成要素群について説明しました。ですから貴方の心が外部の知覚によって単純に占められていることのないよう気を付けることです。そして貴方の心に貴方の肉体と構成要素群とその目的について等しく感心を持つことを要求することです。常にその肉体や他の全ての形有るものの驚くべき働きについて気付かなければなりません。

【解説】

第2課では心の構成要素と各要素の動きについて学びました。本項ではその第2課の主旨について簡潔にまとめています。

私達は第2課で何を学んで欲しかったのか、著者はそのエッセンスを本項の短い語句で語っています。

とかく私達は外界の事物に依存した生活を送りがちでした。文字通り外界の変化、変貌に対して心を奪われていたという訳です。それでは移ろい易い現象の世界に支配され、消耗する毎日でしかありません。それに対して著者は私達人体の素晴らしい仕組みや活動についてもっと関心を抱けと説いているのです。

私達の真の生き方は誰にも支配されることなく、自身を通じて表現される生命の仕組みを学び、目に見えない想念・印象の大きな働きについても積極的に学ぶよう説いています。このことは自分自身の人体を生きた教材、良き手本として活用しながら、物質の奥にある因の働きについても常に感知し理解することが大切であることが分かります。

436 The third lesson was on the application of Cosmic Law. Be sure that you apply this law in your daily life at least to some degree until it becomes the master of your life. See this law in operation in every form, for it motivates all forms.

436 第3課は宇宙的法則の応用についてでした。その宇宙的法則が貴方の生活の支配者になるまでは、貴方が自分の日常生活において少なくともある程度はこの法則を貴方が応用しているということを確信していなければなりません。この法則があらゆる形有るものの中で働いているのを見ることです。何故ならそれは全ての形有るものを突き動かしているからです。

【解説】

私達自身も含めて、私達はどのような世界に生きているのかについての見識を第3課では学んで来ました。現実世界をどのように観るべきか、そこに働く法則を知ること、学ぶことは各人がよりよく生きる上で不可欠なのです。

その学習の中では、単に自然を観察するのではなく、その背後からそれらの活動を支え、促す目に見えない宇宙的衝動についても知ろうとすることが大切です。調和ある活動が行われる為には全体を指揮する存在が必要であり、これら調和ある自然の営みにはその根本原理が働いていると観るべきでしょう。

これらの課題について私達は一度に全てをマスターすること等、出来ませんが日々の暮らしの中で一つずつ学び取ることで一歩ずつ実践、応用しながら宇宙の法則に近づくことになるのです。

437 In lesson four the relationship of all creation was explained from the smallest to the greatest manifestation that one can conceive. See it all interrelated with no divisions, each dependent upon the other.

437 第4課では全ての創造物の関連性が人が知覚出来る最小の創造物から最大の創造物に至るまで説明されました。全てが区切り無く相互に関連しており、各々が他に依存していることを見なければなりません。

【解説】

第4課では万物の相互関係が説かれました。

以前、テレビで作家五木寛之氏が仏教伝来の地を訪ねる番組がありました。そのシリーズの中で勧告の仏教寺院を訪ね、「最近、日本の学校で児童が"何故人を殺してはいけないのか"という質問を教師に投げかけ、教師は答えに窮したとい話があるが、それはどのように答えるべきでしょうか」と問い掛ける場面がありました。するとその高僧は「他人と自分は繋がっているので、他人を殺すことは自分を殺すことになる」と明確に回答したのです。

本項で学ぶ相関性とは万物を見る時、このように自と他との区別無く、同じ同朋と認識することに繋がります。それは、身体各部の要素が互いに協力補完し合って、人体という有機体を構成しているのと同じです。

すべてのものは、想念・印象の波動への共鳴から物質上の相互依存まで含めて、互いにつながり結びついているのです。その理解が調和ある行動をもたらすことになるのです。

438 In lesson five we explained that the intelligence and power of all life comes through consciousness. And also how the Creator is manifesting Himself through all form life.

438 第5課では私達は意識を通じてもたらされる全生命の知性とパワーについて説明しました。またどのようにして創造主が全ての形あるものの生命を通してご自身を現されるのかについても述べたところです。

【解説】

これら一連のアダムスキー哲学の中で根幹を成しているのが、本項にある意識 (consciousness) です。これまで各自が学び探求して来た中で、どれ程この意識について理解を深めて来たのかが問われることとなります。

とかく初学者の間は、「意識」という言葉に捉えられがちであり、特殊な存在と概念しがちですが、学習を進めて行くにつれて、私達自身、日常的に活用し、助けられている存在であることが分かってくる気がして来ます。

特に難しい存在でなく、野に生きる虫達や花や草木達が各々意識と繋がっていることで生命を謳歌しているのです。唯一その門を開く為に必要なことは、誠実や素直さといったごく単純な精神状態、心境のように思います。野のユリその他の比喩にあるように、この真実はイエスの時代から地球人に説かれてきた内容です。

439 Lesson six was on newness. In order to rejuvenate the body one must rejuvenate the mind first. And this is done when the mind is interested in all new things which is progress.

439 第6課は新しさについてでした。肉体を若返らせる為には、人は先ず心を若返らせねばなりません。そしてこれは心が全ての新しい物事に関心を持つ時に起りますし、それが進歩である訳です。

【解説】

おそらく人の願望の第一は「若さ」ではないかと思われます。特に高齢になると自らの老いが目立つことから、ますます若さの大切さを実感するものです。

一方、自然界では老木は人知れず倒れ、朽ちる一方、新しい世代の芽がそれを乗り越え、新芽を出し、森が再生される等、常に活動的であり、若々しい状態を保ちます。おそらくこれは自然自身の中に常に活動的な波動が流れており、老化という要素は存在しないことに起因しているということかと思います。

これら自然界の活動は昼夜を問わず活発であり、丁度、夏野菜が驚くべきスピードで実るように、その変化は私達の目でも容易に見てとることが出来ます。本来このように自然界は目まぐるしい程に流転しており、活動的です。その活発な波動は創造的であり、それらに同調することは私達の肉体にも影響を及ぼします。

他惑星人の長老は実に1000年もの寿命を生きているとされていますが、その方々の精神活動は、これら大自然の活動と同期同調しているが故に、老いというものが存在せず、若さが永遠に保たれているという訳です。

440 Lesson seven was on Cosmic memory and the importance of memory in order to benefit from past experiences. The mind is not a good retainer of memory unless it blends with the consciousness where memory is eternal.

440 第7課は宇宙的記憶と過去の体験から恩恵を受ける為の記憶の重要性についてでした。心は記憶が永続する意識と融合しない限り、記憶の良い保持者にはなれないのです。

【解説】

私達は体験を通じて学んで行く訳で、その体験を記憶していられなくなれば、再び同様の過ちを繰り返すことにもなりかねません。私達が成長して行くのは、これら経験を積み重ねることに由来しているのです。

しかし、残念ながら私達地球人の記憶力は甚だ弱いものと言わざるを得ません。まして高齢になると新しい事柄や最近の出来事が容易に記憶されない事態が生じます。昔のことは覚えていられるのに、最近のことを記憶していないというのです。その原因は各人の記憶容量の限度によるものか、脳内部の衰えによるかどうかは分かりませんが、残念な現実と言わざるを得ないのです。

一方で優れた音楽家が楽譜を見ずに長い曲を演奏する等、人間本来の持っている記憶の素晴らしさには驚くばかりです。このことについては本文の短い語句の中に示されているように、実は記憶は意識の中に蓄積され、意識と融合することがそれを引き出すことが出来ると示唆しているのです。

意識が英知である所以がその記憶性にあるということでしょう。演奏家は自ら意識の扉を開いてその中に温存されている記憶を手繰り寄せて演奏しているという訳です。

441 Lesson eight is on Cosmic Oneness and how when one may feel separate from another or other forms the feeling comes through lack of knowledge. As Jesus has said, "if you hurt any one of these you have hurt Me." There is no division or separation in the Allness. And if we let the consciousness which is the creator of all forms replace the domination of the mind the feeling of loneliness and separation will vanish. And these feelings will be replaced by the closeness of the Creator or our own Cosmic counterpart.

441 第8課は宇宙的一体性についてであり、人が他人あるいは他の形有るものから分離していると感じる時、その感じは知識の不足から如何にもたらされるかを示しました。イエスが「もし、貴方がこれらの者達のいずれかを傷つけるなら、貴方は私を傷つけたのだ」と言ったようにです。全体性の中にあっては分裂や分離は無いのです。そしてもし私達があらゆる形有るものの創造主である意識を心の支配に置き換えるならば、孤独感や分離感は消え去るでしょう。そしてこれらの感じは創造主あるいは私達自身の宇宙的片割れとの親近感に置き換えられることとなります。

【解説】

自然との真の一体感とは何かについて、第8課で私達は学んで来た筈です。通常、対象と一体になっていると実感する時、自他の区別はなく相互の思いが互いに伝わるというものですが、本項ではかつてイエスが説いた言葉を引用して、その状況を示しています。

おそらく一体感とは互いの意識が融合する状況で、想念・印象を共有する状況と思われます。

そうする中で、互いに自他の区別なく想念・印象が交流する訳で、もはや孤独感は消失することでしょう。またその延長上には自分が宇宙の一部、と感じ、宇宙への帰属感も生まれ、充実した心境になるもとは間違いありません。

442 Lesson nine is on Cosmic and carnal cell activity. This is like any thing that we construct by using nature's materials to make things suitable for man's use. Through habits of the mind we create carnal cells. For the mind like the Son has the potentials of the Father. When the mind does not give credit to the Father it assumes that it operates on its own. And this brings a separation between the Cosmic Creator and the mental creator through the mis-use of the Cosmic Law. This is why the Father and the Son must work as one. As Jesus said, γ I and the Father are One. I the mind and consciousness are one. Or I of myself do nothing but the Father that worketh through me does all of the work. ξ Meaning, I the mind do nothing but the consciousness through the mind does it all. For a mind without consciousness is dead.

442 第9課は宇宙的細胞と肉欲的細胞の活動についてです。これは人間の使用に適するように自然の材料を用いて物を私達が作るのに似ています。心の習慣を通じて、私達は肉欲的な細胞を造り上げているのです。何故なら、心は父の潜在力を持つ息子のようなものであるからです。心が父の功績を認めない間は、心は心自身によってそれが動かされていると誤ってしまいます。そして、このことが宇宙の法則の誤用による宇宙の創造主と心による創造者との間に分離を生じさせるのです。これが父と息子が一つになって働かなければならない理由です。イエスが言ったように「私と父は一つ。心である私と意識は一つになっています。あるいは私自身である私は何も行っておらず、私を通して働く父が行っているのです。」つまり、心である私は何も行っておらず、心を通じて意識が全てを行っています。意識無しには心は死んでしまうからです。

【解説】

第9課では私達身体の中に心を主人とする肉欲細胞と、宇宙意識に従う宇宙的細胞の2種があることを学びました。本文にあるように私達の心は創造的要素も与えられている為、自らに従う子分を積極的に創り出そうとしているのです。おそらく高齢になるにつれて身体の中に占めるそれら心に従属する細胞も増えているに違いありません。それが老化を進行させているということもあるでしょう。

これに対して私達は自身の末路をも含めてそれらの行く末の限界を改めて直視することが必要ですし、そもそも私達が誕生した目的を振り返る必要もあるのです。

確かに私達の身の回りを見れば、そのほとんどは人間が製造、構築したもので成り立っていることが分かります。しかし、その真実を突き詰めると、そのいずれもが人間を表現の媒体として何か高位の意思が働いて製品化に漕ぎ着けたものであることが分かります。つまりは私達はこれら宇宙的な印象を実現した結果として、得られたものの恩恵を受けているのです。このことを自覚すれば全ての人間の活動のお蔭という訳にも行かず、全ては宇宙的なインスピレーションの現実化の成果を享受していることが分かる筈です。人間（心）の技と自慢するのは、傲慢でしかないのです。

443 Lesson ten is on Cosmic Traveling. Jesus said that wherever a man's heart is there he is also. It means that man is wherever he is consciously aware of being.

443 第10課は宇宙旅行です。イエスは人の心がある所には、その者も居ると述べていました。それはまた、人は意識的にどこに居ようともそこに居ることを知覚することを意味します。

【解説】

第10課は意識による旅行とも言える教科でしたが、私達が未だにその領域に達していないのは、私達自身が自らの意識というものを自己の肉体の外に拡張した経験の無いことに由来するものと思われる。

多くの方がご存知の通り、アダムスキー氏は1952年11月20日の正式なコンタクトの前に自らRoyal Order of Tibet (ロイヤルオーダーオブチベット) その他の啓蒙団体を主宰していました。それらの活動の中でPioneers of Space (宇宙のパイオニア) 他の書籍を自費出版しています。その内容はアダムスキー氏自身が意識による旅行の体験が元になっているとされています。

後日、その内容のほとんどが正しかったとアダムスキー氏自身が語ったという話を聞いたことがあります。

実は私達の中にも類似した体験を有している人も多いでしょうし、未来の事象を事前に垣間見た人も居ると思われます。これらはいずれも本項で言う、意識による時空を超えた旅行というものかと思われる。

444 Lesson eleven on the exploration of Cosmic Space explains space as consciousness. And how when the mind blends with it it can explore any phase of space. Returning to the statement, where a man's heart is, there he is also, let us analyze the meaning of this. i.e. A person walking into a building can be attracted to one single thing and fail to see the other things in the building. I will use this as an illustration of alertness. Two men enter a tavern for a glass of beer. One is very observant and many things register on his mind such as a large beautiful picture and an attractive lady seated alone at a table. When they have finished their refreshment the two men leave. The observant one commented on the unusual picture and the attractive lady there alone. The other man who had been interested only in the drink had not seen any of these things but his interest was aroused and he suggested that they go back so that he could view them. I use this only to show how two people may travel consciously yet one will see much more than the other.

444 宇宙空間を探検する第11課は意識として宇宙を説明しています。また心が意識と融合する時に心がどのようにして宇宙のあらゆる側面を探検できるかについてもです。人の心がある所、その者もまたそこにあるという声明に戻ってその意味を分析しましょう。即ち、建物の中に歩いて入る人物があるたった一つの事柄に関心を引き付けられていた為、建物の中の他のものを見過ごす場合です。私はこれを警戒状態の例として用いることにします。二人の男が1杯のビールを飲む為、バーに入ります。一人はとても観察力があり、例えば大きな美しい絵があったとか、テーブルに独り魅力的な女性が居たとかという多くの物事がその心に記録されます。二人が一息ついた後、彼らは立ち去ります。観察した男は珍しい絵や一人そこに居た魅力的な女性について話しをしました。一方の男は飲むことしか関心が無く、これらのことのいずれも見えていませんでした。しかし、彼の関心が呼び起こされた為、彼はそれらを見に戻ろうと提案しました。私はこの例を如何に二人の人達が意識的に旅行してもある者はもう一方の者より多くを見るかも知れないことを示す為、用いているのです。

【解説】

私達は第11課では宇宙空間への意識による旅行について学んで来ました。実際のところ、まだまだ私達の現状より高いレベルですが、それでも著者は様々な喩えを用いてポイントを説いています。

まとめの本項では、その内、私達が仮に意識による旅行を行えたとしても当人の知覚力が十分拡がっていないと得られる知識は限られたものになることを説いています。

つまり、せつかくの機会も十分に活かすことが出来ないという訳です。

それを防ぐには、日常から私達は自身の知覚力を鋭敏にしておく必要があります。神社の社殿同様に、私達の中にある鏡を曇らすことなく、常に磨き上げておき、何時如何なる時、閃光が照らされても、それらに対応出来るようにすることです。この精進を積み重ねて置けば、やがてその機会が訪れた時、大きな成果を成し遂げることが出来るという訳です。

445 The twelfth lesson is of course the summation of all of the lessons and I hope that all who have taken this course have made it a part of themselves through their sincere effort to understand life. This is but a beginning for each time you restudy the many points given, you will enlarge the development of your Cosmic self. You do not need anything else for you have all of the tools necessary for your continued development.

445 第12課はもちろん、全ての教課のまとめであり、私としてはこのコースを学んだ全員が真面目な努力を通じて、生命を理解しようとするのを自らの一部にして来られたことを願うものです。これはしかし、始まりでしかありません。貴方が再学習する度に多くのポイントが与えられ、貴方は貴方の宇宙的自我の発達を拓けることになるからです。貴方は他に必要なものは一切ありません。貴方は貴方の継続的な発達に必要な道具の全てを持っているからです。

【解説】

最終の第12課のまとめとして、本項で著者は私達にこの生命の科学学習コースの今後について、非常に大切な事柄を解いています。

一つは、今後私達はこの講座の内容を自分のものとすべく生活姿勢全般の中に採り入れよとしている点です。即ち、各自自分の生活の中で、自身や他の生きもの達の生命（いのち）についてより深く理解するようこのテキストを基に学んで行けということです。自分自身の生き方を通じて探求し、応用せよということです。

もう一つは、私達がより宇宙的な心境を深め拡張すればするほど、長年の問題となっている自分のエゴの部分は縮小するということです。より良い方向に進めば、自ずと問題も消え行くという訳です。

そして何よりも大事なものは、私達は単に知識としてこの生命の科学を学ぼうとしているのではなく、自分自身を宇宙的な方向に開発し、より調和的な存在に精華することに大きな意義があるということです。

446 As things on earth keep on developing it is possible that new knowledge will be coming from time to time from the Space Brothers. So if you choose to be informed you may ask to have your name entered on the list. And also let us know how well you have done with the lessons and what questions you have pertaining to the course. It probably will be impossible to answer your questions individually, but when time permits we will compile a booklet of questions and answers.

446 地球上の物事は発達し続ける為、新しい知識が時々に応じて宇宙兄妹達からもたらされる可能性もあります。ですから、もし貴方がその知らせを受けることを選択する場合は、そのリストに貴方の名前を入れるよう要望されてもよいでしょう。そしてまた、貴方が教課を如何に良く学んだか、また教課に関連してどのような疑問を持ったかについても私達に知らせて欲しいのです。皆様の質問を個別に回答することはおそらく不可能でしょうが、時期が許せば私達は質疑応答の小冊子を編纂することでしょう。

【解説】

本講座が執筆され、学習コースが発行された当時の状況を本項は良く表しています。

ポイントの一つは著者アダムスキー氏はこの学習コースの受講者に対してその質疑に丁寧に答えようとしていたことです。また、最終的にはこれらを取りまとめて「質疑応答集」を編纂することも計画されていたことです。

実はアダムスキー氏による「質疑応答集」は別途発行されていますが、それが本項で言う「質疑応答集」であったのか否かについては残念ながら確証はありません。

またもう一つのポイントは、アダムスキー氏は受講者に対してその後の宇宙情報を提供することを約束していました。当時は、ニューズレターの形式で各自に印刷物を郵送する他、手段がない中で文字通りの奉仕活動と言えるものでした。マスコミに頼らず、地道な普及活動が当時行われており、協力者（コーワーカー）の尽力がそれを支えていたという訳です。

一方、今日私達を巡る環境は、より便利になり、パソコンを介して世界中と交流することが出来る時代になりました。本項の中身を振り返る時、この状況を私達が十分に活用出来ていないことに歯がゆさを感じるのは私だけなのでしょうか。

447 The Brothers would like to know how many of you have developed sufficiently through this course to organize a group for this study. And in this way you would be helping others, as well as yourself, to understand the self. And by so doing we could have a better world's society.

447 宇宙兄妹達は貴方がたの何人がこの学習コースを通じてこの学習の為のグループを組織するまでに十分発達したかを知りたいと思っています。また、このようにして貴方は自分自身と同時に他人をも助けることになるのです。そしてそのように行動することで、私達はより良い世界社会を得ることが出来るのです。

【解説】

本文からこの学習コースが宇宙兄弟達によって如何に注意深く編纂されたものであるかが分かります。私達学習者の理解度、進捗度に大きな関心を持たれていたのです。

他方、私達は常に本文で表現されていることを、そのままそらんじて終わるということは意味を持ちません。この種の自己開発は、教材でもあり、訓練の対象でもあるのが私達自身です。その行動を通じて、本講座で伝えようとしている内容を把握し、気付いてそれらをより良い方向に昇華すること、即ち実践的経験を重要視しなければなりません。

多くの人達が向上の道を求めており、それらの人達に対して進んで門戸を開き、自分達自身で彼ら宇宙兄弟達のこれまでの任務を引き継ぐ者達が求められていることとなります。

448 The lessons that you have received have been blessed by the Brothers for each individual's purpose. And they should be honored as an individual gift containing an everlasting avenue of development. For we know that the mind cannot remember all of the phases given and you will have to go back and re-read many things in order for the mind to continue its development.

448 これまで貴方が受け取った講座は各自の目的の為に宇宙兄妹達から祝福されたものです。そしてその講座は永続する進歩の大通りを含んだ個人的な贈り物として敬意を払われるべきものです。私達は心と言うものは与えられた側面の全ては思い出せないことを知っていますので、心がその発達を続ける為には何度となく元に戻って繰り返し読む必要があるでしょう。

【解説】

本項はこの学習コースが私達地球人の進化を願って、他惑星人が特別に用意した学習教科であることを端的に述べています。つまりは、一連のアダムスキー哲学と称されるものを一括りとして編み出された学習テキスト（経典）であるのです。

本講座をこれまで学ばれて来た方はお分かりのように、本文は必ずしも整然とした体系化の元に表現されているとは言えませんし、時々話題を通じて、当時の最新の情報を織り交ぜながら例を示しつつ、著者の日常の言葉で説かれています。

従って、これらの中からそのエッセンスを取り出すには、各自が自ら工夫、考察してその説く所を抽出する必要がある訳で、そこに他惑星の兄弟達が私達に期待する要素があり、また類似した事象を私達自身が身の回りに発見することで理解が深まることになるのです。

本文に記されている通り、私達の心は大変忘れ易い存在で、繰り返し読むことでそれを克服し、理解を深めよと説いています。精進という要素が私達が日常生きて行く上の一大原則であるのは、このことに由来するのです。

449 It would be wise for a person to reread at least one page of a lesson a day and live in the awareness of what it contains. And you will be amazed how much more you get than you did at first.

449 1日少なくとも1頁を読み返してそれが含む内容を自覚して過ごすことは賢明なことでしょう。そして貴方は最初に読んだ時より、如何に多くのことを身に付けたかを知って驚くことでしょう。

【解説】

毎日本講座のテキスト一頁を読んで、その日一日をその内容についての印象を広く求める態度は、非常に有益だと各自の学習のキーポイントを説いています。

仏教で言えば毎朝の読経はそういう意味もあるということでしょう。私達は様々に変動する社会の中で生きており、ややもするとこれら時代の潮流に流され易い生活を送りがちです。ふと気が付くとテレビ番組に支配された生活に陥っていることも多いのではないのでしょうか。

しかし、これら習慣的な生活は滅びに至る道であり、各自本来の生き方を目指すべきことは明らかです。毎日一頁ずつでもその内容を自ら理解し、応用しようと行動することが各自の進化に繋がるというものです。

450 This series of lessons will be just as good 20 years from now as they are today, for there is no end to their revelations. They can be your guiding posts through the balance of your life. And I do know that most of you want the fullness of life. And I definitely know that you can have it by applying the knowledge within these lessons. Do not be discouraged by a slow progress for a slow progress is a firm growth. I do know that it is not easy at first for many habits have to be changed. But like everything else the finer quality and the most valuable gold is not on the surface. We have to dig for it which is hard work.

450 この一連の講座はこれから20年経っても今日と同様に優れたものであることでしょう。それらがもたらす諸啓示に終わりは無いからです。それらは貴方の生涯のかじ取りにおける案内標に成り得るものです。そして私は貴方がたのほとんどが人生の充実を求めていることは分っています。そして私は貴方がこれらの教課の中に含まれる知識を適用することによりそれを手に入れることができることを確実に知っています。進歩が遅いことでがっかりしないことです。何故ならゆっくりした進歩はしっかりした成長であるからです。私には最初はそれは容易で無いことは良く分っています。多くの習慣を変えねばならないからです。しかし、他のあらゆるものと同様に、より精緻な性質のものや最も価値のある金は表面にはありません。私達はそれを求めて掘り進めなければならず、その仕事はきつい仕事なのです。

【解説】

私達に向ける著者の言葉は実に優しい響きがあります。この講座を繰り返し探求することで如何に私達が恩恵を受けるかを私達に語っています。

最も敵とすべきは各人の習慣、怠惰な生活習慣です。いわば私達の本体を覆っているこの習慣物を打破しながら、探求は進められる訳で、硬い岩盤を一つ一つ解消しながら進むその作業は容易とは言えません。

しかし、その成果は真の自己の発見、発現につながり、私達の人生を実り有るものとする必要があります。その為には、途中で放棄することなく継続してツルハシを振るうことが必要です。最後に充実した人生を得る為には、途中で断念、放棄すべきではありません。著者は私達に進歩はゆっくりで良いのだと論じています。

451 And so to get the pearl of your being you have to do a lot of digging. This will take courage and determination but it will be a reward of eternal happiness for those who accomplish through perseverance. And I will never dismiss you from my consciousness, nor will the Brothers. We will help you on the road of progress.

451 そして貴方の存在の珠玉を得る為には、貴方は多くを掘り進めなければなりません。これは勇気と決心を必要とするでしょうが、それは忍耐を通して達成する者達に永遠の幸せという報酬となることでしょう。また、私は決して私の意識から貴方を見捨てることはありませんし、宇宙兄妹達もそうすることはありません。私達は貴方を進歩の道筋の上で助けることでしょう。

【解説】

覚えて置かなければならないことは、私達が探求しているのは自分自身の内部であるということです。何か真理を求めて遠い地を目指すことではありません。私達の内側に全ての問題点と解決策があるという訳です。

それ故、各自が自らの精神状況を監視、探求する中で、私達本来の姿を見出す必要があるのです。長い期間、放蕩しても結局は自分自身を探求する以外に解決は無いということでしょう。

本項で著者は、私達が自分を理解する中で、各自の秘めた才能（珠玉）を見つけることが出来ると励ましています。また、私達を遠く離れていてもいつも支援すると約束していることも大切に心に留めたいポイントです。つまりは、教師はいつまでも弟子を見守り、陰ながら支援して呉れることを約束しているのです。修行者を案じ、慈しむ仏陀の姿と重なる優しさが示されていることにも私達は感謝したいところです。

452 May the heart and the consciousness of the Creator manifest in your consciousness. May you walk and talk with Cosmic intelligence. Blessed are those who cannot see or hear mentally yet believe, for of such is the Cosmos. For what the physical sight does not see is the power and intelligence by which we do see and hear.

452 創造主の御心と意識が貴方の意識の中に現れ出ますように。貴方が宇宙の知性と共に歩まれ、語られますように。心で見聞き出来なくても、信じることが出来る者達は恵みを受けています。何故なら宇宙はそのようなものであるからです。肉眼が見えないとしているものとは私達が現に見聞きする元になっているパワーと知性であるからです。

【解説】

私達の日常は大なり小なり様々な問題を抱えています。それを乗り越えるのに四苦八苦を重ねる毎日なのですが、それもこれも私達自身の過去からの要因の積み重ねが原因となっている訳で、その中で私達もがくこともある意味止むを得ない道程であるように思われます。

そうした中であっても、この生命の科学の教えは、私達に解決策を示唆して呉れる宇宙的原理を授けるものであるのです。多くの私達が困難にまみれる中であって、問題解決はひとえにこの普遍的原理を如何に体得し、行動するかにかかっているのです。

かつてウエイン・ダイヤーは人々に向かって、一体あなたの何処が悩んでいるのかと問うたことを思い出します。自身の身体の何処も悩んでいることはなく、唯一、心だけが悩みを抱えていると諭していました。つまり、私達の心の抱く問題が私達全体を支配しているのであり、それは大変不合理と言わざるを得ません。もっと調和のとれた宇宙的振動を体内に採り入れること、心の不調和を改め、宇宙的な振動に再調律することが必要なのです。

本文は、私達の心を目には見えない宇宙的振動、宇宙的意識に調和、共鳴させて、宇宙的要素の表現者になれと私達に説いているのです。

453 So believe in your consciousness as you have in your mind and soon you will walk as one with your cosmic self from which you have been separated all of this time. The cup of the true essence of life is now before you. Drink of it daily and you shall never thirst.

453 ですから貴方は貴方の心に対して来たように、意識を信じることです。そうすれば直ぐにも貴方は自分がこの間ずっと切り離されてきた貴方自身の宇宙的自己と一緒に歩むことになるでしょう。生命の真の真髄の茶碗は貴方の目の前に置かれています。それを毎日飲むことです。そうすれば貴方は決して渴くことはないでしょう。

【解説】

著者は私達に宇宙意識というものが、どのように存在しているかを優しく説いています。おそらくはこの学習講座を締めくくるに当たって、再度私達にその重要な要素である宇宙意識をどのように把握したら良いか、改めて説いているのです。

これまで私達は「宇宙意識」というものを、何か特別な存在、遠く宇宙に出なければ遭遇出来ないような存在と思っていましたが、ここでアダムスキー氏は実にそれは、私達の目の前にあると説いています。信じさえすれば、いつも目の前に私達の渴きを癒す飲み物が用意されていて渴くことがないと言うのです。

それ程に私達の行く末でいつも必要な知識を授け、見守って呉れる存在である訳ですが、その支援を受ける為には、先ず私達自身がその存在を信じ、信頼（信仰）を寄せることが最低限度必要なことです。贈り主に気付き、感謝することは最低限のマナーということになります。

454 何故なら宇宙意識は水流を上を吹き上げる噴水のようなもので、それは次には無数の小さな水滴に分かれ、あらゆる方向に落ちますが、再び池の水本体と融合します。このようにその奥に包含される知識は、人がその存在を統合するやいつでも取り出され、用いられる為に常に存在しているのです。そして永遠の中における生命の姿は常に増大する理解という尖塔から眺められます。

454 For Cosmic Consciousness is as a fountain that sends its stream upward and then divides into myriads of tiny droplets that fall in all directions and again unite with the body of water in the pool. Thus the knowledge that is embraced within its bosom is ever present to be tapped and used once man unifies his being. And life in its entirety is viewed from the pinnacle of ever increasing understanding.

【解説】

以前、静岡・三島に行ったことがあります。市街地の水路にキレイな水が豊富に流れていたのが印象に残っています。その水の由来は富士山からの伏流水とされ、その湧き出す泉は本項で言う意識の泉そのものです。

このように豊富に湧き出る清涼な水は宇宙意識を象徴するものであり、人知に関わらず止むことなく永続して私達に提供され、私達自身もその水の恩恵を受けることで生命を保っています。

また本文で言う噴水の礼では吹き上った水滴の一粒一粒が私達自身のことのように思われます。吹き上がったから再び元の水面に戻るまで宇宙的時間の中では短い一生ですが、それでも空中に居る間は、それぞれの存在を輝くものとなっているという訳です。私達各人は少なからず再び元の水面に戻りますが、先ずはその一生を充実して輝くものとするのが求められているのです。

455 And man can partake of the joy of the bird in flight. And have a deep appreciation for the intricate delicacy of each thing that grows and blossoms. And marvel at the orderliness of the Cosmos. And as he does he becomes humble and grateful to be a part of so perfect a plan.

455 そして人は飛ぶ鳥の喜びを共にすることが出来ます。また成長し花を咲かせる各々の生き物の入り組んだ優美さに対して深い感謝を持ちます。そして宇宙の秩序に驚嘆するのです。またその者はそうする中で、自分がある一つの完全なる計画の一部であることに対して、謙虚になり、また感謝するようになるのです。

【解説】

いつも思うことですが、小鳥というものは常に楽しげです。たとえどんな劣悪な環境でも彼らは皆と集い歌声に溢れた活発な暮らしを続けています。おそらく多くの方々が彼らのさえずりに心癒された思い出をお持ちかと思えます。

実は鳥そのものの生命の中に、上空から自然界を俯瞰し、その全体像を把握して相互の関連を観る一方で、各所に咲く花やそれらに集まる虫達の存在等々、広範囲な観察と関わりを持つ生物種として、特異な存在であるように思います。

本項では同様に私達がこの鳥のように世の中を観察し、また各人の与えられた環境を楽しめと説いているように思えてなりません。かつてイエスも野のユリの話の時に、空飛ぶ小鳥と表現をしていました。鳥の生活は私達にとって良い手本ということでしょう。野鳥観察等、鳥を愛でる姿勢は高貴とも言えるこうした鳥という生きものを通じて、私達が本来目指すべき生き方を学べということです。

456 When cosmic conscious awareness is achieved life is understood and all effects looked upon as an expression of Cause Consciousness. So work patiently and diligently and you shall indeed know yourself and all life as a whole. A realization of the beauty of the interrelated cosmic picture as each experience falls into place as a part of your life.

456 宇宙意識への気付きが達成されると生命が理解され、全ての結果が因の意識の表現として見られるようになります。ですから、忍耐強く、こつこつ努力することです。そうすれば貴方は本当にご自身を知り、一つの統一体として全生命を知ることになります。それは一つ一つの体験が貴方の生涯の一部として収まる、相互に関連付けられた宇宙的絵画の美しさの悟りです。

【解説】

仏教で「覚醒」とか「悟り」と称されるのが、本講座で言う宇宙意識の気付き (awareness) です。そしてひとたび身の回りに宇宙的意識を知覚出来るようになると、私達の暮らしは一変するとしています。あらゆるものの中に統一一体化した関連性を見出すほか、全てに美しさを知覚するようになれるからです。

もちろん各人の才能を発揮、発展させることも出来るでしょうし、何よりもより多くのインスピレーションを得ることで、事業も発展することになります。

これまで私達は自らの心や習慣に支配されて来ましたが、宇宙的意識の存在に気付くことで、その潜在能力をより広範囲に発揮出来るようになります。

仏典般若心経の最後の部分に「ギャーテーギャーテハーラーギャーテハラソーギャーテ」というくだりがありますが、波羅蜜（不思議な英知）を知ったからには、いち早く彼岸に渡れという私達を促すものであったかと思えます。本講座でも同様に、講座を終えるに当たって、著者は私達に宇宙意識の覚醒によって、今後あらゆる事態が好転する故、目標に向かって進み続けよと説いているのです。

Summation ;

457 From the different reports that I have received some of the students have virtually performed miracles through the use of conscious perception.

総括

457 私が受け取った種々の報告からすると、学習者の何人かは意識の知覚を応用することによって事実上、奇跡に近いことを成し遂げています。

【解説】

本講座のまとめに当たって、意識を知覚することが如何に大切な一歩であるかを本項で著者は説いています。もちろん、人それぞれに置かれた環境やこれまでの歩みは異なる訳ですが、いずれにしても各自が自分でどう意識を知覚するか気付きについて工夫し、試行を繰り返して、その心境を会得する必要があります。

もちろんその為には自らの心境を落ち着いたものにする必要がありますし、このようなテキストを繰り返し学ぶことも重要です。この学習講座は1課ずつの通信講座の形式をとっていた為、アダムスキー氏の元には各課を終えた学習者から学習報告が多く寄せられたものと思われ、そうした中には、本項のような成果を挙げたという報告も多かったものと思われ。

実際、自ら行動を起こし実践する中で、成果は得られる訳で、私達は単に読むことだけでなく、日常生活の中で応用実践する過程でその法則性を理解することになります。成果を挙げる為には、実践こそ必要な訳です。

458 There is one thing that we must remember, consciousness always was, is, and ever will be expressing through created forms whether of this earth or other planets. For in consciousness ideas are born, myriads of them.

458 私達が覚えておかなければならないことが一つあります。意識はこれまでも、現在も、またこれからもずっとこの地球であれ、他の惑星であれ、創造された形有るものを通じて現れ続けるということなのです。何故なら、意識の中には、アイデアが無数に生まれるからです。

【解説】

昨晩は夜中に目覚め、窓を開けるとあたりは明るい月明かりになっていました。人々が寝静まり、静けさの中、天空には月が地上を照らしています。静寂な世界がそこにありました。普段、私達は安直に寝入ってしまって、そのような状況を見ることはありませんが、実に私達は月や星々からも見守られた存在であるのです。

本項は宇宙意識がありとあらゆるものの中に浸透、含まれており、その生命の発現に貢献していることが説かれています。古来、私達の祖先は山水草木に至る万物の中に目に見えない存在を見出し、それを敬い、信仰していました。通常、アミニズムと称されべつ視されていますが、実はこの古来の信仰の中に、本項で言う宇宙意識の要素が含まれているのです。

即ち、古代に生きていた人達も、皆類似した心境であったと思われます。宇宙の中では物質は滅びることなく再生を繰り返す訳で、その物質に寄り添って宇宙意識がその生命発現を支えているという訳です。

459 The Bible tells us that God was, is, and forever will be and out of this creation has grown the many forms that we see in nature. These ideas can be classed as blueprints or patterns for various purposes, but they can mean nothing as long as they remain as only an idea for action is necessary in order to bring a manifestation.

459 聖書は神はこれまでも、現在も、そして未来永劫に存在し、その創造から私達が自然の中で見る多くの形有るものが成長して来たことを伝えています。これらの概念は様々な目的の為の青写真やパターンとして分類することが出来ますが、それらは一つのアイデアとして留まっている限りは何も意味はありません。現れをもたらすには行動が必要だからです。

【解説】

創造主と宇宙意識は常に存在するが、同時にその意図を現実世界に現すには表現者、実践者を必要としているのです。これは贈り主は常にその贈り物を受け取り、それを味わい表現して呉れる人を待っているということでしょう。体現者、表現者が必要な訳で、如何に優れた芸術家が素晴らしい構想を持っていたとしても、それを作品に現し、表現物として制作しない限り意味は無いと説いているのです。

私達は確かに宇宙意識の持つ強大な潜在力を学びましたが、それを自らの人生の中で応用実践し、他者に示す行動力が無ければならない訳です。単なる知識、心境のレベルアップでは、本来の意義は達成出来ていないということでしょう。

悠久の歴史の中にあっても宇宙意識は常に存在し、私達に支援の手を差し伸べて呉れていました。また私達の時々の先覚者がその知識を応用し、人々に役立つ発明を行って来ました。本講座を学ぶ私達に改めて実践応用の重要性を本項は説いているのです。

460 Notice that the Creator whom we call God was aware of the ideas in His consciousness but to have the ideas manifest He had to use the elements of the Cosmos in various combinations to bring them into form. As the elements did not have sufficient knowledge to know what kind of form they were to make a command was given by word or frequency to have them form into the desired pattern for a particular manifestation. But the elements did or do have enough intelligence to receive the command that is given.

460 私達が神と呼ぶ創造主は神ご自身の意識の中にあるその創造物に対するアイデアについては承知しておられました。そのアイデアを具現化させる為にはそれらを形有るものに変える為、諸々の組合せに宇宙の諸元素を用いなければならなかったことに注意して下さい。諸元素は自分達がどのような形を創ろうとしているのかについて十分な知識を持っていなかった為、個々の創造の現れに対して望ましいパターンにそれら諸元素が形づくられるよう、言葉、あるいは振動によって命令が発せられたのです。しかし、諸元素は与えられる命令を受けるだけの十分な知性は持っておりましたし、現在も持っているのです。

【解説】

本項も万物創造の仕組みについて明かしています。また、このことは進化した他惑星人社会における自然観、宇宙観でもあるのです。

通常、私達は自らも含めた創造物の由来を知りたいと思うのですが、ここにその答えがあり、他惑星人が最終的に到達した理解が示されているのです。

中でも重要な点は、万物それぞれに一定程度の知性を有しているのですが、いざ新たに何かが生み出されるような創造的な場面では宇宙意識を通じて創造主の直接的な指導があり、それに基づいて創造作用が完遂されるということです。即ち人体の創造等は、その典型です。その過程で母体の各細胞は意識の声を理解し、従う知性は有しているものの人体の創造のような大仕事を完遂するだけの知性は持ち合わせていないのです。

このように日常的に私達の目の前に広がる様々な創造作用は実に宇宙意識を通じて現された創造主の作品制作の過程であり、私達はその模様を観察出来る恵まれた立場にあるのです。

461 In Genesis we are told that the first Creation was a Void, and without form. That in the second creation forms began to manifest. But we should notice here that the Creator gave a command, or instruction to the spirit which in this case is power, to the small amount of intelligence in the elements to carry out His command. And there had to be intelligence in the elements in order for them to carry out the instructions. You can plainly read in the Holy Writ how the form of a man was created, as well as all things. And there was no doubt in the Creator's consciousness whether a form would manifest or not for there was an absolute assurance that it would. And you can notice that the command was not repeated, it was given once and that was all.

461 創世記で私達は創造の最初は気空であり、形は無かったと伝えられています。そして第二の創造で形が現出し始めたこととされています。しかし、私達はここで、創造主が命令、即ち指示を靈魂、この場合は力である靈魂、そして創造主の命令を実行する為に各元素の中にある微量の知性に対して与えたことに注目すべきなのです。そして、その指示を各々が実行する為に各元素の中には知性が無ければならなかったのです。貴方は聖書の中に万物はもちろん、人間の形がどのようにして造り上げられたのかを率直に読むことが出来ます。そして創造主の意識の中には形あるものが現出するかどうかについて疑念はありませんでした。何故ならそれがそうなるだろうという絶対的な確信があったからです。そして貴方はその命令が繰り返されなかったことに気付かなければなりません。それは一度だけ与えられ、それが全てであったからです。

【解説】

本項で重要なことは創造主の命令は一度だけということの意味だと思えます。この文章の中で著者アダムスキー氏は私達に創造的な想念の特徴、或いは創造的作用を生み出す秘訣というものを示唆しているように私には思えるのです。

従来、私達は何か行者の護摩炊きのように繰り返し自らの願いを発したり、繰り返し祈ることによって物事の実現を願っていました。しかし、創造主は一度だけの命を下すのみと聖書には記されていると著者は説いているのです。

つまりそれほどに創造主の命の中には緻密、詳細な指示イメージを含有したメッセージである訳ですが、それは一度で十分、目的は達せられるほど、力強いものとも言えることでしょう。また同時にそれほどに実現に確信があるということでもあります。

もちろんこのことと、私達の日常の願いとは到底比較するべきものではありませんが、創造主の似姿とされる私達人間にとって、参考とすべきは自らの願いを真に実現させたいと思うなら、この創世記の記述の通り、私達は確信を持ってその願いの想念を解き放ち、その作用を確信して待つ姿勢が重要であることが分かります。想念をいつまでも自身の中にとどめて置かずに解放するということがかと思われま

462 It is this kind of certainty that must prevail within each one of us, knowing that whatever idea we desire will manifest. In other words there must be full confidence in oneself that whatever the idea is, it will be brought forth, not the slightest doubt must enter. Having this type of confidence in whatever one does is having confidence in the Creator and with the Creator there is nothing impossible.

462 私達が願うどのようなアイデアであれそれは現実化することを知った上は、私達各自の中で支配的となるべきものはこの種の確信です。言い換えれば、そのアイデアが何であれ、自分自身の中にそれがもたされるだろうとする完璧な信頼がなければならず、ごくわずかであっても疑念が入り込んではありません。何をやるにせよこの種類の信頼を持っていることは創造主への信頼を持っていることになりすし、創造主と共にあれば、不可能なものは何もありません。

【解説】

本項を踏まえて私達が注意しなければならないことは、私達の思いは実現するという事です。これは、その者が放つ想念は良くも悪くも実現に向け環境に作用し続けるということでもあります。つまり、私達は従来以上に自らの放つ想念を監視し、自ら本来望まないような結果の実現を回避することも必要であるのです。言い換えれば、常に良質、良好な想念を取り入れる一方で、劣悪な要素や不適切な要素を持つものを寄せ付けてはなりません。これらの自らの心を監視することは心に抱いた想念は全て実現する力を持っていることを知っているが故に、出される忠告なのです。

他方、実現したいと思う気持ちについても本文ではいささかの疑いがあってもいけないと説いています。イエスがカラス種の例を挙げて、そのわずかの疑念が実現を妨げる話を説いていました。本項はまさにそのことを改めて、読者に説いているのです。

463 Now let us review from the beginning of the lessons; First, we will consider the consciousness within which ideas are born. In other words have a conscious blueprint of what the manifested action is to be with full faith and confidence in the ability of consciousness to produce it. Second - you cannot leave the idea in the blueprint and have a manifestation so a command which is the word is given with full confidence in the result. Notice that consciousness is the conceiver and creator of ideas. The Holy Ghost or Spirit is the power and intelligence. And the Son is the manifestation in the Likeness and the Image which the consciousness had and this makes the Trinity. It reads like this in all life - first the consciousness - second the holy ghost or spirit as the religious world has it, and then the manifestation which is the son.

463 それでは教科の最初から復習しましょう。最初、私達はアイデアが生まれる意識について考察することになるでしょう。言い換えれば、現出化させる行動の意識的青写真に対しては、それを造り出す意識の能力に完全なる信頼と確信を持たせることです。第二は、貴方は青写真にアイデアを放置したまま現れを持つことは出来ませんので、言葉である命令が結果への完璧な確信と共に与えられることとなります。意識はアイデアの受胎者であり、創造主であることに注目して下さい。聖なる魂、或いは靈魂と呼ばれるものはパワーであり知性です。そして息子は神の似姿やイメージに向けた創造物であり、これが三位一体を構成します。それは全ての生命においてこう読むことができます。第一に意識、第二に宗教上の言葉が言うように聖なる魂、或いは靈魂、そしてその次に息子である創造の現れです。

【解説】

先ずは意識の中に諸々の思いを込めた将来の青写真を醸成し、それを言葉として自ら発することで宇宙の法則の下に作用させ、実現するということかと思えます。この過程の中で最初に私達が気付くことは、私達は「意識」というある種の雰囲気、或いはいわゆる"気"と称される海の中に生きているということです。

その意識は言葉通り私達が通常表現する意識に近い存在ですが、私達がこれまで考えていたものより、遥かに力があり、知識も豊富だというものです。この意識の中には有史以来の様々な想念や知識、宇宙全体と融合した一大図書館があり、あらゆるものを支える力があります。その力を発揮させる為、私達は自らの望みを言葉その他に表現して発する必要があるという訳です。

発せられた想念は今度は具体化に向けて接する様々な人や物に働きかけるということでしょう。私達がこの原理を学び、自らはもちろん、多くの人々の人生をより有意義なものとするのが本講座の目的です。

464 In Cosmic or creative mathematics it would read like this - one and one does not equal two but three. For every time that two principles are put together properly there will be a manifestation which is number three. This also goes back to one - for the three now become as one complete manifestation.

464 宇宙的、或いは創造的な数学では、それはこのように読み取ることになります。即ち1プラス1は2に等しくはなく、3に等しいと。何故なら、二つの原理が適切に協働する時はいつでも、数字で言う3に相当する創造が生まれるからです。このことはまた、一つに還ることでもあります。何故なら今やその3者は一つの完全なる創造の現れになっているからです。

【解説】

生物の雌雄による子孫への遺伝形質の継承、その他本項で言う「 $1 + 1 = 3$ 」の宇宙的数学の基本的意義について本項で説かれています。

大きくは男性原理と女性原理といわれて来たことかと思われます。物事を創り出し、生み出す為に先ず、意志が発せられそれを受け手万物の要素が協力し合って物事が生み出される訳ですが、その結果、生み出されたものには、当初の創造の源となった意志も息づいているという訳です。その結果、生み出されたものはその両親とも言える要素の特徴を備えている訳で、3者は融合した存在ということになります。人間の親子もその間柄と言えるのです。

465 An electric bulb needs the power of both principles, negative and positive, to produce a light. And the feminine and masculine are both needed to bring forth an offspring. This is the law that has and will work through eternity for the reproduction of forms that is everlastingly taking place. There is nothing impossible through this law.

465 電球は明かりを造り出す為にはマイナスとプラスの両方の原理を必要とします。また、子孫をもたらすには女性と男性とが共に必要とされます。これは永続的に続く形有るものの再生産の為、これまでもそしてこれからも永久に作用する法則です。この法則を通じて不可能なものは何一つありません。

【解説】

よく言われる例として電気のプラスとマイナス、男性女性の両性がある、それらが結びついて新たな創造が生まれるという原理があります。東洋では陰陽という表現で整理、理解しようとして来ました。

いずれにしても、陰も陽も単独では新たなものを生み出すことはなく、両者が出会うことで新しい局面が展開するということでしょう。私達はこれからも自分の経験して来たことを大切にすることはもちろん重要ですが、他の者の意見、或いはその源となっている他者の経験とも融合を図る度量が重要になります。

生きものの遺伝物質DNAは二重のラセン構造となっており、二重の分子の帯がその者の記憶さえ運んでいるとされています。本項で述べられている2本の電線に似た分子構造がそのまま、私達の生命の根幹を支えていることには、興味深いものがあります。

466 When a mind and consciousness combine in equal proportions man can rebuild his body in perfection of health. And only success can be known through this law.

466 心と意識が等分に結合した時、人はその肉体を完全なる健康状態に再建することができます。またこの法則を通じることによって、ただ成功あるのみです。

【解説】

著者アダムスキー氏は本講座の最後に語り掛けて呉れているのが、本文であり、著者が私達に最後に説きたい内容です。

重要なのは私達（心）が意識と対等、相棒のように接し、等しく尊敬の念を持って接し、信頼しあうことだということです。もちろん私達（心）と意識の間には、その大きさにおいて格段の差はありますが、対等であるところが重要な心境です。そこには私達の人生は私達が決定し、進めて行かなければならないことが背景となっています。

その結果、具体的な作用、効果として、体内の諸機能が正常化され、再び健康体になると断言されています。つまりは自らの進退の状況がこの意識との一体化、融合化の現れであるという訳です。一方で自然界を見れば、大多数の生き物は健康で伸びやかに暮らしておりますし、この状態はごく正常、普通な状態であり、野のユリ、空の鳥と同様、意識との融合の中ではごく自然な状況と言えるのです。

以上で第3集を終えることが出来ました。これまでご覧いただき、ありがとうございました。次回からは「テレパシー」の第3集を開始いたします。